

一般国道170号西石切立体交差事業に伴う

鬼虎川遺跡第56次発掘調査報告

2005. 3

東大阪市教育委員会

『鬼虎川遺跡第62・63次発掘調査報告』正誤表

頁	行	誤	正
例言	13	株式会社アスカ	オオサカクリーンサービス株式会社
1	8	60次	61次
1	34	第52次	第53次
8	33	アコード株式会社	株式会社ジオテクノ関西
16	22	(第2・3表)	(第3・4表)
109	1	東石切町	西石切町
111	1	第13表 第63次・第52次層位対応表	第13表 第63次・第52次層位対比表
111	12	5、6世紀	5～6世紀
112	39	位置例	一例
113	2	鑄造されたいた	鑄造されていた
114	10	弥生時代のもであったが	弥生時代のもであったが

正誤表

訂正箇所	誤	正
17頁36行	第24下f層	第24下層
25頁40行遺物番号	15	14
27頁 第14図右上	8地区東より	8地区西より
41頁9行遺物番号	560	591
51頁 第27図上方	T.P.1.0m	T.P.+1.0m
66頁35行遺物番号	14	141
68頁11行遺物番号	13	12
122頁 第78図下方遺物番号	552	652

一般国道170号西石切立体交差事業に伴う

鬼虎川遺跡第56次発掘調査報告

2005. 3

東大阪市教育委員会

は し が き

本調査地周辺は、国道170号線および308号線の敷設、国道308号線の拡幅、近鉄東大阪線・阪神高速道路東大阪線・第二阪奈有料道路の開通により、それまでの田園風景は一変し、住宅・工場・会社などが建ち並ぶ都市化へと変容しました。その後、西石切交差点での渋滞現象もおこり、南北方向に貫く国道170号線の立体交差事業を含む道路整備の必要性をもたらしました。

鬼虎川遺跡は、これまでの発掘調査によって、弥生時代中期の代表的な拠点集落としてよく知られています。しかし、本遺跡は後期旧石器時代以降現在に至るまで、食物の獲得地・集落・生産域として、ほとんど人跡の途絶えたことはありません。今回の調査では、弥生時代の集落状況を確認するとともに、古代から近世にわたる耕作状況なども知ることができました。本書の内容は地域史解明の一助になるものと思っています。

現地調査および遺物整理・報告書作成にあたってご協力・ご教示を賜った関係諸機関・諸氏に感謝するとともに、今後一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成17年3月

東大阪市教育委員会

例 言

1. 本書は一般国道170号西石切立体交差事業に伴う鬼虎川遺跡第56次発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は大阪府八尾土木事務所の依頼を受けて、東大阪市教育委員会文化財課が実施した。
3. 調査にかかる費用は全額大阪府八尾土木事務所が負担・用意した。
4. 発掘調査は平成15年4月1日から11月4日まで行ない、工事工程の関係から国道170号東側の調査区は8工区、国道170号西側の調査区は9工区に分けられた。遺物整理および報告書作成作業等は平成17年3月31日まで実施した。
5. 現地調査は若松博恵・影山（旧姓・井筒）美智与・市田英介が担当し、遺物整理については主に才原金弘が担当して行なった。
6. 人骨の鑑定および動物遺体の同定については大阪府立大学大学院医学研究科分子生体医学大講座器宮構築形態学（解剖学第2）の安部みき子氏に依頼し、安部・高志こころ両氏より報告を賜った。
7. 基本杭・調査杭打設は株式会社イシヤマエンジニアリング、写真測量は株式会社アコード、木製品の樹種同定および種実遺体の同定はバリノ・サーヴェイ株式会社、遺物写真は株式会社コミュニケーションに委託して実施した。
8. 本書はⅠ・Ⅱ・Ⅲ-1・2・5とⅤを若松、Ⅲ-3を市田、Ⅲ-4を影山、Ⅲ-6を才原、Ⅳ-1・2を安部・高志氏、Ⅳ-3をバリノ・サーヴェイ株式会社が執筆し、若松が編集した。遺物の記述にあたっては、上器・土製品・石器・木製品・骨角牙製品は掲載順に通し番号を付し、鑑定・同定資料としての動物遺体・人骨・種実は資料番号として別の通し番号、資料1・資料2……を付した。
9. 現地の土色及び上器等の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』（2000年版）に準拠し、記号表記もこれに従った。
10. 調査及び報告書作成にあたっては下記の方々のご協力・ご教示を賜った。記して謝意を表します（敬称略・順不同）。
大阪府八尾土木事務所、大昭和建設株式会社、株式会社クラタ泰工業、アーバンテック株式会社、株式会社島田組、大阪府立弥生文化博物館、大阪府文化財センター、金関恕、小山田宏一、三木弘、大野薫、水野正好、秋山浩三、亀井聡、菊井佳弥、木下密邇、岡崎晋明
11. 現地調査及び遺物整理・報告書作成には下記の方々の参加を得た。
岩本圭祐、内田真吾、辰巳友邦、平田ジュニオル、山内政治、土橋淳志、六島正貴、利田恵美、溝口真紀、倉橋美丰、三嶋政行、幸田哲郎、妹尾裕介、正木敬之、内藤隆、西村慶子、石舘典子、田中順子、梶本佳代、片山くみ子、川口月子、北口泰子、中西由香、中野智香、西尾さつき、八田美代子、山口誠子、山上憲一、山本笑那

本文目次

I. 調査に至る経過	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の概要	6
1. 調査の方法と経過	6
2. 基本層位	9
3. 8上区遺構	12
a. 層位	12
b. 遺構	17
4. 9丁区遺構	33
a. 層位	33
b. 遺構	37
5. 8・9上区の弥生時代遺構	65
6. 遺物	66
a. 8工区出土遺物	66
b. 9丁区出土遺物	99
IV. 自然科学	166
1. 動物遺存体について	166
2. 人骨について	181
3. 木製品樹種・種実遺体の同定	182
V. 調査の総括	188

挿図目次

第1図 遺跡周辺図	3
第2図 各次数調査地位置図	4
第3図 調査トレンチ位置と地区割図	6
第4図 掘り上げ田状況と国道170号および関連調査トレンチ位置図	7
第5図 8・9丁区層位概念図	10
第6図 8上区層位断面図(折り込み)	15・16
第7図 8上区第27b層上面遺構平面図	18
第8図 8工区第24層上面遺構平面図(折り込み) - 写真測量図 -	19・20
第9図 8工区第24上層上面遺構平面図 - 写真測量図 -	22
第10図 8丁区第23層上面遺構平面図(折り込み) - 写真測量図 -	23・24
第11図 8丁区4地区井戸断面図	26
第12図 8工区第23層上面遺構断面図	26

第13図	8工区溝22、高まり西壁断面図	26
第14図	8工区第20層上面遺構平面図、第20層内人骨等出土状況写真・平面図	27
第15図	8工区第19・17・13中・11層上面遺構平面図	29
第16図	8工区第7層上面遺構平面図	30
第17図	8工区第3・4層上面遺構平面・断面図	32
第18図	9工区層位断面図(折り込み)	35・36
第19図	9工区第23層上面遺構平面図	38
第20図	9工区第19層上面遺構平面図(折り込み) -写真測量図-	39・40
第21図	9工区第19層上面遺構断面図	42
第22図	9工区上器溜り土坑内土器出土状況写真	43
第23図	9工区第18層上面遺構断面図	44
第24図	9工区第18層上面遺構平面図(折り込み) -写真測量図-	45・46
第25図	9工区大溝2・3・4アセ断面図	47
第26図	9工区大溝5・6断面図、大溝3内木製品出土状況写真・平面図	48
第27図	9工区大土坑断面(西壁)・平面図および出土木製品立面図	51
第28図	9工区土坑B・C断面・平面図	52
第29図	9工区第16・17層上面遺構平面図	53
第30図	9工区中央部高まり内遺構平面図	55
第31図	9工区第13層上面遺構平面図	56
第32図	9工区第12層上面遺構平面図	57
第33図	遺跡周辺小字切図	58
第34図	9工区第11層上面遺構平面図	59
第35図	9工区第9・9'層上面遺構平面図	60
第36図	9工区第5層上面遺構平面図	61
第37図	9工区第2・4層上面遺構平面図	62
第38図	8・9工区基本層位第N・O層上面遺構合成平面図-写真測量-	63・64
第39図	8工区縄文土器実測図	66
第40図	8工区溝16内落ち込み、溝16、井戸出土土器実測図	67
第41図	8工区溝17・19・22・23、層位不明出土土器実測図	69
第42図	8工区土坑8・9・15・24・27、ビット341、井戸出土土器実測図	71
第43図	8工区ビット65・165、土坑30出土土器実測図	73
第44図	8工区第17・18層出土土器実測図	74
第45図	8工区第19・20層出土土器実測図	75
第46図	8工区第21・22層出土土器実測図	77
第47図	8工区第22層出土土器実測図	79
第48図	8工区第22~24層、溝16内落ち込み出土土器実測図	80
第49図	8工区第24・24f層出土土器実測図	82
第50図	8工区第17~27層出土土器実測図	84
第51図	8工区第17~27層出土土器実測図	85
第52図	8工区第17~27層出土土器実測図	86

第53図	8 工区第17～27層出土土器実測図	87
第54図	8 工区第17～27層出土土器実測図	88
第55図	8 工区溝6・7・11、落ち込み2、暗渠、第4・6・7層出土土器実測図	90
第56図	8 工区土製品実測図	92
第57図	8 工区石器実測図	94
第58図	8 工区石器実測図	95
第59図	8 工区石器実測図	96
第60図	8 工区木製品実測図	97
第61図	8 工区骨角製品実測図	98
第62図	9 工区縄文土器実測図	99
第63図	9 工区縄文土器実測図	100
第64図	9 工区大溝1出土土器実測図	102
第65図	9 工区大溝1・2出土土器実測図	103
第66図	9 工区大溝2出土土器実測図	105
第67図	9 工区大溝2出土土器実測図	106
第68図	9 工区大溝2・3出土土器実測図	107
第69図	9 工区大溝3出土土器実測図	109
第70図	9 工区大溝3出土土器実測図	110
第71図	9 工区大溝3出土土器実測図	111
第72図	9 工区大溝3出土土器実測図	112
第73図	9 工区大溝3出土土器実測図	114
第74図	9 工区大溝4・5出土土器実測図	115
第75図	9 工区大溝6・7出土土器実測図	117
第76図	9 工区溝18・22・73・80出土土器実測図	118
第77図	9 工区土坑17・18・21・23・24・26出土土器実測図	120
第78図	9 工区土坑A・B出土土器実測図	122
第79図	9 工区土坑B出土土器実測図	123
第80図	9 工区土坑B出土土器実測図	124
第81図	9 工区土坑C出土土器実測図	126
第82図	9 工区土坑C出土土器実測図	127
第83図	9 工区土器溜り土坑出土土器実測図	128
第84図	9 工区土器溜り土坑出土土器実測図	129
第85図	9 工区土器溜り土坑出土土器実測図	130
第86図	9 工区土器溜り土坑出土土器実測図	131
第87図	9 工区土器溜り土坑出土土器実測図	132
第88図	9 工区井戸1出土土器実測図	133
第89図	9 工区土器棺、ビット110・H出土土器実測図	134
第90図	9 工区第11～14層出土土器実測図	136
第91図	9 工区第15層出土土器実測図	138
第92図	9 工区第15・17層出土土器実測図	139

第93図	9工区第18層出土土器実測図	141
第94図	9工区第17～19・23層、大溝3、層位不明出土土器実測図	143
第95図	9工区第11～23層出土土器実測図	145
第96図	9工区第11～23層出土土器実測図	146
第97図	9工区第11～23層出土土器実測図	148
第98図	9工区第11～23層出土土器実測図	149
第99図	9工区第11～23層出土土器実測図	150
第100図	9工区溝3、自然流路1～3・B、第4～6層、層位不明出土土器実測図	152
第101図	9工区土製品実測図	153
第102図	9工区石器実測図	155
第103図	9工区石器実測図	156
第104図	9工区石器実測図	157
第105図	9工区石器実測図	158
第106図	9工区木製品実測図	159
第107図	9工区木製品実測図	160
第108図	9工区木製品実測図	161
第109図	9工区木製品実測図	162
第110図	9工区木製品実測図	163
第111図	9工区骨角牙製品実測図	165
第112図	8工区第5地区第22層内動物遺存体出土状況写真	170
第113図	9工区土器棺内人骨付着状況写真	181

表 目 次

第1表	鬼虎川遺跡調査一覽(確認・追加)	5
第2表	8・9工区層位対比表	11
第3表	出土動物遺存体の学名	168
第4表	8工区出土動物遺存体の出土表	169・170
第5表	8工区出土動物遺存体の出現頻度表	171
第6表	8工区出土動物遺存体の計測表	171
第7表	9工区出土動物遺存体の出土表	172～176
第8表	9工区出土動物遺存体の出現頻度表	177・178
第9表	9工区出土動物遺存体の頭骨と椎骨の計測表	179
第10表	9工区出土動物遺存体の四肢骨の計測表	180
第11表	樹種同定結果	183
第12表	種実同定結果	186

図版目次

- 図版1 遺構 1. 調査地周辺航空写真(1950年ごろ)
2. 調査地周辺航空写真(1980年ごろ)
- 図版2 遺構 1. 調査地周辺遠景(東方より)
2. 調査地近景(北より)
- 図版3 遺構 1. 8工区5地区付近西壁断面(1)
2. 8工区5地区付近西壁断面(2)
- 図版4 遺構 1. 8工区5地区付近西壁断面(3)
2. 8工区5地区付近西壁断面(4)
- 図版5 遺構 1. 8工区第27b層上面遺構(1)11~15地区 北より
2. 8工区第27b層上面遺構(2)12地区 西より
- 図版6 遺構 1. 8工区第24層上面遺構(1)1~3地区 北より
2. 8工区第24層上面遺構(2)8地区 東より
- 図版7 遺構 1. 8工区第24層上面遺構(3)12地区 東より
2. 8工区第24層上面遺構(4)16地区 東より
- 図版8 遺構 1. 8工区第24上層上面遺構(1)1~3地区 北より
2. 8工区第24上層上面遺構(2)3地区 東より
- 図版9 遺構 1. 8工区第23層上面遺構(1)1~4地区 南より
2. 8工区第23層上面遺構(2)8地区 東より
- 図版10 遺構 1. 8工区第23層上面遺構(3)10地区付近 南より
2. 8工区第23層上面遺構(4)13地区付近 北より
- 図版11 遺構 1. 8工区第23層上面遺構(5)16地区 東より
2. 8工区第23層 溝22断面(西壁)16地区 東より
- 図版12 遺構 1. 8工区第23層 井戸断面 4地区 東より
2. 8工区第23層 井戸内土器出土状況 4地区 西より
- 図版13 遺構 1. 8工区第23層 高まり内木製品出土状況 16地区
2. 8工区第23層内動物遺体(頭骨)出土状況 4地区
- 図版14 遺構 1. 8工区第23層上面動物遺体(下顎骨)出土状況 14地区
2. 8工区第23層上面シカ(下顎骨)出土状況 16地区
- 図版15 遺構 1. 8工区第20層 落ち込み5検出状況 9地区 西より
2. 8工区第20層 落ち込み5 9地区 西より
- 図版16 遺構 1. 8工区第20層 土坑7 13地区 西より
2. 8工区第20層 土坑7断面 13地区 西より
- 図版17 遺構 1. 8工区第20層内土器・人骨(頭骨)出土状況 8地区 東より
2. 8工区第20層内土器出土状況 10地区
- 図版18 遺構 1. 8工区第19層上面遺構 6地区 南より
2. 8工区第19層 落ち込み4断面(西壁)6地区 東より
- 図版19 遺構 1. 8工区第17層上面遺構 6地区 南より

2. 8丁区第17層上面足跡 10地区 南より
- 図版20 遺構 1. 8上区第13中層上面遺構 10～13地区 南より
2. 8工区第13中層 溝14・15、足跡 12地区 西より
- 図版21 遺構 1. 8工区第11層上面遺構 10～12地区 北より
2. 8丁区第11層 溝11断面 11地区 南より
- 図版22 遺構 1. 8上区第4層 溝6南肩 南より・溝6断面 3地区 北より
2. 8上区第4層 杭列出土状況 3地区 西より
- 図版23 遺構 1. 8工区第3層 井路北肩検出状況 13地区 北より
2. 8工区第3層 井路断面(西壁) 13地区 東より
3. 8丁区第3層 木樋出土状況(井路北肩) 13地区 南より
- 図版24 遺構 1. 9上区1地区付近西壁断面(1)
2. 9工区1地区付近西壁断面(2)
- 図版25 遺構 1. 9工区1地区付近西壁断面(3)
2. 9工区1地区付近西壁断面(4)
- 図版26 遺構 1. 9丁区第23層上面遺構(1) 6地区付近 西より
2. 9工区第23層上面遺構(2) 8地区付近 西より
- 図版27 遺構 1. 9上区第19層上面遺構(1) 1～6地区 北より
2. 9工区第19層上面遺構(2) 6～10地区 南より
- 図版28 遺構 1. 9工区第19層 土器溜り上坑・大溝3 1地区 東より
2. 9工区第19層 土器溜り土坑 1地区 東より
- 図版29 遺構 1. 9丁区第19層上面遺構(3) 11～15地区 南より
2. 9工区第19層上面遺構(4) 16～20地区 南より
- 図版30 遺構 1. 9上区第19層 大溝2断面(1) 南壁 北より
2. 9上区第19層 大溝2断面(2) 東西アゼ 19地区 南より
- 図版31 遺構 1. 9工区第19層 上坑19断面 5地区 北より
2. 9工区第19層 大溝3内木製品出土状況 2地区西壁内
- 図版32 遺構 1. 9丁区第19層 大溝3内加工木出土状況 2～3地区西壁内
2. 9丁区第19層 大溝3内加工木出土状況 3地区西壁内
- 図版33 遺構 1. 9工区第18層上面遺構(1) 1地区 南より
2. 9上区第18層上面遺構(2) 13～15地区 北より
- 図版34 遺構 1. 9上区第18層上面遺構(3) 7～11地区 北より
2. 9工区第18層 土器溜り1 8地区 西より
- 図版35 遺構 1. 9工区第18層 大土坑付近断面(1) 7地区 東より
2. 9工区第18層 大土坑付近断面(2) 6地区 東より
- 図版36 遺構 1. 9丁区第18層 大土坑付近断面(3) 6地区 東より
2. 9丁区第18層 大土坑付近断面(4) 5地区 東より
- 図版37 遺構 1. 9上区第18層 土坑C内上層土器出土状況 6地区
2. 9上区第18層 土坑C内下層土器出土状況 6地区
- 図版38 遺構 1. 9工区第17層 土器棺墓土坑断面 12地区 東より
2. 9工区第17層 土器棺墓土坑 12地区 東より

- 図版39 遺構 1. 9工区第15層内ミニチュア土器出土状況 20地区
2. 9工区第16層 落ち込み2・3 1地区 西より
- 図版40 遺構 1. 9工区第16層 落ち込み2断面 1地区 南より
2. 9工区第16層 落ち込み3断面 1地区 南より
- 図版41 遺構 1. 9工区第13層 溝64・足跡 3地区 南より
2. 9工区第12層 溝66~71 12~14地区 北より
- 図版42 遺構 1. 9工区第11層上面遺構検出状況 1地区 南より
2. 9工区第11層上面遺構検出状況 5~10地区 南より
- 図版43 遺構 1. 9工区第11層上面遺構 1地区 南より
2. 9工区第11層 溝44・51断面 北より
- 図版44 遺構 1. 9工区第11層 溝55~60 11~14地区 北より
2. 9工区第11層 溝56・57 12地区 西より
- 図版45 遺構 1. 9工区第11層 溝22~27 15~20地区 北より
2. 9工区第9層上面足跡 1地区 南より
- 図版46 遺構 1. 9工区第9層 溝15~20 17~19地区 西より
2. 9工区第5層 溝4 4地区 北より
- 図版47 遺構 1. 9工区第5層上面遺構 16~20地区 北より
2. 9工区第5層 溝3断面 18地区 北より
- 図版48 遺構 1. 9工区第5層 溝2・土坑4断面 20地区 北より
2. 9工区第5層 土坑4 東より
- 図版49 遺構 1. 9工区第4層 溝1・土坑1 8~10地区 西より
2. 9工区第2層 自然流路1断面(西壁) 19~20地区 北より
- 図版50 遺物 8工区 溝16、土坑15、井戸出土弥生土器 壺・高坏・甕蓋
- 図版51 遺物 8工区 土坑8・27、井戸、ビット65、第17・20層出土弥生土器 壺・甕・高坏
- 図版52 遺物 8工区 第20~22層出土弥生土器 壺・甕・高坏
- 図版53 遺物 8工区 第22・23層出土弥生土器 壺・細頸壺・甕・甕蓋
- 図版54 遺物 8工区 第23・17~27層出土弥生土器 壺・甕・鉢・甕蓋
- 図版55 遺物 8工区 第7層・暗渠出土土師器 埴・土管
- 図版56 遺物 8工区 暗渠出土 土管
- 図版57 遺物 1. 8工区 縄文土器 浅鉢・深鉢
2. 8工区 溝16内落ち込み、溝16出土弥生土器 鉢・壺蓋・甕蓋
- 図版58 遺物 1. 8工区 溝16出土弥生土器 鉢・細頸壺・高坏
2. 8工区 溝16出土弥生土器 甕
- 図版59 遺物 1. 8工区 溝17出土弥生土器 甕
2. 8工区 溝17出土弥生土器 壺・高坏
- 図版60 遺物 1. 8工区 溝19・23、層位不明出土弥生土器 甕・高坏
2. 8工区 溝22出土弥生土器 壺・甕・鉢・高坏
- 図版61 遺物 1. 8工区 土坑8・9・24、ビット341出土弥生土器 壺・甕・鉢
2. 8工区 井戸出土弥生土器 壺・甕・鉢
- 図版62 遺物 1. 8工区 ビット65・165、土坑30出土弥生土器 壺・甕・鉢

2. 8工区 第18層出土弥生土器 壺・甕・高坏
- 図版63 遺物 1. 8工区 第19・20層出土弥生土器 壺・甕・鉢
2. 8上区 第20層出土弥生土器 甕・無頸壺・鉢
- 図版64 遺物 1. 8工区 第20層出土弥生土器 甕・鉢
2. 8工区 第21層出土弥生土器 壺・無頸壺・甕
- 図版65 遺物 1. 8工区 第21層出土弥生土器 甕・高坏・鉢
2. 8上区 第21層出土弥生土器 高坏・鉢
- 図版66 遺物 1. 8工区 第22層出土弥生土器 壺
2. 8工区 第22層出土弥生土器 無頸壺・甕
- 図版67 遺物 1. 8工区 第22層出土弥生土器 甕・鉢
2. 8工区 第22層出土弥生土器 鉢
- 図版68 遺物 1. 8上区 第24層出土弥生土器 壺
2. 8工区 第24層、溝16内落ち込み出土弥生土器 壺・細頸壺・甕蓋
- 図版69 遺物 1. 8工区 第24層出土弥生土器 甕
2. 8工区 第24f層出土弥生土器 壺・甕・鉢
- 図版70 遺物 1. 8工区 第17～27層出土弥生土器 壺
2. 8上区 第17～27層出土弥生土器 壺
- 図版71 遺物 1. 8工区 第17～27層出土弥生土器 壺
2. 8工区 第17～27層出土弥生土器 壺
- 図版72 遺物 1. 8工区 第17～27層出土弥生土器 壺
2. 8工区 第17～27層出土弥生土器 壺・細頸壺
- 図版73 遺物 1. 8上区 第17～27層出土弥生土器 無頸壺
2. 8上区 第17～27層出土弥生土器 鉢
- 図版74 遺物 1. 8工区 第17～27層出土弥生土器 鉢
2. 8工区 第17～27層出土弥生土器 鉢・甕蓋
- 図版75 遺物 1. 8工区 第17～27層出土弥生土器 高坏
2. 8工区 第17～27層出土弥生土器 高坏・台付無頸壺
- 図版76 遺物 1. 8工区 第17～27層出土弥生土器 甕
2. 8上区 第17～27層出土弥生土器 甕
- 図版77 遺物 1. 8上区 第17～27層出土弥生土器 甕
2. 8工区 第17～27層出土弥生土器 甕
- 図版78 遺物 1. 8工区 第17～27層出土弥生土器 甕
2. 8工区 第17～27層出土弥生土器 甕
- 図版79 遺物 1. 8工区 第4・6層出土須恵器 坏・土師器 甕・高坏、瓦器 火舍、平瓦
2. 8工区 第7層出土須恵器 高坏・坏、土師器 皿・把手
- 図版80 遺物 1. 8上区 溝6・7・11、落ち込み2出土須恵器 甕、土師器 皿・甗、瓦器 羽釜
2. 8上区 土製品(表)
- 図版81 遺物 1. 8工区 土製品(表)
2. 8工区 同上(裏)
- 図版82 遺物 1. 8工区 石器(表)

2. 8上区 同上(裏)
- 図版83 遺物 1. 8工区 石器(表)
2. 8下区 同上(裏)
- 図版84 遺物 1. 8工区 石器(表)
2. 8上区 同上(裏)
- 図版85 遺物 1. 8工区 石器(表)
2. 8工区 同上(裏)
- 図版86 遺物 1. 8下区 石器(表)
2. 8工区 同上(裏)
- 図版87 遺物 8上区 木製品
- 図版88 遺物 8工区 骨角製品
- 図版89 遺物 9工区 縄文土器 浅鉢、大溝1・2出土弥生土器 壺・甕・高坏・甕蓋
- 図版90 遺物 9工区 大溝2出土弥生土器 壺・壺蓋・甕
- 図版91 遺物 9下区 大溝2出土弥生土器 壺・細頸壺・甕・多孔土器
- 図版92 遺物 9工区 大溝3出土弥生土器 壺・甕・高坏
- 図版93 遺物 9上区 大溝3・5出土弥生土器 甕・高坏
- 図版94 遺物 9工区 大溝7、土坑18・A出土弥生土器 壺・甕・壺蓋
- 図版95 遺物 9工区 土坑B出土弥生土器 壺・甕・鉢・甕蓋
- 図版96 遺物 9工区 土坑B・C出土弥生土器 壺・高坏・水盂形土器
- 図版97 遺物 9下区 土坑C出土弥生土器 壺・高坏・水盂形土器
- 図版98 遺物 9工区 土坑C、土器溜り土坑出土弥生土器 壺
- 図版99 遺物 9上区 土器溜り土坑出土弥生土器 壺・鉢
- 図版100 遺物 9工区 土器溜り土坑・井戸1出土弥生土器 壺・甕・鉢
- 図版101 遺物 9工区 井戸1、土器棺墓土坑、ピットII、第14層出土弥生土器 壺・甕・無頸壺
- 図版102 遺物 9工区 第14・15層出土弥生土器 壺・壺蓋・甕
- 図版103 遺物 9下区 第15・17層出土弥生土器 高坏・鉢
- 図版104 遺物 9工区 第17・18・11~23層出土弥生土器 壺・無頸壺・甕・高坏
- 図版105 遺物 9上区 第11~23層出土弥生土器 壺・甕
- 図版106 遺物 9上区 第11~23層出土弥生土器 壺・高坏・鉢
- 図版107 遺物 1. 9工区 縄文土器 浅鉢(表)
2. 9工区 同上(裏)
- 図版108 遺物 1. 9工区 縄文土器 深鉢
2. 9下区 縄文土器 深鉢
- 図版109 遺物 1. 9工区 大溝1出土弥生土器 壺
2. 9上区 大溝1出土弥生土器 壺・無頸壺・高坏
- 図版110 遺物 1. 9上区 大溝1出土弥生土器 高坏・鉢
2. 9工区 大溝1出土弥生土器 甕
- 図版111 遺物 1. 9工区 大溝2出土弥生土器 高坏・鉢・壺蓋・甕蓋
2. 9工区 大溝2出土弥生土器 壺
- 図版112 遺物 1. 9下区 大溝2出土弥生土器 壺・細頸壺・無頸壺

2. 9上区 大溝2 出土弥生土器 壺
- 図版113 遺物 1. 9工区 大溝2 出土弥生土器 甕
2. 9工区 大溝2 出土弥生土器 甕
- 図版114 遺物 1. 9工区 大溝2 出土弥生土器 甕
2. 9上区 大溝2 出土弥生土器 甕
- 図版115 遺物 1. 9工区 大溝2 出土弥生土器 甕
2. 9工区 大溝2 出土弥生土器 甕
- 図版116 遺物 1. 9工区 大溝3 出土弥生土器 高坏
2. 9上区 大溝3 出土弥生土器 壺
- 図版117 遺物 1. 9上区 大溝3 出土弥生土器 壺
2. 9工区 大溝3 出土弥生土器 壺
- 図版118 遺物 1. 9工区 大溝3 出土弥生土器 壺・無頸壺・水差形土器
2. 9工区 大溝3 出土弥生土器 鉢・壺蓋・甕蓋
- 図版119 遺物 1. 9上区 大溝3 出土弥生土器 鉢・甕
2. 9上区 大溝3 出土弥生土器 甕
- 図版120 遺物 1. 9工区 大溝3 出土弥生土器 甕
2. 9工区 大溝3 出土弥生土器 甕
- 図版121 遺物 1. 9工区 大溝3 出土弥生土器 甕
2. 9工区 大溝3 出土弥生土器 甕
- 図版122 遺物 1. 9上区 大溝3 出土弥生土器 甕
2. 9工区 大溝3 出土弥生土器 甕
- 図版123 遺物 1. 9工区 大溝3 出土弥生土器 甕
2. 9工区 大溝3 出土弥生土器 壺・甕
- 図版124 遺物 1. 9工区 大溝5 出土弥生土器 壺・甕・高坏
2. 9上区 大溝5 出土弥生土器 甕
- 図版125 遺物 1. 9上区 大溝6 出土弥生土器 壺・甕
2. 9工区 大溝7 出土弥生土器 壺
- 図版126 遺物 1. 9工区 大溝7 出土弥生土器 細頸壺・甕・高坏・甕蓋
2. 9工区 大溝7 出土弥生土器 甕・鉢
- 図版127 遺物 1. 9工区 溝18・22・73・80出土弥生土器 壺・甕・水差形土器
2. 9工区 土坑17・21・23・24出土弥生土器 壺・甕・鉢
- 図版128 遺物 1. 9上区 土坑18・24・26出土弥生土器 壺・甕・鉢
2. 9上区 土坑18出土弥生土器 壺・甕
- 図版129 遺物 1. 9上区 土坑A 出土弥生土器 壺
2. 9工区 土坑A 出土弥生土器 壺・鉢
- 図版130 遺物 1. 9工区 土坑A 出土弥生土器 壺・甕蓋
2. 9工区 土坑B 出土弥生土器 壺・無頸壺・高坏
- 図版131 遺物 1. 9工区 土坑B 出土弥生土器 壺
2. 9工区 土坑B 出土弥生土器 壺・甕
- 図版132 遺物 1. 9上区 土坑B 出土弥生土器 甕

2. 9上区 土坑B出土弥生土器 甕
- 図版133 遺物 1. 9工区 土坑B出土弥生土器 鉢
2. 9工区 土坑C出土弥生土器 細頸壺・甕・鉢
- 図版134 遺物 1. 9上区 土器溜り土坑出土弥生土器 壺
2. 9上区 土器溜り土坑出土弥生土器 壺
- 図版135 遺物 1. 9工区 土器溜り土坑出土弥生土器 甕
2. 9工区 土器溜り土坑出土弥生土器 壺
- 図版136 遺物 1. 9工区 土器溜り土坑出土弥生土器 甕・鉢
2. 9上区 土器溜り土坑出土弥生土器 甕
- 図版137 遺物 1. 9工区 土器溜り土坑出土弥生土器 甕
2. 9工区 土器溜り土坑出土弥生土器 甕・甕蓋
- 図版138 遺物 1. 9上区 井戸1出土弥生土器 壺・高坏
2. 9上区 井戸1、ビット110出土弥生土器 甕
- 図版139 遺物 1. 9上区 第11・12層出土弥生土器 壺・甕・高坏・鉢
2. 9工区 第13・14層出土弥生土器 壺
- 図版140 遺物 1. 9工区 第14層出土弥生土器 壺・細頸壺・甕・高坏・鉢
2. 9工区 第15層出土弥生土器 壺
- 図版141 遺物 1. 9工区 第15層出土弥生土器 壺・細頸壺・甕・高坏
2. 9上区 第15層出土弥生土器 甕・鉢
- 図版142 遺物 1. 9上区 第17層出土弥生土器 壺・甕・高坏・鉢
2. 9工区 第18層出土弥生土器 壺・甕
- 図版143 遺物 1. 9工区 第18層出土弥生土器 鉢・甕蓋
2. 9上区 第17～19層出土弥生土器 壺
- 図版144 遺物 1. 9上区 第18・19層出土弥生土器 壺・甕・甕蓋
2. 9上区 第17・23層、大溝3、層位不明出土弥生土器 壺・甕・高坏・鉢
- 図版145 遺物 1. 9上区 第11～23層出土弥生土器 壺
2. 9工区 第11～23層出土弥生土器 壺
- 図版146 遺物 1. 9工区 第11～23層出土弥生土器 壺
2. 9工区 第11～23層出土弥生土器 壺・無頸壺
- 図版147 遺物 1. 9上区 第11～23層出土弥生土器 細頸壺・鉢
2. 9工区 第11～23層出土弥生土器 鉢
- 図版148 遺物 1. 9上区 第11～23層出土弥生土器 鉢・高坏
2. 9工区 第11～23層出土弥生土器 高坏・甕蓋・甕蓋
- 図版149 遺物 1. 9工区 第11～23層出土弥生土器 高坏
2. 9工区 第11～23層出土弥生土器 甕
- 図版150 遺物 1. 9上区 第11～23層出土弥生土器 甕
2. 9上区 第11～23層出土弥生土器 甕
- 図版151 遺物 1. 9上区 第11～23層出土弥生土器 甕
2. 9上区 溝3、自然流路1～3・B出土須恵器 杯・壺・土師器 皿、瓦器 椀、陶器 椀、円筒埴輪

- 図版152 遺物 1. 9工区 第4～6層・層位不明出土須恵器 甕・坏、土師器 坏・甕・埴・皿、陶器 皿、円筒埴輪
2. 9工区 土偶
- 図版153 遺物 1. 9上区 土製品（表）
2. 9工区 同上（裏）
- 図版154 遺物 1. 9工区 土製品（表）
2. 9工区 同上（裏）
- 図版155 遺物 1. 9工区 石器（表）
2. 9上区 同上（裏）
- 図版156 遺物 1. 9工区 石器（表）
2. 9工区 同上（裏）
- 図版157 遺物 1. 9工区 石器（表）
2. 9工区 同上（裏）
- 図版158 遺物 1. 9上区 石器（表）
2. 9上区 同上（裏）
- 図版159 遺物 1. 9工区 石器（表）
2. 9工区 同上（裏）
- 図版160 遺物 1. 9工区 石器（表）
2. 9工区 同上（裏）
- 図版161 遺物 1. 9上区 石器（表）
2. 9工区 同上（裏）
- 図版162 遺物 9工区 木製品
- 図版163 遺物 9工区 木製品
- 図版164 遺物 9工区 木製品
- 図版165 遺物 9工区 木製品
- 図版166 遺物 9工区 骨角牙製品
- 図版167 遺物 8上区 人骨頭骨 9工区 胎児もしくは乳幼児骨
- 図版168 遺物 8・9工区 動物遺体
- 図版169 遺物 8・9工区 動物遺体
- 図版170 遺物 9工区 動物遺体
- 図版171 遺物 9工区 動物遺体
- 図版172 遺物 木材の顕微鏡写真
- 図版173 遺物 木材の顕微鏡写真
- 図版174 遺物 木材の顕微鏡写真
- 図版175 遺物 種実遺体

1. 調査に至る経過

調査は一般国道170号線の西石切立体交差事業に伴う発掘調査の一貫として平成15年に実施した。国道170号線と国道308号線とが交叉する「被服団地前」は交通渋滞をきたす場所として早くからその解消が求められてきた。平成9年4月の第1阪奈有料道路の開通によりその混雑は増し、平成10年に西石切立体交差事業は国庫補助事業として採択された。国道308号線の中央分離帯には阪神高速道路東大阪線・第二阪奈有料道路連絡道および近畿日本鉄道東大阪線の橋脚が存立し、これらは国道170号線の上部に位置することから、立体交差事業はアンダーパス工法が選択された。

「被服団地前」交叉点付近は弥生時代中期の拠点集落として周知されている鬼虎川遺跡が広がっている。本遺跡は1975年以降、60次におよぶ発掘調査が行なわれている。これまでの調査で東北部域（第18・25・29・32・33次など）から縄文時代前期の縄文海進による海食崖を検出し、その付近からは前期～中期の土器・石器や魚介類などの動物遺体が出土した。弥生時代は前期から後期までの遺構・遺物を多数確認している。前期は遺跡北西部に長原式土器と前期土器を伴う貝塚（第21・27次）、ほぼ中央部に前期土器を多量に含む大溝（第40・46・45次など）などが見られるが、集落状況は不明である。遺跡北側からは（北端部付近は希薄）中期の大溝、井などの土坑、柱穴などのピット群、貝塚、そして方形周溝葬・土坑墓・土器棺墓などの遺構と多量の弥生土器・石器・木製品などが検出しており、この時期には複数の大溝を伴う大集落（環濠集落）が形成されていた＝拠点集落。後期になると集落は縮小化した。古墳時代前期には集落の中心は南部へ（第36次など）、後期には東北部へと移行していったようである（第23次など）。飛鳥時代以降、遺構・遺物は希薄で西部域を中心に生産域と化す。平安時代前半には条里制に伴う遺構が見られるようになり、中世にはその坪境などに道・溝が設けられ、近世になると掘り上げ田に伴う井路が形成されていた。

計画域が遺跡中央部を縦断することから、事業者である大阪府（大阪府八尾土木事務所）と調査主体者の東大阪市（東大阪市教育委員会文化財課）は協議に入り、調査域の確認（特に北部）と国道170号線現道下埋設管等の移設・埋設先である両側拡幅箇所が発掘調査を実施することで合意し、平成6年度以降道路拡幅域の確保に伴い随時調査を続行している。平成6年度に調査対象の北限および遺跡の北端を確定した国道308号線以北の国道170号線北西側部の調査（第38次）、8年度に同北東側部の調査（第42次）を行ない、中・近世の溝および自然流路と近世から近代の掘り上げ田の井路などを検出し、弥生時代前・中期の遺物包含層をも確認したが出土遺物は希薄であった。第44次調査は新川以南の国道170号線の西側で、弥生時代中期遺物包含層から大量の弥生土器などとともに大型のヒスイ製獣形勾玉、弥生中期前半から中半の大溝と2基の土坑墓を検出し、「上税」の墨書土器（奈良～平安期のもの）が出土した。第49次調査は国道308号線以北の国道170号線の西側で、弥生時代中期の自然流路、中・近世の溝および近世から近代の掘り上げ田の井路などを検出した。第52次調査は第49次の北およびこれらの東対面側で、弥生時代前期の溝・ピット、中期の溝・ピット・自然流路、中・近世の溝および自然流路、近世から近代の掘り上げ田の井路、弥生土器や中世末の板や塔婆などを検出した。第53次調査は新川以南の国道170号線の東側で、条里制に伴う道・溝を確認し、弥生時代中期遺物包含層からは多量の弥生土器と細形銅剣型磨製石剣などが出土するとともに土坑墓4基、土器棺墓2基と柱穴・土坑群や大溝を検出した。

今回の調査は平成15年2月24日より鋼欠板の打設、3月3日より機械掘削を実施し、4月1日から11月4日まで主に人力掘削による発掘調査をし、それ以降、平成17年3月まで整理作業を行なった。

II. 位置と環境

鬼虎川遺跡は生駒山の西麓、標高4～8mの扇状地末端部から沖積平野にかけて広がり、現在の東大阪市弥生町・西石切町・宝町・新町一帯に位置する旧石器時代から江戸時代にわたる複合遺跡である。北端中央部から南東部にかけて国道170号線（外環状線）がほぼ南北に走り、北部にはこれに直行するように東西方向の国道308号線が延び、その中央分離帯域には近畿日本鉄道東大阪線および阪神高速道路東大阪線と第二阪奈有料道路連絡道が内包されている。西部には南から北方向に流れる恩智川があり、東からそれに注ぎ込む新川などの川がある。現在は住宅・工場・会社・病院などが建ち並び、水田・畑地はほとんど見ることはできない。しかし、50年ほど前までは小集落が点在し、掘り上げ田などの山園が拡がるのどかな地域であった。

本遺跡は弥生時代中期を中心とした大集落跡としてよく知られているが、人跡は後期旧石器時代にまで遡る。この時期の遺跡としては東接する西ノ辻遺跡をはじめ、千手寺山遺跡・正興寺山遺跡・山畑遺跡などがあり、ナイフ型石器・翼状剥片が出土している。

縄文時代の遺跡は山麓部から段丘・扇状地上などに点在し、まずは有舌尖頭器が出土した草香山・貝花遺跡と本遺跡がある。早期では多くの押型文土器とともに石器・土偶と灰跡・集石遺構を検出した神並遺跡があり、この土器は西ノ辻・日下・山畑遺跡からも出土している。前期は温暖化がピークに達し（縄文海進）、本遺跡東部などからこの時期の海食崖が検出され、前・中期の土器や魚介類などの動物遺体が出土している。中期の遺跡としては善根寺・縄手・馬場川遺跡があるが、それほど顕著ではない。しかし後期には多くの土器・石器などとともに住居跡・配石遺構などが見られる縄手遺跡があり、日下・芝ヶ丘・神並・鬼塚・馬場川遺跡とともに本遺跡からもこの時期の土器が出土している。そして晩期になると貝塚・墓地や多量の土器・石器が確認されている日下遺跡をはじめ、鬼塚・馬場川・宮ノ下などの遺跡で集落が営まれていた。

弥生時代になると集落形成は主に平野部に移り、本遺跡の西端に長原式土器と前期土器を包含した貝塚があり、本遺跡中央部や植附・中垣内・本市中南部の山質遺跡などから前期土器が出土している。中期には本遺跡において数条の大溝を伴う集落が営まれ、土器・石器・木製品などの大量の遺物と方形周溝墓や貝塚などを検出しており、これに近い状況は本市中央部の瓜生堂遺跡でも見られる。やや遅れて中期後半から後期前半には西ノ辻遺跡で大集落が形成された。後期になると集落は小規模化するものの、本遺跡や段上・土六万寺・北鳥池遺跡などの平野部の集落と、山畑・岩滝山遺跡などの高地性集落が営まれていた。

古墳時代前期には本遺跡南部および五合田・西岩田遺跡などから多くの土師器が出土し、集落が点在して形成されていた。中・後期になると植附・芝ヶ丘・神並・西ノ辻・山畑・市尻遺跡などとともに本遺跡北部でも集落が営まれていたが、いずれもそれほど大きくない。本市には前期の大形古墳は見られないが、塚山・えの木塚・客坊山1号墳など中期以降古墳は築かれるようになり、山畑古墳群・花草山古墳群・客坊山古墳群・神並古墳群・出雲井古墳群などの群集墳、植附・段上・巨摩庵寺などに小型低丘墳と、小規模ではあるが後期古墳が山麓部を中心に数多く築造された。

飛鳥・奈良時代以降は仏教の受容を反映するかのように若江寺・河内寺・法運寺・石凝寺、やや後出する客坊庵寺などの寺院が建立された。本遺跡や西ノ辻・神並・鬼塚遺跡などからは掘立柱建物・井戸・溝、須恵器・土師器や卑土器などが出土し、この時期の集落・耕作関連の遺構が検出されている。

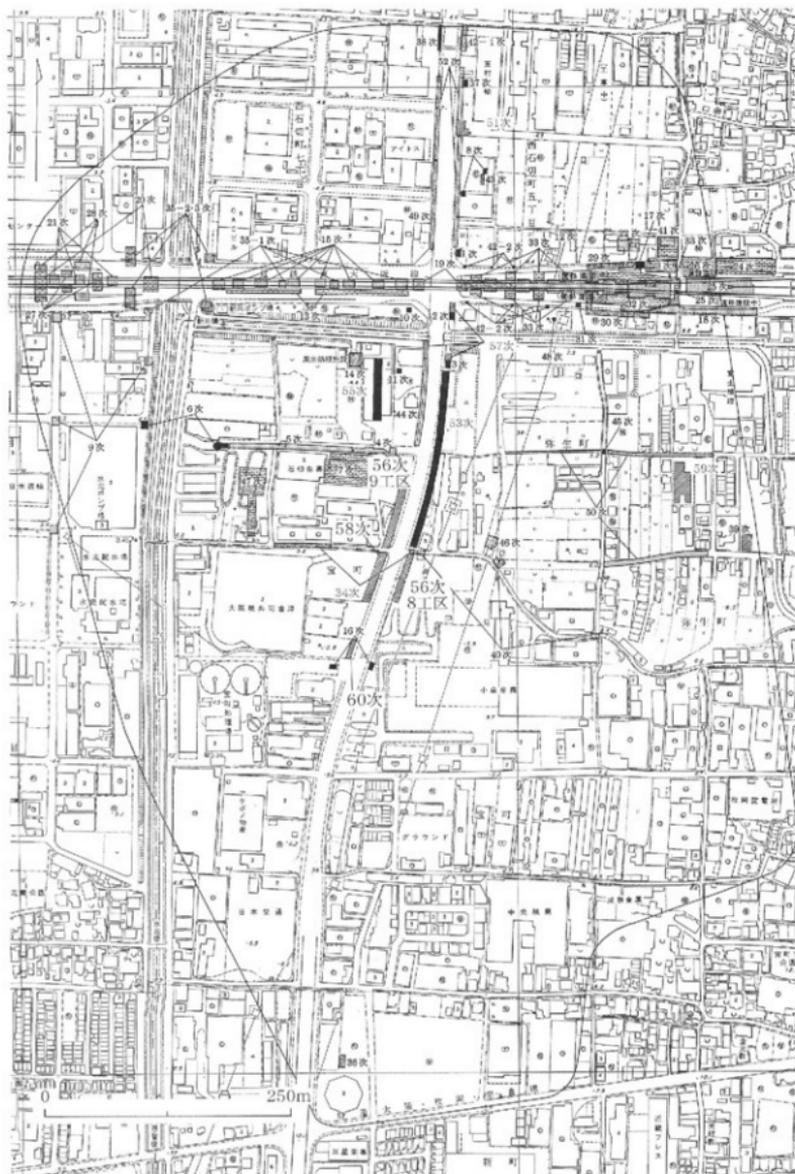
平安時代前半からは条里制に伴う東西・南北方向の溝・畔などの遺構、平安時代後半から鎌倉時代

には広い範囲にわたり整地活動が見られ、西ノ辻・神並遺跡などで掘立柱建物跡などの集落遺構とともに客土層や耕作跡が確認されている。また、西接する水走遺跡ではこの時期に堰・堤防を設けて大掛かりな開発を行なうとともに、大溝を伴う集落も形成された。

南北朝期を含む室町時代には西ノ辻遺跡をはじめ、のちの暗峠越奈良街道・東高野街道などの道路沿いに村落が営まれ、その状況はほとんど江戸時代以降まで存続した。またこの時期、平野部の若江城を中心として客坊城・往生院城などの城が数多く築造されたが、安土・桃山時代までには廃絶または城としての機能をなくしてしまった。江戸時代になると大和川の付け替え工事が行なわれ、平野部における生産域の状態を一変させた。旧の河川・池は埋め立てられてその周辺を含め田畑が整備され、本遺跡西部域ではいわゆる掘り上げ田が形成された。



第1図 遺跡周辺図 (1/25000)



第2図 各次数調査地位位置図

第1表 鬼川川産物調査一覧（海珍・追加）

（第51次以前の「粟国道170号西石切立体交差事業関連」）

氏名	事業名	所在地	事業種類	実施年度	調査主体	調査文献	調査要旨
37	「粟国道170号西石切立体交差事業」 「鬼川産物調査」	U&G町5丁目52番1号	調査	1994.02.15～1994.03.31	東北産物文化財研究会	中野一彦氏の調査、近世～近代の産物上げの経緯。	中野一彦氏の調査、近世～近代の産物上げの経緯。
38	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1994.12.19～1996.02.28	東八郡山文化財研究会	鬼川川産物調査の経緯と調査結果の整理、調査11回実施結果。	鬼川川産物調査の経緯と調査結果の整理、調査11回実施結果。
39	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1994.12.19～1996.02.28	東八郡山文化財研究会	1999「新刊東八郡山文化財調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
40	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
41	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
42	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
43	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
44	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
45	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
46	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
47	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
48	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
49	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
50	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。

（活用）

氏名	事業名	所在地	事業種類	実施年度	調査主体	調査文献	調査要旨
51	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
52	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
53	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
54	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
55	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
56	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
57	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
58	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
59	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。
60	「鬼川産物調査」	西八町6丁目3番3-1	調査	1996.10.16～1996.12.12	東八郡山文化財研究会	「鬼川川産物調査報告書1」	中野の調査結果、近世～近代の産物上げの経緯、産物調査の経緯。

※1～51次調査については「「鬼川産物調査」第52次調査報告書」を参照。

※2～51次調査については「「鬼川産物調査」第52次調査報告書」を参照。

III. 調査の概要

1. 調査の方法と経過

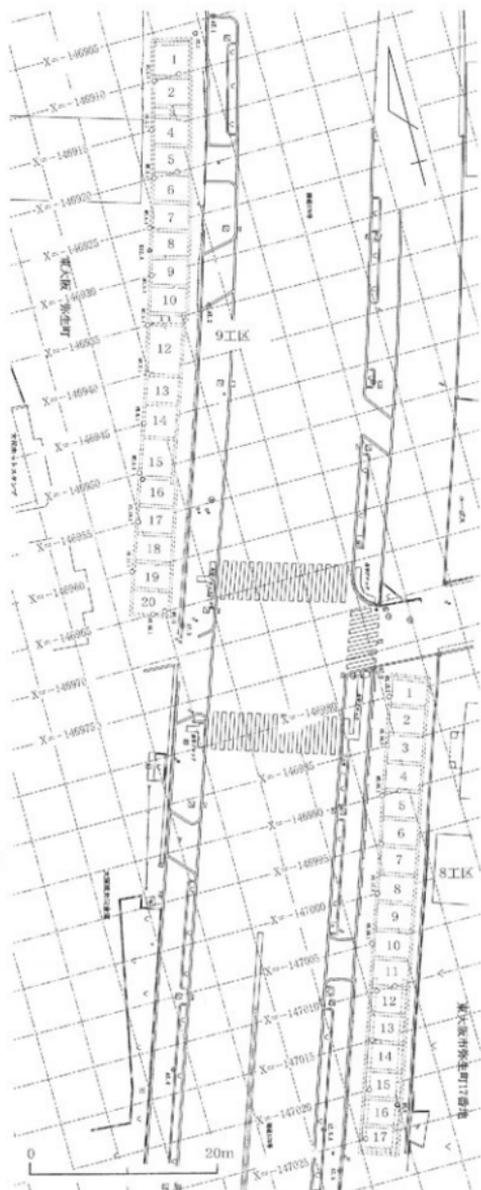
調査の方法

今回の調査地は国道170号線拡幅予定地で、国道308号線南側の東西の歩道および拡幅域にあたり、工事工程（発掘調査と終了後の水道管等の埋設など）により2つの工区-8工区・9工区-に分けて調査を実施した（工区名は平成10年度-1工区、平成11年度-2工区……に順じている）。調査期間は8工区が平成14年4月3日から10月10日、9工区が4月1日から11月4日までであった。各調査工区は幅約4～3.5mで南北方向に細長く、8工区は約51m、9工区は約61m、計約410mであった。調査区は車輛の通行、会社等の営業、掘削残上の搬出箇所の確保などから覆工板を布設した場所もあった。とくに8工区は全面で、9工区も南側および北側などに敷設された。

各工区の調査は現地表（GL）下約1.5～2mの道路舗装・盛土などを機械掘削し、以下一部機械・人力併用掘削部を設けながらGL約-6mまで人力掘削による調査を実施した。

調査にあたっては道路敷きであり掘削深度が6m近くになることなどから、調査区域は土留め鋼矢板を打設するとともに2段の支保工が架設された。南北方向の腹起に対する東西方向の切梁によって生じた小区画（基本的に南北3×東西4m）を利用して地区割を行ない、それに基づいて遺物の取り上げなどを行なった。また遺構・断面図の製作にあたっては国家座標値と併行して用いた（第3図参照）。

第3図 調査トレンチ位置と地区割図





第4図 掘り上げ田状況と国道170号および関連調査トレンチ位置図(枚岡市都市計画図 昭和40年ごろ)

調査経過—調査日誌抄など—

上述のように、8工区は東接する住宅展示場(現在は撤去済み)・畑への通路と残土搬出城の確保のため調査地全域に覆工板が布設された。そのためGL-1.5~1.8mの舗装・盛土除去後、覆工板の析および1段目支保工の架設可能な深さ=GL-2mまで、立会による機械掘削を行なった。その後、人力による発掘調査を実施していったが、調査地南側には掘り上げ田に伴う井路の一部が残存し、近・現代の埋土などGL-4m近くまでを機械掘削によって除去した。

9工区も西接する会社・倉庫への車輛等の通行・畑への出入りと残土搬出通路等の確保のため、調査地の中央付近と北側の一部を除いて覆工板が敷設された。覆工板敷設と1段目支保工架設に伴いGL-2mまで立会しながらの機械掘削を行なった。その後、人力による発掘調査を実施していったが、ほぼ中央にあった旧廃油施設除去穴の攪乱部はGL-3m近くまで機械掘削によって排除した。以下、日誌より調査経過を抄録する。

<調査日誌抄>

- 2月24日 鋼矢板打設開始。
- 3月3日 8工区、機械掘削開始。3月末までに1段目支保工・覆工板架設。
- 3月8日 9工区、機械掘削開始。3月末までに1段目支保工・覆工板架設。
- 4月1日 8工区、人力掘削による発掘調査開始(南部の掘り上げ田井路内の埋土等を機械掘削)。
- 4月3日 9工区、人力掘削による発掘調査開始(中央付近の攪乱部等を機械掘削)。
- 4月17日 8工区第4層上面で鋤溝・足跡を検出。
- 4月28日 9工区10・11地区第5層上面で大溝・流路を検出。
- 5月12日 8工区第7層上面で溝6横列、落ち込み1掘削と落ち込み2を検出。
- 5月16日 9工区16~20地区第6層上面で東西方向の溝群を検出。
- 5月21・22日 8工区・9工区西壁断面層位図作成開始。

- 6月2日 9工区第10層上面で溝群と足跡群を検出。
- 6月12日 8工区7～13地区の第17層上面で足跡・土坑を検出。
- 6月20日 9工区12～15地区第10層上面で溝群を検出し、16～20地区第11層上面溝群完掘。
- 7月4日 8工区6地区第19層上面で落ち込み4およびその上面の足跡群検出。
- 7月10日 基準杭設置準備（8月11日より測点の設置）。
- 7月18・19日 弥生土器等の遺物を多量に包含する9工区18層・8工区20層の掘削始まる。
- 7月29・30日 8工区南側2段目支保工架設（北側は9月22日に架設）。
- 8月5日 9工区土器棺墓確認し、土坑を検出。
- 8月27日 9工区第18層上面遺構を完掘し、写真撮影と写真測量。
- 8月20・21日 8工区人骨周辺の出土状況図作成。
- 8月29日 8工区第23層上面遺構完掘し、写真撮影と写真測量。
- 9月5日 8工区1～4地区の第24層上面遺構完掘し、写真撮影と写真測量。
- 9月11日 8工区第24下層・9工区第19層上面遺構完掘し、写真撮影と写真測量。
- 9月27日 8工区第27層上面遺構を検出し、掘削。
- 10月2日 9工区2段目支保工架設。
- 10月10日 8工区調査終了。
- 10月23日 9工区3～8地区西断面掘削。土坑B内を掘削。翌日、土坑C確認。
- 11月4日 9工区調査終了。

平成16年1月25日、東大阪市立埋蔵文化財センターにおいて市民対象に本調査の概要を発表。

整理等作業経過

発掘調査にほぼ平行して出土遺物の洗浄とその登記作業（遺物台帳）をしていったが、調査終了後、同作業を本格的に行なうとともに注記、接合作業を実施した。その後、遺物による遺構・層位の時期を確認しながら、報告書作成に向けて必要な遺物をセレクトし、石膏復元および実測図（拓影を含む）の作成を行なった。

8工区第20層内人骨および9工区土器棺内人骨は各検出時に安部みき子氏に確認願ひ、調査終了後クリーニングし、洗浄した動物遺体とともに、同氏に鑑定・同定を依頼した。

木製品の使用樹状状況を確認するため原材を含む主要木製品の樹種同定と、植物の利用状況を確認するため出土した種実遺体の同定をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

報告書の体裁は、昨年度の『鬼虎川遺跡第53次発掘調査報告』の項目を基に執筆分担を確認した。

土器・石器・木製品・土製品・骨角牙製品の実測図は地区ごとに分け、とくに土器は層位・遺構ごとにレイアウトし、原稿執筆しながら割付を行ない、トレースして遺物版下を作成した。

上記の遺物（土器・石器・木製品・土製品・骨角牙製品および動物遺体など）の写真撮影は株式会社コミュニケーションに委託して実施し、選択した遺構写真を含め、焼付けしたのち写真版下を作成した。

層位図・遺構図は張り合わせ作業をはじめ図面の整理・検討を行ない、アコード株式会社に委託して実施した写真測量図の校正を行なった。遺構図は地区別に、層位、遺構ごとにレイアウトし、原稿執筆しながら割付を行ない、トレースして遺構版下を作成した。

遺構・遺物等の主要原稿・版下等完成後、委託原稿等をも集成して、目次・総括・報告書抄録等を加えて編集し、印刷へまわした。

報告書原稿・版下類校了後、資料管理のための遺物・図面等の登録に着手し、木製品に関しては順じ保存処理を行なった。

2. 基本層位

調査地周辺は、大幹線道路の国道170号・大阪外環状線の舗装に合わせ厚く盛土されていた。8工区と9工区には同一または相当層はいくつか見られたが、8工区の掘り上げ田井路、9工区の高まり状遺構をはじめ層位状況に違いが見られ、調査時点であえて統一することをしなかった。本報告書においてもそれに従った。そのため、いくつかのキーとなる層をもとに基本層位を記しておく（第5図および第2表参照）。

第A層 盛土。国道170号（外環状線）に合わせて埋められたものおよび攪乱土。

第B層 近・現代の耕作土。8工区で掘り上げ田の井路と鋤溝、9工区で自然流路を検出した。

第C層 近代の耕作土。土師器・須恵器・陶磁器の小・細片などが出土し、8・9工区で溝・土坑・ピット、自然流路を検出した。

第D層 3～4層に分かれる砂混じりシルト質土・シルトを主体としていた江戸時代以降の整地・耕作土。土師器・須恵器などの小・細片が出土し、上面で溝・土坑・ピット・流路を検出した。

第E層 2層に分かれるシルト・小礫混じり砂質土の堆積土。土師器・須恵器・瓦器などの小・細片が出土した。

第F層 砂混じり粘土質シルトと砂・小礫混じり土などの混ざった数層に分かれる室町時代以降の整地土。土師器・須恵器などの小・細片が出土し、8工区で溝・落ち込みを検出した（8-7～10＝8工区北部のみ）。

第G層 砂混じり粘質土・砂質土・シルト質土の互層で、鎌倉時代以降の耕作土・整地土（間層で1～2面の足跡を検出）。弥生土器・土師器・須恵器・瓦器などの小・細片が出土し、上面で溝を検出した。

第H層 砂混じり粘質土・シルト質粘土質と粘土の奈良から平安時代の整地土。弥生土器・土師器・須恵器の小・細片などが出土し、上面で自然流路・足跡・土坑、中層で溝を検出した。

第I層 砂混じりシルト質粘土の奈良時代相当期の整地上で、弥生土器・土師器・須恵器の小・細片が出土した。

第J層 砂・砂質土主体の（洪水の）自然堆積層で、出土遺物なく、上面で溝を検出した。

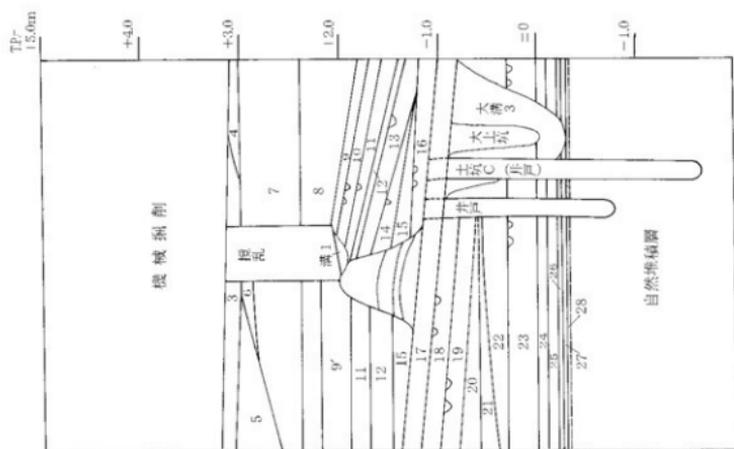
第K層 シルト質粘土を主体とし、2層に分かれる古墳時代後半の整地土。弥生土器・須恵器・動物遺体などが出土し、上面で土坑と足跡を検出した。

第L層 粘土を主体とする古墳時代前半に相当する堆積土。弥生土器・土師器小片が出土し、上面で落ち込み・足跡・溝を検出した。

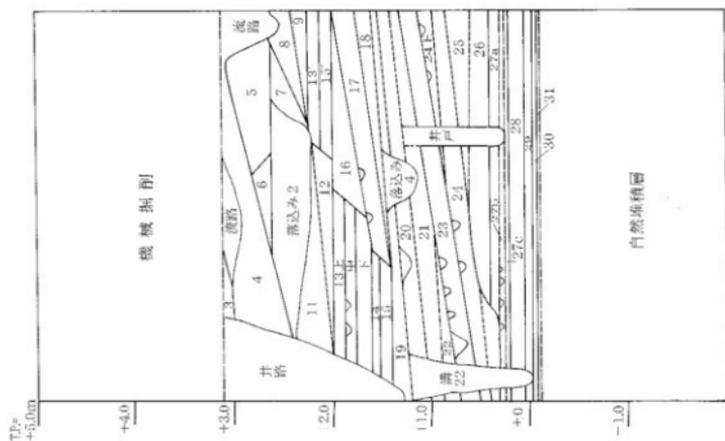
第M層 炭・植物遺体を含む砂混じり粘質土で大きく3層に分かれる。縄文土器・弥生土器・石器・木製品・動物遺体などの遺物を多量に包含した弥生時代中期末から後期初頭の整地土で、8工区の上層からは頭骨などの人骨が、9工区の下層から上層が出土した。上面で溝・ピット・土坑・落ち込みを検出し、9工区では上または中層面からの土器棺墓を確認した。

第N層 砂混じりシルト質粘土主体の弥生時代中期中葉から後半の整地上で、3～4層に区分できた。縄文土器・弥生土器（I～IV様式）・石器・木製品・土製品・動物遺体などの遺物が出土し、上面で大溝・溝・井戸などの土坑・ピットなど多数の遺構を検出した。また、8工区南側にはO層の上層に砂を主体とする砂まじり土があり、N層形成前に小規模な洪水による堆積層が見られた。

第O層 砂まじりシルト質粘土主体の弥生時代前期末から中期前半の整地土で、2～3層に区分できた。弥生土器（I～II様式）・石器・木製品・動物遺体などの遺物が出土した。8工区北では2面の遺構を確認し、大溝、溝、土坑、ピットなどを検出した。



8工区



9工区

第5图 8・9工区露位概念图

第2表 8・9工区層位対比表

時代・時期	基本層位名等	8工区 (主な遺構)	9工区 (主な遺構)
現代	A層 盛土	盛土・1・2層	盛土・1層
近代	B層 耕作土・床土	3層 (井路・鋤跡)	2・3層 (流路)
江戸	C層 耕作土	4層 (溝・土坑・ビット)	4層 (流路・溝・土坑)
	D層 耕作・整地土	5層	5層 (溝・土坑・ビット)
室町	E層 耕作・整地土	6層	6層
鎌倉	F層 整地土・堆積層	7~10層 (溝・落ち込み)	7・8・8'層
平安	G層 耕作・整地土	11・12層 (溝)	9・9'層 (足跡・溝)
奈良~平安	H層 整地土	13・14層 (流路・足跡)	10層 (足跡・土坑)
	I層 整地土	15層	11層 (溝)
奈良	J層 堆積層	16層	13・12層 (足跡・溝)
古墳後半	K層 堆積・整地土	17・18層 (土坑・足跡)	14・15層 (足跡・溝)
古墳前半	L層 堆積土	19層 (落ち込み・足跡)	16層 (落ち込み・土坑)
弥生中期末~後期	M層 整地土	20~22層 (溝・ビット・土坑)	17層 (落ち込み・土器棺)
弥生中期中葉~後半	N層 整地土	23層 (土坑・ビット)	18層 (大溝・土坑・ビット)
弥生前期末~中期前半	O層 整地土	24層 (土坑・ビット)	19層 (溝・土坑・ビット)
弥生前期後半	P層 整地土	25層	20層
弥生前期後半	Q層 堆積砂	26層	21層
弥生前期前半~中葉	R層 堆積層	27層 (ビット)	22・23層 (土坑・溝・ビット)
縄文晩期以前	S層 堆積層	28層	24・25層
	T層 堆積層	29層	26層
	U層 堆積層	30層	27層
	V層 堆積層	31層	28層

第P層 細粒含む砂質土の整地土。出土遺物なし。

第Q層 砂の自然堆積層。弥生時代前期後半の洪水に伴うもので弥生土器とともに縄文土器が出土し、とくに8工区は北側、9工区は南側に厚く堆積していた。以降の集落形成面に高低差をもたらした。

第R層 シルト質粘土を主体とする3層に分層できる弥生時代前期の堆積層。弥生土器細片が出土し、8工区南部の中層上面でビットを検出した。

第S層 黒色粘土・暗緑灰色シルト質粘土。

第T層 黒色粘土。

第U層 暗緑灰色粘土。

第V層 黒色粘土。

第S層以下は、いわゆる河内湖・潟期の無遺物の自然堆積層。

上述したように、以下の8・9工区の遺構・遺物の概要では、各工区とも調査時の層名を優先させ、あえて統一していない。その関連・対称についてはこの基本層位を参照願いたい。本文などで基本層位を使用する場合、上記の大文字のアルファベットで表記する。

3. 8工区遺構

a. 層位 (第6図 図版3・4)

第1・2層 近・現代の盛土

第3層 細粒砂を多く含む粘質土と砂質土の2層に分かれる層で、堀り上げ田に伴う井路や数条の溝溝を検出した。

第4層 旧耕地で土師器・須恵器・陶器の小・細片などが出土し、溝6や土坑2、ピット1を検出した。

第5層 大きく3層に分かれるシルト質土を主体としていた近世以降の整地・耕作上。土師器・須恵器の小・細片が出土した。

第6層 細粒砂を含むシルトと砂質土に分かれる層で、土師器(284)・須恵器・瓦器が出土した。

第7層 シルト質土と砂質土の2層に分かれる層で、8工区北部のみでみられた。上面で溝7、落ち込み1～3を検出した。

第8層 砂混じりシルトを主体とし、5層に分かれる。土師器の細片が出土した。

第9層 上部はシルト質土と砂質土の互層で下部にシルトを含む。須恵器の細片が出土した。

第10層 砂混じり粘質土を主体とし、4層に分かれる。

第7～10層は8工区北部のみに存在する層で、中世期の整地層と考えられる。

第11層 砂混じり粘質土と砂質土の互層で、土師器・須恵器・弥生土器の細片が出土し、上面で溝8～11を検出した。

第12層 砂質土とシルト質土・砂混じり粘質土の互層で7～8層に分かれる。土師器・須恵器・弥生土器が出土した。

第11・12層は平安時代以降の耕作・整地層。

第13層 北部では砂混じり粘質土を主体とし、南部ではシルト質粘土を主体とする。3層(上・中・下)に分かれ、層内から土師器・須恵器・弥生土器が出土した。上層上面で自然流路C・足跡、中層上面で溝12～15を検出した。

第14層 粘土の堆積層で、土師器・弥生土器が出土した。

第13・14層は、奈良～平安時代の整地層。

第15層 砂混じりシルト質粘土を主体とし、2～3層に分かれる。弥生土器の細片が出土した。

第16層 砂質土を主体とする層で近隣の流路によって、もたらされた洪水砂と考えられる。遺物は出土しなかった。

第17層 シルト質粘土を主体とする層。少量の弥生土器が出土し、上面で土坑3基(3～5)と足跡を検出した。

第18層 シルト質粘土を主体とする堆積層。壺(67・68)・高坏(69)・甕(70～72)などの弥生土器、石包丁(331)、イノシシ(資料12)などの動物遺体が出土した。

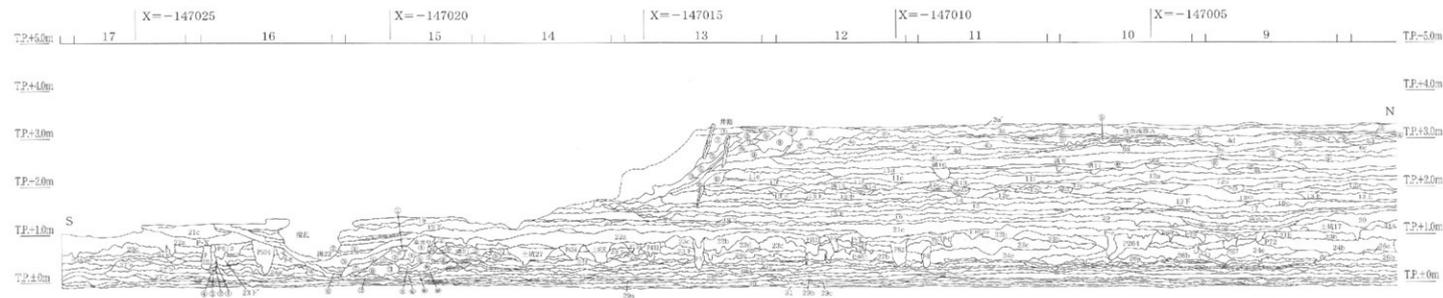
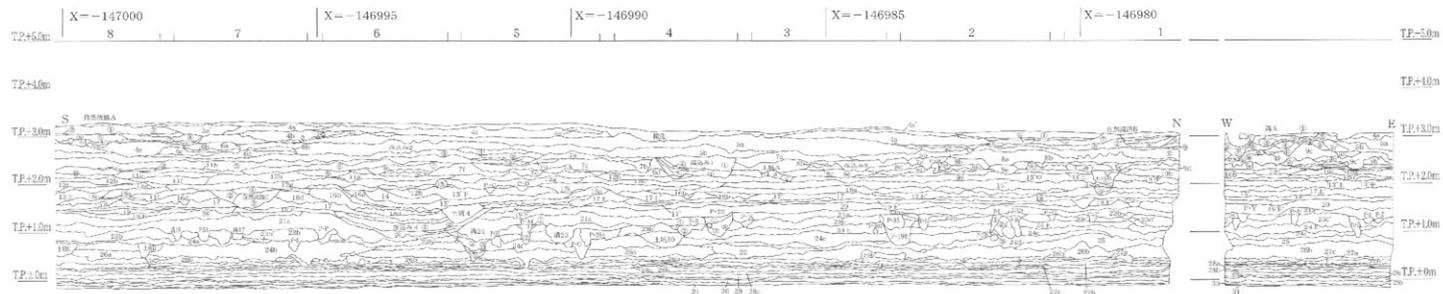
第19層 黒色の粘土を主体とする堆積層で、弥生土器が出土した。上面で落ち込み4と足跡を検出した。

第20層 砂混じり粘質土。層内より人骨(頭骨など)が出土した。上面でピット2、土坑7・8、落ち込み5を検出した。

第21層 炭を含む砂混じり粘質土。

第22層 炭・植物遺体を含む砂混じり粘質土で、南部に多く堆積する。

第20～22層は、調査地全域に広がり弥生土器・石器・木製品・ササカイト・動物遺体・植物遺体



第6图 8区扇位断面图

など弥生時代の遺物を多く包含する中期末～後期初頭の整地層。

第23層 砂混じりシルト質粘土を主体とする層で、2～3層に分かれる。弥生土器・石器・木製品・動物遺体などが出土し、上面で弥生時代中期中葉から後半の遺構を検出した。

第24層 砂混じりシルト質粘土を主体とする層で、第24上層・24層との大きく2層に分かれる。多くの弥生土器・石器・ササカイトなどが出土し、上面で弥生時代前期末から中期前半の遺構を検出した。

第25層 細・礫を含む砂質土

第26層 砂層。層内から弥生土器の細片が出土した。

第25・26層は、北部に厚く堆積しており南部ではほとんどみられない、弥生時代前期の洪水砂。

第27層 シルト質粘土を主体とする層で、3層(a・b・c)に分かれる。層内から少量の弥生土器が出土した。b層上面で、数個のピットを検出した。弥生時代前期前半～中葉の層。

第28層 暗緑灰色シルト質粘土。

第29層 黒色粘土。

第30層 暗緑灰色粘土。

第31層 黒色粘土。

第28層以下は無遺物層。

b. 遺構

[縄文時代以前]

第28層以下の粘土の自然堆積層は縄文時代後・晩期の対応層である。この層からの遺物の出土はなく、明確な遺構も確認できなかったが、弥生時代中期後半の整地層(第20～22層)や第23層上面の遺構内(土坑29・P307)から突帯文土器などの縄文時代晩期の土器・石器が出土した。

[弥生時代]

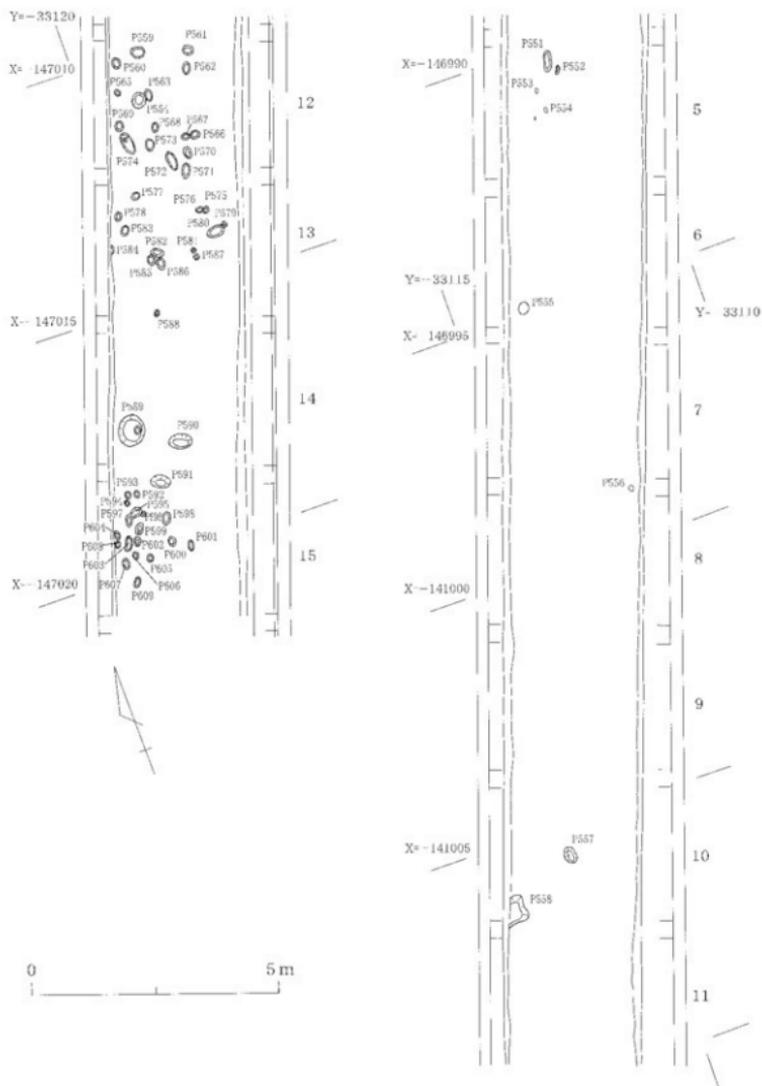
<前期>

今回の調査地付近で行なわれた第40・46・53(7工区)次調査で、前期の大溝・土坑墓・土器棺蓋が確認されている。また、第52・53(6工区)次調査では前期相当層上面(T.P.+0～0.3m付近)でピット・土坑・溝が確認されたが、遺物は出土していない。8工区でも第27b層上面でピットを検出した。弥生土器の細片が出土した。

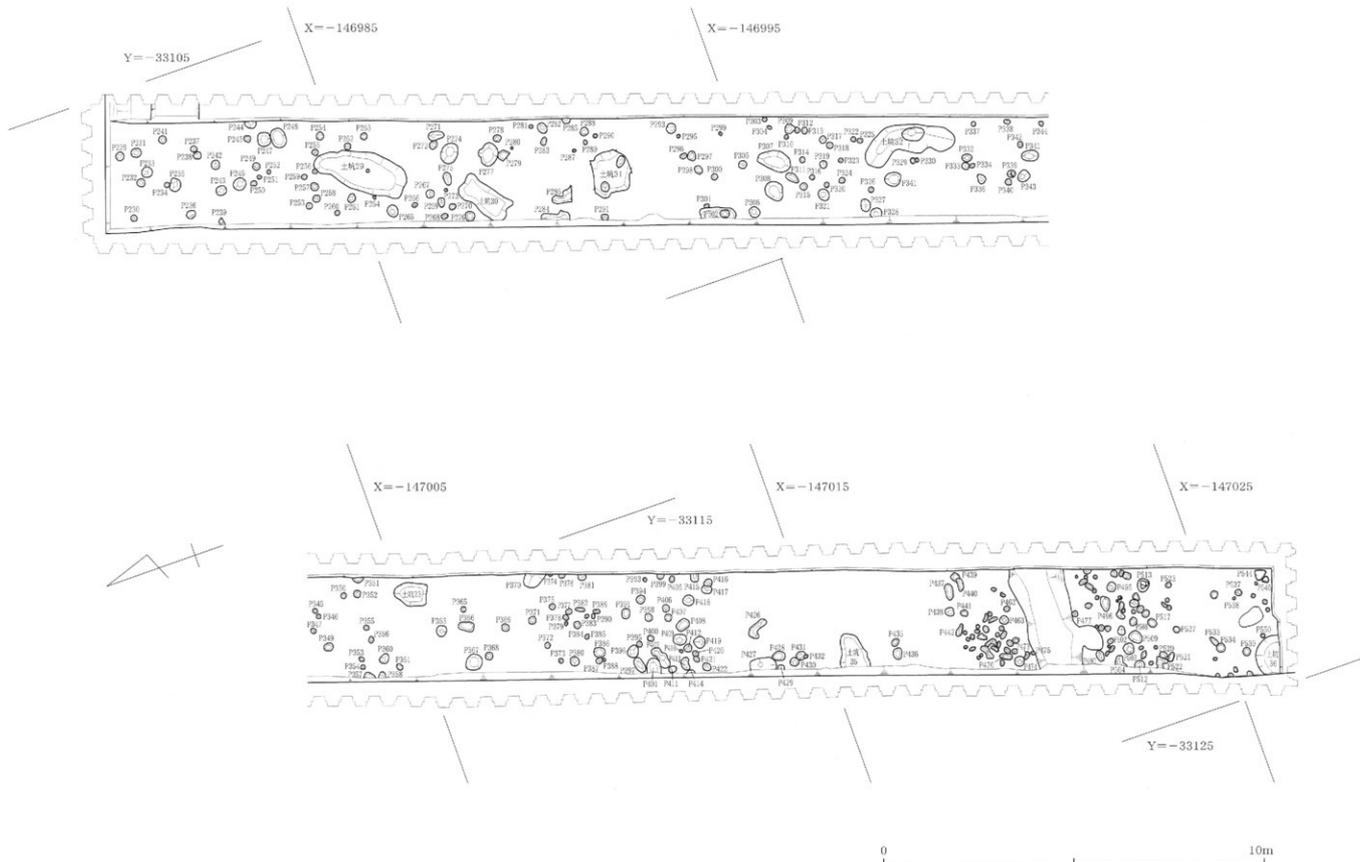
第27b層上面遺構(第7図 図版5)

5～15地区で、58個(P551～609)のピットを検出した。その内の50個は南部(12～15地区)で確認した。

ピットの規模は径10～20cm、深さ10cm未満のものが大半で、径30cm以上のものは6個(P551・572・574・580・590・591)であった。埋土はP551～591(5～12地区)が暗緑灰色(10GY3/1)砂混じりシルト質粘土で、P592～609(15地区)は第24下f層により埋没していた。遺構内(P556・565・569・573・574・580)より、弥生土器の細片が出土した。これらのピット群は、前期相当期である埋没時期は、12地区より南方と北部では異なる。南部では上層に第27a・26層の堆積がほとんどみられず、第24f層による埋没が確認できる。このことから北部と南部の遺構の埋没時期に若干の差が考えられるが、中期初頭にはすべて埋没している。



第7图 8工区第27b层上面遺構平面図



第8图 8工区第24层上面叠构平面图

＜前期末から中期前半＞

この時期の集落期の遺構面を2面(第24上・24層)確認した。遺構は8丁区全域にひろがり、第24上・24層上面では、第23層上面より遺構の密度が希薄になるが土坑・ピット群を検出した。層内からは前期から中期初頭の壺(139~142)・壺蓋(143)・甕(144~148)などの弥生土器、太型蛤卵石斧(322・323)などの石器、木製品、サヌカイト・シカ・イノシシ・大型哺乳類(資料93~99)などの動物遺体が出土した。また、この時期から中期後半までの各遺構面は北から南へ傾斜し、約50cmの高低差を確認した。この傾斜は、特に北部に厚く堆積した前期後半の洪水砂層(第25・26層)を覆うように行なわれた整地によってもたらされていた。

以下、主要な各遺構を北側(1地区)から概観して記す。検出長と記した遺構は、その一部が調査範囲外にあることを示す。

第24層上面遺構(第8図 図版6)

土坑17基(土坑29~36)・ピット321個(P229~550)を検出した。遺構面全域で径約20cmの多くのピットを検出したが、特に南部域ではこれらのピットが一ヶ所に集中する傾向がみられた。遺構内から縄文土器、I・II様式の弥生土器、サヌカイトなどが出土した。また、残存状況は良くなかったが、ピット(P343・418・429・513)内に柱根を残すものもあった。

土坑29(3地区)は、227×80cm、深さ12cmの不定な楕円形を呈する。埋土は暗緑灰色(7.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土を主体とし、3層に分かれる。縄文時代晩期の深鉢(1・2)や弥生土器の細片、円板状土製品(310)が出土した。

土坑30(4地区)は、140×60cm、深さ25cmの長方形を呈する。埋土は暗緑灰色(7.5GY3/1)炭を含む砂混じりシルト質粘土で、鉢(64)などの弥生土器が出土した。

土坑32(7・8地区)は、240×70cm、深さ56cmを測り、くの字形を呈する。埋土は緑黒色(5G2/1)砂混じり粘質土で、弥生土器が出土した。

土坑35(14地区)は、検出長130×92cm、深さ9.5cmを測り、舌状を呈する。埋土は暗緑灰色(10G4/1)の、焼土を全体に含む砂混じり粘土で、弥生土器の細片が出土した。

ピット284(4・5地区)は、検出長75×30cm、深さ21cmを測り、楕円形を呈する。弥生土器やイノシシ(資料102・103)などの動物遺体が出土した。

ピット307(6地区)は、90×50cm、深さ15cmを測り、楕円形を呈する。埋土は緑黒色(5G2/1)の炭を含む砂混じりシルト質粘土で、弥生土器、突帯文土器の細片が出土した。

ピット333(8地区)は、径17cm、深さ11cmを測り、円形を呈する。埋土は暗緑灰色(10GY3/1)砂混じり粘質土で、弥生土器や円板状土製品(312)が出土した。

ピット341(8地区)は、検出長40×35cm、深さ10cmを測り、楕円形を呈する。埋土は黒色(7.5Y2/1)炭・焼土を含む砂混じり粘質土で、甕(53)・鉢(54)などの弥生土器が出土した。

第24上層上面遺構(第9図 図版7・8)

調査地北部(1~4地区)上面で、ピット63個(P165~228)・土坑1基(土坑28)を検出した。

ピットは円形で径15~20cmのものと同10cm未満の小規模のものが散在していた。いずれも深さは10cm前後の浅いもので、埋土は暗緑灰色(10GY3/1)シルトを含む砂混じり粘質土であった。柱根を残すものはなく、ピット(P198・200・207・212・215・220・222・225)から弥生土器の小・細片が出土した。

土坑28(2地区)は、59×50cm 深さ10cmを測り、楕円形を呈する。埋土は暗オリーブ灰色(5GY3/1)シルト質粘土で、弥生土器の細片が出土した。

ピット165(1地区)は、径20cm、深さ10cmを測る。埋土は、暗青灰色(5BG2/1)砂混じりシルト質粘土で、甕(63)などの弥生土器が出土した。

＜中期中葉～後半＞

第23層は上面で最も多くの遺構を検出した層であり、ピット159個(P5～164)・土坑18基(土坑9～27)・溝8条(溝16～19・20～22)・井戸を確認した。これらの遺構には複数の切り合い関係がみられ、少なくとも3期の時期差があった。新しい時期のものは、上層の整地層内(第20～22層)からの切り込みがみられるもので、第23層上面で検出した遺構の時期は、中期中葉から中期後半である。

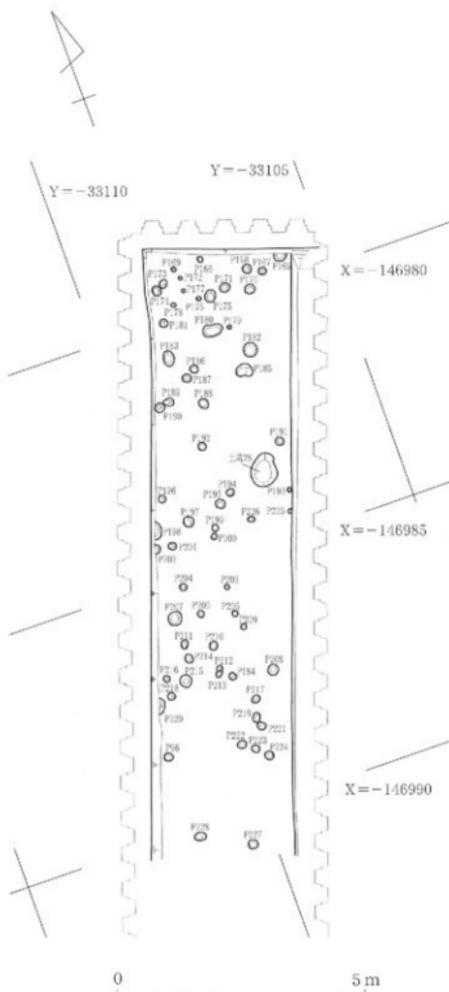
層内から壺(133～135)・甕蓋(136)・甕(137・138)などの弥生土器、石錐(348)などの石器、円板状土製品(304・306)、農具の原材(353)などの木製品、シカ・イノシシ(資料76～92)などの動物遺体が出土した。

第23層上面遺構(第10図 図版9～14)

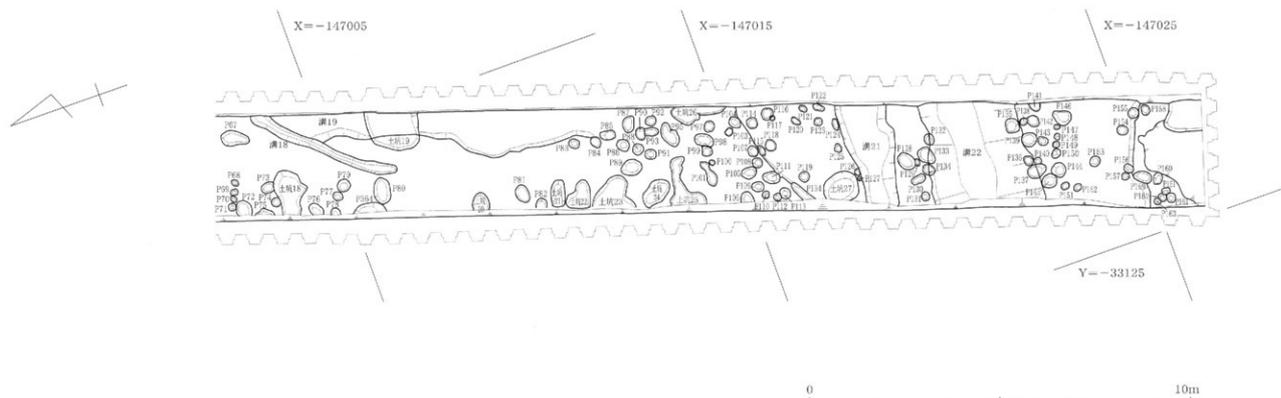
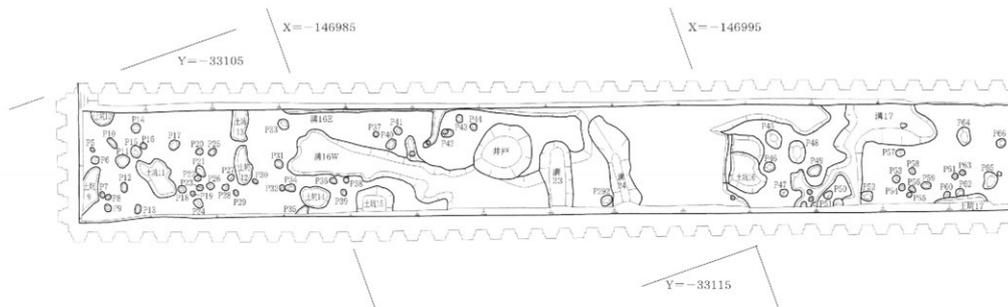
土坑9(1地区)は、検出長129×40cm、深さ10.5cmを測り細長い楕円形を呈する。埋土は黒色(5Y2/1)砂混じり粘質土で、甕(51)などの弥生土器が出土した。

土坑15(3地区)は、検出長93×70cm、深さ20cmを測る舌状土坑で、埋土は黒色(5Y2/1)礫を含む砂混じり粘質土と青黒色(5BG2/1)砂混じりシルト質粘土の2層に分かれる。甕蓋(49)・高坏(50)などの弥生土器が出土した。

土坑18(9地区)は、検出長110×80cm、



第9図 8工区第24層上面遺構平面図



0 10m

第10图 8工区第23层上面道桥平面图

深さ22cmを測る不整な楕円形を呈した土坑。埋土は緑黒色(10GY2/1)炭を含む砂混じり粘質土で、弥生土器や円板状土製品(311)が出土した。

土坑24(13地区)は、85×52cm、深さ10cmを測る不整な楕円形を呈する。埋土は黒色(10Y2/1)炭・焼土を含む粘質土で、鉢(55)などの弥生土器が出土した。

土坑27(14地区)は、検出長90×85cm、深さ38cmを測る楕円形を呈する。埋土はオリーブ黒色(5GY2/1)砂混じり粘質土で、壺(52)などの弥生土器が出土した。

溝16(3～6地区)は、東西幅95cm、深さ24cmを測る南方へ延びる溝。断面形(第12図)は皿状を呈し、埋土はオリーブ黒色(5GY2/1)を主体として3層に分かれる。鉢(8A・8B・9)・壺(10～14・16)・細頸壺(15)・甕(17～22)・高坏(23・24)などの弥生土器、シカ・イノシシ・スポン・大型哺乳類(資料1～8)などの動物遺体が出土した。

溝の北部は削平され検出できなかったが、南部は溝23・24や土坑16との切り合い関係がみられ、5地区付近で幅約400cm、深さ20cmの東西方向に延びる落ち込み状に窪む。この落ち込み部からは壺蓋(6)・甕(7)などI様式を含む弥生土器が出土した。埋没時期は中期中頃である。

溝17(7・8地区)は、最大幅180cm、深さ25cmを測る東西方向に延びる溝で、西部では南北方向へ広がる。断面形はU字状を呈し、埋土は黒色(2.5Y2/1)砂混じり粘質土で、壺(25～28)・高坏(29)・甕(30～34)などの弥生土器が出土した。埋没時期は中期後半である。

溝19(9～12地区)は、最大検出幅120cm(西側のみ検出)、深さ10cmを測る北から南へ延びる溝で、断面形は皿状を呈する。北部は溝18によって切断され、埋土は黒色(5GY2/1)砂混じり粘質土で、高坏(35)・甕(36・37)などの弥生土器、サカナ(資料9～11)などの動物遺体が出土した。

溝22(15・16地区)は、幅250cm、深さ100cmを測る東西方向の溝。断面形はゆるやかな逆台形状を呈する。埋土上部は黒色(2.5GY2/1)砂混じりシルト質粘土を主体とし4層に分かれ、下部は黒色(2.5Y3/1)植物を多く含む砂混じり粘質土を主体として3層に分かれる。遺物はⅢ～Ⅳ様式の鉢(38)・高坏(39・42)・壺(40)・甕(41)などの弥生土器や動物遺体が出土し、断面で第21層からの切り込みが確認できたことから掘削、埋没時期はともに中期後半である。

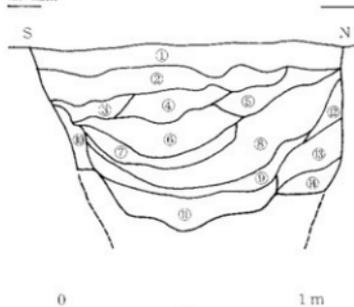
15から17地区にかけては、第27層堆積時にできた隆起や弥生時代前期から中期中頃までの2度の洪水によって、北部より弥生時代の包含層が厚く堆積していた。溝22の北肩部はこれらの自然堆積と、前期末から中期後半にかけて繰り返し行われた整地によって高まり状に残っていた(第13図)。中期初頭に行われた整地層内(第24f層)からは縄文土器(3・5)や壺(149・150)・甕(151～153)・鉢(154・155)などの弥生土器、農具の原材(354)・板(355)・又鋸の刃先(352)などの木製品が出土した。

溝23(5地区)は、幅85cm、検出長170cm、深さ28cmを測る東西方向の溝で、断面形(第12図)は舌状を呈し、埋土はオリーブ黒色(5GY2/1)砂混じり粘質土で、鉢(43)・甕(44)などの弥生土器が出土した。

溝24(5地区)は、幅80cm、検出長250cm、深さ37cmを測る東西方向の溝で、断面形(第12図)は不整な逆三角形形状を呈する。埋土上部はオリーブ黒色(5GY2/1)砂混じりシルト質粘土を主体として2層に分かれ、下部は緑黒色を主体とする3層に分かれる。Ⅲ～Ⅳ様式の弥生土器の細片が出土しており、溝23と同時期に機能していたものである。

井戸(4地区)は、径160cmのほぼ円形を呈し、深さ約125cmで底面に向かってすぼまる。埋土(J部のみ)は黒色(5Y2/1)炭を含む砂混じり粘質土など14層に分かれた(第11図)。出土遺物は、前期のものを若干含むが、多くは中期後半の鉢(56)・甕(57・58)・高坏(59)・壺(15・60・61)な

TF:-1.2m



- ①: 5Y2/1 黒色 砂混じり粘土 (細～中粒砂・礫・炭を全体に含む)
- ②: 5BG3/1 暗青灰色 粘土 (細～中粒砂を含む)
- ③: 5G2/1 緑黒色 粘土 (中粒砂を少量含む)
- ④: 5G2/1 緑黒色 シルト質粘土 (中粒砂・礫を全体に少量含む)
- ⑤: 5G3/1 暗緑灰色 粘土 (極細～中粒砂を全体に含む)
- ⑥: 10G3/1 暗緑灰色 粘土 (粗粒砂を含む)
- ⑦: 5Y2/2 オリーブ灰色 粘土 (シルト～細粒砂を含む、炭・植物遺体混じる)
- ⑧: 7.5Y3/1 オリーブ黒色 シルト質粘土 (細粒砂を含む、7.5Y4/3時オリーブ色の粘土を含む)
- ⑨: 7.5Y2/2 オリーブ黒色 粘土 (シルト～細粒砂を含む、植物遺体混じる)
- ⑩: 7.5GY3/1 暗緑灰色 粘土 (シルト～細粒砂を含む)
- ⑪: 2.5GY2/1 黒色 砂混じり粘質土 (細～粗粒砂を多く含む)
- ⑫: 7.5GY3/1 暗緑灰色 砂混じり粘質土 (細～中粒砂を含む)
- ⑬: 5BG3/1 暗青灰色 砂混じり粘質土 (中粒砂を全体に多く含む)
- ⑭: 10BG3/1 暗青灰色 砂混じり粘質土 (極細～中粒砂を含む、植物遺体混じる)

第11図 8丁区I地区井戸断面図



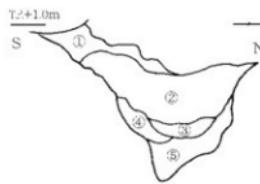
- ①: 5G3/1 暗緑灰色 砂混じりシルト質粘土 (粗～粗粒砂を含む)
- ②: 5GY2/1 オリーブ黒色 砂混じりシルト質粘土 (細～中粒砂・礫を含む)
- ③: 5G3/1 暗緑灰色 砂混じり土 (シルト～中粒砂を全体に含む)

溝16東西アゼ断面 (北)

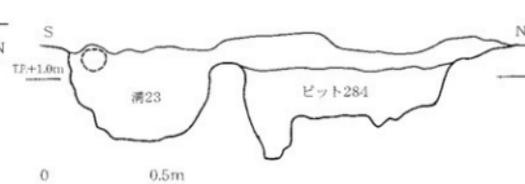


- 土坑16: 10Y2/1 黒色 砂混じり土 (シルト～粗粒砂を少量含む)
- ①: 10Y2/1 黒色 シルト質粘土 (炭を少量含む)

溝16東西アゼ断面 (南)



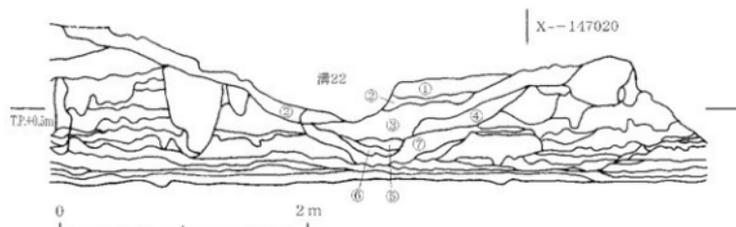
溝24断面



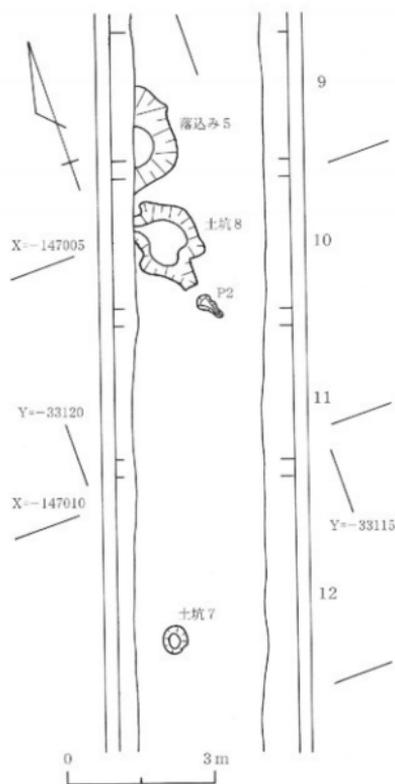
溝23・ピット284断面

第12図 8丁区第23層上面道横断面図

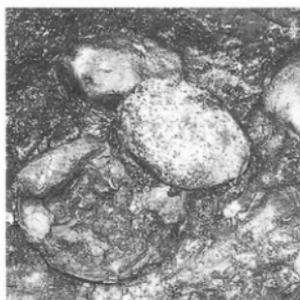
※調理土番号は上層断面図と同一



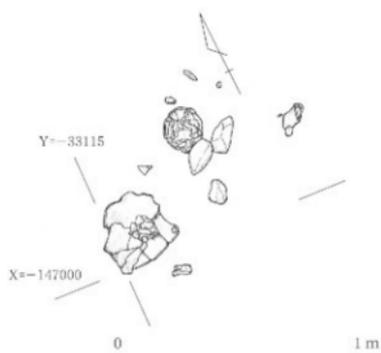
第13図 8丁区溝22、高まり西壁断面図



8工区第20層上面遺構平面図



人骨(頭骨)等出土状況 8地区東より



第20層内人骨等出土状況写真・平面図

第14図 8工区第20層上面遺構平面図、第20層内人骨等出土状況写真・平面図

どの弥生土器、砥石(336)、骨角器(357)、シカ(資料108)などの動物遺体、モモ(資料467)などの植物遺体が出土した。埋没時期は9工区や本調査地付近(第7・34・53次)で検出された井戸と同様に中期後半である。

ビット65(9地区)は、50×30cm、深さ17cmを測り、楕円形状を呈する。埋土は暗緑灰色(10GY2/1)砂混じりシルト質粘土で、壺(62・65)などの弥生土器、大型哺乳類(資料101)などの動物遺体が出土した。

ビット434(14地区)は、検出長65×18cm、深さ5cmを測り、長楕円形を呈する。埋土は暗緑灰色(10GY2/1)焼土を含む砂混じり粘質土で、弥生土器の細片とシカ(資料104~107)などの動物遺体が出土した。

＜弥生時代中期末～後期＞

第20～22層は、黒色(5Y2/1)炭化物・植物遺体を含む砂混じり粘質土を主体とした層で、厚さ30から60cmにわたり調査地全域に広がっていた。壺(156～189)・細頸壺(190～195)・無頸壺(196～199)・鉢(200～216)・甕蓋(217～219)・脚部(220・221)・高坏(222・233)・甕(234～273)など多くの弥生土器や大型蛤刃石斧(318～321)・石庖丁(325・328)などの磨製石器、石槍(340～342・344～347)・石錐(350)などの打製石器、砥石(338)などの石器、木製品、骨角器(359～361)、紡錘車(297～299)・円板状土製品(305・307・308・313・314)などの土製品、サヌカイト、動物遺体、植物遺体など、弥生時代の遺物を多量に包含した中期末から後期初頭の整地層である。また、若干の縄文土器(4)、石器など縄文時代の遺物の混入がみられた。

各層内からは、以下の遺物が出土した。

第20層内からは、壺(79～80)・甕(85～87)・鉢(88・90～92)・無頸壺(89)などの弥生土器や石包丁(326・329)などの磨製石器、石鏃(351)などの打製石器、紡錘車未製品(300)などの土製品、サカナ・イノシシ・大型哺乳類(資料14～19・100)などの動物遺体が出土した。

第21層内からは、壺(93～95)・細頸壺(96)・高坏(97～100)・甕(101～105)・鉢(106・107)などの弥生土器、石包丁(324・327)などの磨製石器、石槍(343)・石錐(349)などの打製石器、イノシシ・シカ・サカナ・大型哺乳類(資料20～25)などの動物遺体が出土した。

第22層内からは、高坏(108・111)・壺(112～118)・無頸壺(119)・細頸壺(120・121)・甕(122～128)・鉢(129～132)などの弥生土器、縄文時代の乳棒状石斧(316)、大型蛤刃石斧(317)・大型石包丁(330・332)・石剣(333)などの磨製石器、石槍(339)などの打製石器、砥石(334・335・337)、円板状土製品(303・309・315)、骨角器(358・362)、シカ・イノシシ・スポン(資料26～75)などの動物遺体、植物遺体(資料468)が出土した。

第20層上面遺構(第14図 図版15・16)

第20層上面(9～13地区)で、ピット1個(P2)、土坑2基(土坑7・8)、落ち込み1基(落ち込み5)を検出した。いずれも上層の粘土によって埋没していた。

土坑7(13地区)は、径50cm、深さ20cmを測る円形を呈した土坑。埋土はオリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土で、弥生土器の細片やサヌカイトが出土した。

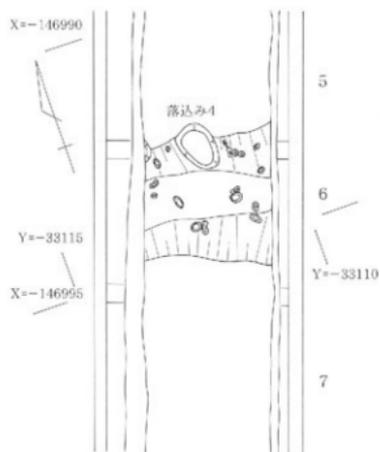
土坑8(10地区)は、180×140cm、深さ10cmを測る不整形土坑。埋土はオリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土で、甕(46・47)・壺(48)などの弥生土器が出土した。

落ち込み5(9地区)は、検出長210×90cm、深さ20cmを測る。埋土はオリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土で、弥生土器の細片が出土した。

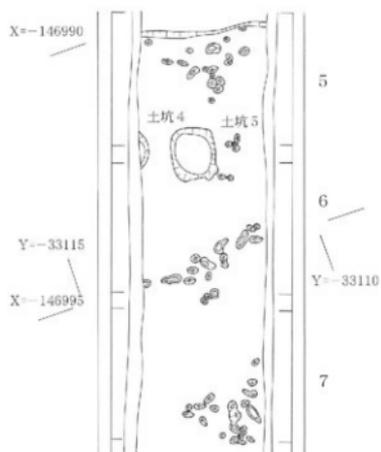
また、第20層内から成人人骨(30歳以上)の頭蓋冠の一部(資料465)が出土した(図版17)。遺存状態が悪く、性別などは不明である。土坑がなく周囲に骨が散在していたことから、整地作業時に近隣の墓坑を破壊したことによるものではないかと考えられる。4地区の同層内でも人の膝蓋骨(資料17)が出土した。

【古墳時代以降】

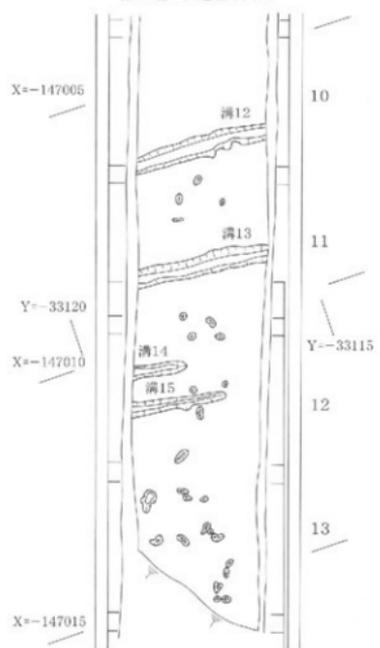
第19・17層は粘土を主体とする層で、15～20cmにわたって調査地全域に薄く堆積していた。遺物は、第19層内から壺(73～76)・甕(77・78)などの弥生土器や動物遺体(資料13)、第17層内から甕



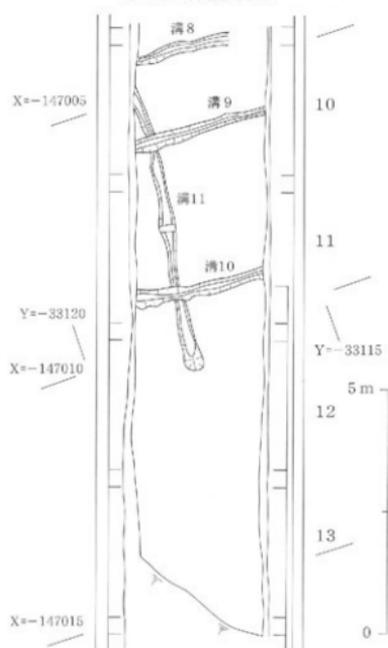
第19層上面遺構平面図



第17層上面遺構平面図



第13中層上面遺構平面図



第11層上面遺構平面図

第15図 8工区第19・17・13中・11層上面遺構平面図

(66) 弥生土器が出土している。これらの弥生土器は整地・耕作の際の巻き上げによる混入と考えられる。中央部付近(5～11地区)上面で遺構を検出した。これより上層では、顕著な遺構は確認できなかった。

第19層上面遺構(第15図 図版18)

上面で、落ち込み1基(落ち込み4)と7から11地区にかけて帯状に続く足跡を検出した。

落ち込み4(5地区)は、幅220cm、深さ25cmを測り、東西方向に延びる。断面形は皿状を呈し、埋土は大きく2層に分かれる。上層は暗オリーブ灰色(5GY4/1)粘土と緑灰色(10GY5/1)シルトの互層で、下層は黒色(2.5Y2/1)細粒砂混じりシルト質粘土で、弥生土器の細片やサヌカイトが出土した。

第17層上面遺構(第16図 図版19)

土坑3基(土坑3～5)と5～11地区にかけて点在する足跡を検出した。

土坑3(11地区)は、100×70cm、深さ20cmを測る楕円形を呈する土坑。埋土は暗緑灰色(7.5GY5/1)砂混じり粘質土で、遺物は出土しなかった。

土坑4(6地区)は、検出長70×20cm、深さ35cmを測る。埋土は第16層により埋没していた。遺物は出土しなかった。

土坑5(6地区)は、長辺110cm、短辺90cm、深さ40cmを測る長方形を呈する土坑。第16層により埋没。土師器・弥生土器の細片が出土した。

[奈良～平安時代]

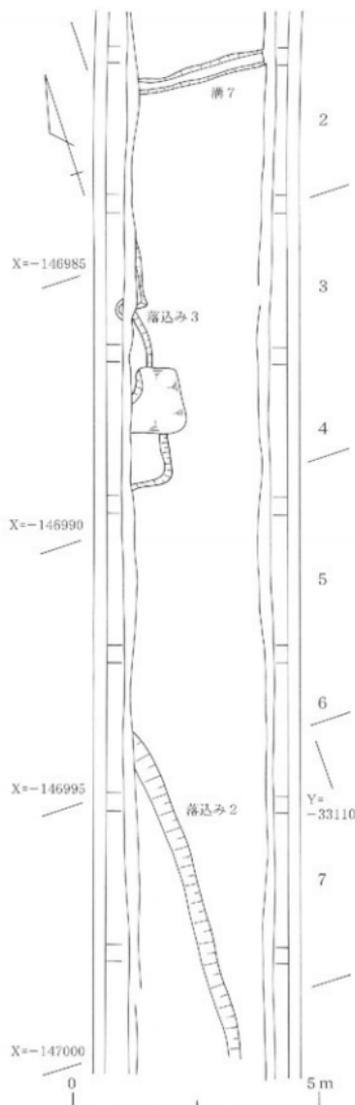
第13中層上面遺構(第15図 図版20)

10から13地区にかけて溝4条と帯状に広がる足跡を検出した。遺構内から遺物の出土はなかった。

溝12(10地区)は、幅40cm、深さ5cmを測る東西方向に延びる溝で、断面形はゆるやかな逆台形状を呈する。埋土は暗緑灰色(10G4/1)シルト・細粒砂を少量含む粘質土。

溝13(11地区)は、幅35cm、深さ10cmを測る東西方向に延びる溝で、断面形はゆるやかな逆台形状を呈する。埋土上部は第12b層によって埋没し、下部は暗緑灰色(5G4/1)細粒砂混じり粘質土。

溝14(12地区)は、幅25cm、深さ5cm、検出長120cmを測る東西方向に延びる溝で、断面形は皿状を



第16図 8工区第7層上面遺構平面図

呈する。埋土は暗緑灰色（10G4/1）シルト・中粒砂を多く含む砂質土。

溝15（12地区）は、幅20cm、深さ6cm、検出長210cmを測る東西方向に延びる溝で、断面形はゆるやかな逆台形状を呈する。埋土は暗緑灰色（10G4/1）中粒砂を多く含む砂質土。

【平安時代～鎌倉時代】

第7～12層がこの時期に相当する砂混じりシルト質土を主体とした層である。第7～9層は8工区北部、第11・12層は南部に堆積していた。層内から出土した遺物はほとんど土師器・須恵器の細片であったが、第7層内からは土師器（285～289）・須恵器（290～292）、第11層内からは弥生土器や円板状土製品（311）なども出土した。遺構面は2面で（第7・11層）確認し、数条の溝を検出した。

第11層上面遺構（第15図 図版21）

2時期の溝を10から12地区で検出した。

溝8（10地区）は、幅25cm、深さ20cm、検出長180cmを測る東西方向に延びる溝で、断面形は皿状を呈する。埋土は灰オリーブ色（5Y4/2）細・中粒砂混じり粘質土で、土師器、須恵器の細片が出土した。

溝9（10地区）は、幅30cm、深さ10cmを測る東西方向に延びる溝で、断面形はじ字状を呈する。埋土は、暗青灰色（10BG4/1）細粒砂混じりシルト質土で、土師器の細片が出土した。

溝10（11地区）は、幅35cm、深さ20cmを測る東西方向に延びる溝で、断面形はじ字状を呈する。埋土は暗緑灰色（10BG4/1）細・中粒砂を含む粘質土。

溝11（10～12地区）は、幅25cm、深さ10cmを測る北西から南東方向に延びる溝で、溝9・10によって切られる。断面形は皿状を呈する。埋土は暗青灰色（10BG4/1）細・中粒砂を含む粘質土で、土師器（277）が出土した。

第7層上面遺構（第16図）

溝1条（溝7）、落ち込み2基（落ち込み2・3）を検出した。

溝7（2地区）は、幅35cm、深さ7cmの東西方向に延びる溝で、断面形は逆台形状を呈する。埋土は緑灰色（10GY6/1）砂混じりシルト質土で、土師器（276）、須恵器が出土した。

落ち込み2（7地区）は、南北方向に延びる北戸のみ検出した。北戸から南方に向かってゆるやかに傾斜し広がり、最も深いところで、約40cmを測る。埋土上部はシルト質土を主体とし、下方にいくに従って細・中粒砂を多く含む。土師器・須恵器・瓦器（278）が出土した。

【江戸時代以降】

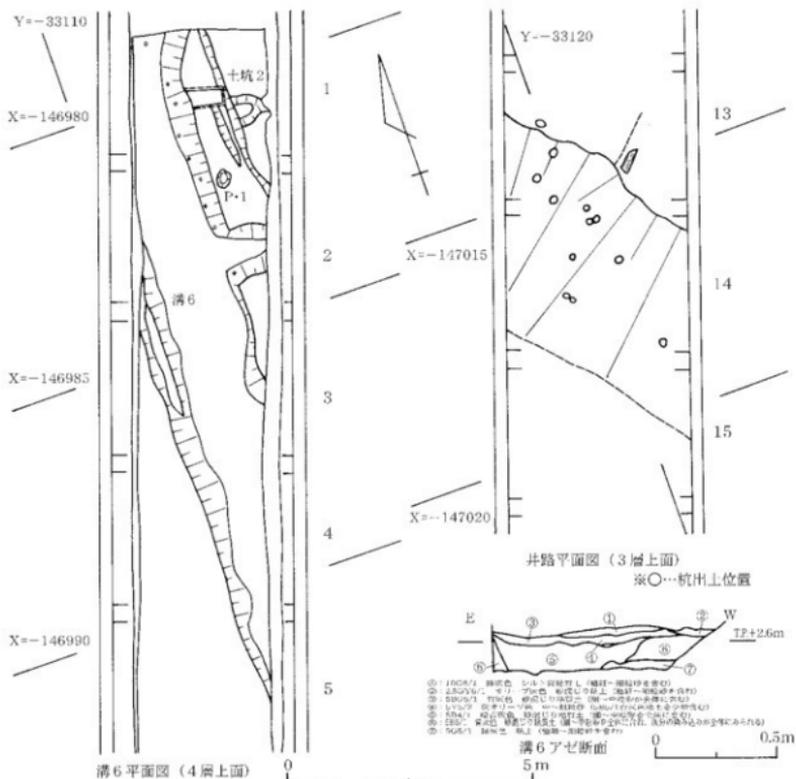
砂混じり粘質土を主体とする混土層で、第4層内からは瓦（279）、須恵器（280・281）、土師器（282）、瓦器（283）が出土し、第3層内からは瓦質の土管（293～296）が出土した。遺構は鋤溝や井路など耕作にもなったものを検出した。

第4層上面遺構（第17図 図版22）

ビット1個（P1）、上坑1基（上坑2）、溝1条（溝6）を検出した。

上坑2（1地区）は、検出長70×65cm、深さ25cmを測る楕円形上坑で、西側を溝6によって切られる。埋土は黄灰色（2.5GY5/1）礫を含む粘質土で、土師器、須恵器の細片が出土した。

溝6（1～5地区）は、幅200cm、深さ40cmを測る南東から北西方向に延びる溝。断面形は、平たい逆台形状を呈し約40cm間隔で並ぶ、厚さ5～10cm・長さ15～40cmの杭を東肩側に10本伴っていた。埋土上部は暗青灰色（5BG4/1）細・中粒砂混じり粘質土、下部は青灰色（5B6/1）細・中粒



第17図 8工区第3・4層上面遺構平面・断面図

砂まじり粘質上で、須恵器 (274)、土師器 (275) が出土した。

第3層上面遺構 (第17図 図版23)

9から12地区で縄溝、足跡・13地区で堀り上げ田に伴う井路を検出した。

井路 (13地区) の南部は攪乱され全体形は不明であった。北層はほぼ南北方向に延びており、肩部および傾斜に多くの杭が打設されていた。北層中央部の東西方向に延びる幅30cm、深さ10cmの溝内から幅約20cm、長さ約60cmの木樋が出土した。井路内からは土師器、須恵器、陶器、弥生土器の細片が出土した。

この地域では、昭和30年代後半まで堀り上げ田による耕作が行なわれており、完全に埋没したのは40年代後半である。枚岡市時代の地図 (第4図) によると、8工区は南北方向に延びる井路の北端をかすめたところに位置している。

4. 9工区遺構

a. 層位 (第18図 図版24・25)

第1層 近・現代の盛土

第2層 粗粒砂を多く含む砂質土層である。南北に延びる自然流路1を検出した。層内からは須恵器・土師器・埴輪・磁器が出土した。

第3層 細粒砂を多く含む粘土から砂質土層である。調査区全域にわたって確認した。層厚は10～20cm。層内からは須恵器・土師器・瓦器が出土した。

第4層 極細から細粒砂を含むシルトと砂質土に分れる層である。層厚10cm。調査区全域にわたって確認した。上面で自然流路2、溝1、土坑1を検出した。須恵器・土師器・瓦器が出土した。

第5層 細から中粒砂を含む粘土と砂質土に分れる。調査区全域にわたって確認し、層厚は20～30cm。南に向かって層厚が増す。上面で溝・土坑・ピットを検出した。須恵器・土師器・瓦器・緑釉陶器が出土した。

第6層 シルトまたは砂混じり土を主体とした層である。10地区～17地区のみ部分的に確認した。層厚は約10cm。須恵器・土師器・瓦器が出土した。中世期の整地層と思われる。

第7層 粘質土または砂混じり粘質土を主体とした層である。高さは第6層とほぼ同じであり調査区全体にわたって確認した。層厚は20cm。層内から須恵器・土師器、少量の弥生土器が出土した。

第8層 細から中粒砂を含む粘質土または砂質土を主体とした層である。調査区全体にわたってみられ、層厚は10～40cmであった。層内からは須恵器・土師器が出土した。

第8層(自然流路3)は1地区から8地区にわたり堆積した洪水砂層である。層厚は10cm。層内からは少量の須恵器・土師器が出土した。

第9層 砂混じり粘質土を主体とした1地区から10地区にわたる層である。層厚は10cm。上面で足跡、自然流路、土坑を検出した。須恵器・土師器が出土した。

第9層 15地区から20地区にわたり堆積する砂層である。層厚は20～30cm。上面で東西方向にほぼ平行に並ぶ16本の溝(溝5～21)を検出した。須恵器・土師器が出土した。

第10層 砂質土を主体とした、1地区から11地区にわたる層である。層厚は10cm。層内からは須恵器・土師器・少量の弥生土器が出土した。

第11層 シルトとシルト質粘土の互層で、調査区全体にわたる層である。層厚は10～20cm。11地区の高まり状の遺構を境に1～10地区においては十字状に交差する溝、11～20地区においては東西方向の溝を検出した。

第12層 調査区全体にわたる砂層である。層厚は10cm。12～20地区においてのみ東西方向の溝を検出した。

第13層 シルト質粘土を主体とした、1地区～10地区、12・13地区に部分的に確認した。層厚20cm。上面で12層が入り込んだ足跡・溝を検出した。弥生土器・シカ(資料389)が出土した。

第14層 シルト質粘土と細粒砂の互層であり、2地区から10地区に部分的に確認した。層厚は10cm。弥生土器・須恵器・大型哺乳類(資料390)が出土した。

第15層 細粒砂から中粒砂を含む粘質土が主体である。4地区から10地区、中央部の高まりを挟んで12地区から15地区にわたる層である。層厚は20cm。弥生土器・須恵器が出土した。同層は遺物と共にブロック土、砂粒を全体に含んでおり、古墳期に形成された整地層と思われる。

第16層 シルト質粘土を主体とし、1～10地区にわたる堆積層。層厚は10～20cm。上面で落ち込み、土坑を検出した。層内から弥生土器が少量出土した。



236



237



243



259



257



241



253



255



238

1. 8工区 第17~27层出土弥生土器 类



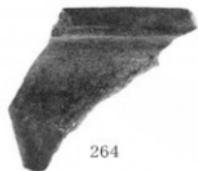
262



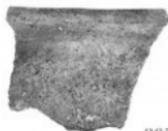
266



258



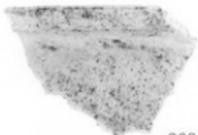
264



265



260



263

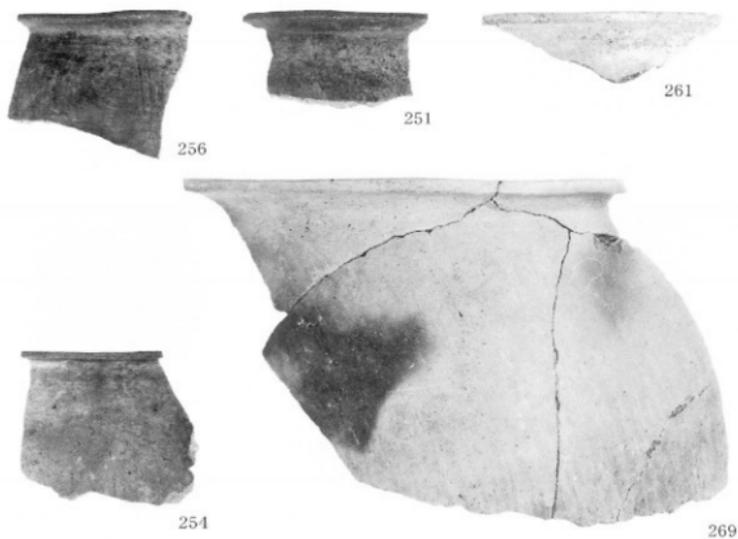


267

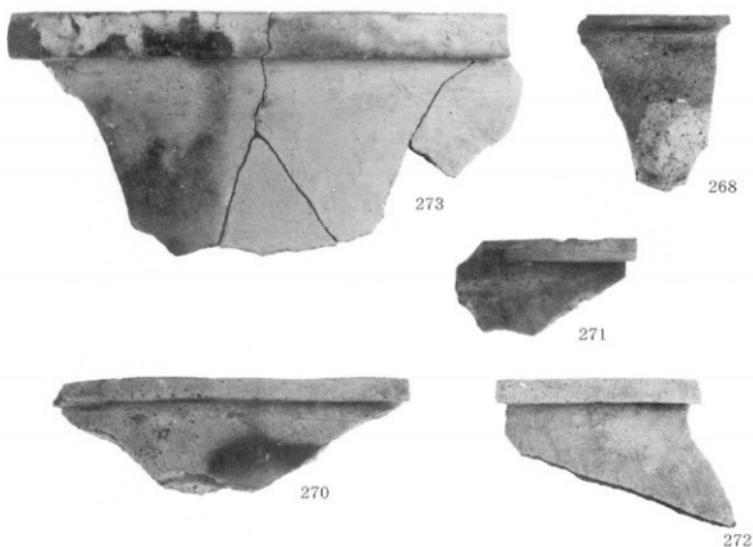


252

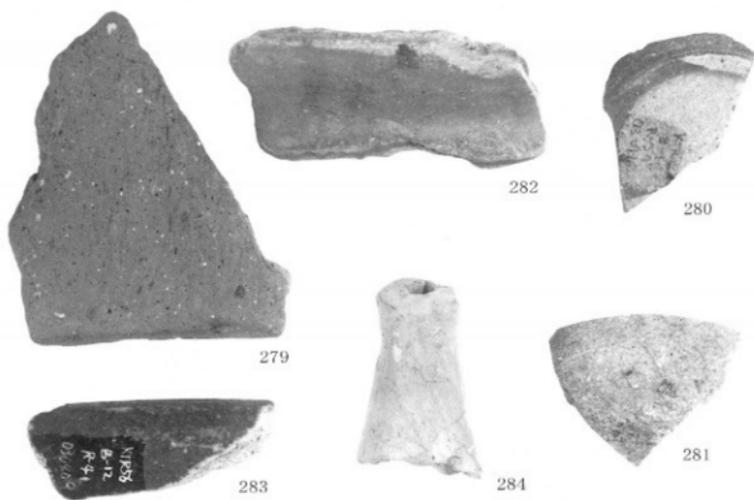
2. 8工区 第17~27层出土弥生土器 要



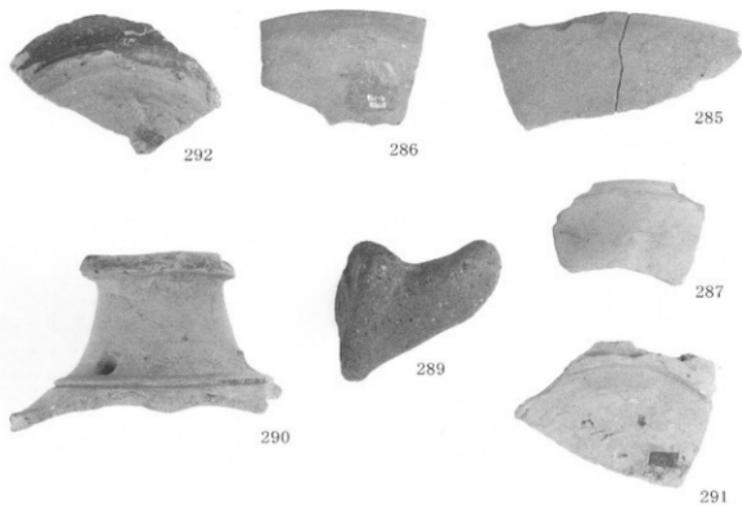
1. 8工区 第17~27層出土弥生土器 甕



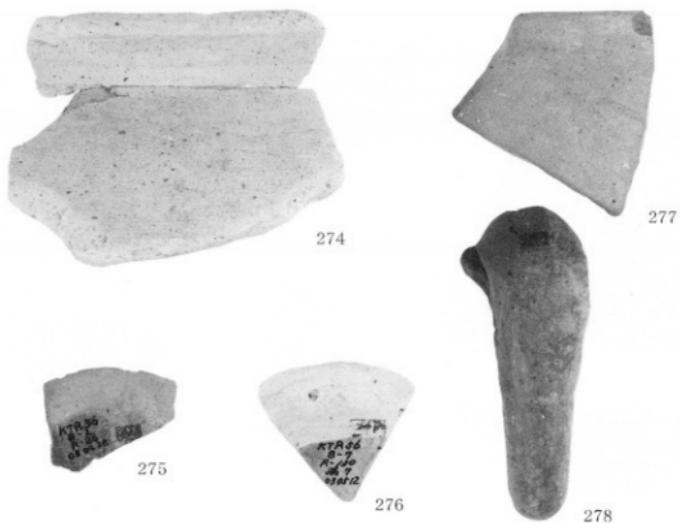
2. 8工区 第17~27層出土弥生土器 甕



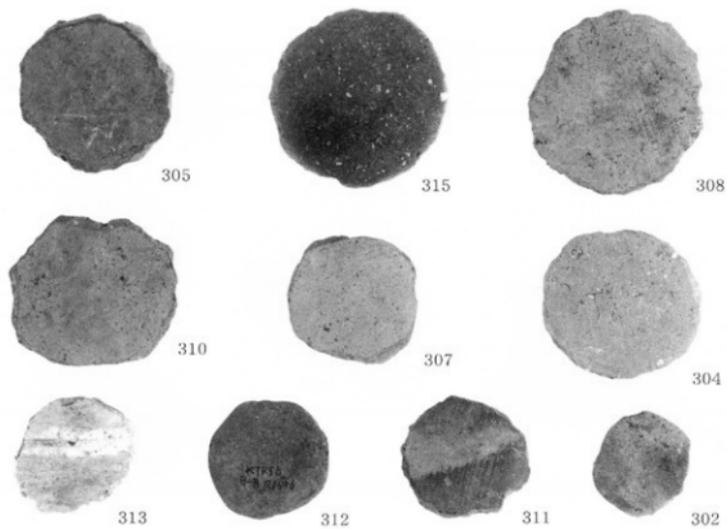
1. 8工区 第4・6層出土須恵器 坏、土師器 甕・高坏、瓦器 火舎、平瓦



2. 8工区 第7層出土須恵器 高坏・坏、土師器 皿・把手



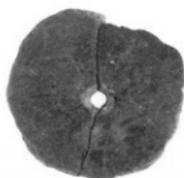
1. 8工区 溝6・7・11、落ち込み2出土須恵器 甕、土師器 皿、甗、瓦器 羽釜



2. 8工区 土製品 (表)



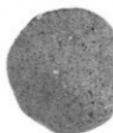
297



299



298



300



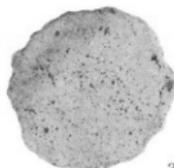
301



314



309



306



303

1. 8工区 土製品(表)



297'



299'



298'



300'



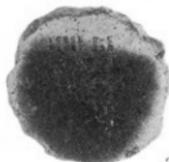
301'



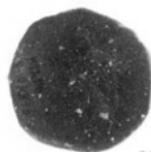
314'



309'

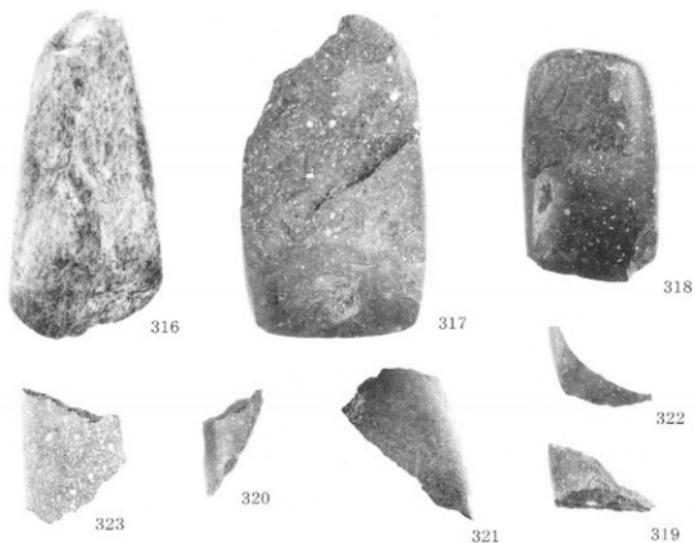


306'

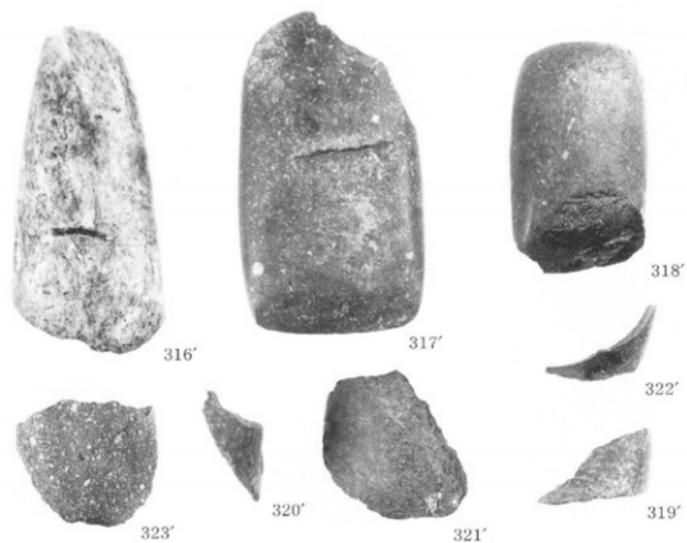


303'

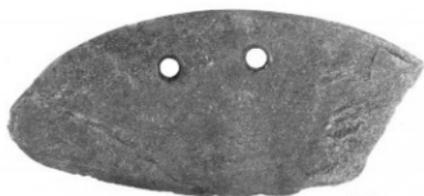
2. 8工区 同上(裏)



1. 8工区 石器 (表)



2. 8工区 同上 (裏)



324



332



330



331

1. 8工区 石器 (表)



324'



332'

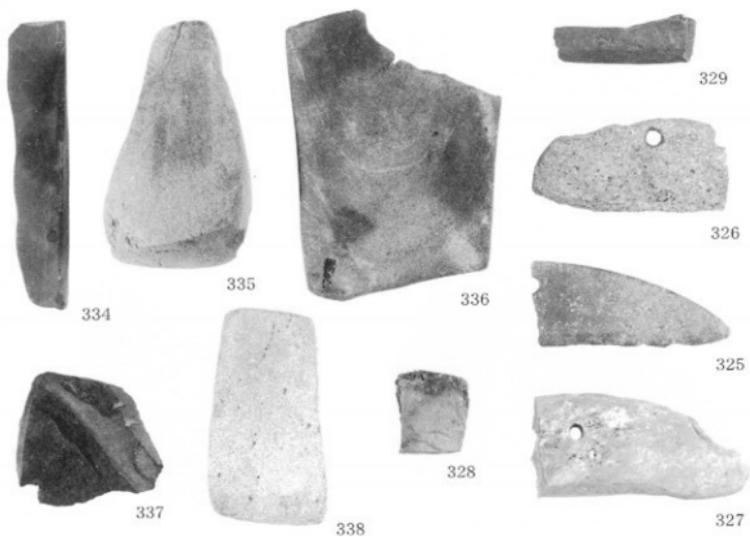


330'

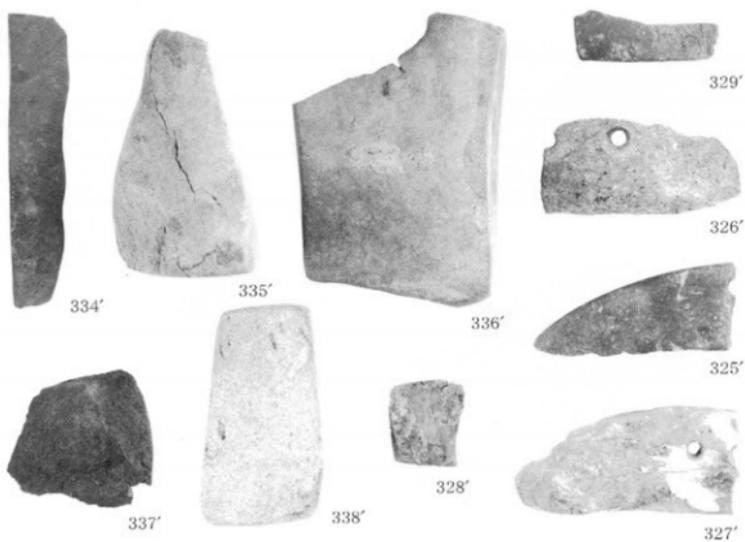


331'

2. 8工区 同上 (裏)



1. 8工区 石器 (表)



2. 8工区 同上 (裏)



333



339



340



341

1. 8工区 石器 (表)



333'



339'

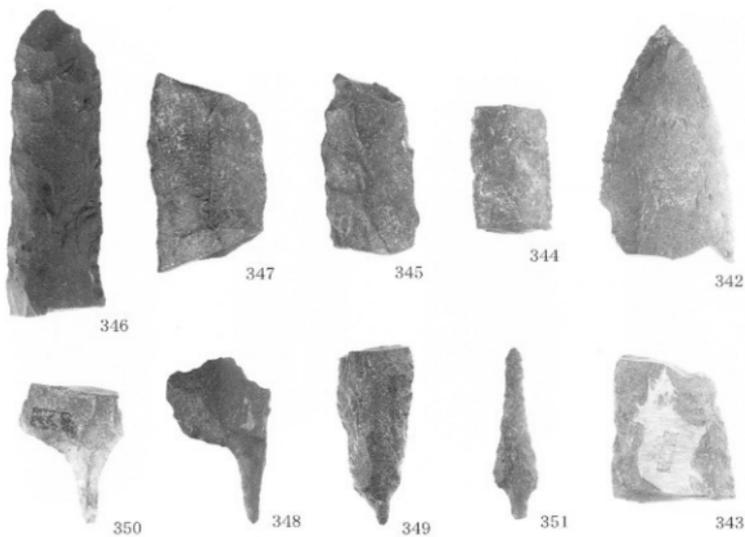


340'

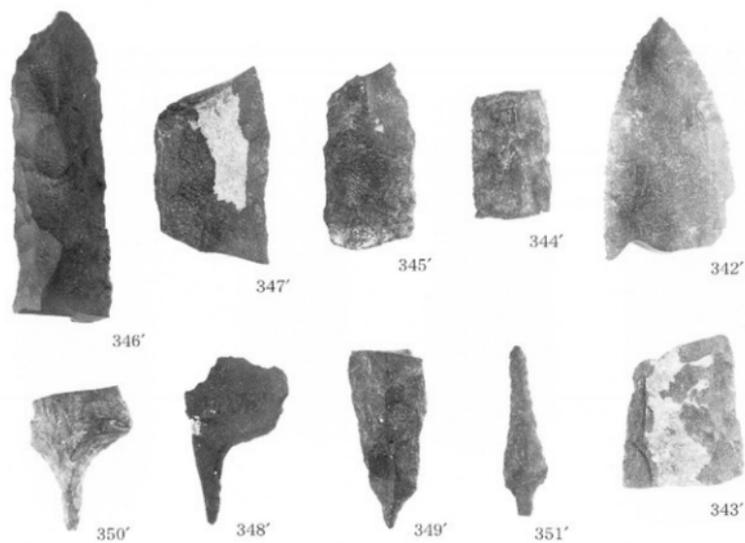


341'

2. 8工区 同上 (裏)



1. 8工区 石器 (表)



2. 8工区 同上 (裏)



352

354



355



353



361



358

360



357

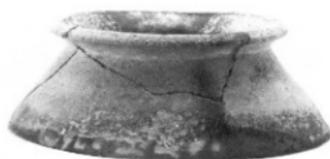
359

362

356



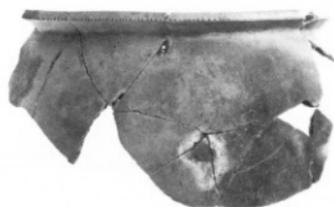
365



412



408



411



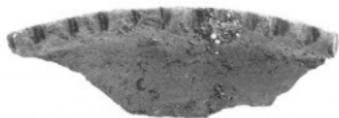
416



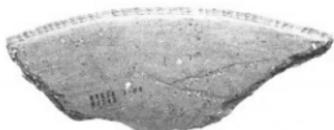
418



426



442



442'



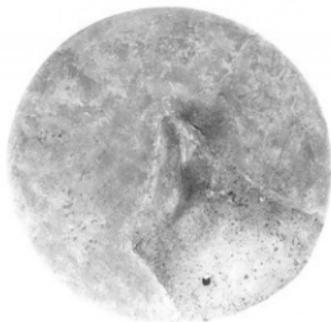
425



427



421'



422'



421



422



447



440



449'



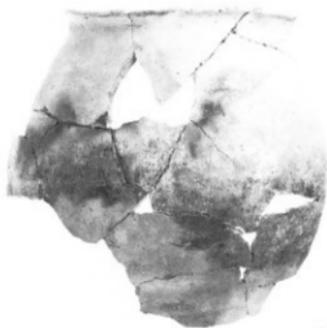
462



449



449''



460



490



503



483



489



537



536



556



542



547



587



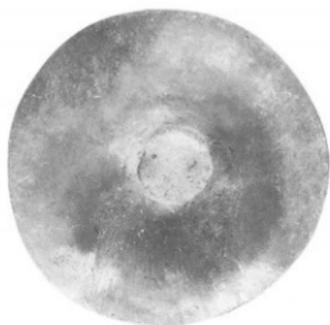
585



580



600



647'



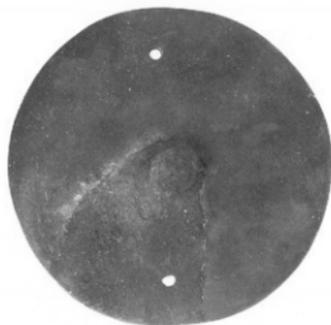
642



647



626



646'



646



661



673



669



653'



684



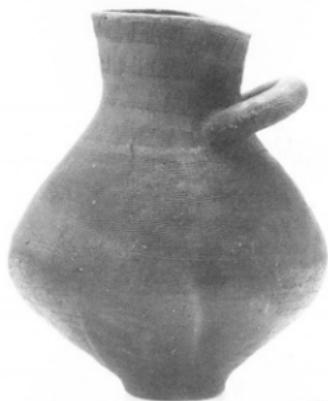
653



655



663



699



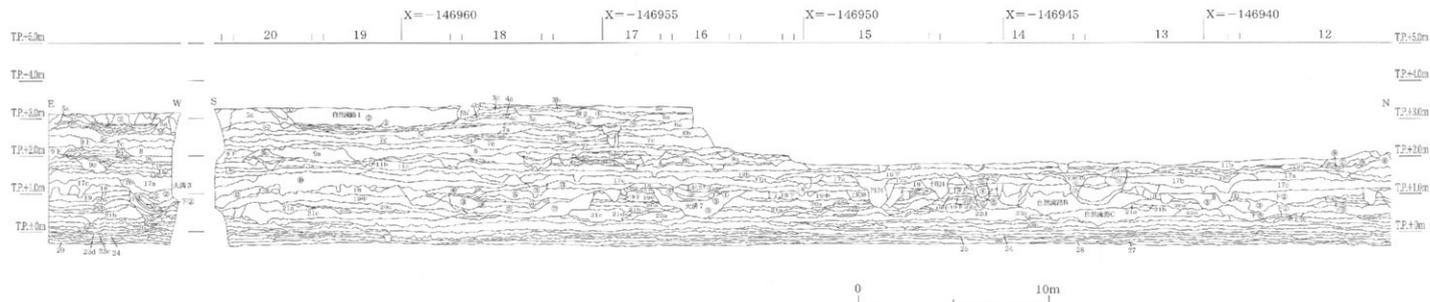
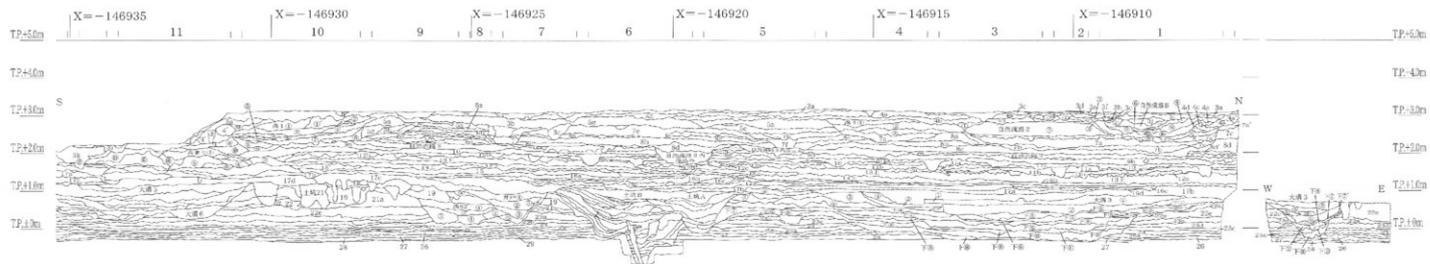
699'



700



700'



第18图 9工区展位断面图

第17層 調査区全域にわたって確認した、弥生時代の遺物を大量に含んだ黒色の砂混じり粘土層である。層厚は20～30cm。上面で落ち込み・土器埋葬土坑を確認した。

第18層 細粒砂から中粒砂を含む砂混じり土を主体とし、調査区全面にわたる層である。層厚は20～30cm。上面において弥生時代中期中～後半の遺構を検出した。

第19層 シルトから細粒砂を含む砂混じり土を主体とし、調査区全体にわたって確認した。層厚は20cm。上面において弥生時代前期から中期前半の遺構を検出した。

第20層 細粒砂から極粗粒砂を含むシルト質土。層厚は20cm。

第21層 細粒砂を少量含む粗粒砂から極粗粒砂。層厚は20cm。南部に向かって厚く堆積していた。

第22層 シルトから中粒砂を含む砂混じりシルト質土。層厚は20～30cm。縄文土器が出土した(363・378)。

第23層 シルト質粘土を主体とした堆積土。層厚は30cm。上面からは1～9地区においてピット・土坑・溝を検出した。縄文土器と弥生時代前期土器が出土した。

縄文時代

第24層 黒色粘土。

第25層 オリーブ黒色粘土。

第26層 黒色粘土。

第27層 灰色粘土。

第28層 黒色粘土。

b. 遺構

【縄文時代以前】

周辺の調査から第24層以下の粘土の自然堆積層は縄文時代後・晩期の対応層であると思われる。第22・23層中から突帯文土器など晩期の縄文土器が出土しており(363～386)、この時期の遺構の存在がうかがえる。

【弥生時代】

<前期>

第23層上面遺構(第19図 図版26)

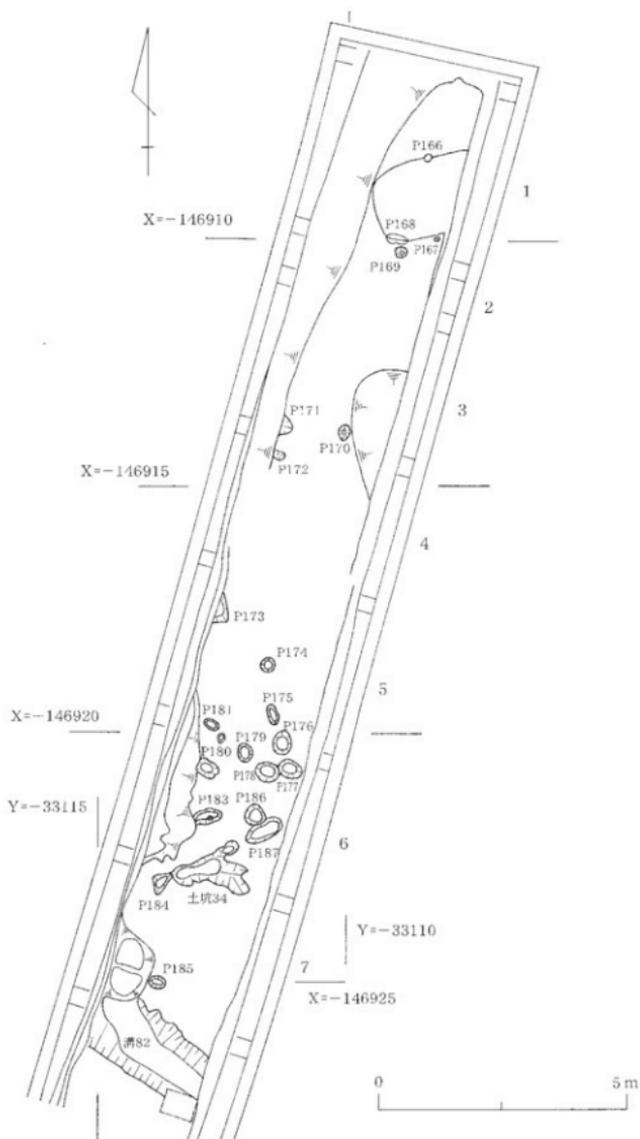
第23層上面においてピット、土坑、溝を確認した。遺構は1～9地区にわたって検出し、9地区において検出した溝82以南では遺構はなかった。遺構内から遺物は出土しなかった。

溝84(8～9地区)は幅約130cm、深さ5cmを測る東西方向の溝である。断面形は皿状を呈する。埋土は暗緑灰色(7.5GY3/1)中～粗粒砂を含む砂混じり粘土上である。

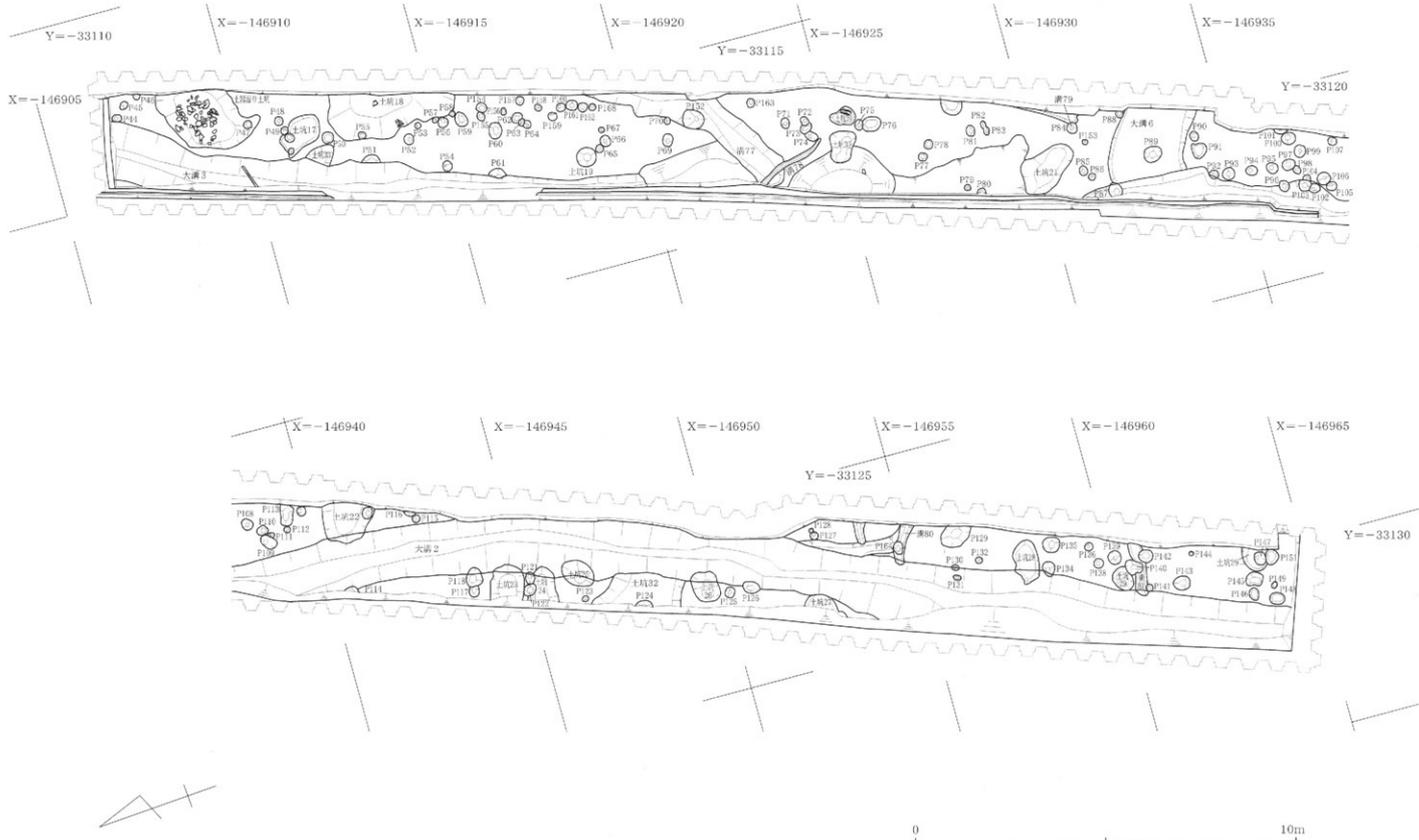
土坑34(6地区)は東西150cm、南北70cm、深さ10cmを測り、平面形は不定形である。埋土は暗緑灰色(10GY3/1)中～粗粒砂を全体に多く含む砂混じり土であった。

その他19個のピットを検出した。埋土は暗緑灰色(7.5GY3/1)中～粗粒砂を含む砂混じり粘土上で、深さは10cm程度のものであった。

層内から出土した縄文土器には浅鉢(365)があった。弥生土器にはI様式の壺(841)・鉢(842)があった。



第19图 9工区第23层上面遗构平面图



第20图 9工区第19层上面造模平面图

＜前期末～中期前半＞

第19層上面遺構 (第20図 図版27～32)

第19層上面においてはピット群、土坑、溝（大溝含む）、土器溜り上坑を検出した。以下、主要な遺構を番号順に概観して記す。なお、遺構は第18層によって完全に埋まっており、埋土中から出土した中期以降の土器は入り込んだ第18層中より出土したものである。

大溝6（10～11地区）は、大溝5の下層より検出した。東西方向に延びる溝である。正確な幅や深さは大溝5に大部分を削られているため不明。埋土は黒色（5Y2/1）シルト～中粒砂混じり粘質土である。コンテナ1箱分の遺物が出土した。縄文土器は長原式の深鉢（366）が出土した。弥生土器はⅠ様式の甕（590・560）・甕（592～595）の他にⅡ様式の土器が出土した。

大溝7（14地区）は、大溝2に大部分を削られており、平面の形状や方向は不明である。残存の幅220cm、深さ80cmを測る。埋土は黒色（2.5Y2/1）細粒砂から中粒砂を少量含む砂混じり粘質土（焼土・炭・動物遺体混じり）である。コンテナ3箱分の遺物が出土した。弥生土器はⅠ様式のものも少量含むが、入り込んだ第18層内からⅡ～Ⅳ様式のものも多く、甕（596～601）・細頸壺（602）・甕蓋（603）・甕（604～608）・高坏（609）・鉢（610）などがあり、動物遺体はシカ・イノシシ・カモ・スッポン・サカナ・ヤヨイブタ？・大型哺乳類（資料276～306）などが出土した。

溝78（7～8地区）は、幅15cm、深さ10cmを測り、調査区中ほどで途切れる東西方向の溝。埋土は黒色（10Y2/1）シルト～細粒砂を含む砂混じり土（炭を少量含む）である。Ⅱ様式の弥生土器が出土した。

溝80（17地区）は、幅30cm、深さ10cmを測る東西方向の溝である。大溝2に切られていたため全体の形状は不明である。埋土はオリーブ黒色（5Y3/1）細粒砂を少量含むシルト質粘土。弥生土器はⅠ様式の甕が出土した（617・618）。

土坑17（2地区）は、南北40cm、東西60cm、深さ6cmを測る楕円形の上坑である。断面形は皿状を呈する。埋土は2層に分かれ、上層は黒色（7.5Y2/1）細～粗粒砂を全体に含む砂混じり粘質土、下層は黒色（2.5Y2/1）細粒砂を少量含む砂混じり粘土（焼土・炭を層状に多く含む）であった。甕（619）・甕（620）などの弥生土器が出土した。Ⅲ様式ものは少量で、Ⅰ・Ⅱ様式のものも多く出土した。動物遺体はイノシシ（資料368）があった。

土坑18（3地区）は、南北330cm、東西110cm、深さ65cmを測る。遺構の東半分が調査区外に位置するため、全体の形状は不明である。埋土は黒色（7.5Y2/1）シルト～細粒砂を含む砂混じり土と黒色（10Y2/1）細粒砂を含む粘土（植物遺体多く含む）が互層状に堆積していた。断面は楕円状を呈する。コンテナ1箱分の遺物が出土した。弥生土器は壺（621～624）・甕（625～628）などⅠ～Ⅲ様式のものがあった。

土坑19（5地区）は、直径50cm、深さ16cmを測る。平面形はほぼ円形を呈し、断面形は楕形である。埋土は5層に分かれ、全体に炭・焼土を多く含むことから、炉もしくは炉から掻き出した土を廃棄した土坑の可能性が考えられる。

土坑21（10地区）は東西80cm、南北50cm、深さ50cmを測る。埋土は8層に分かれ、オリーブ黒色（5Y3/1）細粒砂～中粒砂を含む粘質土や黒色（7.5Y2/1）シルト～細粒砂を多く含む砂混じり土（植物遺体、炭、焼土が層状に混じる）がみられた。弥生土器は甕（629）・甕（630）などⅠ・Ⅱ様式のものも多く出土した。動物遺体にはイノシシ・シカ・スッポン・トリ？・大型哺乳類（資料369～373）などがあった。

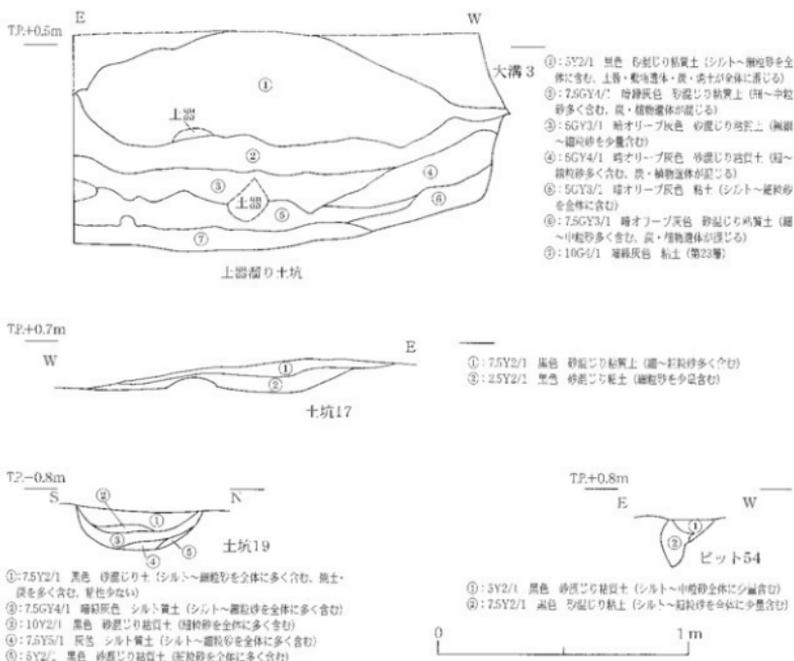
土坑23（14地区）は、東西100cm、南北100cm、深さ約50cmを測る。東端を大溝2に切られ、

西端は調査区外に延びるため、全体の形状は不明である。埋土は黒色(5Y2/1)細粒砂～中粒砂を少量含む砂混じりシルト質土(第19層ブロックを少量含む)。弥生土器は甕(631)など、I・II様式のものが多く出土した。動物遺体はイノシシ(資料369)があった。

土坑24(14地区)は、東西90cm、南北80cm、深さ約70cmを測る。上坑23と隣り合って南側に位置し、間のピット121・122に北端を切られている。東端は大溝2に切れ、西端は調査区外に延びるため全体の形状は不明である。埋土は黒色(10Y2/1)シルト～細粒砂を全体に多く含む砂混じり粘質土。弥生土器は鉢(632・633)などI～II様式のものが出土した。

土坑26(15地区)は、直径80cm、深さ28cmを測る。大溝2に東半分を切られている。埋土は黒色(5Y2/1)細粒砂を全体に少量含む砂混じりシルト質粘土(炭・焼土混じる)である。弥生土器はI～II様式のもの多く出土したが、III～IV様式の壺(634)もみられた。

土器溜り土坑(1地区)は、東西170cm、南北170cm、深さ約80cmを測る。平面形は楕円形を呈する。東端は調査区外に延びるため、全体の形状は不明である。埋土は6層に分かれた(第21図)。①層はブロック状に分かれて炭・焼土を多く含む、人為的な埋土であると考えられる。特にTP.+0.1m～-0.1m間から多くの遺物が出土し、コンテナ13箱を数えた。壺(705～728)・鉢(729・730)・



第21図 9工区第19層上面遺構断面図

甕蓋(731)・甕(732~746)などの弥生土器があった。出土した土器はすべてⅠ様式のもので、Ⅱ様式以降のものは1点も含んでいなかった。石器は磨製石斧(981)、木製品は高杯(1036)、動物遺体はシカ・イノシシ・サカナ・大型哺乳類・哺乳類(資料375~387)が出土した。なお、TP±0.0m付近からは口縁部が打ち欠かれたほぼ完形の壺(728)が出土した(第22図)。

ビット110(12地区)は、直径27cm、深さ9cmを測る。埋土はオリーブ黒色(7.5Y3/1)細粒砂を含む砂混じり粘質土。出土した弥生土器には甕(760)があった。

この他遺物の出土したビットは以下のとおりである。P51(2地区)、P53(4地区)、P56(4地区)、P58(4地区)、P59(4地区)、P70(4地区)、P72(7地区)、P86(10地区)、P89(11地区)、P109(12地区)、P110(12地区)、P114(13地区)、P118(14地区)、P119(14地区)、P129(17地区)、P135(18地区)。埋土はほとんどが単一層で、黒色(7.5Y2/1)細粒砂を含む砂混じり粘土であった。出土した弥生土器は小片で、ほとんどはⅠ・Ⅱ様式のものであり、Ⅲ様式のものは一層に入り込んだ第18層から出土した。

第19層上面の遺構には少なくとも2時期の切り合いを確認した。大溝2・3はこの上面における最も新しい遺構と思われる。

遺構内から出土した土器の主体はⅠ・Ⅱ様式のものであり、特に土器溜り土坑からはⅠ様式土器の一括資料が出土した。

層内からは縄文土器の浅鉢(364・371)・深鉢(372)、弥生土器の壺(826)・甕(823・833)などの多く土器、石器は磨製の石斧(984・985)・石庖丁(998・1001)、打製の石槍(1014)・石鏃(1028)、骨製品は弾状角製品(1056・1057)・加工痕の残る骨(1065)・鹿角加工品(1066)、動物遺体はシカ・イノシシ・大型哺乳類(資料443~457)などが出土した。



第22図 9工区土器溜り土坑内土器出土状況写真

<中期中葉~後半>

第18層上面遺構(第23~28図 図版33~37)

第18層上面においてはビット群、土坑、井戸、溝(大溝含む)などを検出した。

大溝1(14~19地区)は、幅50~70cm、深さ40cmを測る南北に延びる溝で、大溝2を上から切る形で検出した。埋土は黒色(5Y2/1)シルト~細粒砂混じり粘質土(焼上、炭粒、土器片混じる)で、断面形はU字状を呈する。遺物はコンテナ4箱分あり、弥生土器は壺(338~393)・無頸壺(394)・高杯(395~397)・鉢(398~401)・甕(402~412)があり、Ⅲ~Ⅳ様式の土器が最も多く、Ⅰ・Ⅱ様式のものもみられた。動物遺体はシカ・イノシシ・カモ(小型)・トリ・スッポン・サカナ・大型哺乳類など(資料109~136)、植物遺体はイネ・ヒシ属(資料472)などがあった。

大溝2(10~20地区)は、幅100~150cm、深さ80cmを測る、南北方向の溝である。10地区で西方向に曲がり、調査区外へ延びる。埋土は暗緑灰(10GY3/1)極細~粗粒砂混じり粘質土(炭を含む)で、断面形は逆台形状を呈する。出土した弥生土器は高杯(413~418)・鉢(419・420)・坪蓋(421・423)・甕蓋(424~427)・壺(428~445)・無頸壺(446)・多孔土器(449)・甕(450~477)があった。442は絵文土器である。土器は大溝1と同じくⅢ~Ⅳ様式のものが多く、Ⅰ・Ⅱ様式のものも少量みられた。石器は磨製石剣(992)と石鏃(1929)、骨製品は犬の歯を用いた刺突具の可能性のあるもの(1060)や鹿角を加工したもの(1062)が出土した。また、弥生土器に混じって

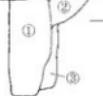
TP+1.2m



- ①: 7522/1 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む。土物(ごく少量)
- ②: 7522/2 オリーブ褐色 砂礫(中粒層上) 礫(中粒砂を少量含む)
- ③: 汚土層

土坑11断面図

TP+1.2m



- ①: 512/1 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む。土物(ごく少量)
- ②: 7522/1 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む。土物(ごく少量)
- ③: 7522/2 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む。土物(ごく少量)

ピット40断面図

TP+1.2m



- ①: 7522/1 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む。土物(ごく少量)
- ②: 7522/2 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む。土物(ごく少量)

ピット35断面図

TP+1.3m



- ①: 7522/1 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ②: 7522/2 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ③: 7522/3 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ④: 7522/4 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ⑤: 7522/5 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ⑥: 7522/6 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ⑦: 7522/7 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ⑧: 7522/8 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む

大溝1アゼ a, b断面図 南より

TP+1.3m



- ①: 512/1 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ②: 7522/1 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ③: 7522/2 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ④: 7522/3 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑤: 7522/4 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑥: 7522/5 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑦: 7522/6 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑧: 7522/7 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む

TP+1.3m

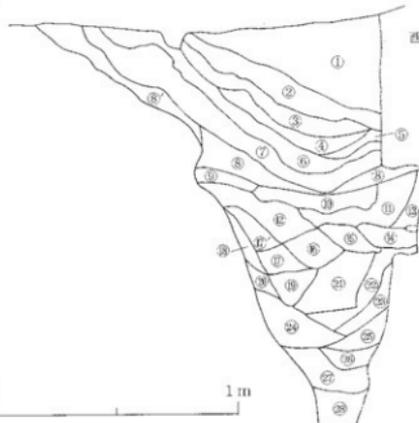


大溝2、溝73断面図

- ①: 7522/1 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ②: 7522/2 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ③: 7522/3 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ④: 7522/4 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ⑤: 7522/5 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ⑥: 7522/6 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ⑦: 7522/7 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ⑧: 7522/8 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ⑨: 7522/9 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む
- ⑩: 7522/10 褐色 砂礫(中粒層上) 礫礫砂を少量含む

- ⑪: 512/1 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑫: 7522/1 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑬: 7522/2 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑭: 7522/3 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑮: 7522/4 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑯: 7522/5 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑰: 7522/6 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑱: 7522/7 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑲: 7522/8 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- ⑳: 7522/9 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む

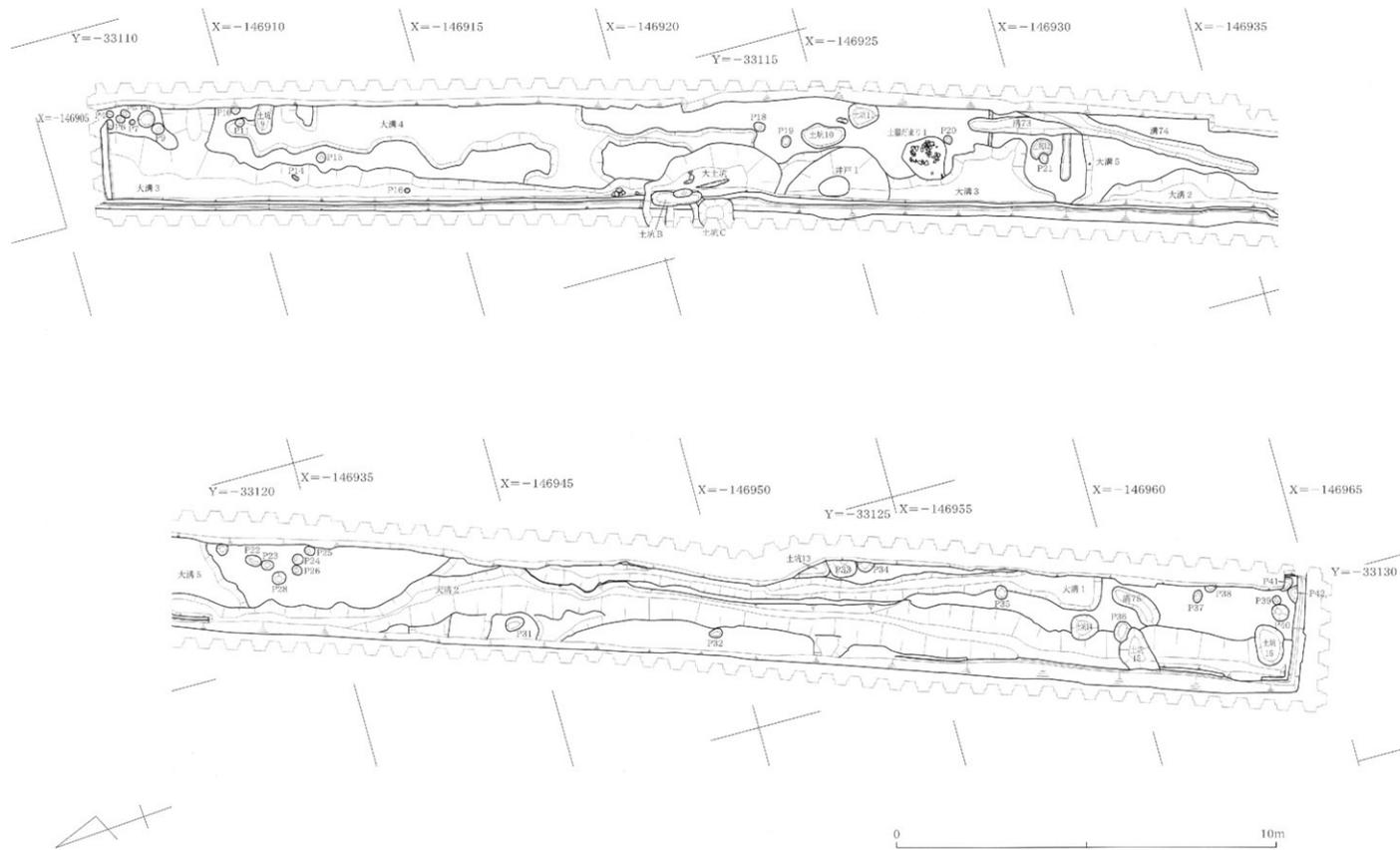
TP+1.1m



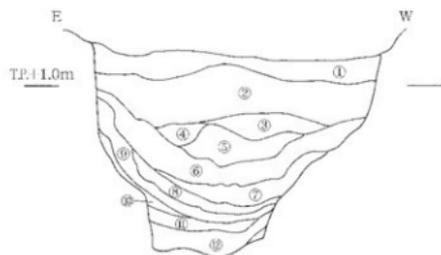
井戸1断面図

- 1: 7522/1 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む。土物(ごく少量)
- 2: 512/1 褐色 シルト層(礫礫砂を少量含む。土物(ごく少量))
- 3: 7522/2 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 4: 7522/3 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 5: 7522/4 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 6: 7522/5 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 7: 7522/6 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 8: 7522/7 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 9: 7522/8 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 10: 7522/9 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 11: 7522/10 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 12: 7522/11 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 13: 7522/12 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 14: 7522/13 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 15: 7522/14 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 16: 7522/15 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 17: 7522/16 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 18: 7522/17 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 19: 7522/18 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 20: 7522/19 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 21: 7522/20 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 22: 7522/21 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 23: 7522/22 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 24: 7522/23 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 25: 7522/24 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 26: 7522/25 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 27: 7522/26 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む
- 28: 7522/27 褐色 砂礫(中粒層上) シルト層に少量含む

第23回 9上区第18層上面遺構断面図

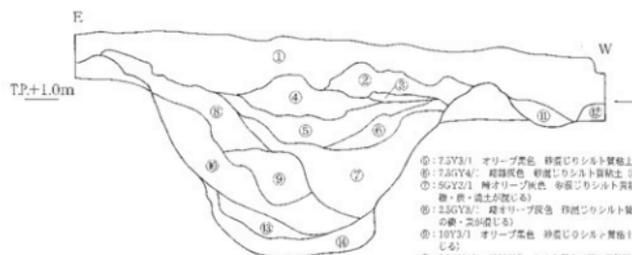


第24图 9工区第18层上面透模平面图



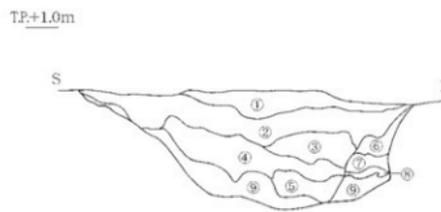
大溝2 アゼb断面図

- ①: 10G2/1 緑黄色 シルト質粘土 (磁鉄砂を含有し、炭が混入)
- ②: 10G3/1 緑黄色 砂混じり粘土 (シルト~中粒砂を含有、炭が混入)
- ③: 5G3/1 緑黄色 砂混じり粘土 (シルト~中粒砂を含有、炭が混入、磁鉄砂を含む)
- ④: 5G4/1 暗褐色 シルト質土 (中粒砂を含有)
- ⑤: 10G3/1 緑黄色 砂混じり粘土 (磁鉄砂を含有、炭が混入)
- ⑥: 5G3/1 暗褐色 砂混じり粘土 (磁鉄砂を含有、炭が少量含む)
- ⑦: 5G2/1 褐色 砂混じり粘土 (磁鉄砂を含有)
- ⑧: 10G4/1 暗褐色 砂混じり粘土 (シルト~中粒砂を含有)
- ⑨: 5G2/1 暗褐色 砂混じり粘土 (シルト~中粒砂を含有、炭が少量含む)
- ⑩: 10G4/1 暗褐色 シルト質粘土 (シルト~中粒砂を含有)
- ⑪: 10G2/1 暗褐色 シルト質粘土 (シルト~磁鉄砂を含有)
- ⑫: 10G2/1 暗褐色 シルト質粘土 (磁鉄砂を含有)



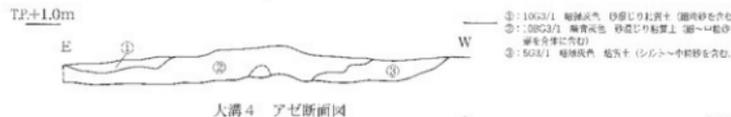
大溝2 アゼc断面図

- ①: 25Y2/1 褐色 砂混じりシルト質粘土 (炭~磁鉄砂を含有、1~3cmの塊が混入)
- ②: 25Y2/1 オリーブ褐色 砂混じりシルト質粘土 (炭~磁鉄砂を含有、1cmの塊・炭が混入)
- ③: 5Y2/1 褐色 砂混じり粘土 (磁鉄砂を含有、炭が少量含む)
- ④: 5G4/1 暗褐色 砂混じり粘土 (炭~中粒砂を含有、炭が少量含む)
- ⑤: 25Y3/1 オリーブ褐色 砂混じりシルト質粘土 (炭・土が多く混入)
- ⑥: 25Y4/1 暗褐色 砂混じりシルト質粘土 (炭~磁鉄砂を含有、炭・粘土が混入)
- ⑦: 5G2/1 暗褐色 砂混じり粘土 (炭~磁鉄砂を含有、1~3cmの塊・炭・土が混入)
- ⑧: 25Y3/1 緑黄色 砂混じり粘土 (炭~磁鉄砂を含有、1cmの塊が混入)
- ⑨: 10Y3/1 オリーブ褐色 砂混じりシルト質粘土 (炭~中粒砂を含有、1cmの塊が混入)
- ⑩: 25Y4/1 暗褐色 シルト質土 (炭~磁鉄砂を含有、中粒砂を含む)
- ⑪: 5G3/1 暗褐色 砂混じり粘土 (炭~磁鉄砂を含有、1cmの塊が混入、磁鉄砂を含む)
- ⑫: 25Y2/1 褐色 砂混じり粘土 (炭~磁鉄砂を含有、1cmの塊が混入)
- ⑬: 10G4/1 暗褐色 砂~磁鉄砂 (炭~中粒砂を含有、1cmの塊が混入)
- ⑭: 3Y2/2 オリーブ褐色 砂混じりシルト質粘土 (炭~磁鉄砂を含有、炭が混入)



大溝3 アゼ断面図

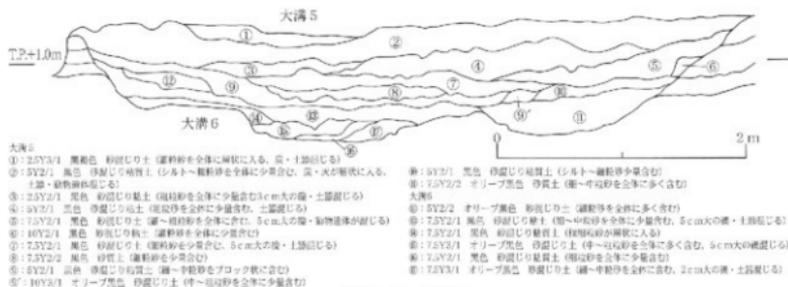
- ①: 25Y2/1 褐色 砂混じり粘土 (シルト~磁鉄砂を少量含む、1~3cmの塊・炭・土、中粒砂を含有)
- ②: 5Y2/2 オリーブ褐色 砂混じり粘土 (磁鉄砂を含有、炭・土が少量含む)
- ③: 25Y2/1 褐色 砂混じり粘土 (シルト~磁鉄砂を少量含む、炭・土が少量含む)
- ④: 25Y2/1 褐色 シルト質粘土 (炭~磁鉄砂を含有、炭・土が少量含む)
- ⑤: 25Y2/1 褐色 シルト質粘土 (炭~磁鉄砂を含有、炭・土が少量含む)
- ⑥: 25Y2/1 褐色 シルト質粘土 (炭~磁鉄砂を含有、炭・土が少量含む)
- ⑦: 10Y2/1 褐色 シルト質粘土 (炭~磁鉄砂を含有、炭・土が少量含む)
- ⑧: 25Y2/1 褐色 シルト質粘土 (炭~磁鉄砂を含有、炭・土が少量含む)



大溝4 アゼ断面図

- ①: 10G3/1 暗褐色 砂混じり粘土 (炭~磁鉄砂を含有、炭が混入)
- ②: 10G3/1 暗褐色 砂混じり粘土 (炭~磁鉄砂を含有、炭・土が少量含む)
- ③: 5G3/1 暗褐色 粘土 (シルト~中粒砂を含有、炭が混入)

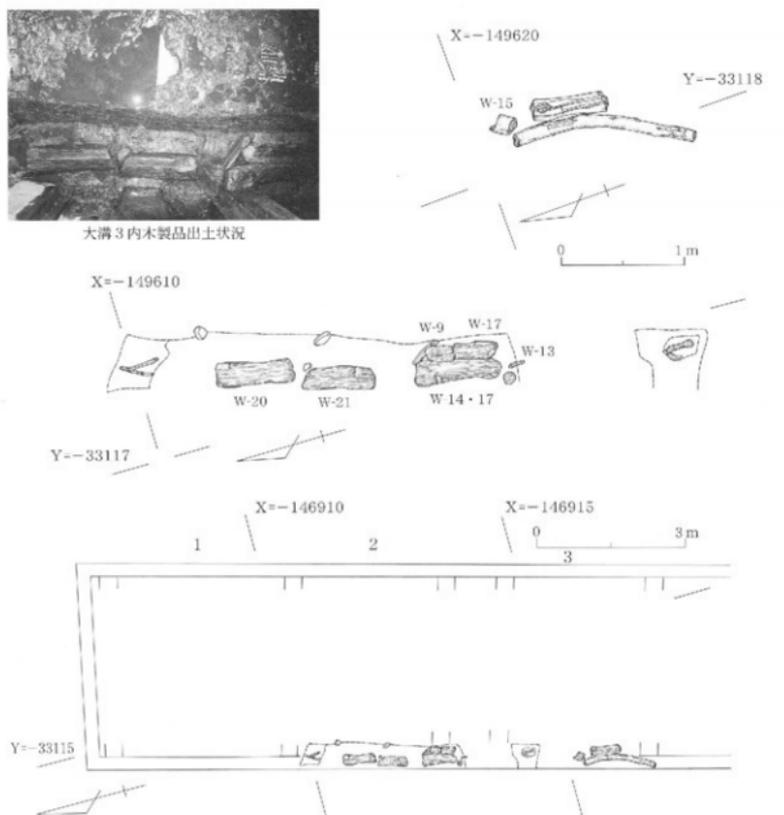
第25図 9上区大溝2・3・4アゼ断面図



大溝5・6西壁断面



大溝3内木製品出土状況



第26図 9工区大溝5・6断面図、大溝3内木製品出土状況写真・平面図

縄文土器の細片がみられた(367・370・382・383・386・387)。動物遺体はイノシシ・シカ・イヌ・タヌキ・スッポン・トリ・ムササビ・大型哺乳類など(資料137~206)、植物遺体はモモ(資料478)があった。遺物はコンテナ11箱を数えた。

大溝3(1~11地区)は、南北方向に延びる溝である。西側の大部分が調査区外に広がるため、断面の形状は北壁付近でのみ確認した。また徐々に西方向に曲がって行き、10地区において調査区外になるため全体の形状は不明である。位置や方向から大溝2に続くものとも考えられる。北壁における幅は220cm、深さ100cmを測る。埋土は黒色(5Y2/1)シルト~極細粒砂混じり粘質土(焼土、炭粒、土器片混じる)で、断面形は逆台形を呈する。遺物はコンテナ15箱を数え、高坏(478~484)・壺(485~507)・無頸壺(508)・水差形土器(509~511)・壺蓋(512)・甕蓋(513・514)・鉢(515~522)・甕(523~569)などの弥生土器、石器は磨製石斧(979・982)・環状石斧(989)・石庖丁(995・1000)・石槍(1018)・石鏃(1029)・石錐(1031・1032・1035)、骨製品は犬の牙を用いた装身具(1058)が出土した。木製品の出土は多く、容器(1037)・容器未成品(1038)・鎌(1041)・農具原材(1042~1047)・有頭棒(1048)・先尖棒(1052)・棒(1051)・J字状に加工された棒(1053)があった。原材・未成品が多いことや出土状況などから、大溝の中に保存を目的として沈められていた可能性が考えられる。このほかに縄文土器の細片が出土した(380・384)。土器はⅢ様式のを多く含むが、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ様式も散見される。動物遺体はイノシシ・シカ・イヌ・ヤロイブタ・ガマガエル・大型哺乳類など(資料207~265)、植物遺体にはモモ(資料469)があった。

大溝4(2~7地区)は、浅く不定形な落ち込み状の遺構。東端は調査地外、西端を大溝3に切られている。最大幅170cm、深さ6~8cmを測る。埋土はオリーブ黒色(7.5Y4/1)細~中粒砂混じり粘土(炭、土器混じる)で、断面形は皿状を呈する(第25図)。遺物はコンテナ2箱あり、壺(570~572)・甕(573~575)などの弥生土器、石庖丁(1003)、円盤状土製品(971)、動物遺体はイノシシ・大型哺乳類(資料266~271)などが出土した。土器はⅡ~Ⅳ様式のものも多く、Ⅰ様式のものもあった。

大溝5(11~12地区)は、東西方向の溝である。側溝と西壁に挟まれ全体の形状は不明である。西壁断面における幅は約600cm、深さ80cmを測る。埋土は黒色(5Y2/1)シルト~中粒砂混じり粘土(炭をブロック状に全体を含む)である(第26図)。下層のほぼ同じ位置に大溝6を検出した。遺物はコンテナ1箱を数えた。鉢(576)・壺(577・578)・高坏(579・580)・脚部(581)・甕(582~589)などⅠ~Ⅳ様式の弥生土器、動物遺体はシカなど(資料272~275)が出土した。

溝73(10~11地区)は、ほぼ南北方向の溝である。幅46cm、深さ26cmを測る。埋土は黒色(5Y2/1)シルト~細粒砂を全体を含む粘質土で、弥生土器は壺(616)、動物遺体は貝など(資料311・312)が出土した。

上坑16(20地区)は、東西100cm、南北80cm、深さ7~10cmのほぼ円形の土坑で、断面形は皿状を呈する。埋土は黒色(7.5YR1.7/1)シルト~粗粒砂混じり粘土(炭・焼土多く含む)。大溝2の上に作られた遺構である。

土坑31(9地区)は、径120cm、深さ4cmを測るほぼ円形の浅い皿状の土坑である。埋土は黒色(7.5Y2/1)細粒砂混じり粘質土で、Ⅲ様式の弥生土器が出土した。

井戸1(7~8地区)は、大溝3の上につくられた遺構で、径280cm、深さ170cmを測る。西半分が調査区外になるため全体の形状は不明である。埋土は黒色(2.5Y2/1)細粒砂を全体を含むシルト質粘土(炭・焼土・土器混じる)で、出土遺物はコンテナ2箱を数えた。壺(747~750)・高坏(751)・無頸壺(752)・鉢(753)・甕(745~758)などの弥生土器、石器は石庖丁(997)、動物

遺体は同定不明なものの2点(資料317・318)が出上した。土器はⅢ～Ⅳ様式のものが多く、Ⅰ・Ⅱ様式ものは微量であった。

土坑A(5地区)は、径160cm、深さ120cmを測る。遺構の大半が調査区外になるため正確な形状は不明である。埋土は黒色(10Y2/1)極細～細粒砂を多く含む砂混じり粘質土(炭、焼土を層状に多く含む)。遺物はコンテナ2箱分出土した。壺(635～641)・甕(642～645)・壺蓋(646・647)・甕蓋(648)・鉢(649～651)などの弥生土器、鹿角を加工した骨製品(1064)、動物遺体のイノシシ(資料319)があった。土器のほとんどはⅢ～Ⅳ様式で、Ⅱ様式のものも数点含まれていた。

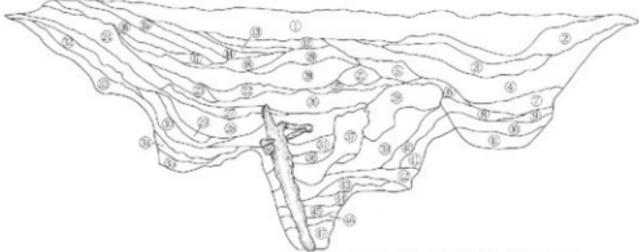
土坑B(6地区)は、検出長が南北350cm、東西150cm、深さ200cmを測る大型土坑。西端は調査区外、北端を土坑Aに切られるため正確な形状は不明である。平面形は不定の円形を呈し、中央部が1段深くなる逆凸形の断面をなす。深くなった部分から直径16cm、長さ130cmを測る木-3と、直径10cm、長さ130cmを測る木-4が立った状態で出土し、2点とも先端を尖らせていた。上部にはこれに組み合わせるような形で横方向の木-1・2・5～10が出土した(第27図)。断面の状況から以下のような順に形成されたものと考えられる。

- ① 逆凸形の土坑を掘削する。
- ② 37～47が堆積する。
- ③ 再度中央部を掘削する。
- ④ 木-3・4を打ち込む。
- ⑤ 28～36で固定する。
- ⑥ 横方向の木-1・2・5～10を組み合わせる。

なお、この土坑の底面には南北方向に細長く掘り込まれた部分があり、埋土からは多数の木製品が出上した。後述する土坑Cに繋がる部分もみられ、これに関連した別遺構である可能性が考えられる。遺物はコンテナに2箱分出土した。無頭壺(652)・壺蓋(653)・高坏(654・655)・壺(656～669)・甕(670～683)・鉢(684～690)などの弥生土器、円盤状土製品(969)、石槍(1016・1026)、木製品は刺突具(1040)・手斧柄(1039)・有溝棒(1050)・有頭棒(1049)・板状加工木(1054)・抉り入り板(1055)、骨製品は鹿角加工品(1065)があった。動物遺体はシカ・イノシシ・ヤロイブタ・イヌ(?)・スッポン・カモ・サカナ・大型哺乳類などで(資料320～362)、今回の調査において動物遺体が最も多く出土した遺構である。植物遺体はモモ(資料470)・イネ(資料471)があった。土器はほとんどがⅢ～Ⅳ様式で、Ⅰ・Ⅱ様式のものも少量含まれていた。

土坑C(6～7地区)は、検出径90cm、検出面からの深さは160cmを測る。上部を土坑Bに削られ、西端が調査区外に位置するため正確な形状は不明であるが、平面形は円形を呈し、ほぼ垂直に掘られていた。土坑B内の南北方向の堀込みと一部繋がる部分があり、関連した遺構であると考えられる。上下2層にわたって遺物が出上した(第29図)。遺物はコンテナ1箱分が出土した。壺(691～693・695・703・704)・細頸壺(694)・高坏(696)・甕(697・698)・水差形土器(699～702)などの弥生土器、骨製品は鹿角加工品(1063)、動物遺体はイノシシ・トリ・スッポン・貝・大型哺乳類(資料363～367)、植物遺体はエゴマ(資料473)・メロン類(資料473・474・476)・イネ(資料475)などがあった。699～702の水差形土器、692・693・703・704の壺の8点はほぼ完形で検出し、水差形土器の把手部分には摩耗がみられた。底面部付近からは複数の二枚貝が出上したが、これらは生息していたというよりも廃棄されたものと思われる。断面形および遺物の出土状況から井戸として機能していたと考えられる。土坑Bに切られることがなければ径2.5mを測ったと思われる。出土した土器はほとんどがⅢ～Ⅳ様式で、Ⅰ・Ⅱ様式のものも少量含まれていた。

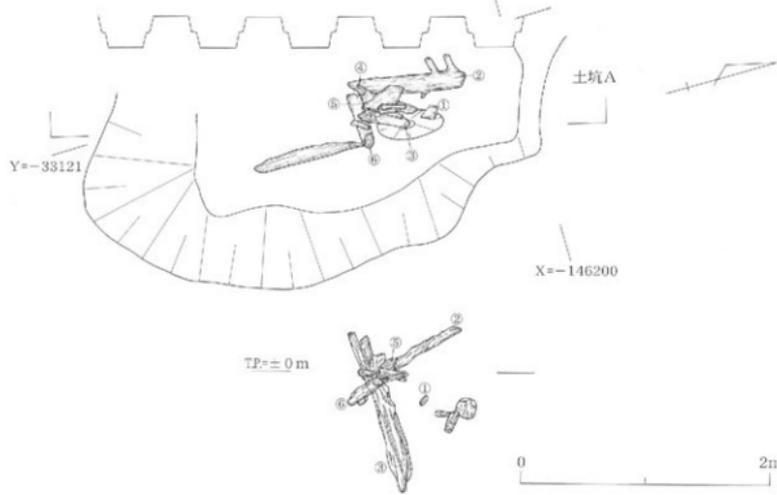
TP1.0m



土坑A

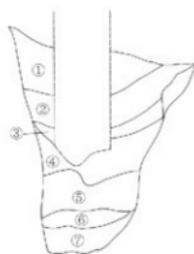
- ①: 1973/1 黒色 粘じり土 埋→中砂砂を全体に少量含む。土器・磁器(なし)
- ②: 1973/2/1 黒色 粘じりシルト状黄土(埋→中砂砂を全体に少量含む。土器・磁器・漆土・灰層(なし))
- ③: 1973/3/1 オリーブ灰色 粘じりシルト(埋→中砂砂を全体に少量含む)
- ④: 1973/4/1 黒色 粘じり土(埋物砂を全体に含む。底→底上20cmの範囲に粘じり)
- ⑤: 1973/5/1 オリーブ灰色 粘じり砂質土(埋→中砂砂を全体に少量含む。灰・磁器遺物(なし))
- ⑥: 1973/6/1 黒色 粘じり砂質土(埋物砂を全体に少量含む。灰・粘土層(なし))
- ⑦: 1973/7/1 黒色 粘じり中砂土(50cm厚。埋物砂を多く含む)
- ⑧: 1973/8/1 オリーブ灰色 粘じり土(埋物砂を多く含む)
- ⑨: 1973/9/1 オリーブ灰色 粘じり土(上段→埋物砂が全体に多く含む)
- ⑩: 1973/10/1 黒色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂が全体に多く含む)
- ⑪: 1973/11/1 黒色 粘じり砂質土(埋物砂を全体に多く含む。灰・磁器遺物(なし))
- ⑫: 1973/12/1 黒色 粘じり中砂土(埋物砂を多く含む。灰・磁器遺物(なし))
- ⑬: 1973/13/1 黒色 粘じり中砂土(埋物砂を多く含む。灰(なし))
- ⑭: 1973/14/1 黒色 粘じり砂質土(シルト→埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ⑮: 1973/15/1 赤色 粘じり砂質土(シルト→埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ⑯: 1973/16/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ⑰: 1973/17/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ⑱: 1973/18/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ⑲: 1973/19/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ⑳: 1973/20/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉑: 1973/21/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉒: 1973/22/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉓: 1973/23/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉔: 1973/24/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉕: 1973/25/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉖: 1973/26/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉗: 1973/27/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉘: 1973/28/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉙: 1973/29/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉚: 1973/30/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉛: 1973/31/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉜: 1973/32/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))
- ㉝: 1973/33/1 赤色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。灰・漆土層(なし))

- ⑳: 1973/34/1 埋オリーブ灰色 粘じり土(埋物砂を多く含む。灰(なし))
- ㉑: 1973/35/1 黒色 粘じり砂質土(埋→中砂砂を全体に含む。灰(なし))
- ㉒: 1973/36/1 黒色 粘じり砂質土(埋→中砂砂を全体に多く含む。灰・磁器遺物(なし))
- ㉓: 1973/37/1 オリーブ灰色 粘じり砂質土(埋→中砂砂を全体に少量含む。灰・埋物砂を多く含む)
- ㉔: 1973/38/1 黒色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㉕: 1973/39/1 黒色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㉖: 1973/40/1 オリーブ灰色 粘じり砂質土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㉗: 1973/41/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㉘: 1973/42/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㉙: 1973/43/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㉚: 1973/44/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㉛: 1973/45/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㉜: 1973/46/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㉝: 1973/47/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㉞: 1973/48/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㉟: 1973/49/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊱: 1973/50/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊲: 1973/51/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊳: 1973/52/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊴: 1973/53/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊵: 1973/54/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊶: 1973/55/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊷: 1973/56/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊸: 1973/57/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊹: 1973/58/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊺: 1973/59/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊻: 1973/60/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊼: 1973/61/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊽: 1973/62/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊾: 1973/63/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)
- ㊿: 1973/64/1 赤色 粘じり土(埋物砂を多く含む。埋物砂を多く含む)



第27図 9工区土坑断面(西壁)・平面図および出土木製品立面図

TP.-0.2m

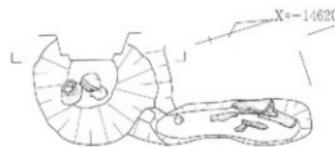


土坑C断面図

- ①: 4Y2/1 黒色 砂混じり粘土 (焼酎・細砂を多く含む、炭・植物繊維が全体に見られる)
- ②: 5Y2/1 黒色 砂混じり粘質土 (シルト・細砂を少量含む、土器・灰が多く混じる)
- ③: 5Y2/2 オリーブ褐色 砂混じり硬質土 (硬砂を全体に少量含む、炭・灰を少量含む)
- ④: 2.5Y2/2 灰色 砂混じり粘質土 (シルト・中粒砂を全体に少量含む、植物繊維が全体に少量含む、植物繊維が多く混じる)
- ⑤: 5Y2/2 オリーブ褐色 砂混じり粘質土 (硬砂を全体に少量含む、土器・炭・植物繊維が混じる)
- ⑥: 2.5Y2/1 灰色 砂混じり粘質土 (シルト・中粒砂を全体に少量含む、ペリス土とほぼ同等のシルト質シルト質粘土をブロッカ法に含む)
- ⑦: 7.5Y2/2 オリーブ褐色 砂混じり硬質土 (炭・植物繊維を多く含む、二枚貝・土器が見られる)



土坑B・C内木製品出土状況(上層)



土坑B・C内木製品出土状況(下層)

第28図 9 T区土坑B・C断面・平面図

以上の土坑A～Cは全て大溝3の上に位置しており、第18層上面における最も新しい遺構である。3遺構内から出土した土器を比較してもほとんど時期差はなく、大溝が埋まって後に土坑Cがつけられ、土坑B、土坑Aと次々にほぼ同じ場所につくられたと考えられる。

ビット32(15地区)は、南北30cm、東西20cm、深さ5cmを測り、卵形を呈する。埋土は黒色(5Y2/1)シルト～細粒砂を含む粘質土(炭・焼土含む)で、弥生土器、サヌカイト片、動物遺体のシカ・大型哺乳類の骨片(資料313・314)が出土した。

ビット42(ビットID)(20地区)は、東西50cm、南北20cm、深さ20cmを測る。南半分が調査区外になるため、全体形は不明である。埋土は黒色(2.5Y2/1)細粒砂を少量含む砂混じり粘土(炭・焼土混じる)で、弥生土器の壺(761)、動物遺体のシカ(資料15)などが出土した。

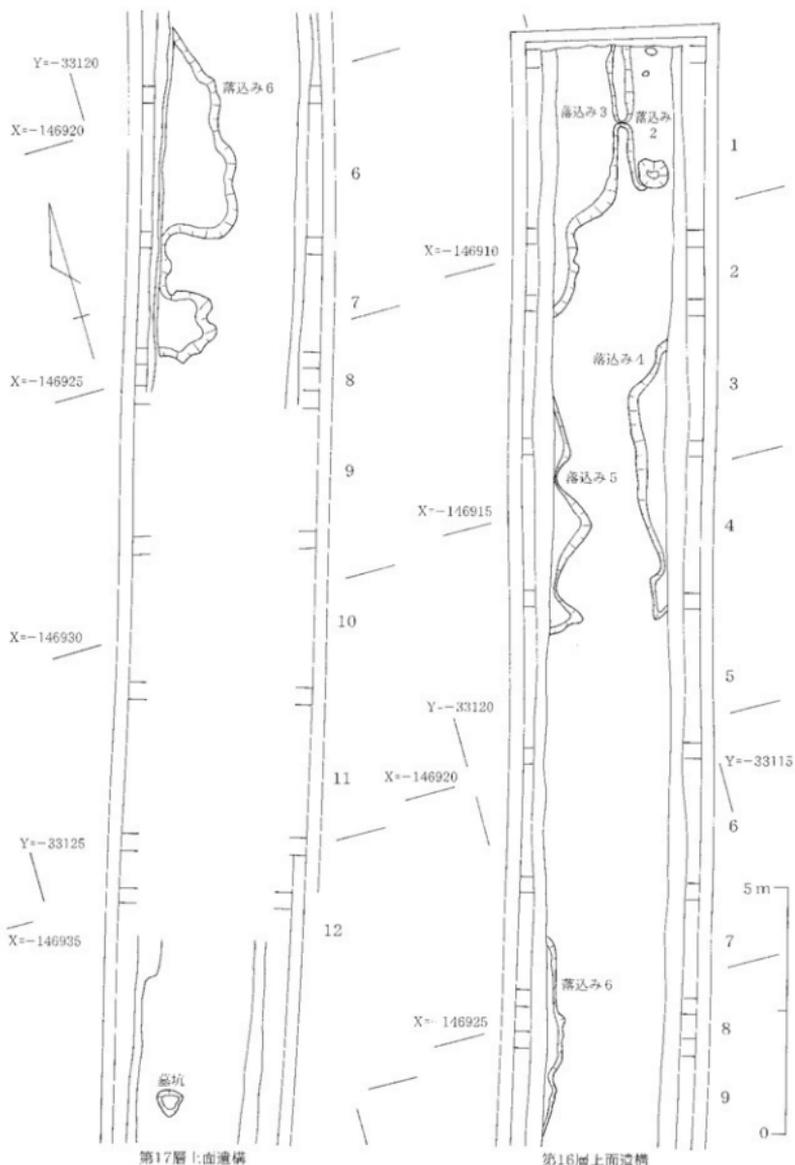
その他多数のビットを検出した。遺物が出土したものは以下のとおりである。ビット4からはⅡ様式。ビット5からⅠ様式、ビット9・32・33からⅢ～Ⅳ様式の土器が出土した。いずれも小片。遺構の埋土はほとんどが黒色(5Y2/1)シルト～細粒砂を含む粘質土(炭・焼土・動物遺体含む)であった。

第18層上面の遺構は少なくとも3時期の切り合いがみられた。大溝1、土坑14～16・31、井戸1、土坑A～Cはほかの遺構に比べ新しい時期の遺構である。次いで大溝2・3、一番古い遺構は大溝4・5であると考えられる。遺構から出土した土器の主体はⅡ～Ⅲ様式のものであった。

層内から、縄文土器は浅鉢(369)・深鉢(385)、弥生土器は壺(812～816・828・830)・無頸壺(817)・壺蓋(818)・甕(819・820・834・835)・鉢(821～824)・高坏(825)、土製品は蛸壺(966)・円盤状土製品(977)、石器は磨製石斧(986)・磨製石剣(988)・石庖丁(999)・石錘(1008)、骨製品は刺突具(1061)、動物遺体はシカ・イノシシ・トリ・サカナ・大型哺乳類(資料423～442)などが出土した。

17層上面遺構(第29図 図版38・39)

遺物を大量に含んだ黒色の砂混じり粘土層である。土器棺墓土坑、落ち込みなどを確認した。



第29图 9工区第16・17層上面遺構平面图

土器棺墓土坑（12地区）は、土坑からⅢ～Ⅳ様式のものと思われる甕（759）が出土し、土器内に胎児または乳幼児の骨があった（資料466）。遺構の上部は削平されていたため全体の形状は不明であるが、底面部付近を捉えることができた。堀上は黒色（10Y2/1）細粒砂から粗粒砂を含む砂混じり粘質土、直径50cm、深さ約5cmを測る楕円形を呈していた（第30図）。

落ち込み6（5～8地区）は、形状は不定形。埋土は上層の第16層が入り込んでいたが、遺物は出土しなかった。

このほか第19層上面で検出したピット124・土坑24・土坑A・Cは、断面検討の結果17層上面からの遺構であることが判明した。

ピット124（15地区）は、径50cm、深さ70cmを測る。埋土は2層に分かれ、上層は黒色（2.5Y2/1）シルト～細粒砂を含む砂混じり土（植物・動物遺体・土器を含む）、下層は黒色（10Y2/1）シルト～細粒砂を含む砂混じり粘質土であった。

上坑39（13地区）は、東西120cm、深さ42cmを測る。堀上は上下2層に分かれ、上層はオリーブ黒色（5Y2/2）細粒砂から中粒砂を多く含む砂混じり土（植物遺体・土器・炭が混じる）、下層は黒色（2.5Y2/1）シルト～細粒砂を多く含む砂混じり粘質土（焼土・炭混じる）であった。

土坑40（13地区）は、径約80cm深さ67cmを測る。中心部が深くV字状を呈する。埋土は上下2層に分かれ、上層は黒色（10YR1.7/1）細粒砂を全体に多く含んだ砂混じり粘質土（炭・土器混じる）、下層は黒色（2.5Y2/1）5cm大の礫・粗粒砂を少量含んだ砂混じり粘土であった。

本遺跡において第17層相当層の上面で検出された遺構は少なく、同層形成の目的や時期を考える上で今回検出した遺構は重要であるといえる。

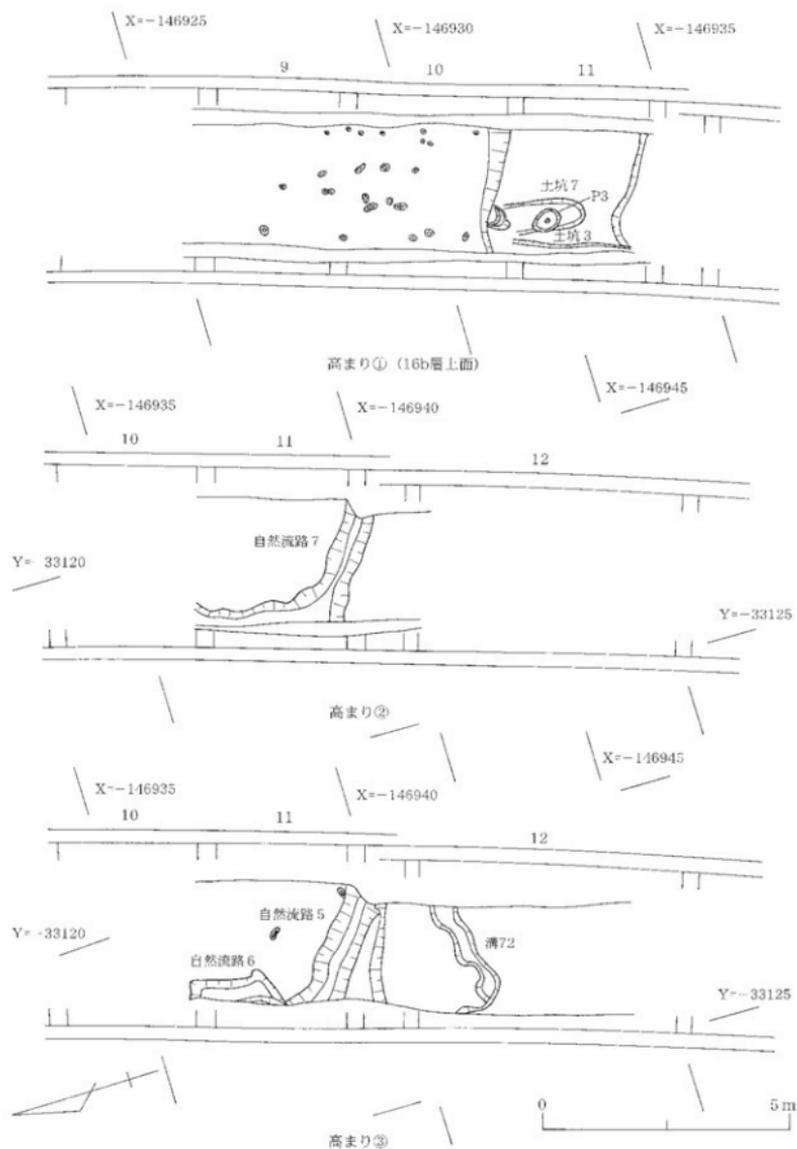
層内からは弥生土器、磨製・打製土器、土製品、動物遺体、植物遺体、サヌカイト片などが大量に出土した。弥生土器は鉢（803・804）・壺（805～807）・高坏（808・809）・甕（810・811）など、磨製土器は磨製石剣（990・991）・石廬丁（994・996）、打製土器は石槍（1009・1012・1013・1016・1019・1021・1023）・石鏃（1025・1030）・石錐（1030）、その他石器としての砥石（1004・1007）、土製品は紡錘車（967）、円盤状土製品（975）、動物遺体はシカ（資料421・422）などがあつた。

中央部高まり状遺構（第30図）

11・12地区において高まり状遺構を確認した。遺構が形成される以前、この場所には第17層上面に自然流路のもたらした砂堆積があつた。まず、自然流路7は幅70cm、深さ30cmを測り、L字状に曲がって調査区外に延びていた。流路7に砂が流れ込み埋没した後、L字状の東西方向部分に流路6、南北方向の流路5が形成される。流路6は幅80cm、深さ25cm、流路5は幅50cm、深さ25cmを測る。流路の両脇には土を盛り上げた状況がみられた。これらの流路が埋まることにより微高地を形成するに至つたと思われる。

この微高地の北には第16層が堆積し、その上面で足跡や落ち込みを検出した。第15層の整地時にはこの高まり上に上坑7・8、ピット3が形成された。上坑7は南北約2m、東西70cm、深さ13cmを測り、南北方向に舌状に延びていたが、その南端は整地による掘削のため不明である。ピット3は径10cm、深さ13cm、上坑8は径約50cm、深さ20cmを測り、ともに砂が入り込んでいた。上坑8の中心部から径約10cm、深さ20cmの二重のピットを検出し、柱穴であつたと思われる。遺構内の埋土から古墳時代の須恵器片が出土した。

その後、第14層から第9層まで、この位置にはほぼ南北方向に土が盛り上げられ、土地利用の際の境目として利用していたと考えられる。



第30図 9丁区中央部高まり内遺構平面図

第16～13層はこの微高地・高まりを境にして北に厚く堆積し、以南では薄いかもしくはみられなかった。これは弥生時代前期以降、当該地が北へ傾斜していたためである。高まり部分を掘削した際、須恵器・土師器・弥生土器が出土した。

第16層上面遺構 (第29図 図版39・40)

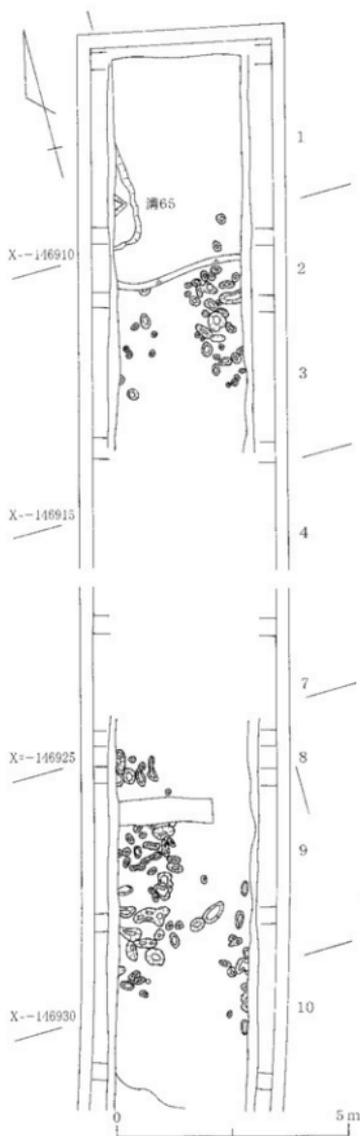
第16層は1地区から10地区にわたり部分的に堆積する層で、第16b層上面で落ち込み2～6を検出した。遺構の大半は調査区外に延びるため、全体の形状は不明である。落ち込み2と3の間に幅50cmの畦状の高まりがあり、1地区の中央付近では一部切れて、落ち込み同士が繋がっているところもあった。落ち込みは第16a層で埋まり、その埋没後に土坑6が形成された。遺構内から遺物は出土せず、層内から微量の弥生土器が出土した。

【古墳～平安時代の遺構】

第15層上面での遺構はなかったが、層内から多量の弥生土器とともに古墳時代の須恵器が出土した。同層は遺物とともにブロック上、砂粒を含み、古墳時代後期に形成された塋地層と思われる。砂の微高地以南には第16層はなく、第15層の直下が弥生時代中期末～後期初頭の多量の遺物を包含する第17層であった。そのため弥生土器などは整地、第15層形成時に巻き上げられたものと考えられる。出土遺物は弥生土器の壺(781～787)・細頸壺(788)・甕(789～794)・高環(795～799)・鉢(800～802)、ミニチュアの壺(786)があり、石器は磨製石斧(980・983・987)、磨製石剣(993)、石槍(1010・1011・1015)、石錐(1033・1035)、骨角製品は鹿角加工品(1065)、土製品は紡錘車(968)・円盤状土製品(972)、動物遺体としてシカ・イノシシ・大型哺乳類(資料391～420)などがあつた。十偶(965)が出土したのも同層である。

第13層上面遺構 (第31図 図版41)

1地区から10地区、12・13地区に所統的に堆積する層で、上面において第12層が入り込んだ足跡と溝65を検出した。足跡は1～3地区と7～10地区に多くみられた。11地区の高まり以南には遺構はみられなかった。層内からは弥生土器・シカ(資料389)が出土し



第31図 9工区第13層上面遺構平面図

たが、土器は少量で明確な堆積時期は不明である。

第12層上面遺構 (第32図 図版41)

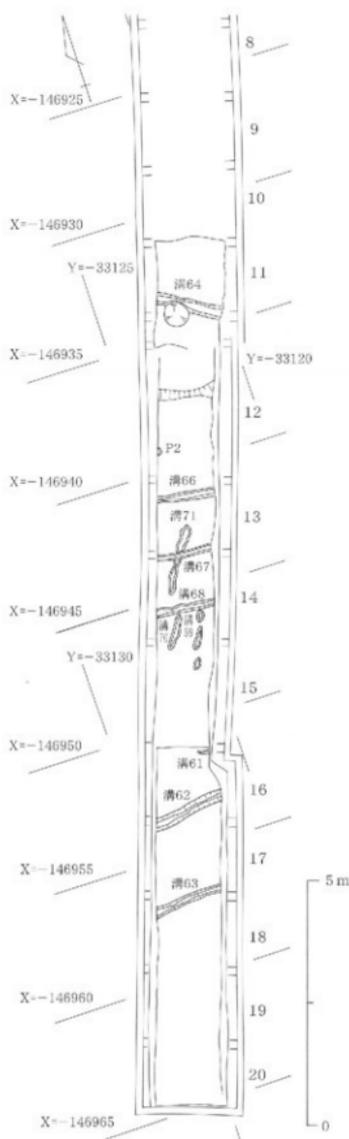
第12層は調査区全面にわたる砂層である。中央部に位置する高まり以北には遺構は無く、12～20地区にピットや溝がみられた。15～20地区で東西方向の溝61～63、12～14地区で東西方向の溝66～68と南北方向の溝69～71およびピット2を検出した。

南北方向の溝69・70などはほとんど削平されており、東西方向の溝67は南北方向の溝71を切る形で検出し、時期差が認められる。南北方向の溝が埋没して後に削平し、東西方向のものをつくったと考えられる。南北方向の溝は15地区以南では確認できなかった。幅はほぼ30～50cm、深さは10cm前後で、溝内からは弥生土器片が出土した。ピット2は径30cm、深さ14cmを測り、遺物は出土しなかった。層内からは少量の弥生土器片が出土した。

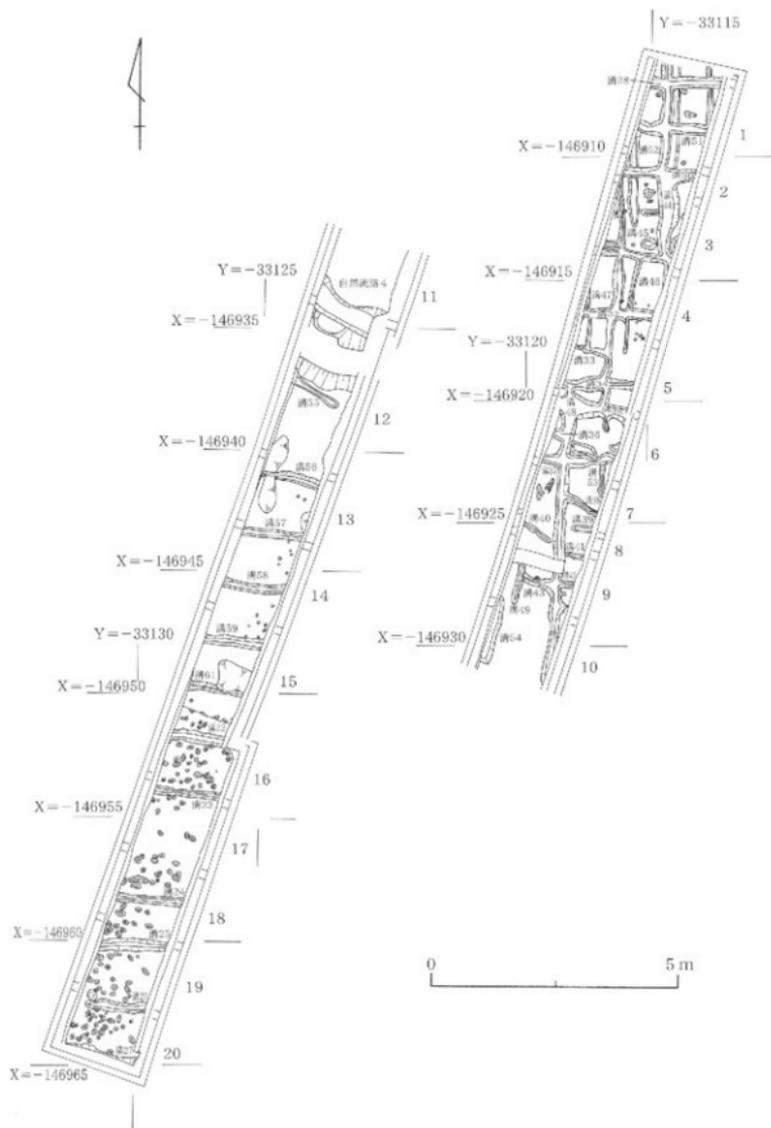
第11層上面遺構 (第34図 図版42～45)

第11層は調査区全体にわたる堆積層である。溝22～61を検出した。11地区から12地区にかけて高まり状の遺構を境に南北の遺構状況に違いがみられた。1から10地区では溝28～54を検出した。ほぼ東西南北のマス目状の十字に交差し、少なくとも3時期の切り合い関係を確認した。周囲には足跡が散見されていた。一番古い時期の溝は溝50～53で、これが埋まって後につくられたと思われるのが溝28～38、42～48。一番新しいものが溝49である。切り合いのみられない溝は39～41、54である。溝の幅は30～50cmのものが大半で、深さは10～20cmを測り、断面はU字状もしくは皿状を呈する。遺構内からは須恵器・土師器が出土した。

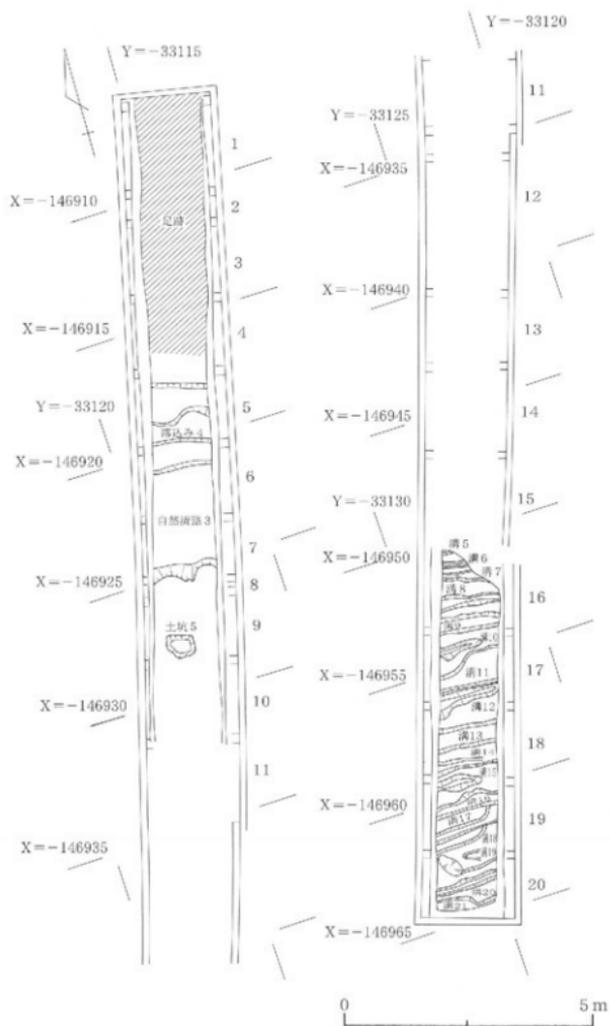
11から14地区で溝22～27、15から20地区では溝55～61を検出した。足跡は周囲にみられたが偏りがあり、とくに15から20地区に多くみられた。すべて東西方向の溝で、200～230cmのほぼ等間隔で並ぶ。幅約30～40cm、深さ約10～15cmを測り、U字状もしくは舟底状の断面を呈していた。遺構内からは微量の須恵器・土師器・弥生土器が出土した。奈良～平安期のものが含まれており、活用・埋没時期もこれに準ずるとと思われる。層内からは少量の弥生土器・イノシシ (資料388) が出土した。



第32図 9工区第12層上面遺構平面図



第34图 9工区第11层上面遗物平面图



第9層遺構平面图

第9'層遺構平面图

第35图 9工区第9·9'層上面遺構平面图

26cm、深さ10cm、西の溝は幅28cm、深さ12cm。溝2は耕作用の溝、溝3は鋤溝と思われる。土坑2は溝2に平行して南北に長く、耕作用の溝の一部と思われ、東西18cm、南北72cm、深さ約8cmを測る。土坑3は溝3を上から切る形で検出し、径約90cm、深さ30cmを測るが、埋上状況から上層形成時の攪乱穴と思われる。土坑4は溝2の下面で検出した。上面を溝2によって削られているため、正確な大きさは不明であるが東西約70cm、南北160cmの楕円形を呈し、深さ60cmを測る。ほぼ垂直に掘られていることや埋上状況から井戸であった可能性が高い。溝4は東西方向の溝で、幅280cm、深さ40cmを測る。溝2、4から須恵器・土師器・瓦器が出土したが、他の遺構から遺物は出土しなかった。第5層内からは須恵器・土師器・瓦器・緑釉陶器が出土した。出土遺物から第5層は中世期の整地土であると思われる。

〔江戸時代以降〕

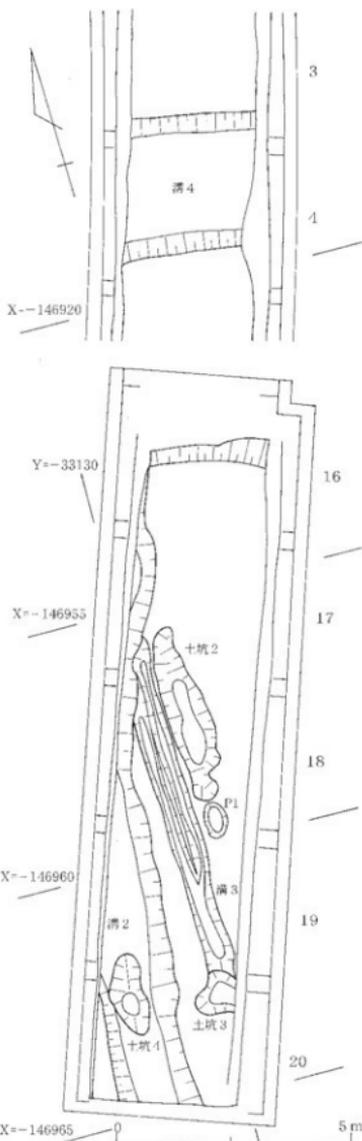
近世と明確に比定できる遺物は少なかったが、基本層序に照らし合わせて8工区と比較した結果、第2～4層がこれに相当すると思われる。

第4層上面遺構 (第37図 図版49)

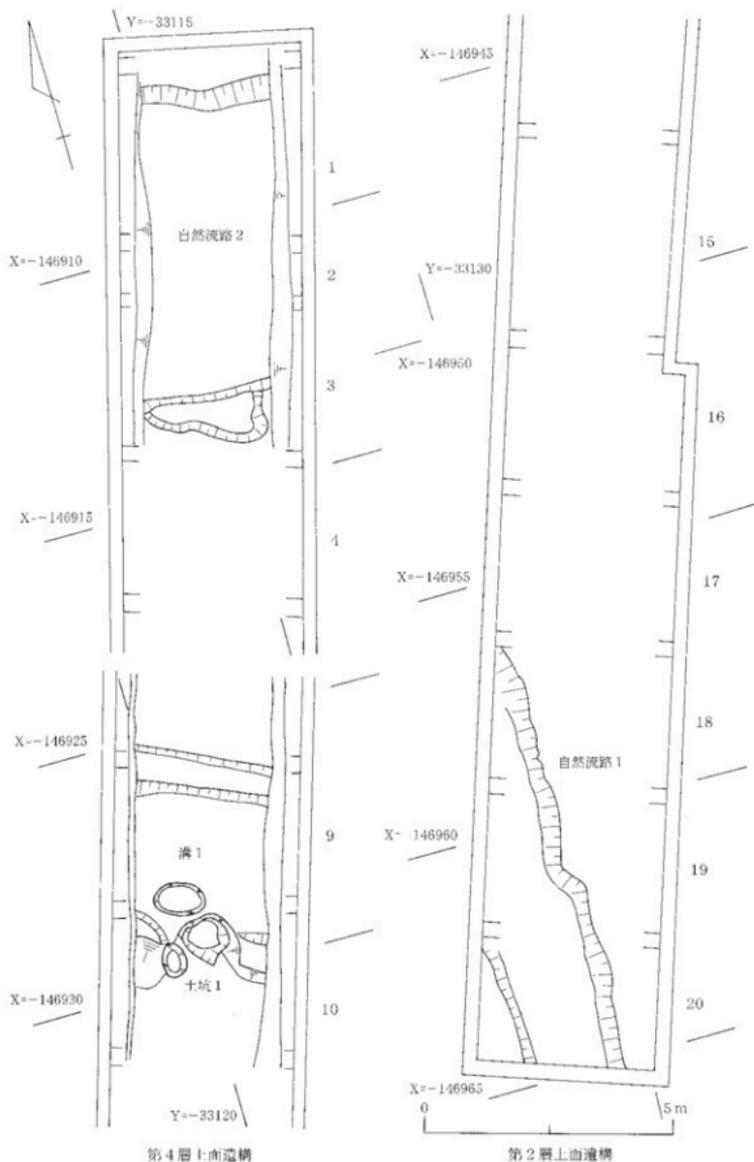
1～3地区において東西方向の自然流路2、8～9地区において同方向の溝1、その南厩を切り込む形で土坑1を検出した。自然流路2は最大幅600cm、深さは30cmを測る。中央部に打設された杭が1本出土し、流れ込んだ砂によって埋没していた。埋土内から土師器・瓦器が出土した。溝1は幅約400cm、深さ40cmを測り、上層の第3層によって埋没していたと思われる。溝内からは土師器・瓦器が出土した。土坑1は径100cm、深さ約30cmを測る。須恵器・土師器・瓦器が層内から少量出土した。

第2層上面遺構 (第37図 図版49)

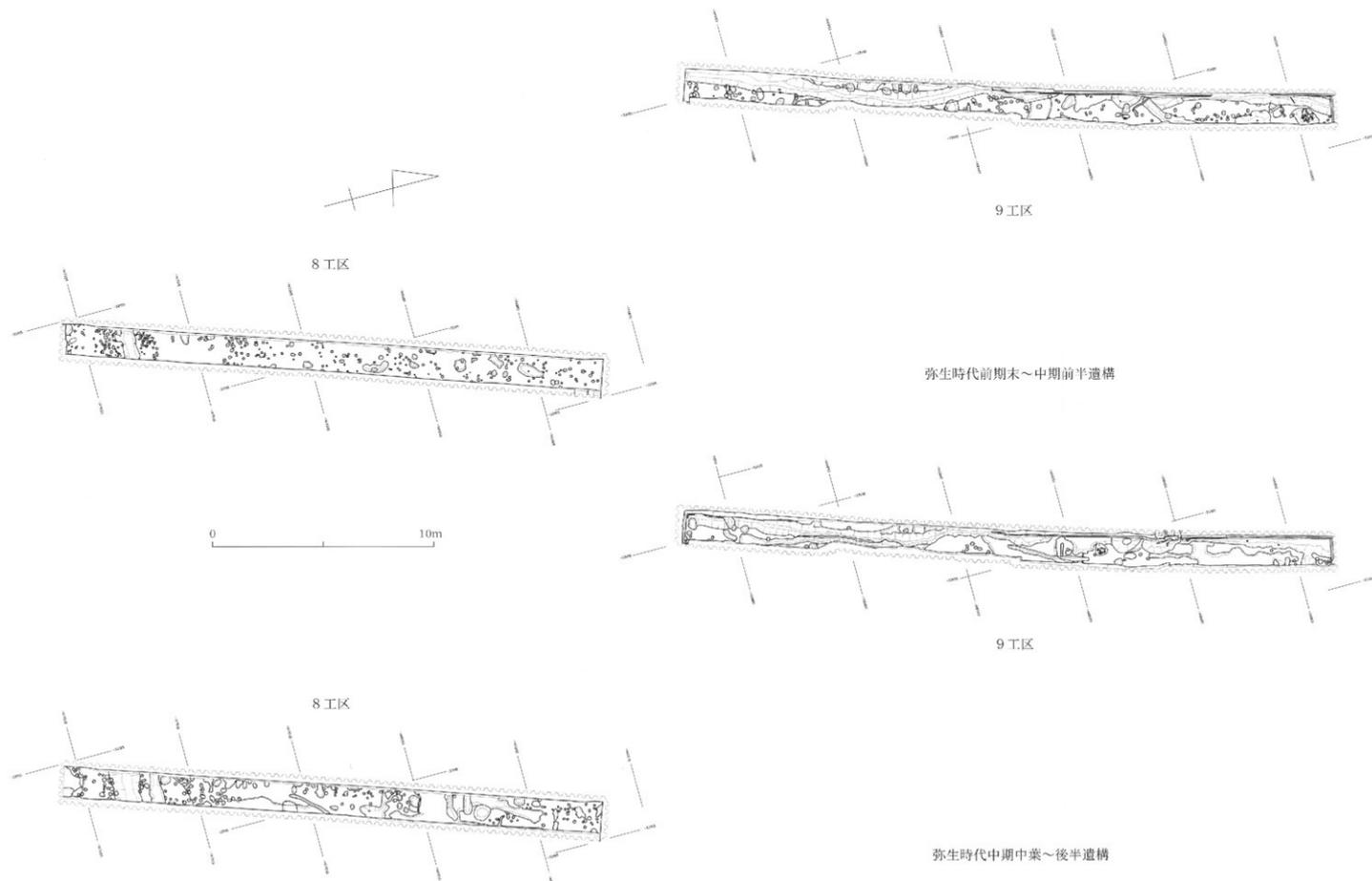
調査区南部の18～20地区にわたり南北方向に延びる自然流路1を検出した。幅260cm、深さ約40cmを測り、磁器・須恵器・土師器・埴輪が出土した。



第36図 9工区第5層上面遺構平面図



第37圖 9工区第2・4層上面遺構平面圖



第38图 8·9工区基本層位第N·O層上面遺構合成平面圖

5. 8・9工区の弥生時代遺構

本調査地での弥生時代以前の遺構面は、上層から以下のとおりであった。

第M層上面・中間層上面遺構（8工区第20～22層、9工区第17層上面）＝弥生時代中期末～後期

第N層上面遺構（8工区第23層、9工区第18層上面）＝弥生時代中期中葉～後半

第O層上面遺構（8工区第24層上面）＝弥生時代中期前半

第P層上面遺構（8工区第24層、9工区第19層上面）＝弥生時代前期末～中期前半

第R層上面遺構（8工区第27層、9工区第23層上面）＝弥生時代前期中葉～後半

第M層は多量の遺物を包含した弥生時代中期末から後期初頭の整地層で、8・9工区とも3層以上に細分できた。8工区では中層上面で東西方向の大溝（溝22）、上面でビット・土坑・落ち込みを検出し、上層部（第20層）内から放棄された頭骨（資料465）を含む人骨片が出土した。9工区では上層で落ち込み、上層または中層からの胎児または乳幼児（資料466）を埋葬した土器棺蓋を確認し、最下層から土偶が出土した。上面遺構は溝・土坑・ビット・落ち込みなどそれほど多くない。遺構内から弥生土器片が出土したが、8工区溝22・土坑8・落ち込み5、9工区落ち込み6のように埋まったのちの窪地部に第L層＝粘土・シルト質粘土の自然堆積層＝が浅いボール状に入り込んだものも見られた。

第N層上面では弥生時代中期中葉および後半の多数の遺構とそれに伴う遺物を検出した（第38図下）。遺構は3期以上の切り合い関係を確認したビット・土坑・溝・大溝があり、弥生土器・石器なども多く出土した。中期中葉は木遺跡で営まれた大集落が維持されていた時期にあたり、8工区で多数のビット・土坑、9工区でも大溝・溝・土坑・ビットなどの遺構があった。とくに9工区の大溝2・3は一連のものと思われ、調査地をほぼ南北に縦断していた（第58次調査区の北側でも検出している）。それに対し、中期後半の遺構は8工区で井戸・土坑1基（土坑19）・溝2条（溝24・17）・2ビット（Pa・b）、9工区でも大溝埋没後の溝8条（溝37・66～71・73）、土坑3基（土坑A・B・C）、井戸とビット1（P108）とやや減少していた。

第O層上面遺構は8工区北側のみで検出した中期前半のビット群と1土坑である。上述したように8工区北側は南より高くなっていたが、1地区から4地区付近では第O層を薄く覆うようにさらに整地して遺構を形成していた。第O層上面では弥生時代前期末から中期前半にかけての3～4期にわたる遺構を確認した（第38図上）。9工区の土器溜り土坑からは壺・鉢・甕・甕蓋などの1様式後半の土器が多量に出土し、溝80などとともに前期後半に比定できるものであった。中期初頭から前半の遺構は8工区では土坑とビット群、9工区では大溝、溝、土坑と多数のビットがあり、活発な集落形成が行なわれたことを示している。これらの遺構は第N層形成時に完全に埋没したものが多い。

第P層以下は遺構・遺物とも減少する。第Q層は弥生時代前期後半ごろに東から西方向へ洪水（氾濫）がもたらした砂の自然堆積層である（8工区北側、9工区南側）。砂層からは弥生時代前期の土器片とともに縄文時代晩期の深鉢・浅鉢の破片が出土した。縄文土器はほとんど摩滅しておらず、堆積砂は調査地の8・9工区間で自然堤防状の高まりを成し一河道に伴う自然堤防一、前期末以降の集落状況に大きな影響をあたえていた。

第R層上面では8工区では5～15地区でビット群を、9工区ではビット群・土坑・溝を検出した。遺構内からはほとんど遺物は出土せず、層内から微量の弥生土器片を確認したのみで、前期中葉ごろのものと思われる。

6. 遺物

縄文時代～近世期の遺物が出土した。8工区と9工区に分けて説明を記す。

a. 8工区出土遺物

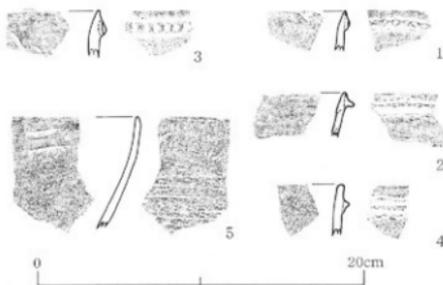
遺物は土器、土製品、石器、木製品、骨角製品などがある。以下、各項目ごとに分けて記す。

1) 土器

縄文時代～近世期の土器が出土した。弥生時代の土器が特に多い。各時代の遺構及び遺物包含層に分けて記す。縄文土器と弥生土器は胎土中に石英・長石・角閃石・雲母を含むものを生駒西麓産とする。生駒西麓産の中には上記の鉱物が微粒や微量のものも含まれる。それ以外は非河内産で記す。色調は生駒西麓産が褐色から灰色、非河内産は乳白色～桃灰色が多い。

縄文土器 (第39図1～5)

縄文時代の遺構、遺物包含層は確認されていない。出土土器は弥生時代の遺構及び遺物包含層からであり、混入品と考えられる。時期は晩期である。深鉢と浅鉢がある。1～4は深鉢である。口縁端部は尖り気味のものとも面をもつものがある。1・2は口縁端部直下、3・4は口縁端部よりやや下に刻み目凸帯を1条廻らす。内外面はナデ調整する。所謂、船橋式土器である。5は浅鉢である。体部は上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。外面はケズリ調整、内面はナデ調整する。5は非河内産、他は生駒西麓産。1・2は土坑29、3・5は第23層、4は遺物包含層より出土。



第39図 8工区縄文土器実測図

弥生土器

弥生土器はⅠ～Ⅳ様式に分類する。Ⅲ様式とⅣ様式の土器は明確に分類できないのでⅢ～Ⅳ様式として扱う。Ⅱ～Ⅳ様式に分けられない土器は中期と記す。また、Ⅱ様式の中にはⅠ様式の可能性がある。壺や鉢も含まれる。本文中に調整法を記しているが、口縁部と裾端部のヨコナデ調整は普遍的なのであえて記さない。

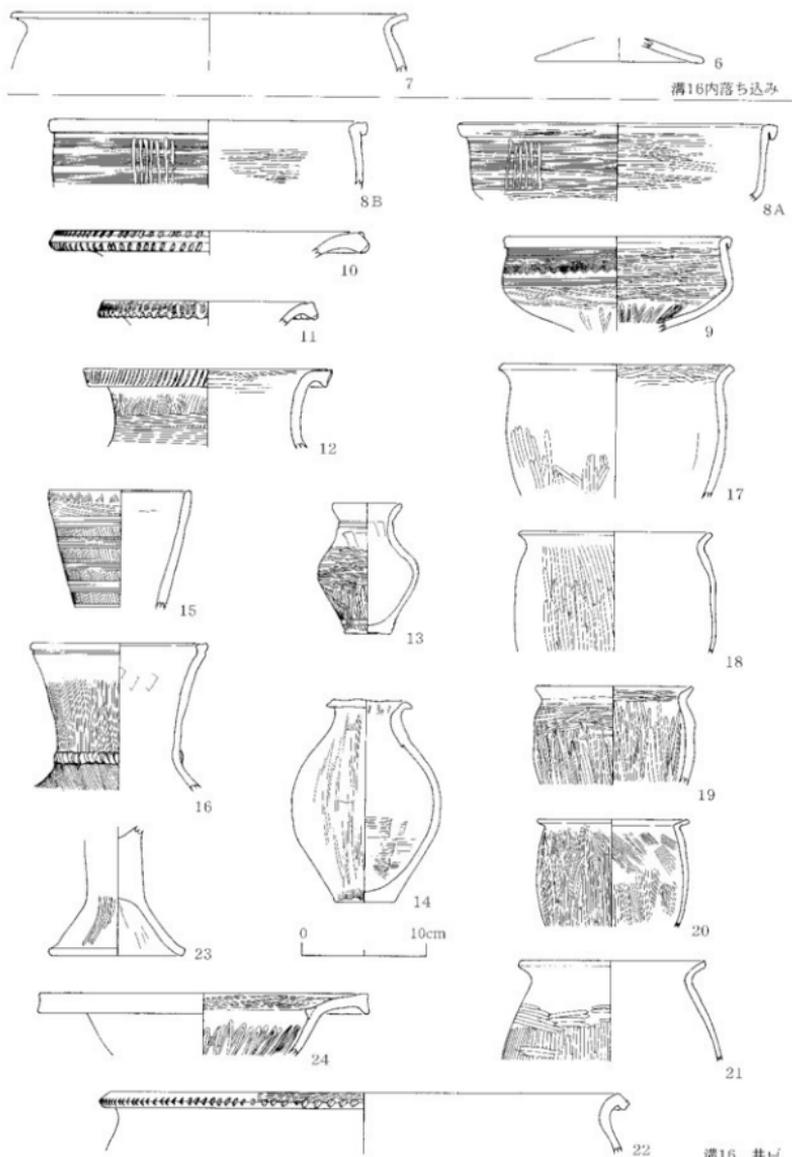
遺構出土土器

溝16内落ち込み (第40・48図6・7・14)

壺蓋・壺・壺の器種がある。

6は壺蓋である。体部の立ち上がりはゆるく、口縁端部は丸く終わる。風化が著しく調整法は不明。
1様式。生駒西麓産。

7は壺である。体部の張りが少なく、口縁部がやや強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はナデ調整する。Ⅲ様式。生駒西麓産。



第40图 8丁区溝16内落ち込み、溝16、井戸出土十器実測図

141は壺である。頸部が外上方へ直線的に伸びる。口縁端部は面を持つ。口縁部に1条の凹線文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝16 (第40図8～24)

鉢・壺・細頸壺・甕・高杯の器種がある。

8A・8B・9は鉢である。8A・8Bは口縁部などの形態はやや異なるが文様や調整法などから同一個体の可能性が高い。口縁部は強く外反し、口縁端部が面を持つ。体部に3帯の櫛描直線文を施す。縦方向の研磨を部分的に加える。内外面はヘラミガキ調整する。9は体部が内傾する。口縁部は強く外反し、口縁端部が面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。内外面に煤が付着する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

10～13・16は壺である。10・11は口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に刻み目や櫛描文様を施す。13は頸部が筒状を呈し、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に櫛描列点文、頸部に直線文を施す。頸部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。13は底部がやや凹む平底である。体部は中位で張り、口頸部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。頸部に2条、底部に3条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。16は頸部が外上方へ直線的に伸びる。口縁端部は面を持つ。口縁部に1条の凹線文を施す。体部と頸部の境に凸帯を貼り付ける。凸帯には指による押圧文を廻らす。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。13はⅠ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

15は細頸壺である。口頸部が外上方に直線的に伸び、口縁端部はやや面を持つ。外面に櫛描扇形文と直線文を施す。6帯が残る。口頸部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

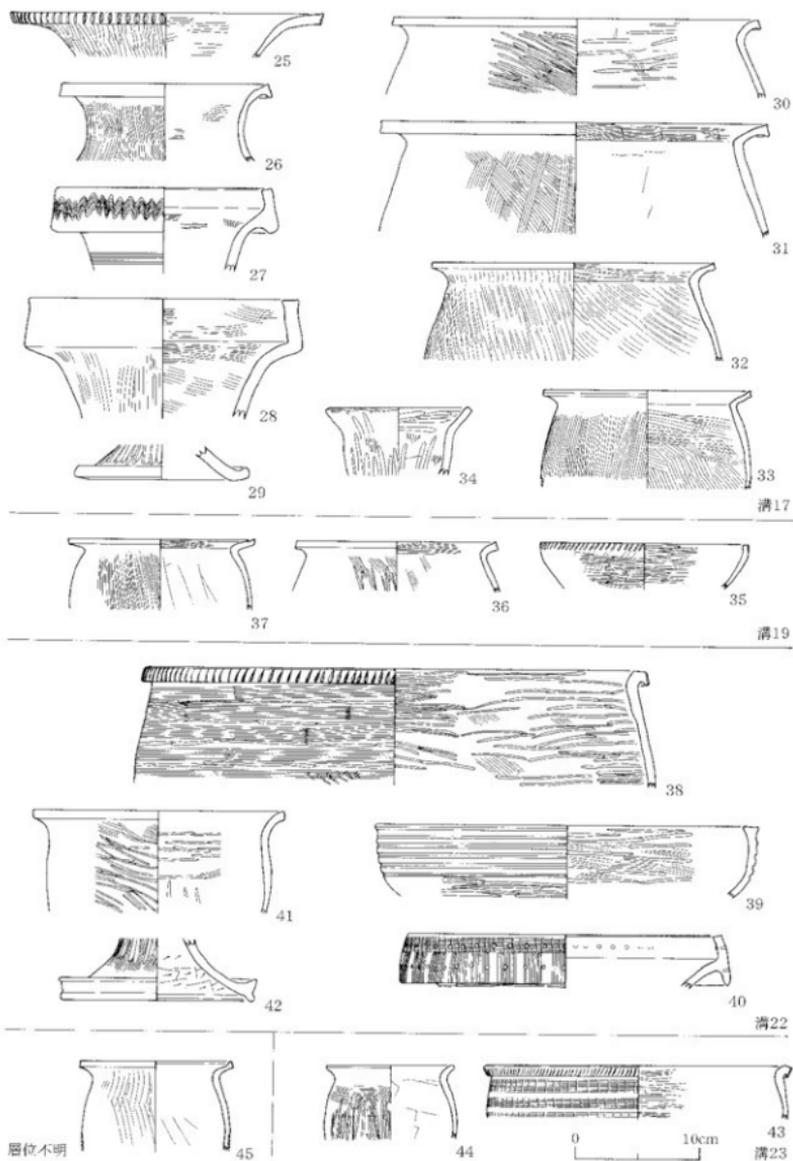
17～22は甕である。17～19は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つものと丸く終わるものがある。17・18は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。19は体部内外面をヘラミガキ調整する。20は体部の張りが少なく、口縁部が強く外折する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。21は体部の張りが大きく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。頸部内面に赤色塗料が付着する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。22は体部の張りが大きく、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に刻み目を施す。体部内外面はナデ調整する。17～19はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

23・24は高杯である。23は脚部である。裾部の立ち上がりは強く、柱状部は上方へ伸びる。柱状部は中実である。裾端部は面を持つ。脚部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。24は坏部がやや内湾気味に上方へ立ち上がり、口縁部が水平方向に伸びる。口縁端部は下方へやや拡張する。口縁部と坏部の内面境には凸帯を廻らす。坏部外面は風化が著しく調整法は不明。内面はジグザグ状のヘラミガキ調整する。23はⅡ様式、24はⅢ～Ⅳ様式。23は非河内産、24は生駒西麓産。

溝17 (第41図25～34)

壺・高杯・甕の器種がある。

25～28は壺である。25は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。外面はハケメ調整、内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。26は頸部がやや筒状を呈し、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。頸部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。27は頸部が外上方に伸び、口縁端部を上下へ大きく拡張する。口縁端部は幅広の面を持つ。口縁端部に1帯の櫛描波状文、頸部に直線文を施す。直線文は1帯が残る。頸部内外面はナデ調整する。28は頸部が外上方へ伸び、口縁端部を上方へ大きく拡張する。口縁端部は幅広の面を持つ。頸部内外面はハ



第41图 8世纪清17·19·22·23、屈位不明出土七器夹测图

ケメ調整する。25はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。26・27は生駒西麓産、他は非河内産。

29は高坏の脚部である。裾部はゆるく立ち上がる。裾端部は上方へ拡張する。裾部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

30～34は甕である。30～33は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整するものが多い。34は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。34はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝19 (第41図35～37)

高坏・甕の器種がある。

35は高坏である。浅い碗状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁部に櫛描列点文を施す。坏部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

36・37は甕である。36は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。37は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝22 (第41図38～42)

鉢・高坏・壺・甕の器種がある。

38は鉢である。体部は内傾する。口縁部が短く外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部は5帯の櫛描直線文とその下に部分的な扇形文を施す。文様帯間は磨研する。体部内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

39・42は高坏である。39は浅い碗状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁部に5条の凹線文を施す。坏部内外面はヘラミガキ調整する。42は脚部である。裾部はゆるく立ち上がる。裾端部は上下へ拡張する。裾部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はヘラケズリ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

40は壺である。口縁端部を上下へ大きく拡張する。口縁端部は幅広い面を持つ。口縁端部に1帯の櫛描簾状文とその下に縦方向の直線文を施した後、2帯の円形刺突文を廻らす。内面に円形刺突文を施した際の凸状の盛り上がりが残る。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

41は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

溝23 (第41図43・44)

鉢・甕の器種がある。

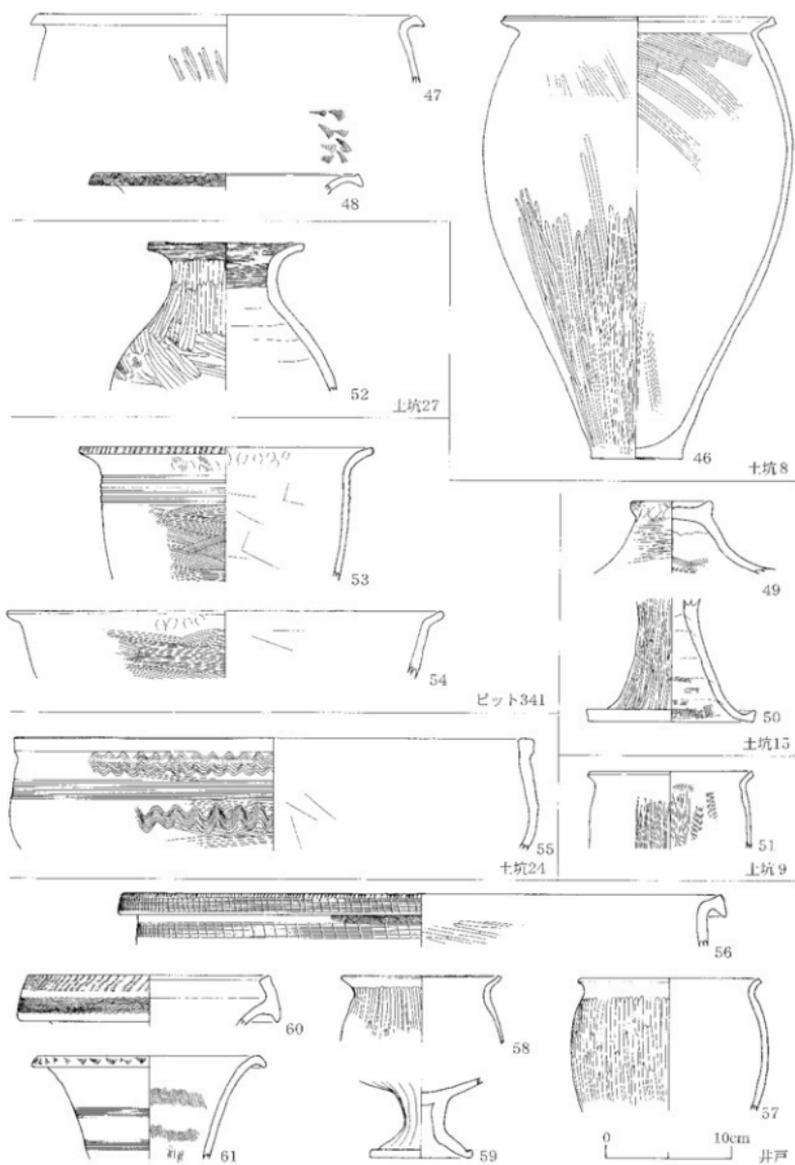
43は鉢である。体部はやや内傾する。口縁部が短く外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部に櫛描列点文を施す。体部に簾状文を施す。3帯が残る。体部内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

44は甕である。体部がやや大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

層位不明 (第41図45)

45は甕である。体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は上方へ拡張し、面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

十坑8 (第42図46～48)



第42図 8上区土坑8・9・15・24・27、ビット341、井戸出土土器実測図

甕・壺の器種がある。

46・47は甕である。46は底部が平底である。体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に1条の凹線文を施す。体部外面の上半はハケメの後ナデ調整、下半はヘラミガキ調整する。内面の上半はハケメ調整、下半はナデ調整する。47は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

48は甕である。口縁部が大きく外反し、口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に1帯の櫛波状文、口縁部内面に2帯の扇形文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑9（第42図51）

51は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑15（第42図49・50）

甕蓋・高杯の器種がある。

49は甕蓋の摘み部である。上面は凹み、体部は大きく開く。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。中期。生駒西麓産。

50は高杯の脚部である。裾部は強く立ち上がり、柱状部との境が不明瞭である。柱状部は中空である。裾端部は上方へ拡張する。脚部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑24（第42図55）

55は鉢である。体部は内傾する。口縁端部が段を持つ。体部外面はハケメの後ナデ調整し、櫛波直線文と波状文とを施す。3帯が残る。内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑27（第42図52）

52は甕である。体部の張りが大きく、頸部が上方へ伸びる。口縁部は大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に部分的な刻み目を施す。口縁部内外面はハケメ調整する。頸部から体部の外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑30（第43図64）

64は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部はゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

井戸（第40・43図14・56～61）

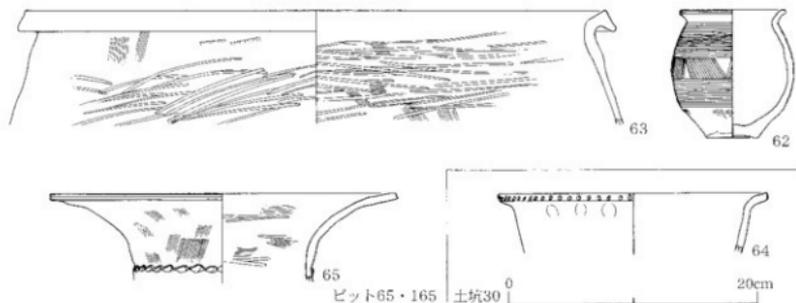
鉢・甕・高杯・壺の器種がある。

56は鉢である。体部が上方へ伸び、口縁部は短く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目と1帯の櫛波扇状文を施す。体部に扇状文を施す。1帯が残る。体部外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

57・58は甕である。体部の張りがやや大きく、口縁部がやや強く外反する。口縁端部は57が面を持ち、58が丸く終わる。体部外面はヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

59は高杯の脚部である。裾部の立ち上がりはゆるく、柱状部は上方へ伸びる。柱状部は中空である。裾端部はやや上方へ拡張する。脚部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

14・60・61は甕である。14は底部が平底である。体部は縦長の球形を呈する。口頭部は短く外反



第43図 8 T区ビット65・165、土坑30出土土器実測図

し、口縁端部が丸く終わる。無文の壺である。体部外面はヘラミガキ調整、内面は下半をハケメ調整、上半をナデ調整する。60は口縁端部を上下へ大きく拡張する。口縁端部は幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描列点文と波状文を施す。61は口頸部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に1帯の櫛描扇形文、頸部に直線文を施す。直線文は2帯が残る。口頸部外面はナデ調整、内面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ビット65 (第43図62・65)

62・65は壺である。62は底部がやや凹む平底である。体部の張りが少なく、縦長の球形を呈する。口縁部が短く外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文を施す。体部には上に20条、下に15条の沈線文とその間に山形文を施す。ヘラ描文様は極端に細い。外面に赤色塗料を施す。体部外面はハケメ調整の後ナデ調整、内面はナデ調整する。65は口縁部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文、頸部に貼り付け凸帯を廻らした後、指による押圧を施す。口頸部外面はハケメの後ナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。Ⅰ様式。62は生駒西麓産。65は非河内産。ビット165 (第43図63)

63は壺である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ビット341 (第42図53・54)

壺・鉢の器種がある。

53は壺である。体部の張りが少なく、口縁部は大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に6条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。

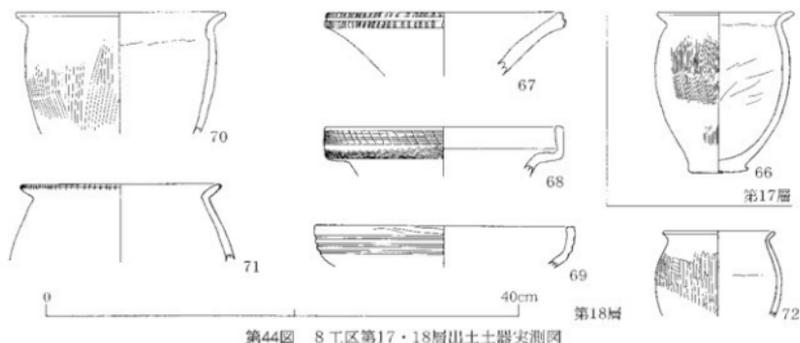
54は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部はゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

遺物包含層出土器

第17層 (第44図66)

66は壺である。底部は平底である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

第18層 (第44図67～72)



第44図 8丁区第17・18層出土土器実測図

壺・高坏・甕の器種がある。

67・68は壺である。67は口頸部が大きく外上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文と両端に刻み目を施す。口頸部内外面はナデ調整する。68は口縁端部を上方へ大きく拡張する。口縁端部は幅広い面を持つ。口縁端部に櫛描簾状文と波状文を施す。67はⅠ様式、68はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

69は高坏である。浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁部に3条の凹線文を施す。坏部内外面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

70～72は甕である。70は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。71・72は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。71は口縁端部に刻み目を施す。体部内外面はナデ調整する。72は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

第19層 (第45図73～78)

壺・甕の器種がある。

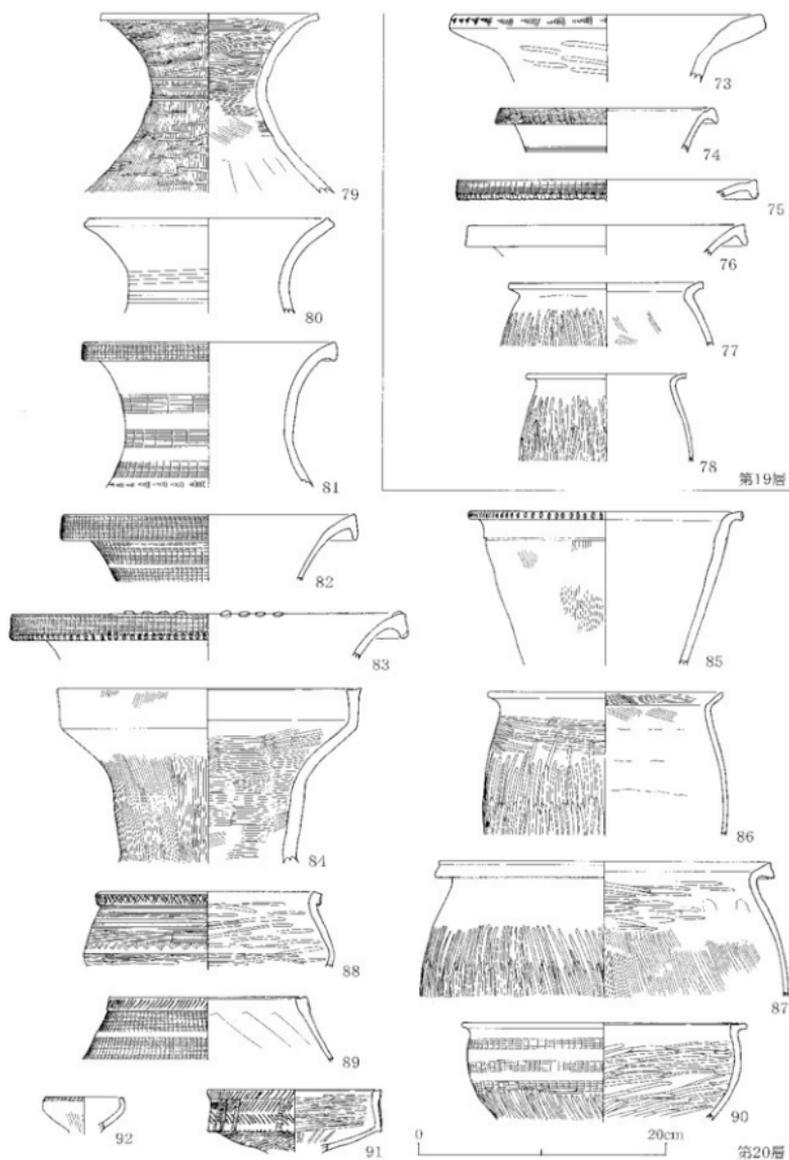
73～76は壺である。73は口頸部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部に櫛描扇形文を施す。口頸部外面はヘラミガキ調整、内面は風化が著しく調整法は不明。74～76は口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部には櫛描文様や刻み目を施すものと無文のものがある。73はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

77・78は甕である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

第20層 (第45図79～92)

壺・甕・鉢・無頭壺の器種がある。

79～84は壺である。79は体部の張りが大きく、口頸部が外上方へ長く伸びる。口縁端部は面を持つ。頸部に3条のヘラ描沈線文を施す。外面と口頸部内面はハケメの後ヘラミガキ調整、体部内面はナデ調整する。80は頸部が筒状を呈し、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。頸部に櫛描直線文を施す。2帯が残る。風化が著しく調整法は不明。81～83は口頸部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描簾状文を施す。83は口縁端部に刻み目、口縁部内面に4ヶ1単位の円形浮文を加える。84は頸部が筒状を呈し、口縁端部を上方へ大きく拡張する。口縁端部は幅広い面を持つ。頸部内外面はハケメ調整する。79はⅠ様式、80はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。84は



第45图 8上K第19·20层出土器实测图

非河内産、他は生駒西麓産。

85～87は甕である。85は体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部はやや丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に1条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメの後ナデ調整、内面はナデ調整する。86は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。87は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部外面はヘラミガキ調整、内面は上半をヘラミガキ調整、下半をハケメ調整する。85はⅠ様式、86はⅡ様式、83はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

88・90～92は鉢である。88は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部にヘラ描斜格子文、体部に3体の櫛描直線文と1帯の扇形文を施す。櫛描文様帯間は研磨する。体部内外面はヘラミガキ調整する。90は体部の張りが少なく、口縁部が短く外折する。口縁端部はやや面を持つ。体部に3帯の櫛描麻状文を施す。体部内外面はヘラミガキ調整する。91は体部中位に強い段が付き、上半が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部に1帯、体部に2帯の櫛描列点文を施す。体部の段に刻み目を加える。また、体部には3ヶ1単位の棒状浮文を貼り付け、刻み目を施す。内外面はヘラミガキ調整する。92はミニチュアの鉢である。口縁部は内湾し、口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。92は中期、他はⅢ～Ⅳ様式。92は非河内産、他は生駒西麓産。

89は無頸壺である。体部は大きく内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部に櫛描列点文、体部に簾状文を施す。簾状文は2帯が残る。体部内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

第21層（第46図93～107）

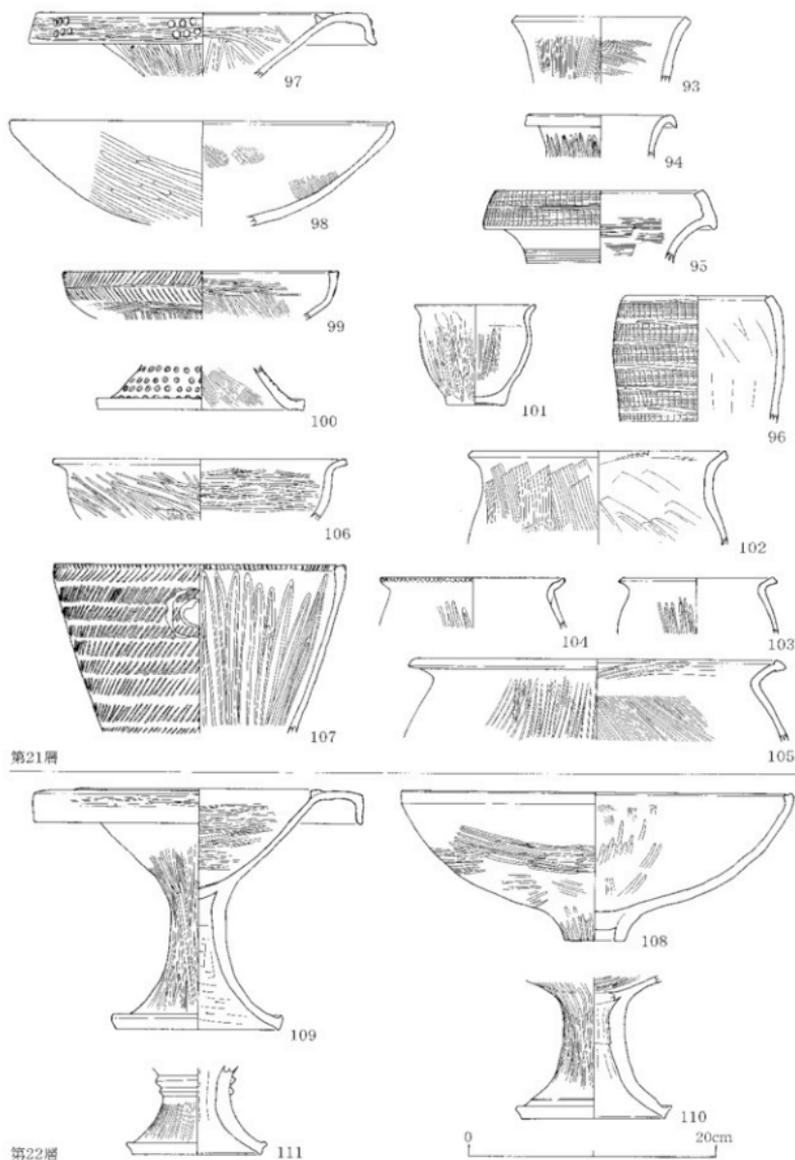
壺・細頸壺・高環・甕・鉢の器種がある。

93～95は壺である。93は口頸部が外上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。口頸部内外面はハケメ調整する。94は口頸部が外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口頸部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。95は口頸部が大きく外反し、口縁端部を上下へ拡張する。口縁端部が幅広の面を持つ。口縁端部に2帯の櫛描簾状文と頸部に直線文を施す。直線文は1帯が残る。文様帯間は研磨する。頸部内面はハケメ調整する。93はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

96は細頸壺である。口頸部が内湾し、口縁端部は面を持つ。口頸部に櫛描簾状文を施す。6帯が残る。文様帯間は研磨する。内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

97～100は高環である。97は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部が水平方向に伸びる。口縁端部は下方へ大きく拡張する。口縁部と環部の内面境には凸帯を廻らす。口縁端部には6ヶ1単位の冂形浮文を貼り付ける。内外面はヘラミガキ調整する。98・99は浅い椀状を呈する環部である。口縁端部は面を持つ。99は口縁部に2帯の櫛描列点文を施す。98は外面をヘラミガキ調整、内面をハケメの後ナデ調整する。99は内外面をハケメの後ヘラミガキ調整する。100は脚部である。裾部の立ち上がりはやや強く、裾端部を上方へ拡張する。裾部に竹管文を施す。内面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。97は非河内産、他は生駒西麓産。

101～105は甕である。101は底部が平底である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。102は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。103～105は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。104は口縁端部に刻み目を施す。104・105は体部外面をヘラミガキ



第46图 8工区第21·22层出土土器尖刺图

調整、内面をナデ調整する。106は体部内外面をハケメ調整、口縁部内面をヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。101・102はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

106・107は鉢である。106は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。107は体部が外上方へ伸び、口縁部がわずかに内湾する。口縁端部は面を持つ。口縁端部の両端に刻み目、体部に櫛描列点文を施す。列点文は9帯が残る。外面には把手の剝離痕が残る。体部内面はジグザグ状のヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。
第22冊（第46～48図108～132）

高坏・壺・無頸壺・細頸壺・甕・鉢の器種がある。

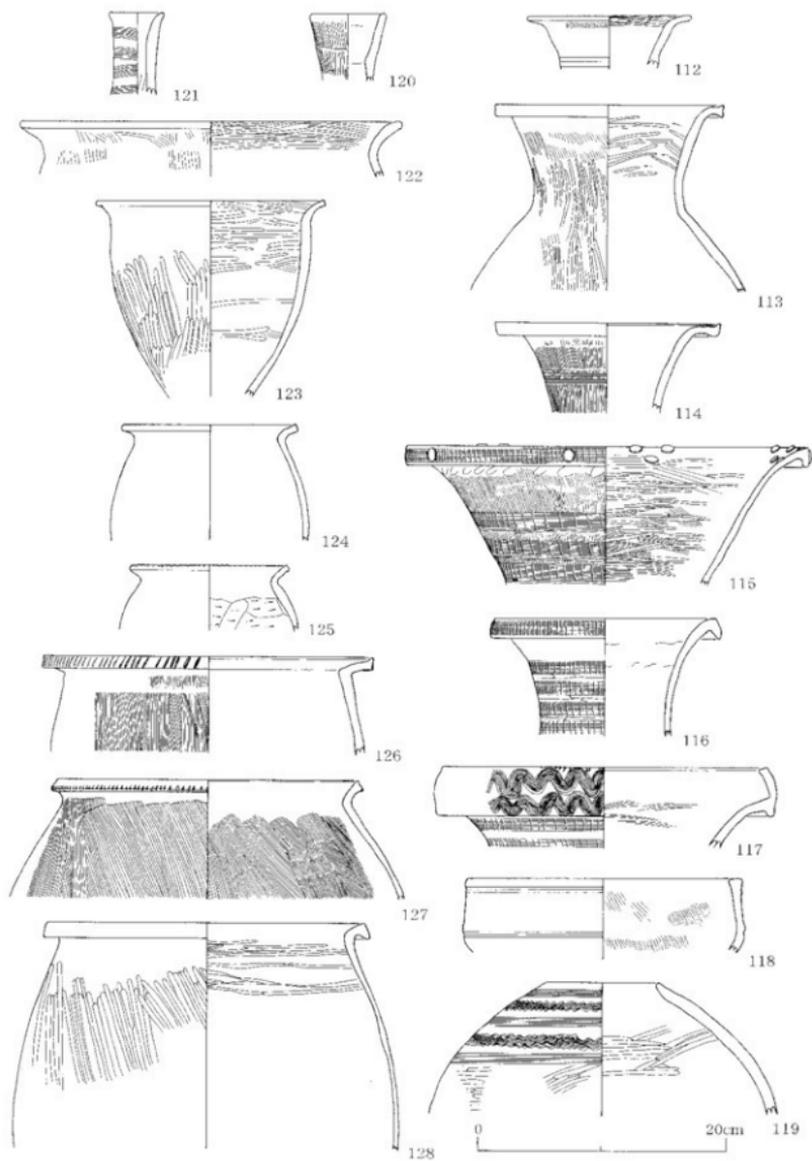
108～111は高坏である。108は浅い碗状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。柱状部がわずかに残るが、二次加工を施し研磨する。破損後に転用されたと考えられる。内外面はヘラミガキ調整する。109は裾部の立ち上がりが強く、柱状部と裾部の境が不明瞭である。裾端部は上下へ拡張する。坏部は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部が水平方向に伸びる。口縁端部は下方へ大きく拡張する。口縁部と坏部の内面境には凸帯を廻らす。外面と坏部内面はヘラミガキ調整、脚部内面はヘラケズリ調整する。110・111は脚部である。裾部の立ち上がりが強く、柱状部と裾部の境が不明瞭である。裾端部は上方へ拡張する。111は脚部と坏部の境に2条の凸帯を貼り付ける。110は外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。112は外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

112～118は壺である。112は口頸部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。頸部に幅広の櫛描直線文を施す。1帯が残る。外面はハケメの後ナデ調整、内面は口縁部をヘラミガキ調整、頸部をナデ調整する。113は体部の張りが大きく、頸部が外上方へ伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。無文の壺である。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面は頸部をヘラケズリの後ヘラミガキ調整、体部をナデ調整する。114は頸部が外上方へ伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部はわずかに上方へ拡張する。外面に櫛描直線文を施す。2帯が残る。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。115・116は口頸部が大きく外反し、口縁端部は下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描簾状文を施す。115は口縁端部と口縁部内面に円形浮文を貼り付ける。頸部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。116は内外面をナデ調整する。117は口頸部が外上方へ伸び、口縁端部は上下へ大きく拡張する。口縁端部は幅広の面を持つ。口縁端部に2帯の櫛描波状文と頸部に簾状文を施す。波状文は回転を利用しておらず、上下を交互に弧描いて施文する。簾状文は2帯が残る。内面はハケメの後ナデ調整する。118は口縁端部を上方へ大きく拡張する。口縁端部は幅広の面を持つ。口縁端部に2条の凹線文を施す。112はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。114は非河内産、他は生駒西麓産。

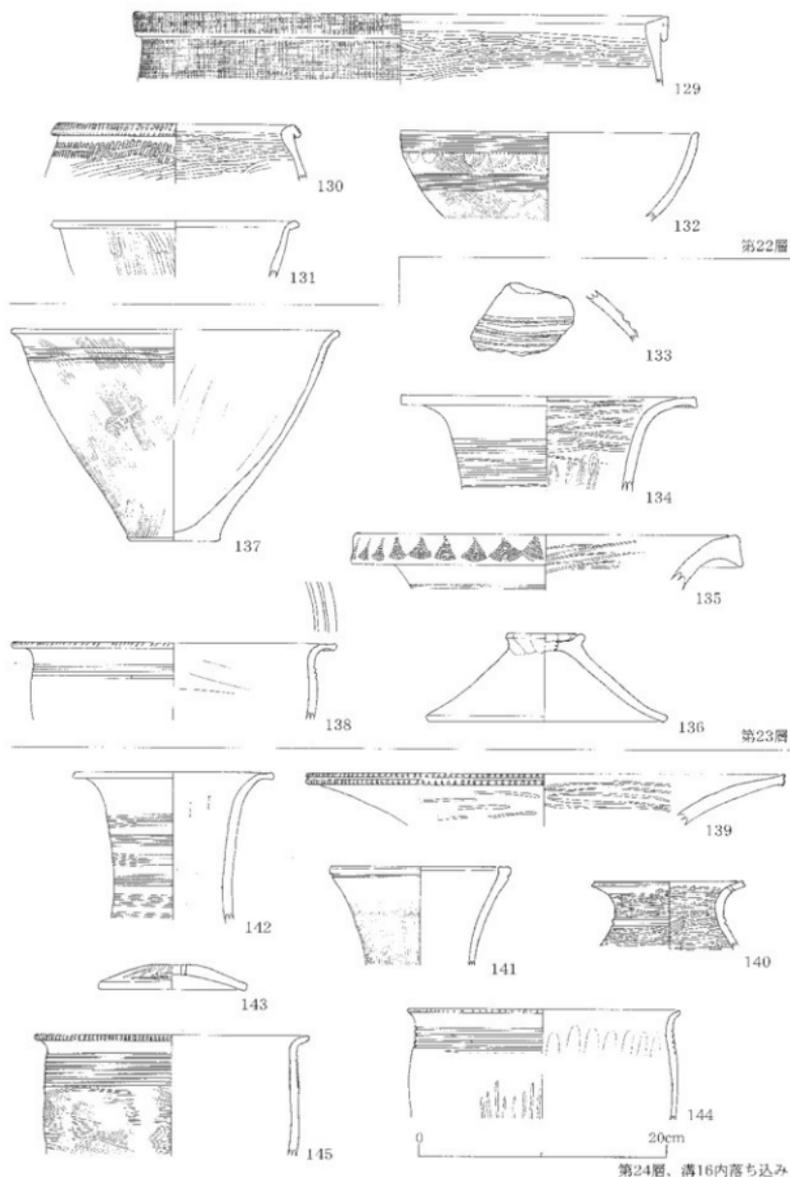
119は無頸壺である。体部の張りが大きく、口縁端部が丸く終わる。所謂、擬口縁である。体部に櫛描直線文と波状文を施す。5帯が残る。体部外面の上半はナデ調整、下半はヘラミガキ調整する。内面はナデ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

120・121は細頸壺である。口頸部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。120は頸部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。121は頸部外面に櫛描直線文を施す。4帯が残る。内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。120は生駒西麓産。121は非河内産。

122～128は甕である。122は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。123は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。124・125・127は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。125・127は口縁端部に刻み目を施す。124は風化が著しく調整法は不明。125は体部外面をナデ調整、内面をヘ



第47图 8工区第22层出土器类测图



第48図 8工区第22~24層、溝16内落ち込み出土土器実測図

ラケズリ調整する。127は体部内外面をハケメ調整する。126は体部の張りが少なく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。128は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部外面と内面の上半はヘラミガキ調整、下半はナデ調整する。122・123はⅡ様式、他はⅢ様式。生駒西麓産。

129～132は鉢である。129は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部に1帯の櫛描簾状文と円形刺突文を施す。体部に簾状文を施す。1帯が残る。体部内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。130は体部が内傾する。口縁部が強く外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部に櫛描刺突文と刻み目を施す。体部に刺突文を施す。1帯が残る。体部内外面はヘラミガキ調整する。131は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。132は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部はやや丸く終わる。外面に6条と8条のヘラ描沈線文を施し、その間に半円形の細い竹管文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。129・130はⅢ様式、131はⅡ様式、132はⅠ様式。132は非河内産、他は生駒西麓産。

第23層（第48図133～138）

壺・甕蓋・甕の器種がある。

133～135は壺である。133は破片であるが体部上半と考えられる。外面に3条の刻み目凸帯が残る。体部と凸帯の胎上が異なる。体部が茶褐色、凸帯が桃灰色の色調を呈する。134は頸部が細く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。頸部に櫛描直線文を施す。2帯が残る。頸部内外面はヘラミガキ調整する。135は口頸部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描扇形文、頸部に直線文を施す。直線文は1帯が残る。内面はヘラミガキ調整する。133はⅠ様式、134はⅡ様式、135はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

136は甕蓋である。摘み部の上向は凹む。体部がゆるく立ち上がり、口縁端部はやや丸く終わる。体部内外面はナデ調整する。口縁部内面にリング状の煤が行着する。中期。生駒西麓産。

137・138は甕である。137は底部が平底である。体部は張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部に4条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。138は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部に3条、口縁部内面に2条のヘラ描沈線文を施す。体部内外面はナデ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。

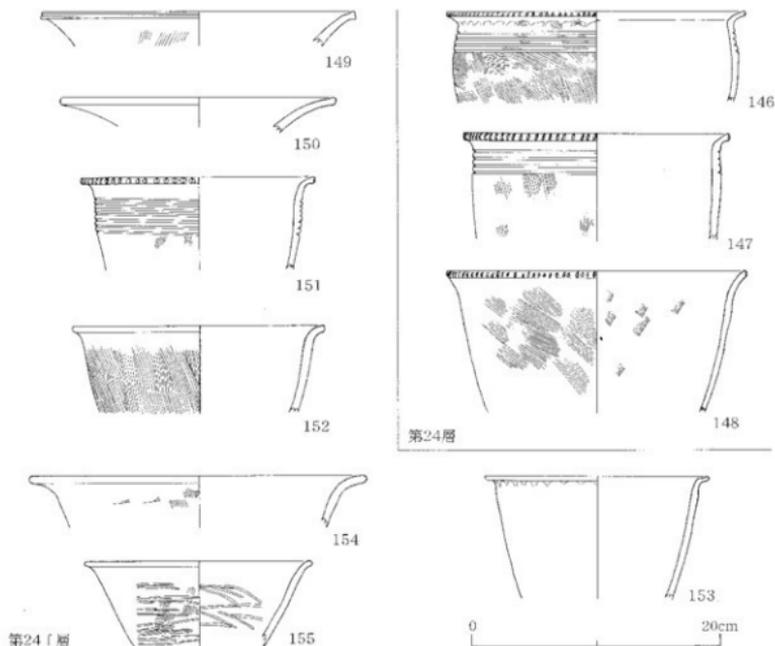
第24層（第48・49図139・140、142～148）

壺・甕蓋・甕の器種がある。

139・140・142は壺である。139は口縁部が外上方へ伸びる。口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文と両端に刻み目を施す。内外面はヘラミガキ調整する。140は体部がやや張り、口頸部が短く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文を施す。頸部に2条の沈線文を施し、その間を段状にする。口縁部に小円孔を穿つ。内外面はヘラミガキ調整する。142は頸部が細長く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。外面に櫛描直線文を施す。6帯が残る。頸部内外面はナデ調整する。139・140はⅠ様式、142はⅡ様式、生駒西麓産。

143は壺蓋である。体部の立ち上がりはゆるい。口縁端部は丸く終わる。中央部に小円孔を1孔穿つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。

144～148は甕である。144～147は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸



第49図 8工区第24・24f層出土土器実測図

く終わる。口縁端部に刻み目、体部に4～9条のヘラ描沈線文を施す。144は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。145～147は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。148は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。144～147はⅠ様式、148はⅡ様式。生駒西麓産。

第24f層（第49図149～155）

壺・罍・鉢の器種がある。

149・150は壺である。149は口縁部が外上方へ伸びる。口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文を施す。外面はハケメの後ナデ調整する。150は口縁部が外上方へ伸びる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。149はⅠ様式、150はⅡ様式。生駒西麓産。

151～153は罍である。151は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に7条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメの後ナデ調整、内面はナデ調整する。152は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。153は体部の張りは少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はナデ調整する。151はⅠ様式、152・153はⅡ様式。生駒西麓産。

154・155は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。154は体部外面をハケメの後ナデ調整、内面をナデ調整する。155は体部内外面をヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

壺・細頸壺・無頸壺・鉢・甕蓋・脚部・高坏・甕の器種がある。

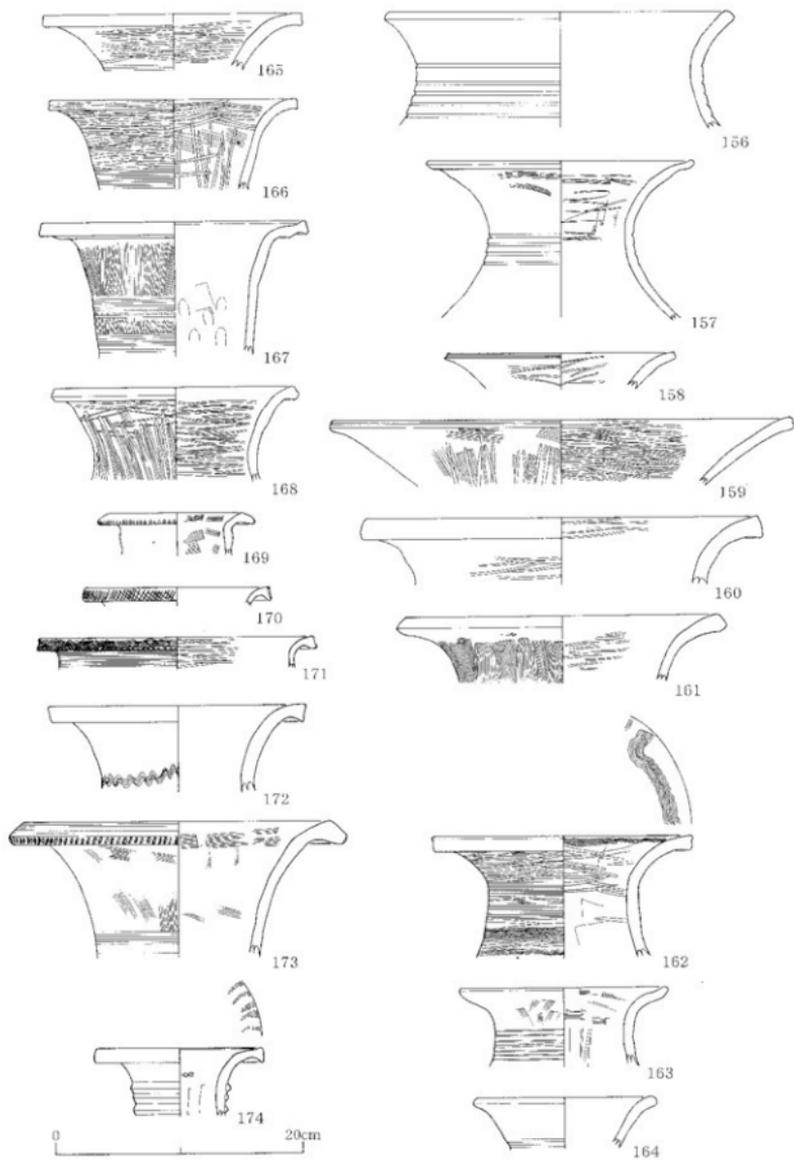
156～189は壺である。156～159は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。口縁端部や頸部にヘラ描沈線文を施す。内外面はヘラミガキ調整するものが多い。160～162は頸部が筒状を呈し、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。162は頸部と口縁部内面に櫛描文様を施す。内外面はヘラミガキ調整するものが多い。163～167は頸部が細く、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。頸部に櫛描直線文を施す。内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。168～173は口頸部が大きく外反し、口縁端部をやや下方へ拡張する。口縁端部や頸部に櫛描文様や刻み目を施す。内外面はナデ調整する。174は頸部が筒状を呈し、口縁部が大きく外反する。口縁端部は摘み上げ気味に上方へ拡張する。口縁部内面に櫛描扇形文、頸部に凸帯を施す。凸帯は3条残る。内外面はナデ調整する。175～181は口頸部が大きく外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部には櫛描簾状文を施すものが多い。179・180は円形浮文を加える。内面はナデ調整するものが多い。182～188は口縁端部を上へ大きく拡張する。口縁端部は幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描文様を施す。円形刺突文や刻み目を施すものもある。189は口縁端部を上方へ大きく拡張する。口縁端部は幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描簾状文と波状文を施す。156～159はⅠ様式、160～167はⅡ様式、168～189はⅢ～Ⅳ様式。156・172・173・188・189は非河内産、他は生駒西麓産。

190～195は細頸壺である。口頸部がやや外反するもの、上方へ直線的に伸びるもの、内湾気味に立ち上がるものがある。口縁端部は丸く終わるものが多いが、面をもつものもある。190・193・194は頸部に櫛描文様を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。190・193は非河内産、他は生駒西麓産。

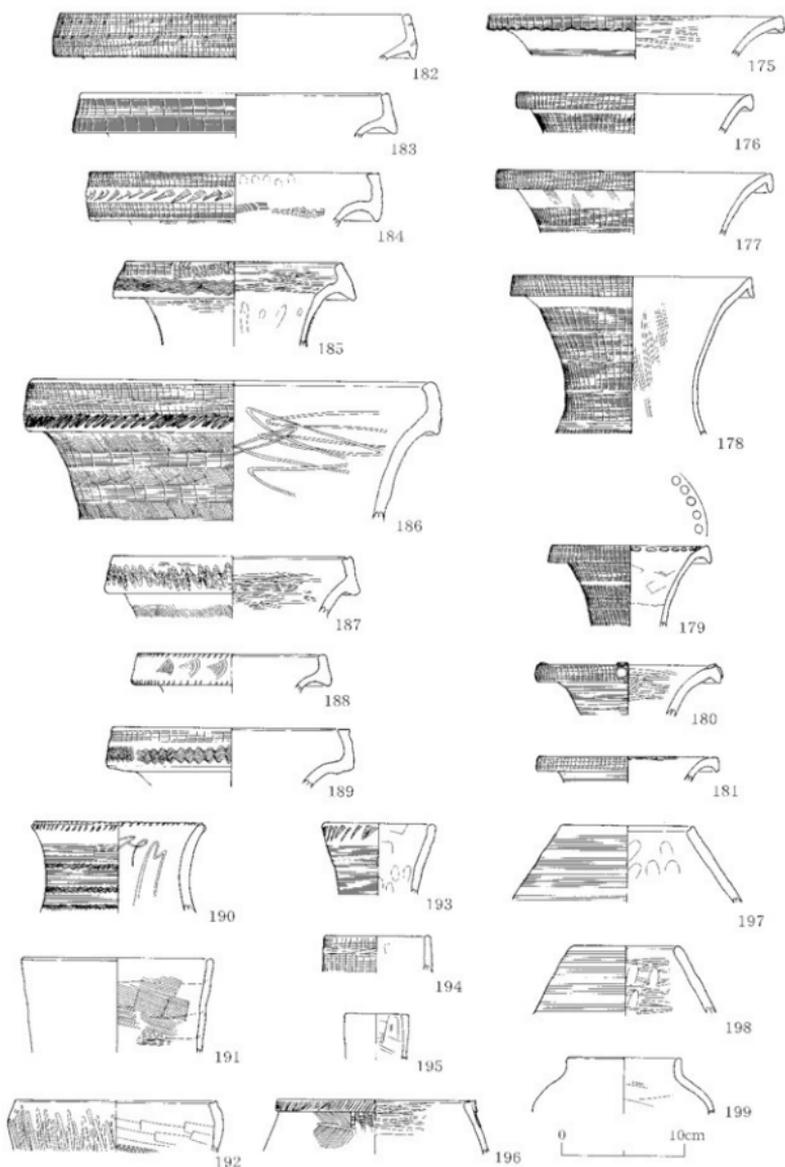
196～199は無頸壺である。197・198は体部の張りが大きく、口縁端部が丸く終わる。所謂、擬口縁である。体部に櫛描直線文を施す。4帯が残る。体部外面はナデ調整、内面は197がナデ調整、198がヘラミガキ調整する。199は体部の張りが大きく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。199は非河内産、他は生駒西麓産。

200～216は鉢である。200は体部が外上方へ伸び、口縁端部が丸く終わる。口縁部直下に1帯の凸帯とその下に4条のヘラ描沈線文を施す。凸帯に1条の沈線を廻らし、上下に刻み目を施す。体部内外面はハケメ調整する。201・202は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。201は体部内外面をヘラミガキ調整する。202は体部外面をハケメの後ヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。203～213は体部が上方へ伸びるものと内傾するものがある。口縁部は短く外反し、口縁端部が面を持つ。大部分は櫛描文様を施すが、凹線文や刻み目を加えるものもある。212は無文である。ヘラミガキ調整するものが多い。214は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。体部に櫛描直線文と扇形文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。215は脚と把手の付く鉢である。体部が大きく外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部は面を持つ。脚部は直線的に下へ伸びる。裾端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に櫛描列点文を施す。文様帯間には研磨する。脚部には三角形と逆三角形の透かし孔を交互に穿つ。透かし孔は9ヶ所ある。把手の一部が体部に残る。内面はヘラミガキ調整する。216はミニチュアの鉢である。体部が外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はナデ調整する。200はⅠ様式、201・202はⅡ様式、203～215はⅢ～Ⅳ様式、216は中期。214は非河内産、他は生駒西麓産。

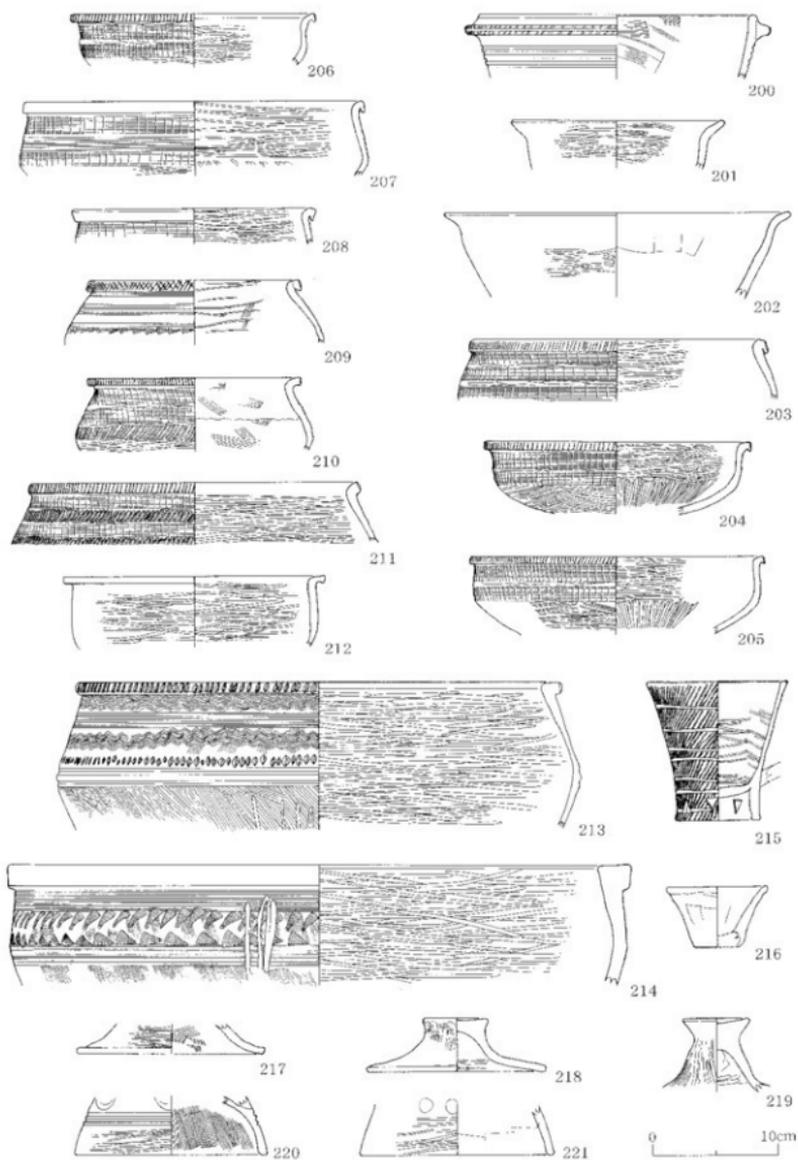
217～219は甕蓋である。217は体部がゆるく立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。218は上面がやや凹み部が付く。体部はゆるく立ち上がり、



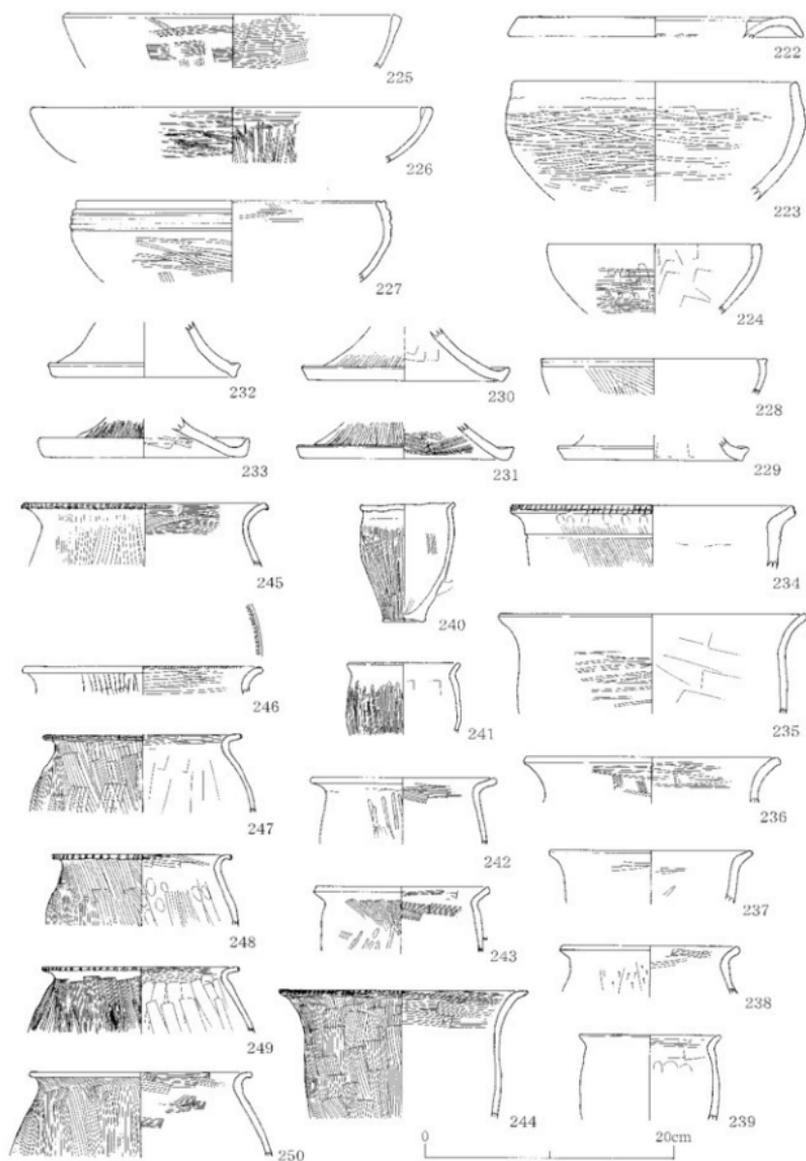
第50图 8工区第17~27层出土土器尖刺图



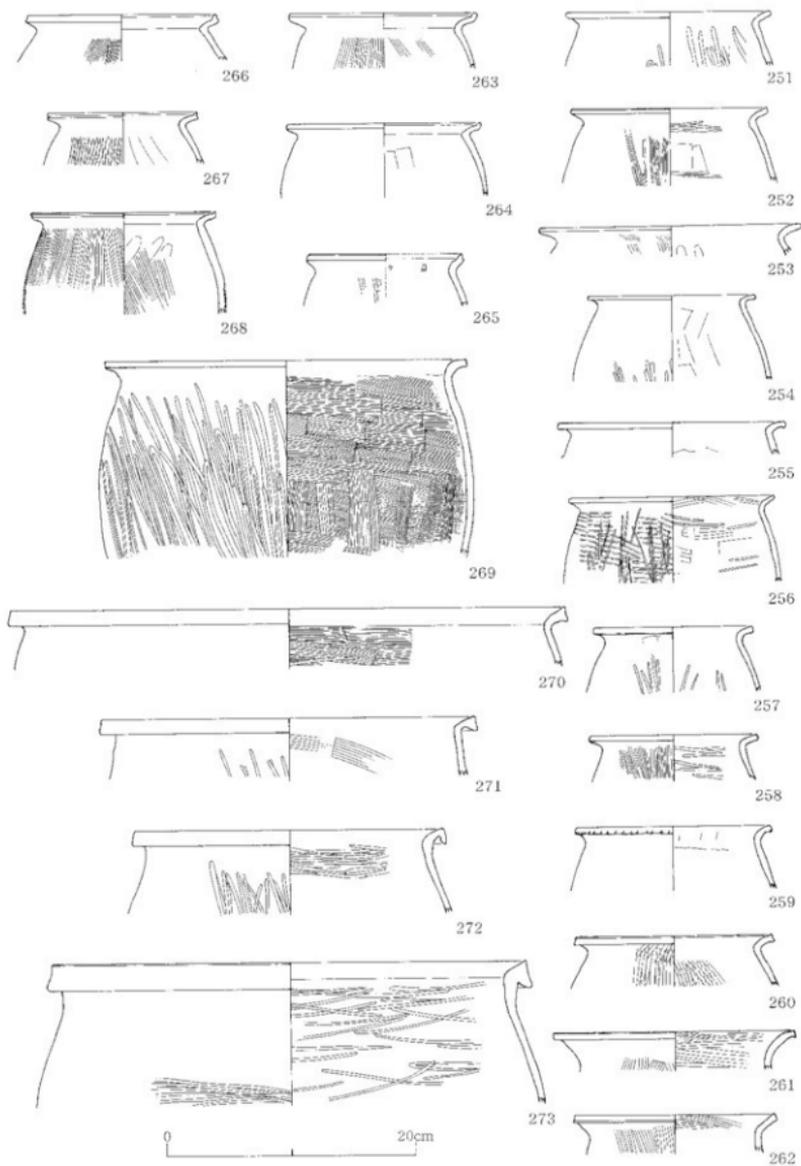
第51图 8工区第17~27层出土土器尖刃器



第52图 8工区第17~27层出土土器实测图



第53图 8世纪第17~27层出土土器尖测图



第54图 8工区第17~27层出土土器实例区

口縁端部が面を持つ。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。219は摘み部であり、上面が凹む。体部内外面はヘラミガキ調整する。中期。生駒西麓産。

220・221は脚部である。220は台付無頸壺の脚部と考えられる。脚部は大きく内湾する。3条の凹線文と円形の透かし孔を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。221は裾部がやや内傾して立ち上がる。裾端部はやや丸く終わる。小円孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

222～233は高坏である。222は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部が水平方向に伸びる。口縁端部は下方へ拡張する。体部外面はナデ調整、内面はハケメ調整する。口縁部と坏部の内面境には凸帯を廻らす。223・224は浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は丸く終わる。223は体部外面をヘラミガキ調整、内面をヘラケズリの後ヘラミガキ調整する。224は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。225～228は浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。227は口縁部に4条の凹線文を施す。229～233は脚部である。裾端部を上方向へ拡張する。内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。222・223はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。225は非河内産。他は生駒西麓産。

234～273は甕である。234は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に1条のヘラ挿沈線文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。235～243は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものが多い。体部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。244～250は体部の張りが少ないものとやや張るものがある。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。244～249は口縁端部に刻み目を施す。251～259・269は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つものが多い。体部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多いが、256は外面をタタキ調整する。259は口縁端部に刻み目を施す。260～262は体部の張りが大きく、口縁端部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。263～268は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は摘み上げ気味に上方へ拡張する。体部内外面はハケメ調整やナデ調整するものが多い。270～273は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。234はⅠ様式、235～250はⅡ様式、251～273はⅢ～Ⅳ様式。234・244～248・261は非河内産、他は生駒西麓産。

古墳時代以降の土器

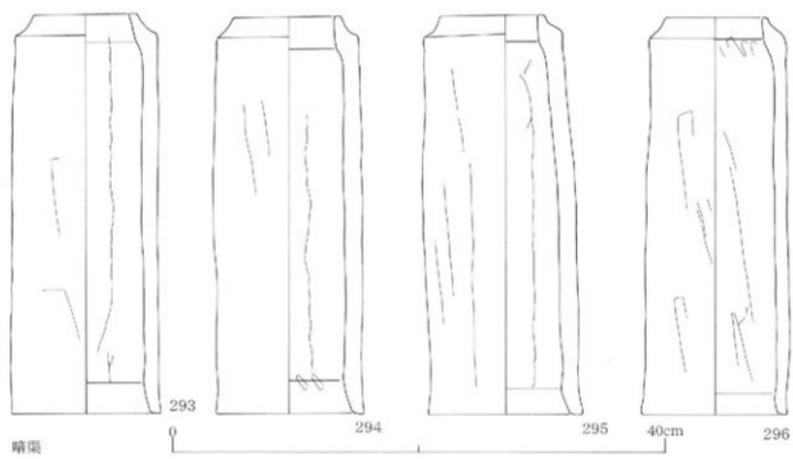
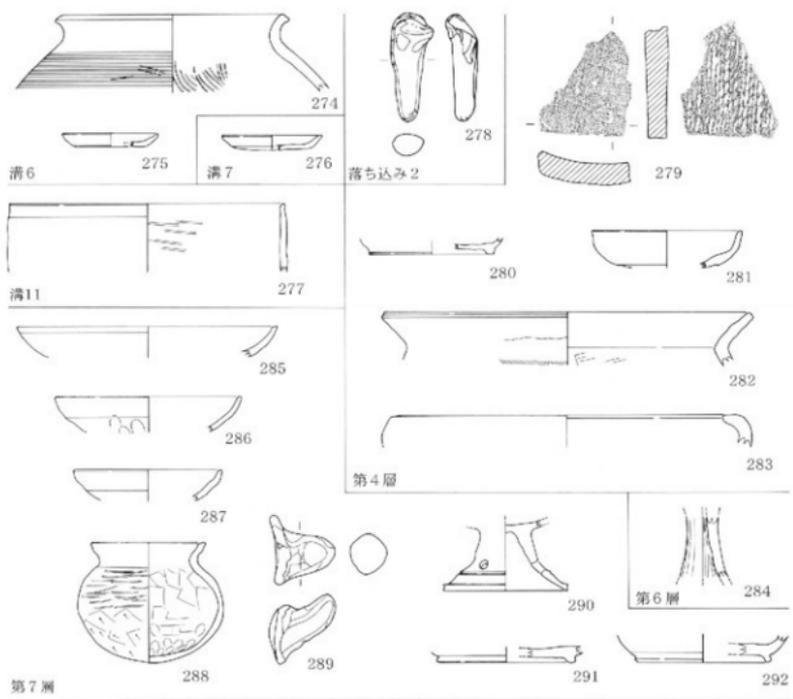
古墳時代～近世期の土器が出土した。瓦と土管もこの項で説明する。土器は須恵器・土師器・瓦器があり、弥生時代の遺物包含層より上の遺構と遺物包含層より出土した。

遺構出土土器

溝6 (第55図274・275)

須恵器・土師器がある。274は須恵器の甕である。体部の張りは大きく、口縁部が短く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はカキメ調整、内面はナデ調整するが、タタキ調整の当て具痕が残る。古墳時代。

275は土師器の皿である。口縁部が内傾しながら立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中世期。



第55図 8工区溝6・7・11、落ち込み2、暗渠、第4・6・7層出土土器実測図

溝7 (第55図276)

276は土師器の皿である。口縁部が外反しながら立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中世期。

溝11 (第55図277)

277は土師器の甑である。体部が直立気味に立ち上がり、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。奈良時代。

落ち込み2 (第55図278)

278は瓦器の羽釜である。三足の羽釜脚部である。下部に向かって細くなる。外面はナデ調整し、上部に接合時の指頭圧痕が残る。中世期。

暗渠 (第55図293~296)

293~296は瓦質の土管である。体部は筒状を呈し、上部は外反しながら内傾する。端部はやや面を持つ。下部は内面が外反する。端部は面を持つ。体部外面はナデ調整、内面は布圧痕を残す。上部はココナデ調整、下部内面はヘラケズリ調整する。近世期。

遺物包含層出土土器

第4層 (第55図279~283)

瓦・須恵器・土師器・瓦器がある。

279は平瓦である。凸面を縄目によるタタキ調整、凹面は布圧痕を残す。奈良時代。

280・281は須恵器の坏である。280は坏の底部である。高台は逆台形を呈する。内外面は回転ナデ調整する。281は体部が丸く、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面は回転ナデ調整する。奈良時代。

282は土師器の甕である。口縁部が大きく外折する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケム調整、内面はナデ調整する。奈良時代。

283は瓦器の火合である。口縁部が大きく内湾する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中世期。

第6層 (第55図284)

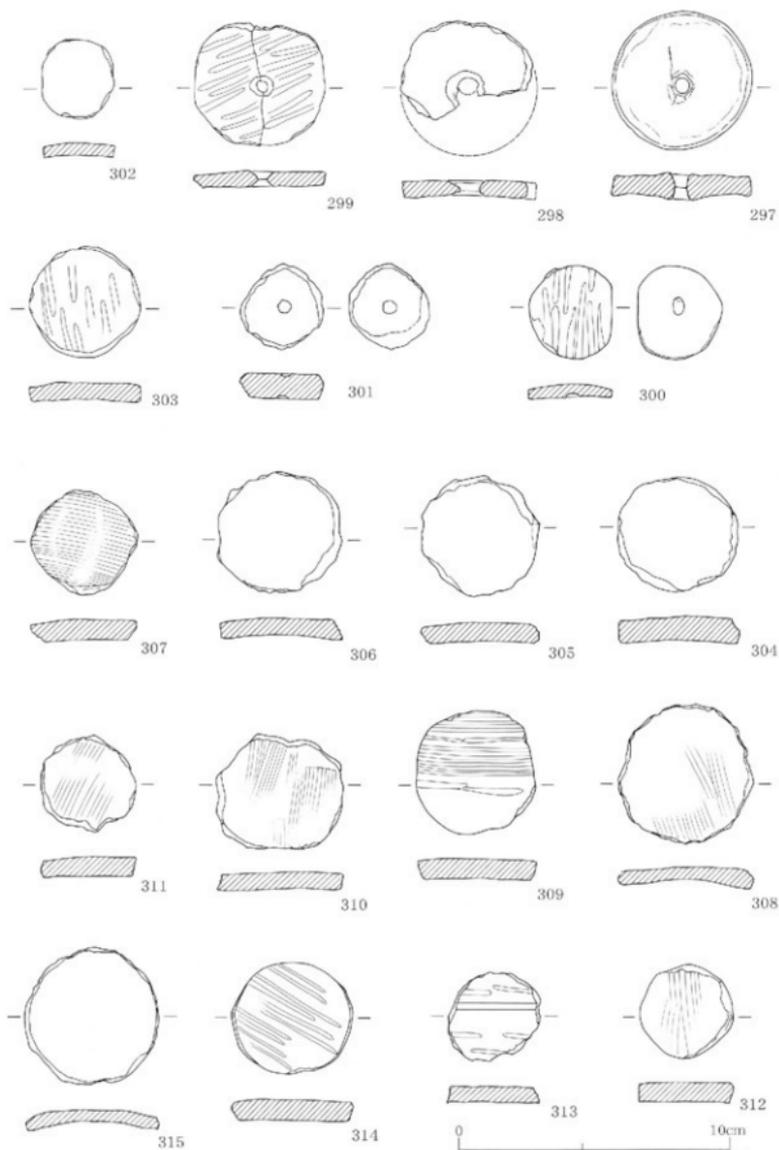
284は土師器の高坏である。脚部であり、下部に向かって開く。外面はナデ調整、内面に絞り痕を残す。古墳時代。

第7層 (第57図285~292)

土師器・須恵器がある。

285~289は土師器である。285は皿である。体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は面を持つ。内外面はナデ調整する。奈良時代。286・287は坏である。やや深い体部より口縁部が内湾する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。平安時代。288は埴である。体部は球形を呈し、底部は丸底である。口縁部は強く外反する。口縁端部は内側へ内傾しながら面を持つ。体部外面の下半はヘラケズリ調整、上半はヘラミガキ調整する。内面はナデ調整するが底部には指頭圧痕が残る。布留式期。289は牛の角状を呈する握手である。外面はナデ調整する。古墳時代。

290~292は須恵器である。290は短脚の高坏である。裾部は下方へゆるく広がり、裾端部が面を持つ。裾部と柱状部の境に1条の凹線文を廻らす。円孔を3孔穿つ。内外面は回転ナデ調整する。古墳時代。291・292は壺の底部である。高台は逆台形を呈する。内外面は回転ナデ調整する。奈良時代。



第56图 8工区土製品実測図

2) 土製品 (第56図297~315)

弥生時代の遺構と遺物包含層などより出土した。紡錘車・紡錘車未成品・円板状土製品がある。

297~299は紡錘車である。297は紡錘車として焼成前に作られている。円の中央に棒輪の孔を穿つ。全体はナデ調整で丁寧に仕上げる。298・299は土器を転用する。円周部を打ち欠いただけのものである。中央に孔を穿つ。径が約5~5.5cmを測る。遺物包含層より出土。

300・301は紡錘車未成品である。破損した土器の円周部を打ち欠いて円形に加工する。300は円周部をさらに研磨する。中央部に孔を穿つが未貫通である。301は円周部を打ち欠いた状態で終わり、中央部に孔を穿つ。両面より穿っているが未貫通である。300は第20層、311は第11層より出土。

302~315は円板状土製品である。破損した土器の円周部を打ち欠いて円形に加工する。打ち欠いただけのものが多いが、円周部をさらに研磨するものもある。上器の器種に関係なく利用されている。径が約4~6cmを測る。313は1様式の土器を使用している。一部は前記した紡錘車として使用されたと考えられる。未掲載の資料も多量にあり、紡錘車の製作途中のものとしてはやや量が多い。310は土坑29、311は土坑18、312はピット332、303・309・315は第22層、304・306は第23層、他は遺物包含層より出土。

3) 石器

弥生時代の遺構と遺物包含層より出土した。一部、縄文時代のものも含まれるが、混入品と考えられる。磨製石器、自然石を利用した石器、打製石器などがある。

磨製石器 (第57・58図316~333)

乳棒状石斧・太型蛤刃石斧・石庖丁・石剣がある。

316は乳棒状石斧である。基部が細く、刃部が幅広である。刃部は両面より研磨し、鋭い。研磨が丁寧であり、光沢を残す。刃部の欠損は使用時のものである。縄文時代である。第22層より出土。

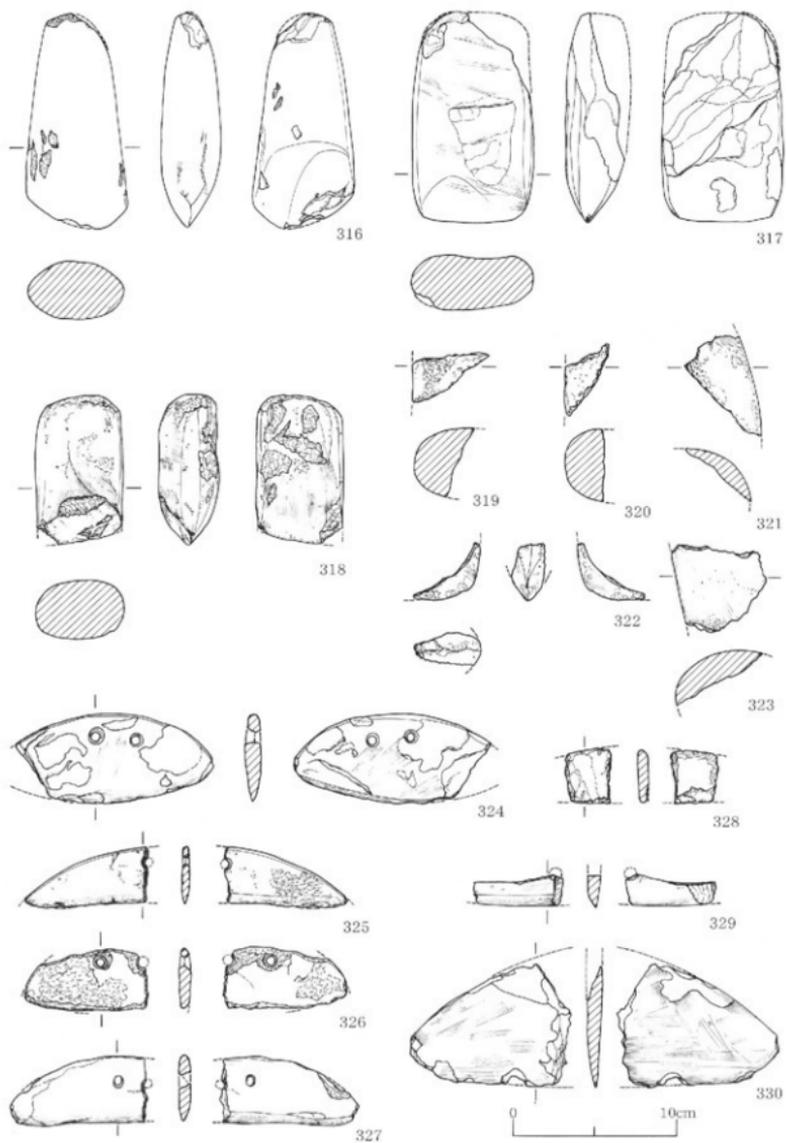
317~323は太型蛤刃石斧である。両面より研磨して刃部を作る。製作時の敲打痕を残すものもあるが研磨は丁寧である。318は使用時の欠損後、片面を再度研磨する。やや片刃となる。322は刃部に使用による刃こぼれがみられる。317は第22層、322・323は第24層、他は遺物包含層より出土。

324~332は石庖丁である。325~329は背が半月形である。刃部は直線的であり、片刃である。背に2孔の紐穴を穿つ。324・330~332は大型石庖丁である。背は半月形のものと同三角形を呈するものがある。刃部は両面より研磨する。背に2孔の紐穴を穿つ。324・327は第21層、326・329は第20層、330・332は第22層、331は第18層、他は遺物包含層より出土。

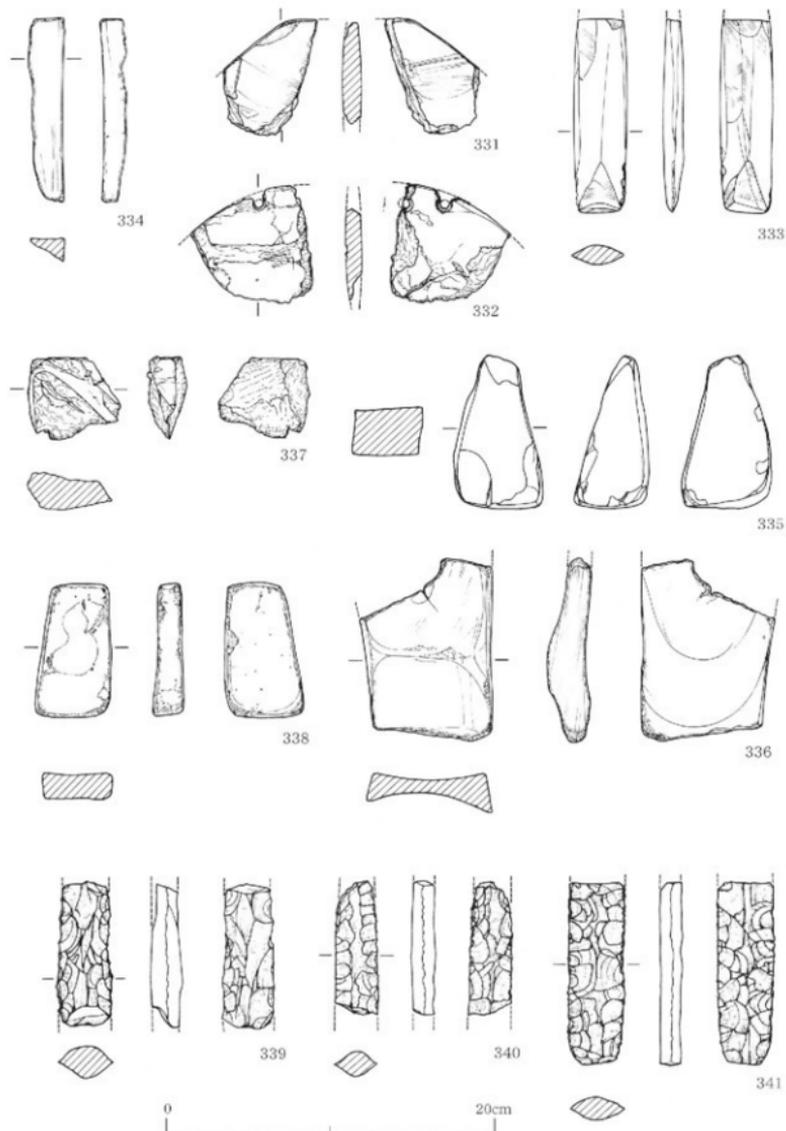
333は石剣である。先端部は欠損する。基部は平基である。基部よりやや上の両面中央に稜を施す。全体を丁寧に研磨する。第22層より出土。

自然石を利用した石器 (第58図334~338)

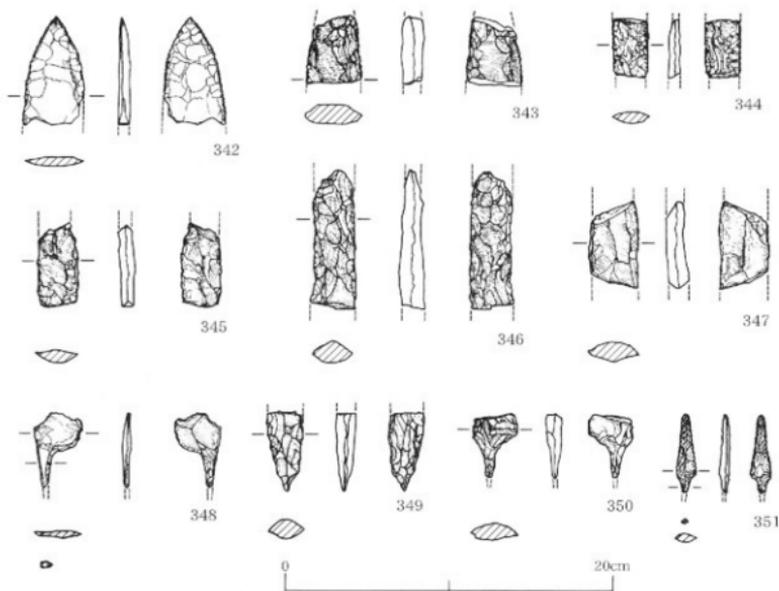
334~338は砥石である。形態はおおむね長方形を呈するが企画性はない。4面を使用するものが多い。337は欠損部が多いが、研磨部はやや溝状を呈する。高熱を受けたと考えられ、やや黒色を呈する。銚型を転用した可能性も残す。336は使用による磨り減りが著しく、大きく凹む。336は井戸、334・335・337は第22層、338は遺物包含層より出土。



第57图 8工区石器实测图



第58图 8工区石器实测图



第59図 8工区石器実測図

打製石器 (第58・59図339~351)

石槍・石錐・石鏃がある。

339~347は石槍である。近年、研究が進み石剣として扱われているものもあるが、石槍として記す。基部は平基である。身幅には大小がある。縁辺は押圧剥離によって調整する。部分的に原面を残すものもある。343は局所的な研磨が残る。342は特に作りが丁寧であり、薄く仕上げる。339は第22層、343は第21層、他は遺物包含層より出土。

348~350は石錐である。基部は荒削りの状態であり、先端部を細長く押圧剥離で整える。349は欠損した石槍の先端部に再加工を施した転用品である。350は風化が著しく灰白色を呈する。348は第23層、349は第21層、350は遺物包含層より出土。

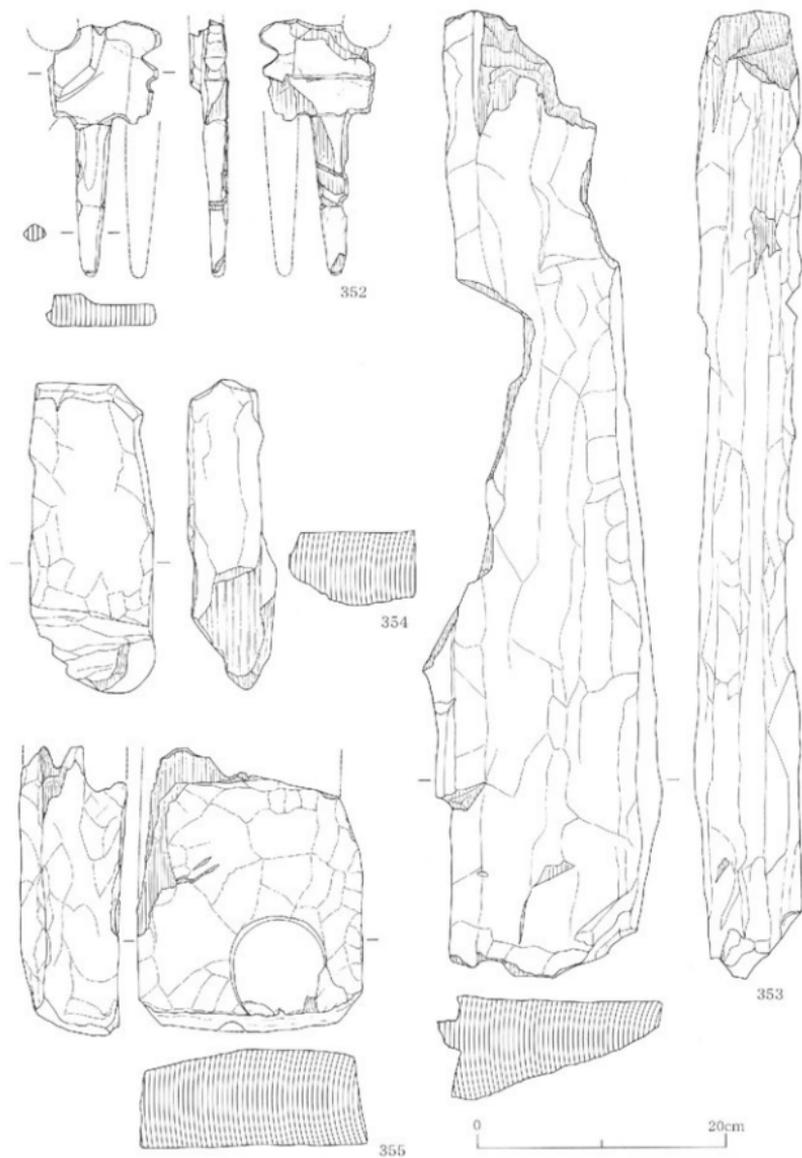
351は茎を有する石鏃である。全体を押圧剥離で細く仕上げる。第20層より出土。

4) 木製品 (第60図352~355)

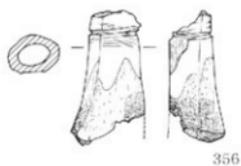
弥生時代の遺物包含層より出土した。横断面の弧は木取りを表す。材質は第11表に記す。

352は又鉞である。身と歯の大部分は欠損する。身は半円形を呈していたと考えられる。側縁の2ヶ所に切り込みを入れる。表面の中央には舟形隆起を施す。舟形隆起には柄を挿入する円孔を穿つ。裏面には段を削り出す。歯は長く、横断面が楕円形を呈する。舟形隆起の位置から考えて5本歯であったと思われる。作りは丁寧である。榫目取りである。第24f層より出土。

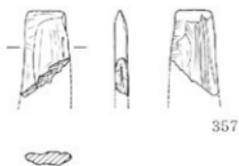
353は農具の原材である。横断面形がみかんの房状を呈する。割り材の段階のものである。木口の両端は削る。榫目取りである。第23層より出土。



第60図 8工区木製品実測図



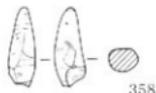
356



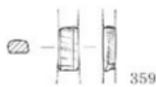
357



360



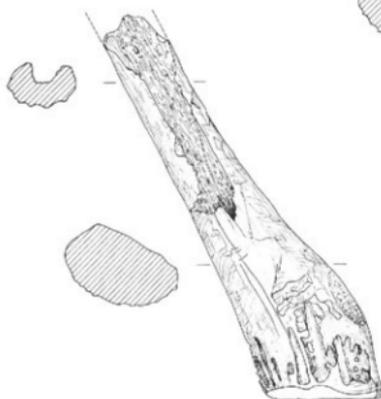
358



359



361



362

第61图 8区骨角製品実測图

354は農具の原材である。周縁部を欠損する。形状は353と同様である。杵目取りである。第24f層より出土。

355は板である。木口的一端を欠損するが長方形を呈し、分厚い。1面に円形に削った跡が残る。杵目取りである。第24f層より出土。

5) 骨角製品 (第61図356~362)

弥生時代の遺構と遺物包含層などより出土した。

356は加工痕の残る骨である。円周部に細い溝を1条削り出す。上部は折り取り、下部は欠損する。材はシカの右脛骨である。攪乱層より出土。

357は板状を呈する骨の小口を両面より削り、鋭い刃とする。下部は欠損する。材はイノシシかシカの胸椎である。井戸より出土。

358は小口的一端を尖らせ、他の一端を丸く削る。全体を研磨する。材はシカの角である。第22層より出土。

359は両端を欠損するが刺突具である。横断面形が楕円形を呈する。材は種不明であるが長骨である。遺物包含層より出土。

360~362は加工痕の残る角である。小口などに削り痕が顕著に残る。361・362は剥落した角である。材はシカの角である。360・361は遺物包含層、362は第22層より出土。

b. 9工区出土遺物

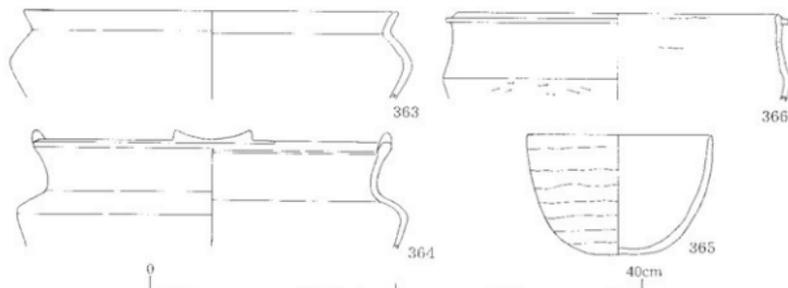
遺物は土器、土製品、石器、木製品、骨角牙製品などがある。以下、各項目ごとに分けて記す。

1) 土器

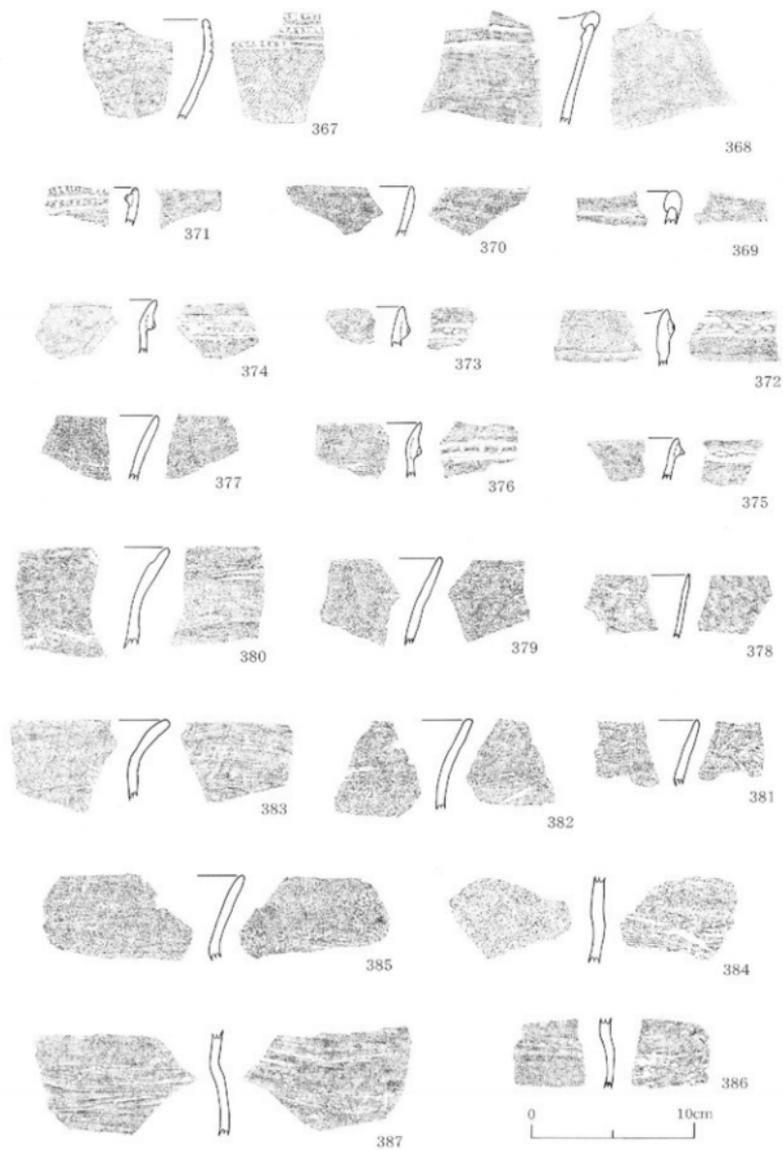
縄文時代~近世期の土器が出土した。弥生時代の土器が特に多い。各時代の遺構及び遺物包含層に分けて記す。

縄文土器 (第62・63図363~387)

出土状況や時期は8工区と同様であるが遺物量は多い。浅鉢と深鉢がある。363~365・367~371



第62図 9工区縄文土器実測図



第63图 9 工区彝文土器实测图

は浅鉢である。363は体部の張りが大きく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はミガキ調整する。364・368・369は体部の張りが大きく、口縁部が長く外反する。口縁端部は内側へ肥厚する。また、口縁端部には突起を施す。内外面はミガキ調整する。365・370は底部が丸底を呈し、体部が外上方へ伸びて口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。365は外面に接合痕が残る。367は体部が内湾気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、口縁部に4条の沈線文を施す。沈線文間には刺突文を加える。体部外面は縄文を施す。内面はミガキ調整する。大洞系の土器である。371は口縁部が外上方へ伸び、口縁端部が丸く終わる。口縁端部に刻み目、口縁部内面に1条の刻み目凸帯を施す。内外面はミガキ調整する。366・372～387は深鉢である。366・372～376は体部がやや張り、口縁部が大きく伸びる。口縁端部はやや尖り気味に終わる。口縁端部直下と口縁部よりやや下に1条の刻み目凸帯を施す。口縁部はナデ調整、体部外面はケズリ調整、内面はナデ調整する。所謂、長原式土器である。377～387は口縁部が外上方へ伸びるものとやや外反するものがある。口縁端部は丸く終わるものが多い。口縁部はナデ調整、体部外面はケズリ調整、内面はナデ調整する。365・367・384は非河内産、他は生駒西麓産。366は大溝6、367・370・382・383・386・387は大溝2、380・384は大溝3、363・378は第22層、364・371・372は第19層、365は第23層、369・385は第18層、374は第14層、368・373・375～377・381・385は遺物包含層より出土。

弥生土器

記載等は8丁区と同様である。

遺構出土土器

大溝1（第64・65図388～412）

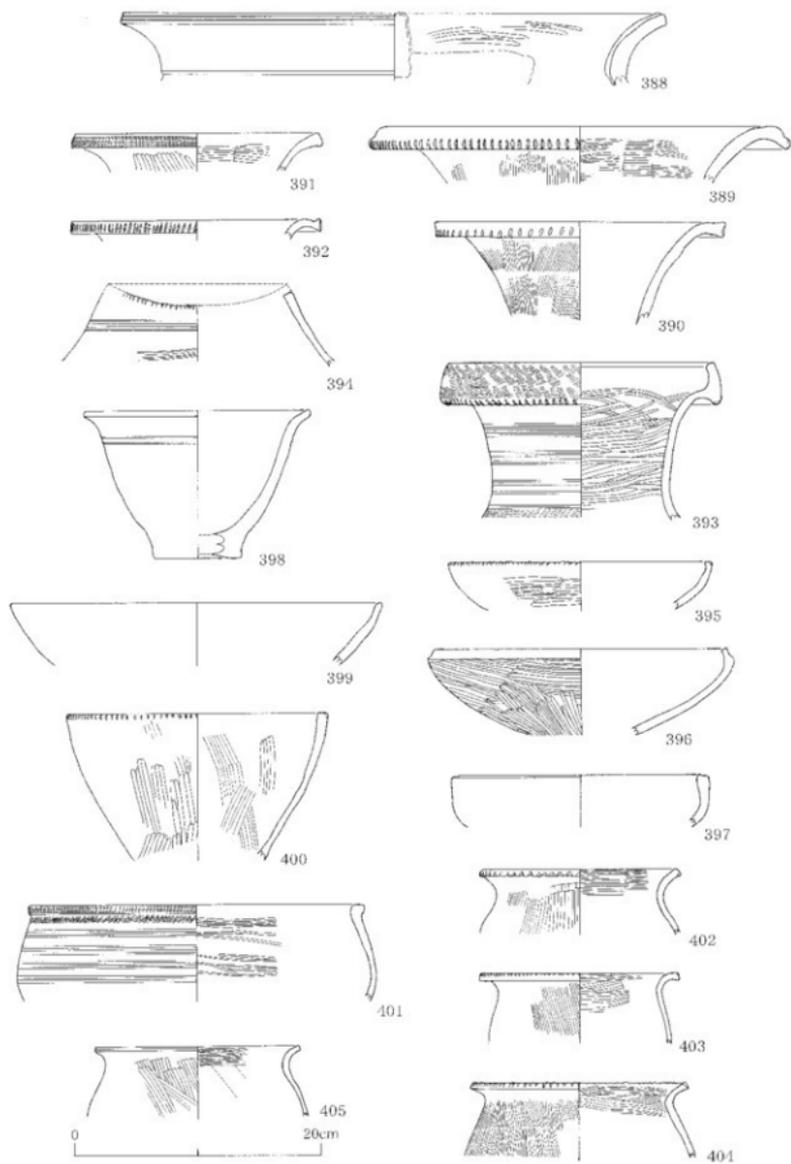
壺・無頭壺・高坏・鉢・甕の器種がある。

388～393は壺である。388は口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に2条のヘラ描沈線文を施す。頸部と体部の境に段が付く。口縁部内面に粘土を貼り付ける。内面はヘラミガキ調整する。389～391は口頸部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部は下方へ拡張する。口縁端部に刻み目や櫛描籠状文を施す。内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整する。392は口縁端部を上方へ積み上げ気味に拡張する。口縁端部に刻み目を施す。393は頸部が筒状を呈し、口縁部が強く外反する。口縁端部は上下へ大きく拡張する。口縁端部は幅広の面を持つ。口縁端部に3帯の櫛描扇形文と刻み目を施す。頸部は直線文と列点文を施す。4帯が残る。頸部内面はヘラミガキ調整する。388はⅠ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。390は非河内産、他は生駒西麓産。

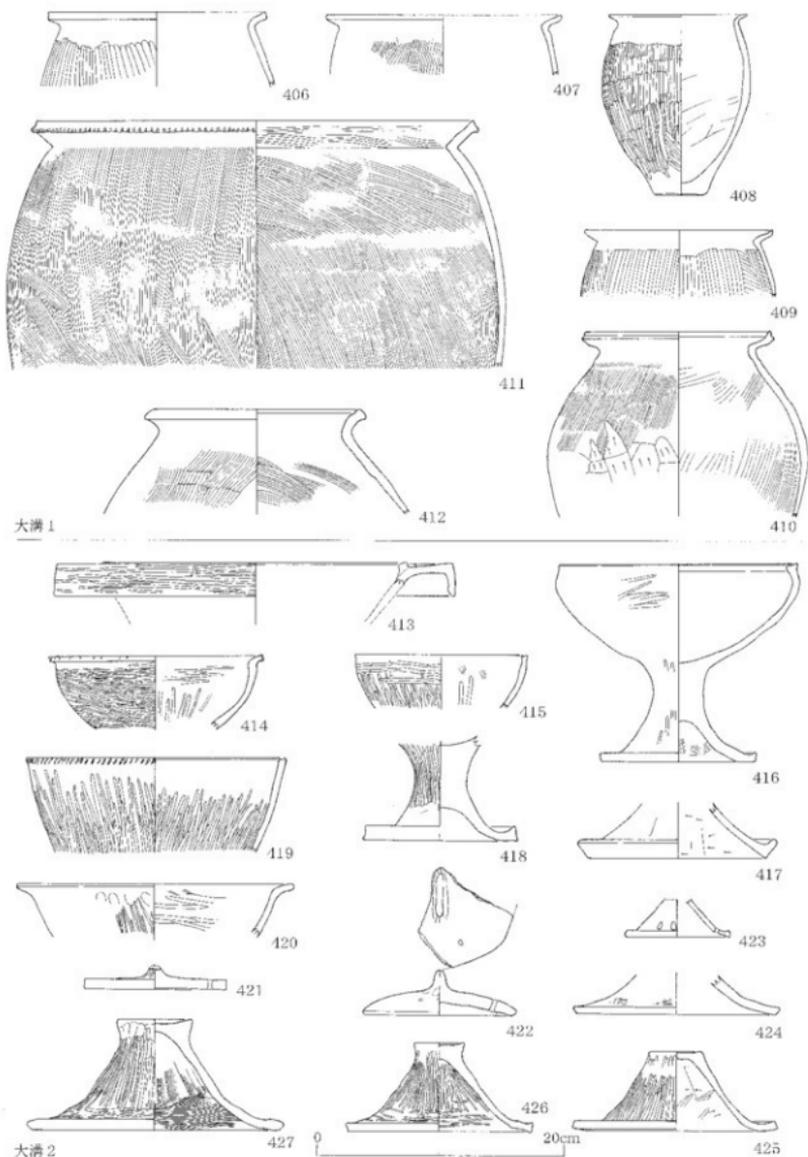
394は無頭壺である。体部は大きく内傾する。口縁端部は面を持つ。口縁部にゆるいU字形の切り込みを入れる。口縁端部に刻み目、体部に櫛描直線文を施す。2帯が残る。体部内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

395～397は高坏である。浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。395は口縁端部に刻み目を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。396は非河内産、他は生駒西麓産。

398～401は鉢である。398は底部が平底である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面に2条のヘラ描沈線文を施す。風化が著しく調整法は不明。399は体部が外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。高熱を受けており、やや変形する。



第64图 9工区大溝1出土土器尖刻图



第65图 9 T区大湾 1·2 出土上器实测图

器壁に鬆が入る。調整法は不明。400は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。401は体部が内傾する。口縁部は短く外反し、口縁端部が丸く終わる。口縁端部に1帯の櫛描状文を施す。体部に波状文と直線文を施す。5帯が残る。内面はヘラミガキ調整する。398はⅠ様式、399はⅡ様式、400・401はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

402～412は甕である。402・403は体部の張りがやや大きく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。404・405は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。404は口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。406～409・411・412は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整するものが多い。410は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。体部外面の上半はタタキの後ハケメ調整、下半はヘラケズリ調整する。内面はハケメの後ナデ調整する。402・403はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。402～405・409・412は非河内産、他は生駒西麓産。

大溝2 (第65～68図413～477)

高坏・鉢・壺蓋・甕蓋・甕・無頸壺・細頸壺・多孔土器・甕の器種がある。

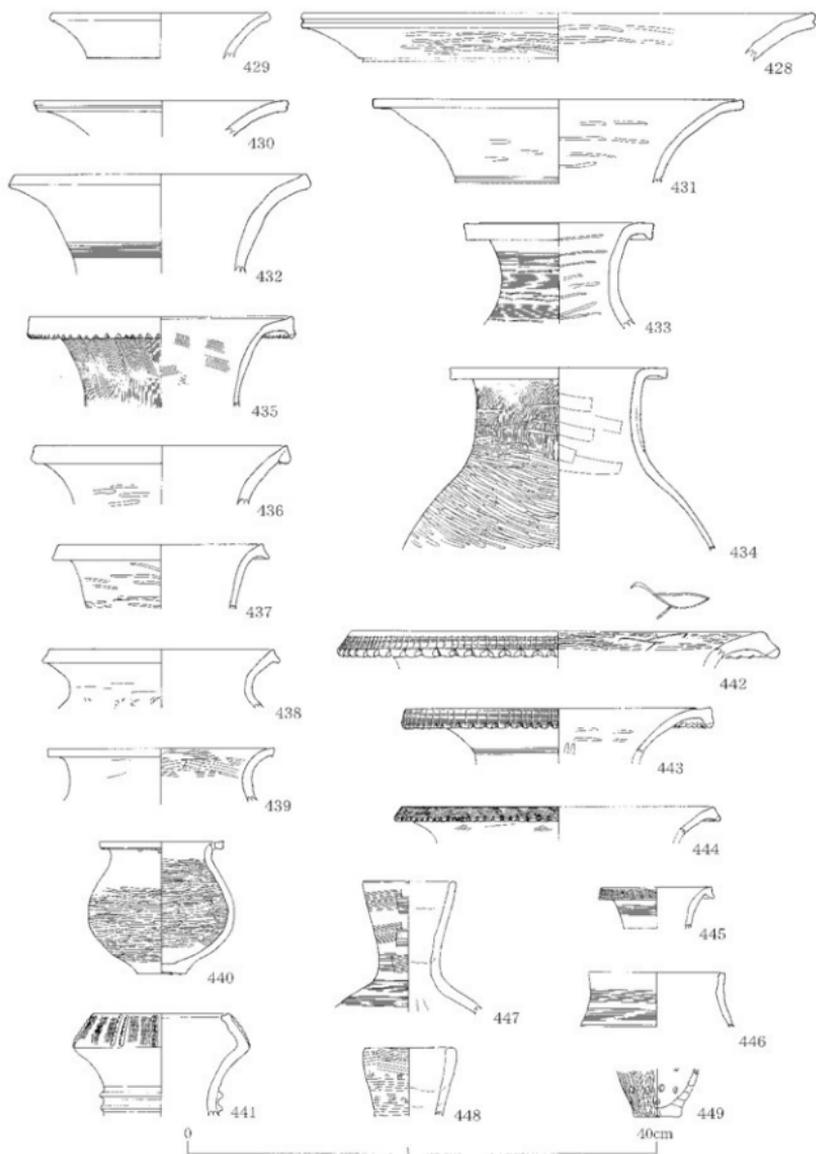
413～418は高坏である。413は口縁部が水平方向に伸びる。口縁端部は下方へ大きく拡張する。口縁部と坏部の内面境には凸帯を廻らす。外面はヘラミガキ調整する。414は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部には刻み目を施す。体部内外面はヘラミガキ調整する。415は坏部が浅い椀状を呈する。口縁端部は面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。416は裾部の立ち上がりゆるく、柱状部は短い。中実である。裾端部はやや面を持つ。坏部は浅い椀状を呈する。口縁端部は面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面は風化が著しく調整法は不明である。417・418は脚部である。418は柱状部が中実である。裾端部は面を持つ。419は裾端部を上方へ拡張する。416・418はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式、413・416は非河内産、他は生駒西麓産。

419・420は鉢である。419は体部が外上方に伸び、口縁部に至る。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部内外面はヘラミガキ調整する。420は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はヘラミガキ調整する。419はⅢ～Ⅳ様式、420はⅡ様式。生駒西麓産。

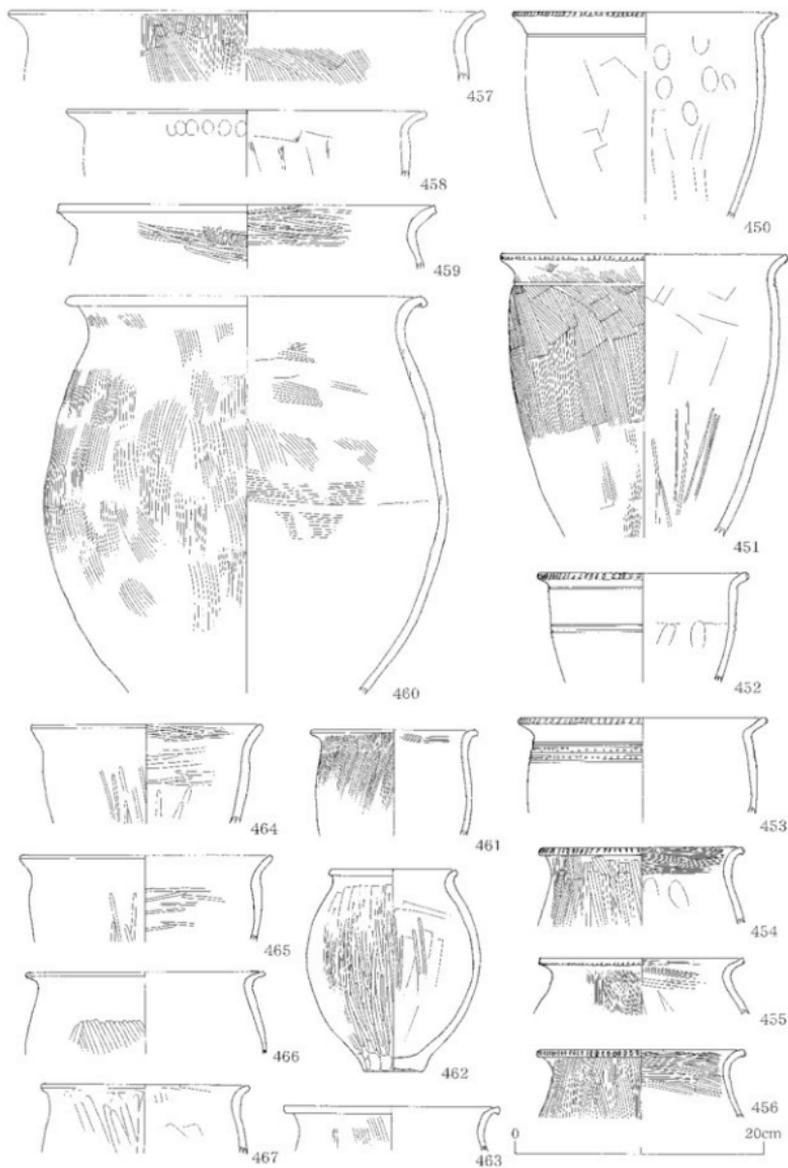
421～423は壺蓋である。421は体部の立ち上がりがなく、口縁端部が面を持つ。中央に円形の摘みが付く。口縁部に小円孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。422は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。中央に楕円形の摘みが付く。口縁部に小円孔を穿つ。内外面はナデ調整する。423は体部の立ち上がりが大きく、口縁端部が面を持つ。口縁部に2ヶ1対の小円孔を穿つ。風化が著しく調整法は不明。中期。生駒西麓産。

424～427は甕蓋である。体部の立ち上がりが大きく、中央に円形の摘みが付く。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。体部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。口縁部内面にリング状の煤が付着する。中期。生駒西麓産。

428～445は甕である。428～431は口頭部が大きく外上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。口縁端部や頸部にヘラ描状線文を施す。内外面はヘラミガキ調整するものが多い。432は口頭部がゆるく外反



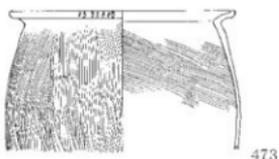
第66图 9工区大溝2出土土器实例图



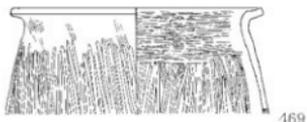
第67图 9上区大满2出上上器实测图



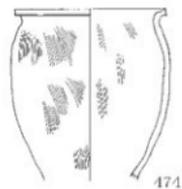
468



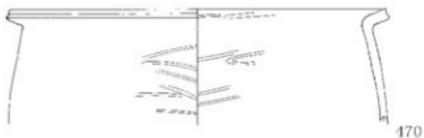
473



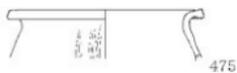
469



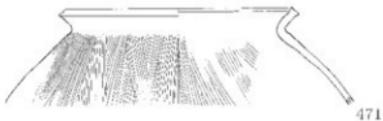
474



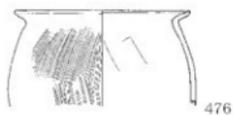
470



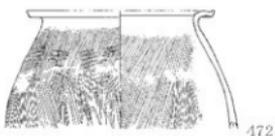
475



471



476

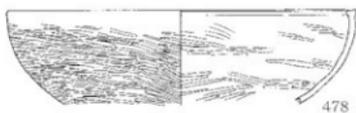


472



477

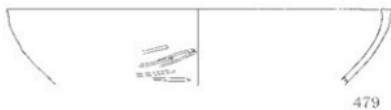
大溝 2



478



481



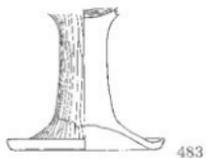
479



482



480



483

大溝 3



484

第68图 9工区大溝2·3出土土器实测图

し、口縁端部が面を持つ。頸部に櫛描直線文を施す。高熱を受けており、やや変形する。器壁に軽が入る。調整法は不明。433・434は頸部が上方へ伸び、口縁部が短く外反する。口縁端部は面を持つ。433は頸部に櫛描直線文を施す。434は無文である。内外面はヘラミガキ調整かナデ調整する。435は頸部が外上方へ伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は摘み上げ気味に上方へ拡張する。口縁端部に刻み目を施す。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。436・437・442～445は口頸部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描文様や刻み目を施すものと無文のものがある。内外面はヘラミガキ調整するものが多い。442は口縁部内面に線刻による絵が描かれている。楕円形を呈する体部から長く伸びる首と頭を描き、体部の下には1本の足が残る。全体的なバランスから考えると足は2本と思われる。鳥を描いた可能性が高い。焼成後の線刻である。438～440は口頸部が短く、口縁端部が面を持つ。440は底部が平底を呈し、体部の張りが大きい。口縁部は2ヶ1対の小円孔を穿つ。ヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。441は頸部が外反し、口縁部が大きく内傾する。口縁端部は面を持つ。口縁部には縦方向の櫛描波状文と棒状の凸帯を貼り付ける。凸帯には刻み目を施す。頸部にも凸帯を貼り付ける。2帯が残る。内外面はナデ調整する。428～431はⅠ様式。432～434はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。431・434・435・438・439・441は非河内産、他は生駒西麓産。

446は無頸壺である。体部は内傾する。口頸部が上方へ伸び、口縁端部は丸く終わる。体部に櫛描直線文を施す。3帯が残る。内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

447・448は細頸壺である。口頸部がやや内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。外面に櫛描文様を施す。内外面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

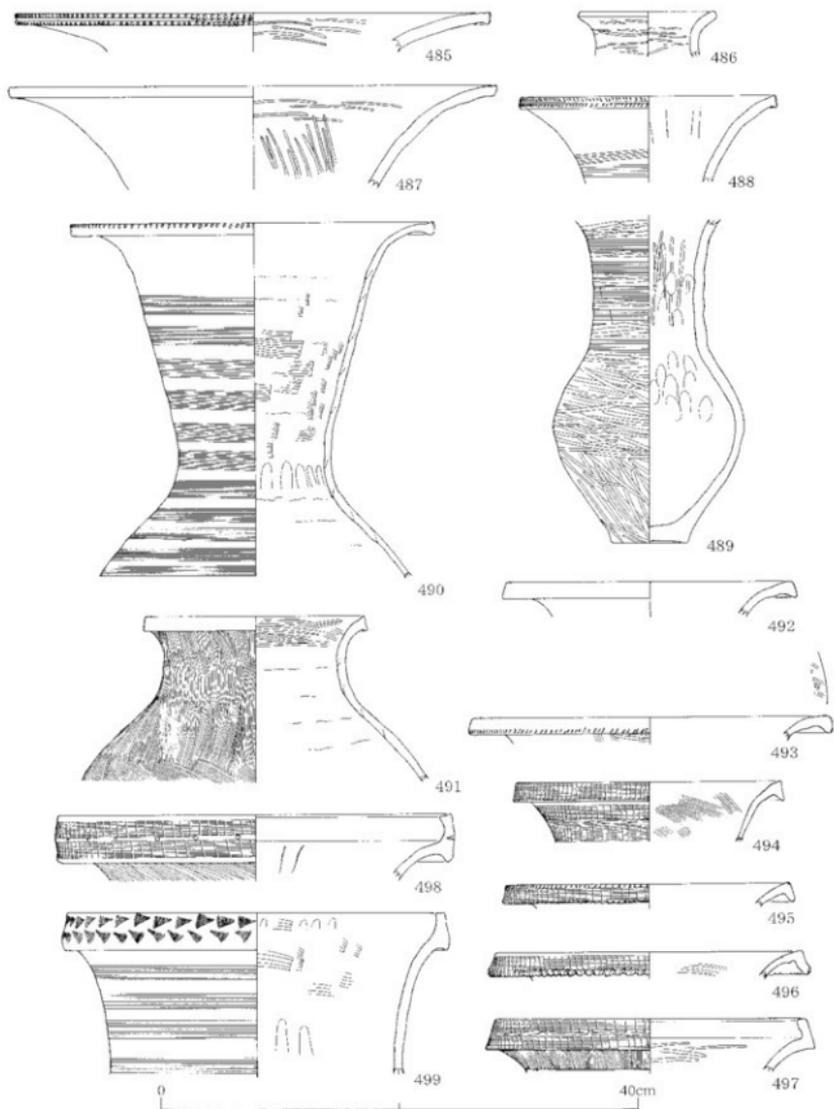
449は多孔上器である。器種は不明であるが底部である。底部中央に1孔、体部に多くの孔を穿つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。内面に白色の物質が付着する。中期。生駒西麓産。

450～477は壺である。450～453は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。口縁端部に刻み目、体部にヘラ描直線文を施す。452は体部中位にも2条の沈線文を施す。453は沈線文間に円形刺突文を加える。体部内外面はナデ調整するものが多い。454～456は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。457～467は体部の張りが少ないが、一部やや張るものもある。口縁部はゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものが多い。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整するものが多い。468～470・473～475は体部が大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整するものが多い。472・476・477は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整するものが多いが、472はタタキ調整の痕跡が残る。477は体部に刺突文を施す。450～453はⅠ様式、454～467はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。454～456・459・461・466・471・473・477は非河内産、他は生駒西麓産。

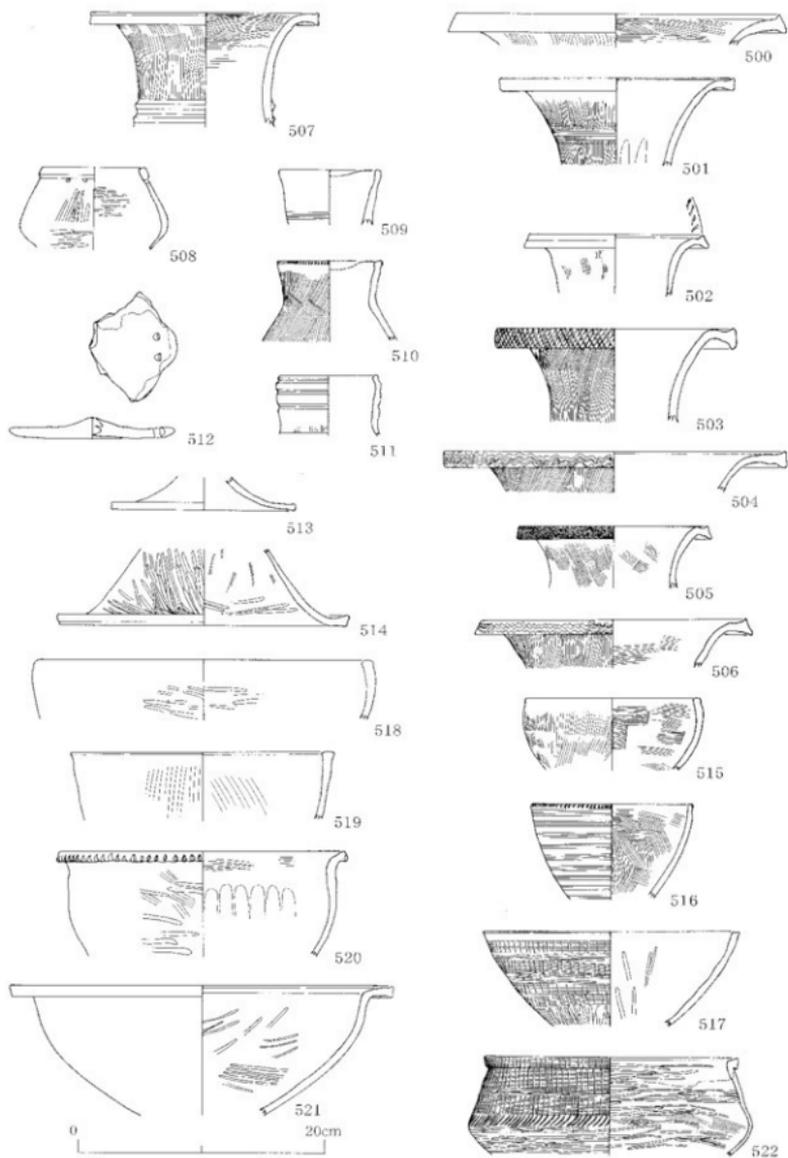
大溝3 (第68～73頁478～569・第94頁838・839)

高坏・壺・無頸壺・水差形上器・壺蓋・甕蓋・鉢・甕の器種がある。

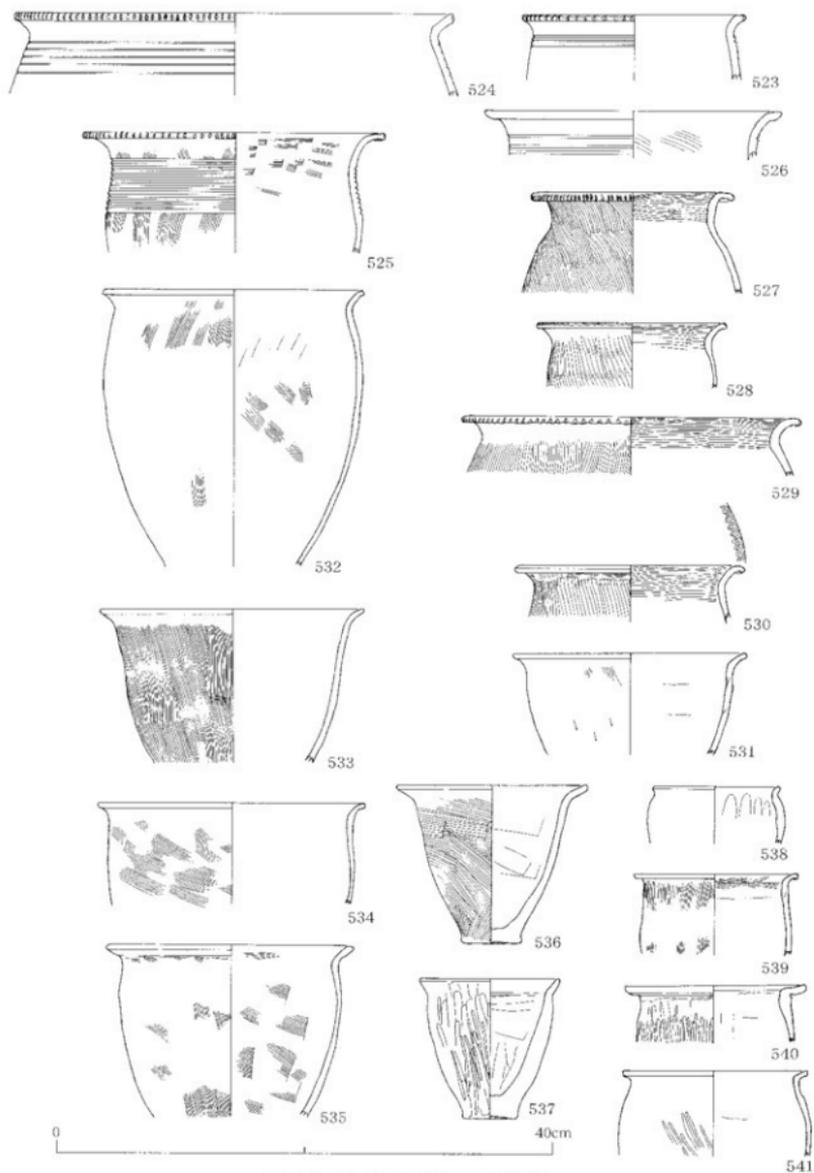
478～484は高坏である。478～480は体部が浅い椀状を呈する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。480は口縁端部に刻み目を施す。481～483は裾部の立ち上がりがゆるく、裾端部を上方へ拡張する。内外面はヘラミガキ調整やナデ調整する。483は柱状部が長く、中実である。484は裾部の立ち上がりが強く、裾端部を上方へ拡張する。外面に竹管文を施す。483はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。



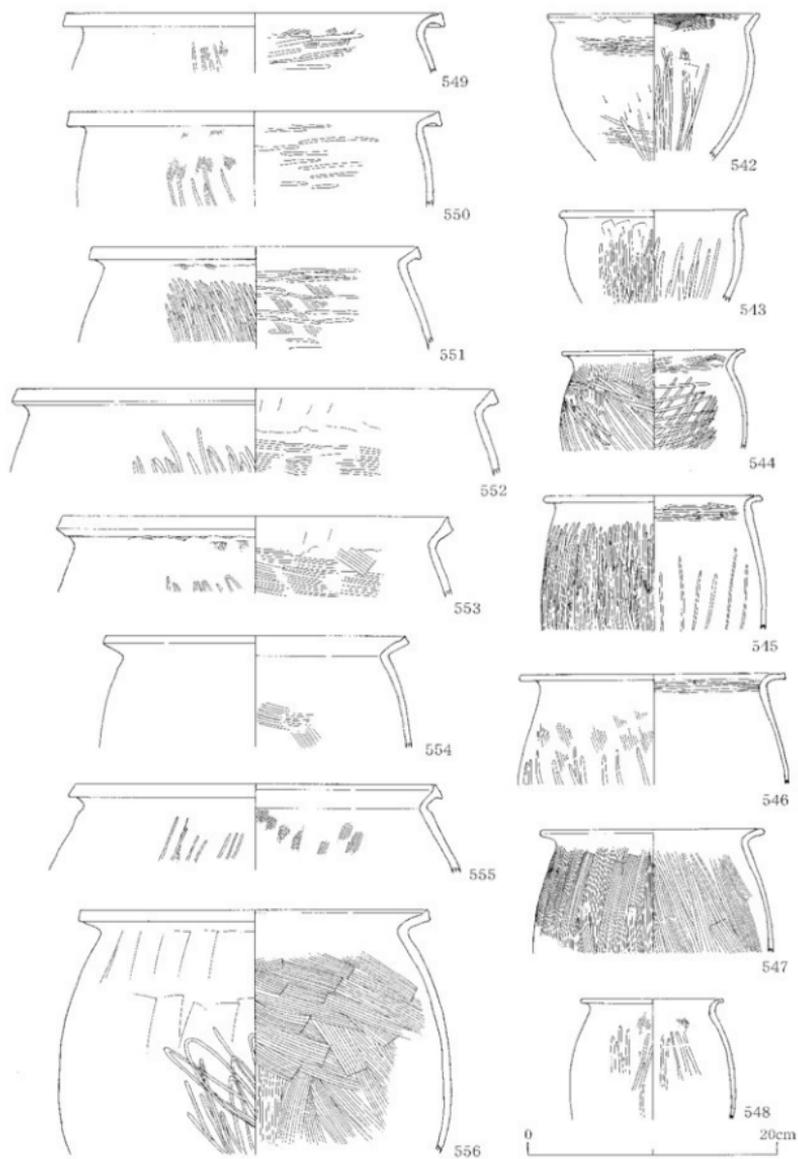
第69图 9 T.区大湾 3 出土土器实测图



第70图 9上区大满3出土器实测图



第71图 9工区大溝3出土上器实测图



第72图 9上区大溝3出土土器实测图

485~507は壺である。485は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文と上下に刻み目を施す。内面はヘラミガキ調整する。486は頸部が短く、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。487は口頸部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部はやや面を持つ。外面は風化が著しく調整法は不明、内面はヘラミガキ調整する。488は口縁部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部は面を持つ。口縁端部にヘラ描綾杉文、頸部に櫛描直線文を施す。頸部内外面はナデ調整する。489は底部が平底である。体部は縦長の球形を呈し、張りが少ない。頸部は細長い。頸部に5帯の櫛描直線文を施す。文様帯間は研磨する。外面はヘラミガキ調整、内面の上半はヘラミガキ調整、下半はナデ調整する。490は体部の張りが大きく、頸部が大きく外上方へ伸びる。口縁部は強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、頸部から体部に櫛描直線文を施す。内面はハケメの後ナデ調整する。491は体部の張りが大きく、口頸部が短く外反する。口縁端部が面を持つ。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後ハケメ調整する。無文である。492~496は口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に刻み目や櫛描文様を施すものが多いが、492は無文である。497・499は口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広い面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。498は口縁端部を上下へ大きく拡張する。幅広い面を持つ。口縁端部に2帯の櫛描菱状文と円形刺突文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。500~507は口頸部が大きく外反し、口縁端部を上方へ構み上げ気味に拡張する。口縁端部に櫛描文様を施すものと無文のものがある。507は頸部と体部の境に凸帯を廻らす。体部内外面はハケメ調整やナデ調整するものが多い。485・486はⅠ様式、487~489はⅡ様式、他はⅢ~Ⅳ様式。500・501・503・505~507は非河内産、他は生駒西麓産。

508は無頸壺である。体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁部直下に2ヶ1対の小円孔を穿つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ~Ⅳ様式。非河内産。

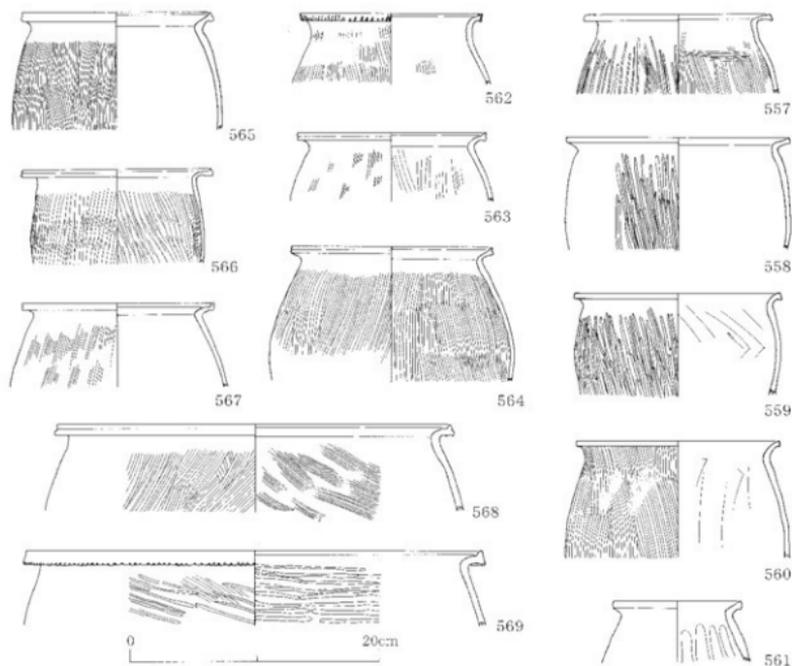
509~511は水差形土器である。口頸部が外上方へ伸び、口縁端部が丸く終わる。509は頸部に櫛描直線文、510は口縁端部に刻み目、511は口頸部に凹線文を施す。内外面はハケメ調整やナデ調整する。Ⅲ~Ⅳ様式。生駒西麓産。

512は壺蓋である。体部がゆるく立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。口縁部の一部が舌状に伸びる。欠損するものが2ヶ1対と考えられる。舌状部に2ヶの小円孔を穿つ。内外面はナデ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。

513・514は壺蓋である。体部の立ち上がりが大きく、口縁端部は面を持つ。513は体部内外面をナデ調整、514はヘラミガキ調整する。口縁部内面にリング状の煤が付着する。中期。生駒西麓産。

515~522は鉢である。515~519は体部が外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部は面を持つものとやや丸く終わるものがある。体部に櫛描文様を施すものと無文のものがある。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整するものが多い。516は口縁端部に刻み目を施す。520・521は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。520は口縁端部に刻み目を施す。体部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整する。522は体部が内傾する。口縁部が強く外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部に櫛描菱状文と体部に康状文と列点文を施す。体部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ~Ⅳ様式。519~521は非河内産、他は生駒西麓産。

523~569・839は甕である。523~525は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部にヘラ描沈線文を施す。525は10条が残る。体部内外面はナデ調整するものが多い。526は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。体部に1条のヘラ描沈線文と1帯の櫛描直線文が残る。体部外面はナデ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。527~



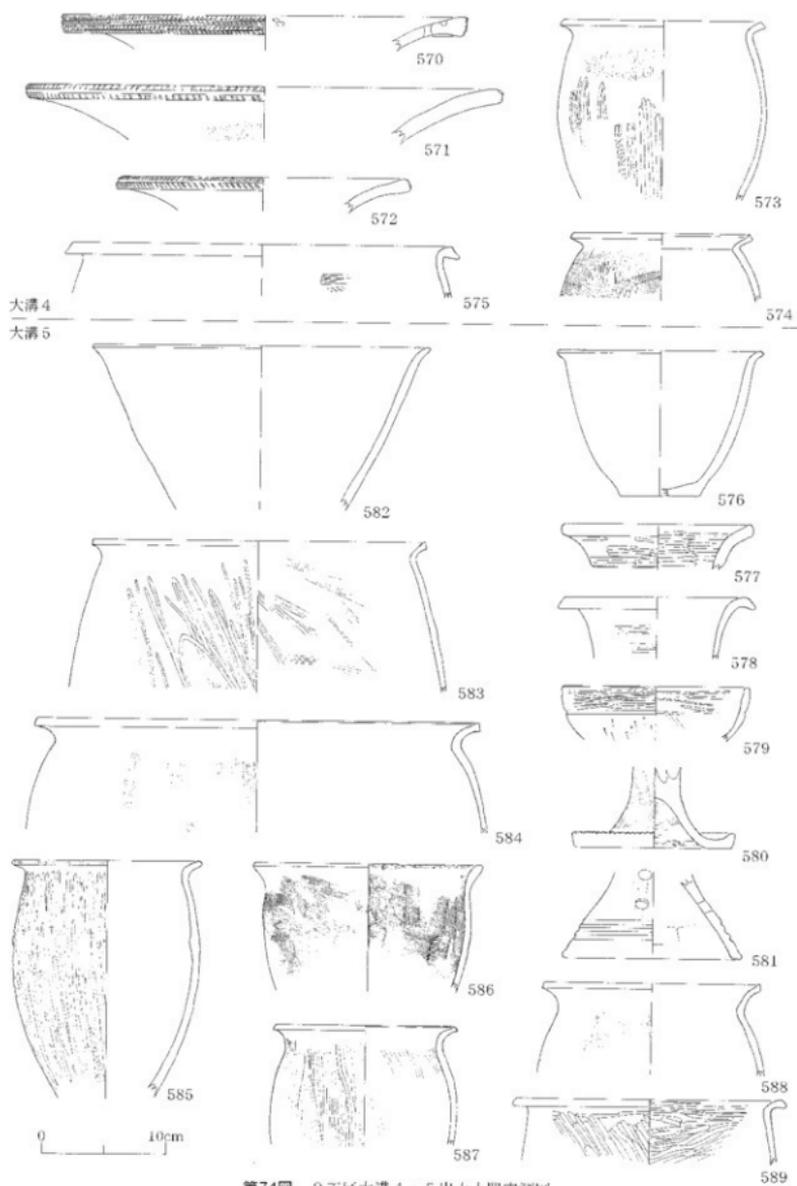
第73図 9 工区大溝3出土土器実測図

530は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施すものが多い。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。530は口縁部内面に櫛描波状文を施す。531～543は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整するものが多い。544～548は体部の張りが大きく、口縁部が強くと外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。549・550は体部の張りがやや大きく、口縁部が強くと外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部内外面はヘラミガキ調整する。551～561は体部の張りが大きく、口縁部が強くと外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。562～569は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。562・569は口縁端部に刻み目を施す。体部内外面はハケメ調整するものが多い。839は体部の張りが大きく、口縁部が強くと外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整する。523～525はⅠ様式、526～543はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。527～530・536・537・555・561は非河内産、他は生駒西麓産。

838は鉢である。体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部に櫛描列点文を施す。体部には直線文を施す。2帯が残る。体部内面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

大溝4 (第74図570～575)

壺・甕の器種がある。



第74图 9工区大溝4・5出上上器実測图

570～572は壺である。口縁部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。口縁端部にヘラ描綾杉文を施す。570は焼成後に小円孔を2孔穿つが1孔は未貫通である。I様式。生駒西麓産。

573～575は甕である。573は体部の張りがやや大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。574は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ擴み上げ気味に拡張する。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。575は体部の張りがやや大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部内外面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

大溝5（第74図576～589）

鉢・壺・高坏・脚部・甕の器種がある。

576は鉢である。底部は平底を呈する。体部の張りは少なく、口縁部はゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

577・578は壺である。577は口頸部が外上方へ伸び、口縁端部が丸く終わる。頸部にヘラ描沈線文を施す。1条が残る。内外面はヘラミガキ調整する。578は頸部が外上方へ伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。577はI様式、578はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

579・580は高坏である。579は体部が浅い椀状を呈する。口縁端部は丸く終わる。体部外面に1条の門線文を施す。外面は上半をヘラミガキ調整、下半をヘラケズリ調整する。内面はヘラミガキ調整する。580は裾部の立ち上がりが強く、裾端部を上方へ拡張する。裾端部に刻み目を施す。柱状部は中実である。内外面はハケメ調整する。579はⅢ～Ⅳ様式、580はⅡ様式。579は生駒西麓産、580は非河内産。

581は脚部である。器種は不明である。脚部の立ち上がりは強い。裾端部は丸く終わる。裾部に3条の門線文を施す。上部に円孔を穿つ。脚部外面はヘラミガキ調整する。内面は風化が著しく調整は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

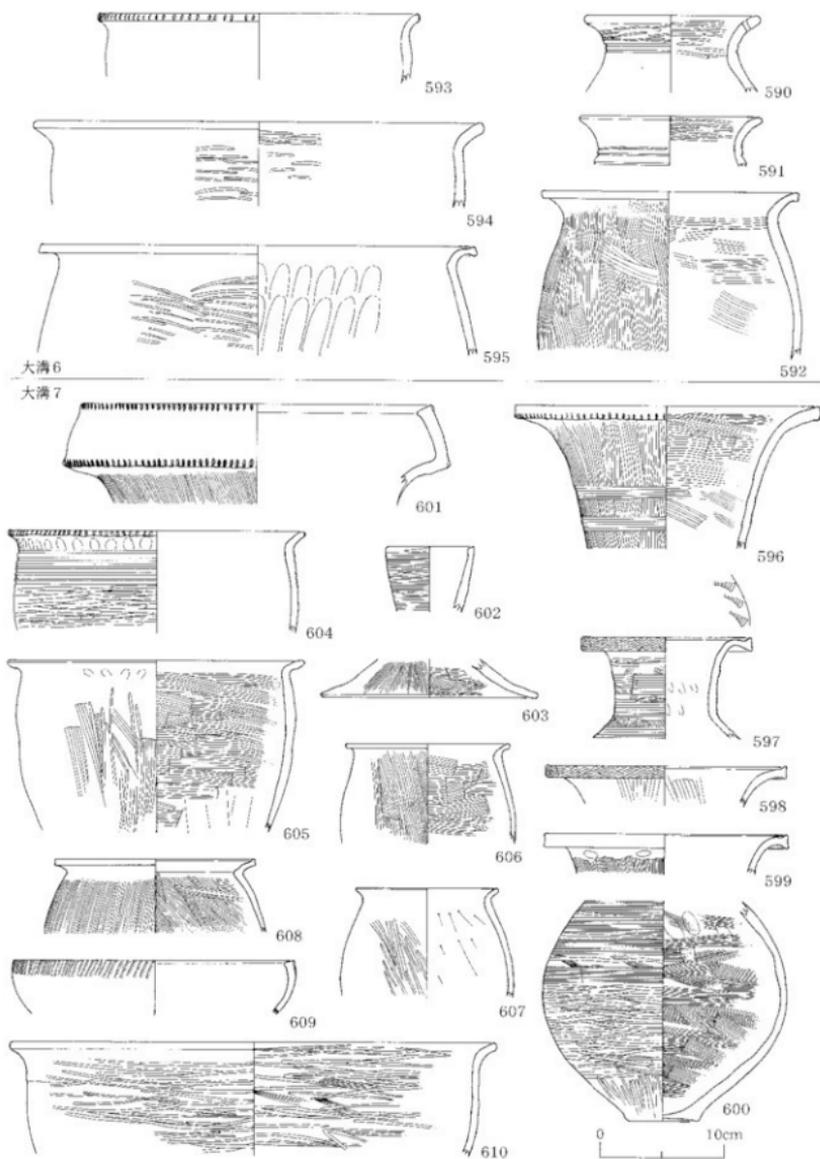
582～589は甕である。582・585・586は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整などをする。583・584・587・588は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。589は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部内外面はヘラミガキ調整する。582・585・586はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。584・588は非河内産、他は生駒西麓産。

大溝6（第75図590～595）

甕・甕の器種がある。

590・591は壺である。口頸部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。頸部に2条のヘラ描沈線文を施し、その間を段状にする。590は口縁部に小円孔を穿つ。内外面はヘラミガキ調整する。I様式。生駒西麓産。

592～595は壺である。592～594は体部外面の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。593は口縁端部に刻み目を施す。体部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。595は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。592～594はⅡ様式、595はⅢ～Ⅳ様式。592は非河内産、他は生駒西麓産。



第75图 9世纪区大清6·7出土土器类例图

大溝7 (第75図596~610)

壺・細頸壺・甕蓋・甕・高坏・鉢の器種がある。

596~601は甕である。596は口頸部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、頸部に櫛描直線文を施す。内外面はハケメ調整する。597~599は口縁部が強く外反する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部や頸部などに櫛描文様を施すものと無文のものがある。内外面はハケメ調整やナデ調整する。600は底部がやや凹む。体部の張りは大きい。体部外面に櫛描直線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。601は口縁部が強く外反する。口縁端部は内傾しながら、上方へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部の両端に刻み目を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ~Ⅳ様式。597・600は生駒西麓産、他は非河内産。

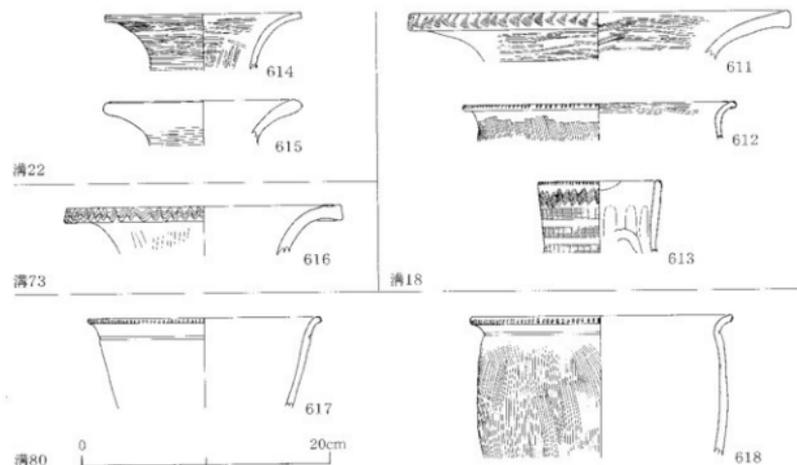
602は細頸壺である。口頸部が外上方へ伸びる。口縁端部はやや面を持つ。外面に櫛描直線文を施す。3帯が残る。文様帯間は研磨する。内面はナデ調整する。Ⅲ~Ⅳ様式。生駒西麓産。

603は甕蓋である。体部はゆるく立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はハケメ調整する。中期。非河内産。

604~608は甕である。604は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に6条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。605~607は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。608は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。体部内外面はハケメ調整する。604はⅠ様式、605~607はⅡ様式、608はⅢ~Ⅳ様式。606・607は非河内産、他は生駒西麓産。

609は高坏である。浅い碗状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁部に櫛描列点文を施す。風化が著しく調整法は不明。Ⅲ~Ⅳ様式。非河内産。

610は鉢である。体部の張りの少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。



第76図 9工区溝18・22・73・80出土土器実測図

溝18 (第76図611～613)

壺・甕・水差形土器の器種がある。

611は壺である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部に櫛描扇形文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

612は甕である。口縁部が大きく外反し、口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

613は水差形土器である。口頸部が上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。口縁部にわずかにU字形の切り込みが残る。口縁端部に刻み目を施す。口頸部に櫛描波状文と簾状文を施す。4帯が残る。内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝22 (第76図614・615)

614・615は壺である。614は口頸部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部にヘラ描沈線文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。615は口頸部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。頸部に櫛描直線文を施す。内外面はナデ調整する。614はⅠ様式、615はⅡ様式。614は生駒西麓産、615は非河内産。

溝73 (第76図616)

616は壺である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部に1帯の櫛描波状文を施す。外面はハケメの後ナデ調整する。内面は風化が著しく調整法は不明。Ⅱ様式。非河内産。

溝80 (第76図617・618)

617・618は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に1条のヘラ描沈線文を施す。617は体部内外面をナデ調整、618は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。

土坑17 (第77図619・620)

壺・甕の器種がある。

619は壺である。口頸部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に1帯の櫛描直線文と刻み目を施す。頸部に直線文を施す。2帯が残る。内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

620は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑18 (第77図621～628)

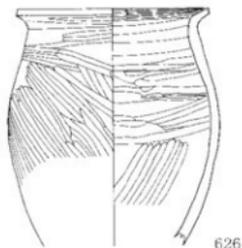
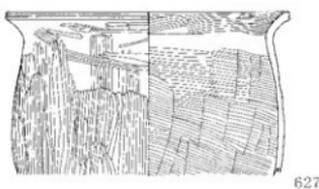
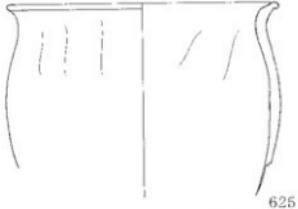
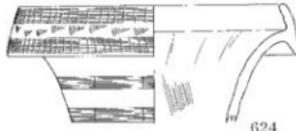
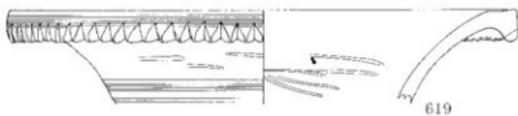
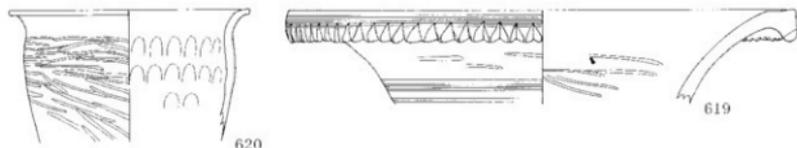
壺・甕の器種がある。

621～624は壺である。621・622は口縁端部がやや面を持つ。622は口縁端部に刻み目を施す。623は口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。624は口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広い面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。内外面はナデ調整する。621・622はⅡ様式、他はⅢ様式。生駒西麓産。

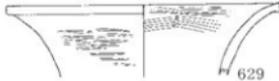
625～628は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。体部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。Ⅱ様式。生駒西麓産。

上坑21 (第77図629・630)

壺・甕の器種がある。

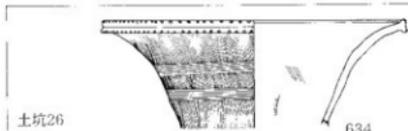


土坑18



土坑23

土坑21



土坑24

土坑26

第77图 9工区土坑17·18·21·23·24·26出土土器实例图

629は壺である。口頸部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

630は甕である。口縁部が強く外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑23 (第77図631)

631は甕である。口縁部が短く外反し、口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

土坑24 (第77図632・633)

632・633は鉢である。632は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。633は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑26 (第77図634)

634は壺である。口頸部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条の凹線文と両端に刻み目を施す。頸部外面に櫛描直線文を施す。2帯が残る。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

土坑A (第78図635～651)

壺・甕・壺蓋・甕蓋・鉢の器種がある。

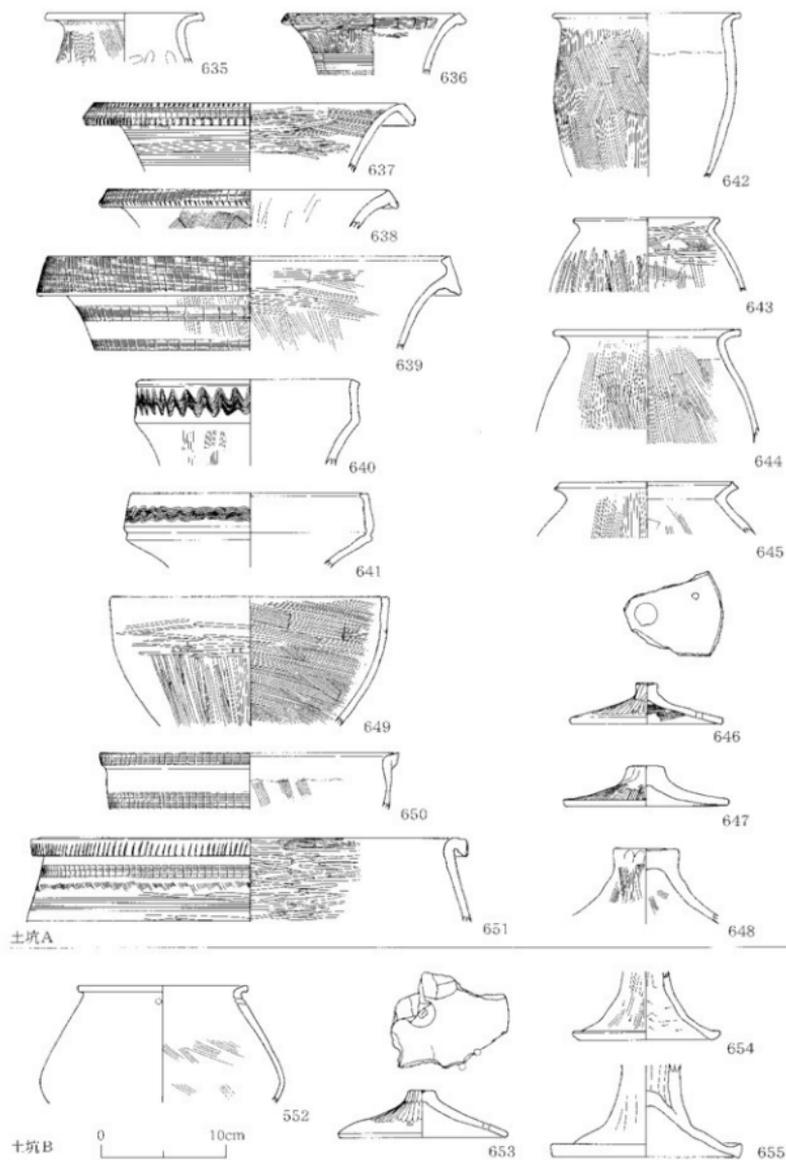
635～641は壺である。635は口頸部が短く外反する。口縁端部はやや面を持つ。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。636は口頸部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。内外面はハケメ調整する。637・638は口頸部が大きく外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様や刻み目を施す。内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整する。639は口縁端部を上下へ大きく拡張する。幅広い面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描簾状文を施す。内外面はハケメ調整する。640・641は口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広い面を持つ。口縁端部に櫛描文様や凹線文を施す。内外面はナデ調整する。636はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。635・640・641は非河内産。他は生駒西麓産。

642～645は甕である。642は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。643は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はヘラミガキ調整する。644・645は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整する。642はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。645は非河内産、他は生駒西麓産。

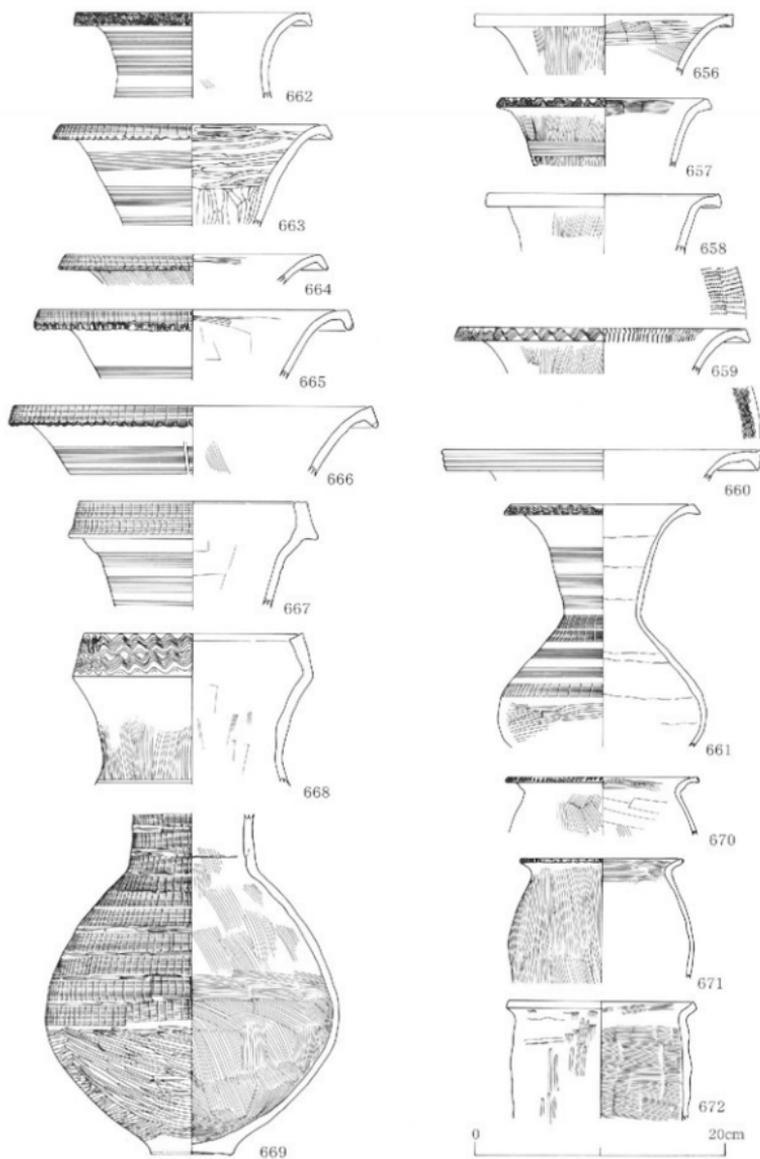
646・647は壺蓋である。体部の立ち上がりがゆるく、口縁端部がやや面を持つ。中央に円形の摘みが付く。646は体部内外面をヘラミガキ調整する。小円孔が残る。647は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

648は壺蓋の摘み部である。上面はわずかに凹む。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。中期。生駒西麓産。

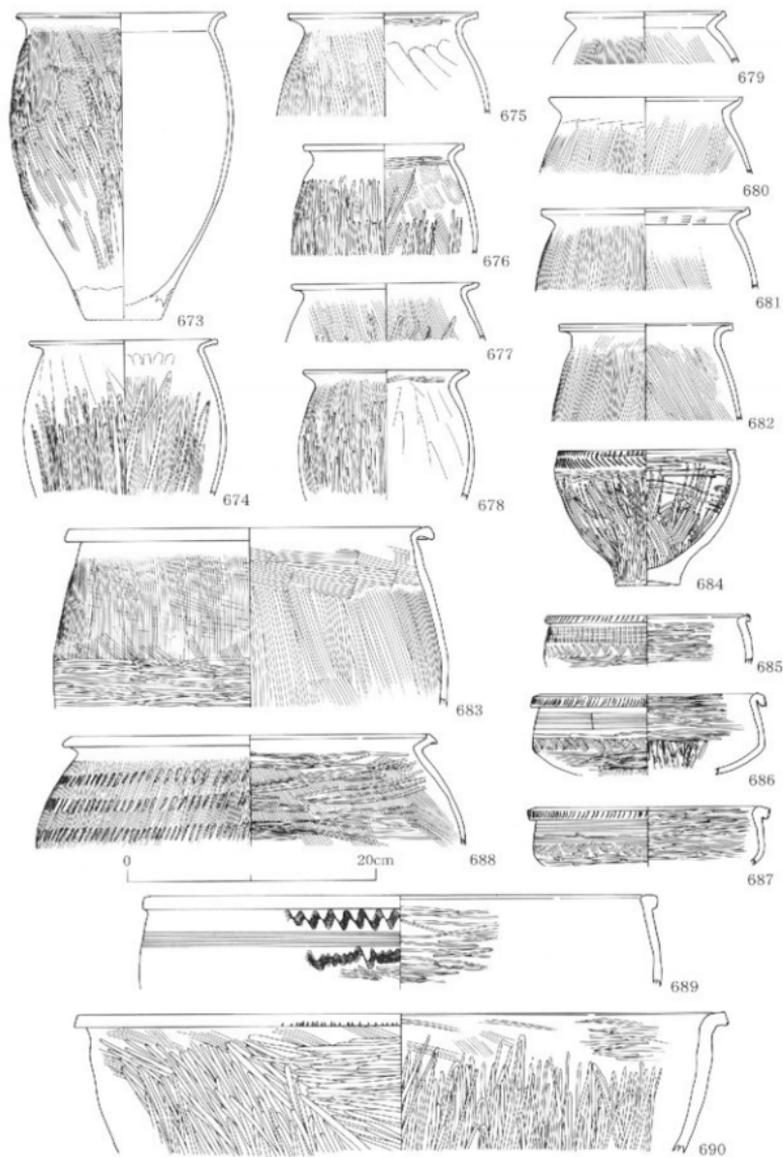
649～651は鉢である。649は体部が内湾気味に外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。650は体部が上方へ伸び、口縁端部が段を持つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。体部内面はハケメの後ナデ調整する。651は体部が内傾しながら立ち上がり、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に櫛



第78图 9上区土坑A·B出土土器尖测图



第79图 9工区土坑B出土土器实测图



第80图 9上区土坑B出土土器实测图

描文様を施す。体部内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

十坑B（第78～80図652～690）

無頸壺・壺蓋・高杯・帯・甕・鉢の器種がある。

652は無頸帯である。体部が大きく内傾する。口縁部が短く外反し、口縁端部は面を持つ。口縁部直下には小円孔を穿つ。体部内面の下半はハケメ調整、他は風化が著しく調整法は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

653は壺蓋である。体部の立ち上がりがやや強い。口縁端部は面を持つ。中央に円形の摘みが付く。体部には小円孔を穿つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

654・655は高杯である。裾部の立ち上がりはゆるく、裾端部がやや面を持つ。654は裾部外面をヘラミガキ調整、内面をヘラケズリ調整する。655風化が著しく調整法は不明。裾部内面にリング状の煤が付着しており、壺蓋に転用したと考えられる。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

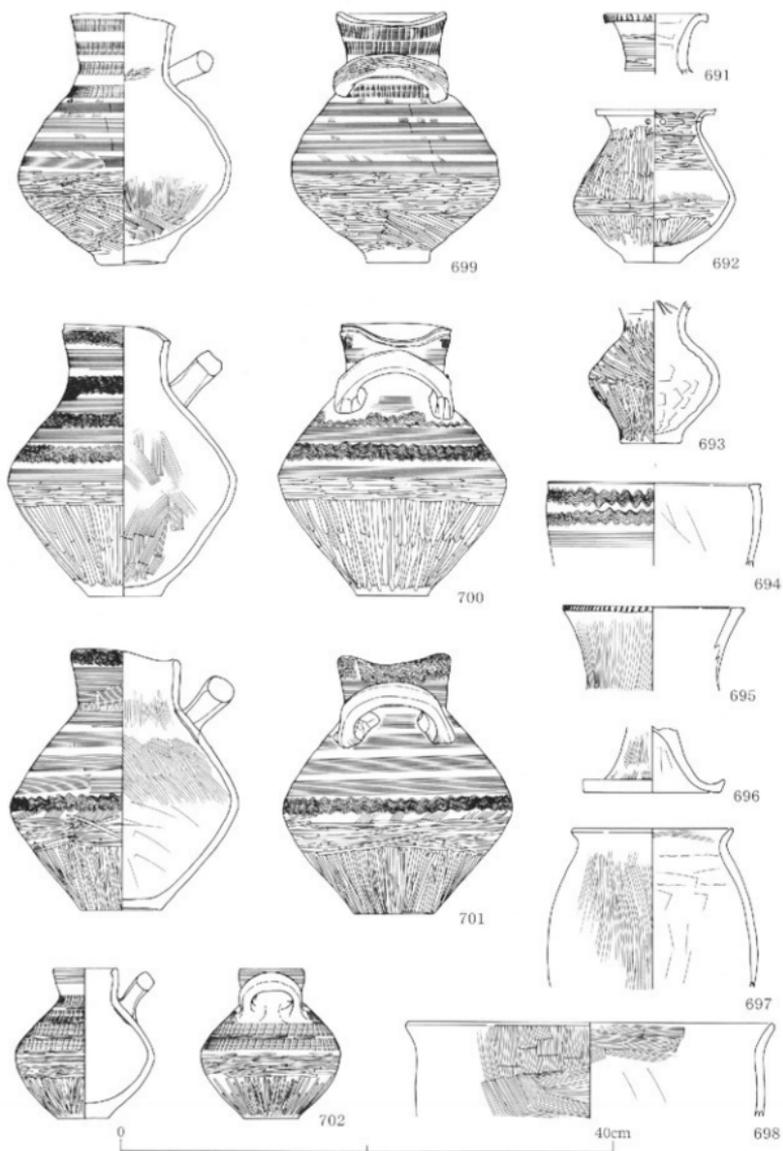
656～669は壺である。656・657は口縁部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部は面を持つ。657は口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。内外面はハケメ調整する。658～660は口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部と口縁部内面に櫛描文様や凹線文を施すものと無文のものがある。内外面はハケメ調整するものが多い。661～666は口縁部が大きく外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様や刻み目を施すものが多い。内外面はナデ調整するものが多い。667・668は口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広い面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。内外面はナデ調整やハケメ調整する。669は底部が平底である。体部の張りは大きい。頸部は上方へ伸びる。頸部から体部上半に櫛描簾状文を施す。文様帯間は研磨する。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。656・657はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。656は非河内産、他は生駒西麓産。

670～683は甕である。670・671は体部の張りが少なく、口縁部がやや強く外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。672は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。673・674・676～678は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整するものが多い。675・679～682は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。体部内外面はハケメ調整するものが多い。683は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部外面の上半はハケメ調整、下半はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。670～672はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。670・671・681は非河内産、他は生駒西麓産。

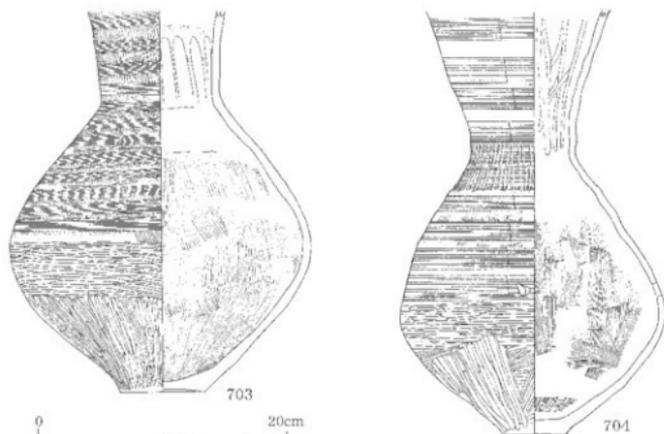
684～690は鉢である。684は底部がやや凹む。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、その下に櫛描列点文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。685～687は体部が内傾しながら立ち上がり、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に櫛描文様を施す。内外面はヘラミガキ調整する。688は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上下へ拡張する。体部外面に櫛描列点文を施す。体部内外面はハケメ調整する。689は体部が内傾しながら立ち上がり、口縁端部が段を持つ。体部外面に櫛描文様を施す。内外面はヘラミガキ調整する。690は体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部はやや下方へ拡張する。口縁端部に刻み目を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

十坑C（第81・82図691～704）

壺・細頸壺・高杯・甕・水差形上器の器種がある。



第81图 9工区土坑C出土器物实测图



第82図 9工区土坑C州土器実測図

691～693・695・703・704は壺である。691は頸部が外上方へ伸び、口縁部が短く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、頸部に櫛描直線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。692は底部が平底を呈する。体部はやや下で大きく張る。頸部は短く、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。無文である。口縁部に2ヶ1対の小円孔を穿つ。695は口頸部が直線的に外上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。693・703・704は口縁部を欠損する。底部は平底を呈し、体部は大きく張る。693は無文、703・704は櫛描文様を施す。内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整する。703は体部に穿孔がある。691はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。695は非河内産、他は生駒西麓産。

694は細頸壺である。口頸部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は面を持つ。外面に櫛描文様を施す。内外面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

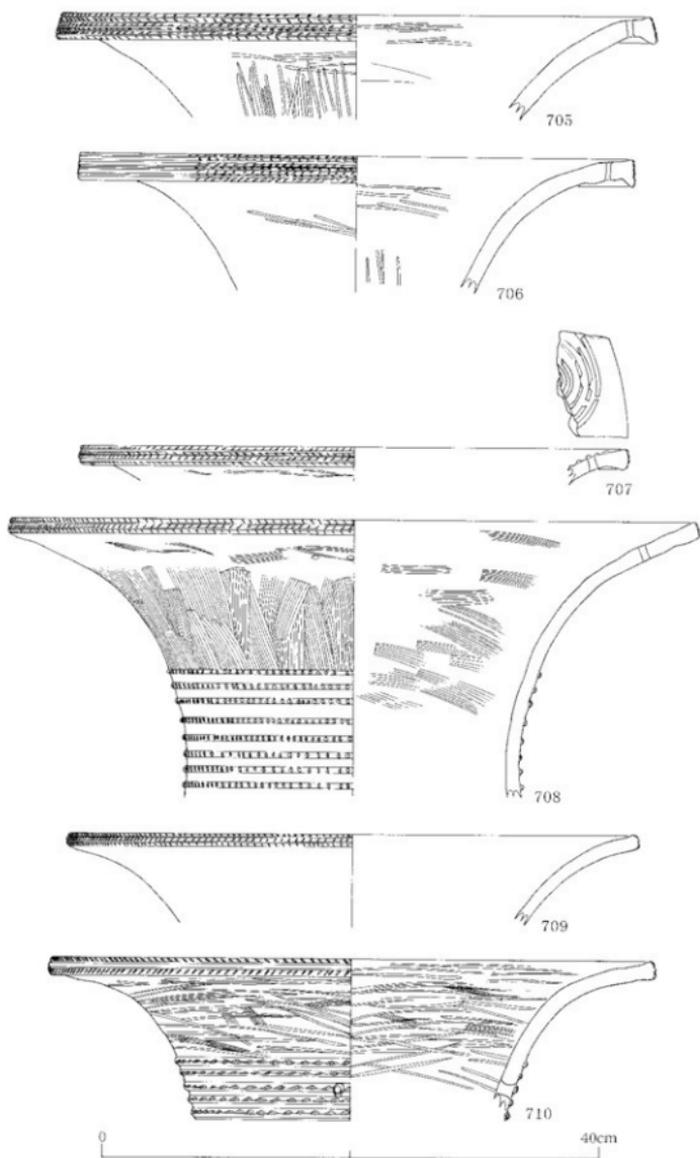
696は高杯の脚部である。裾部は強く立ち上がり、柱状部との境が不明瞭である。柱状部は中空である。裾端部は上方へ拡張する。脚部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

697・698は甕である。697は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。698は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。外面はハケメ調整、内面の口縁部はハケメ調整、体部はナデ調整する。697はⅢ～Ⅳ様式、698はⅡ様式。生駒西麓産。

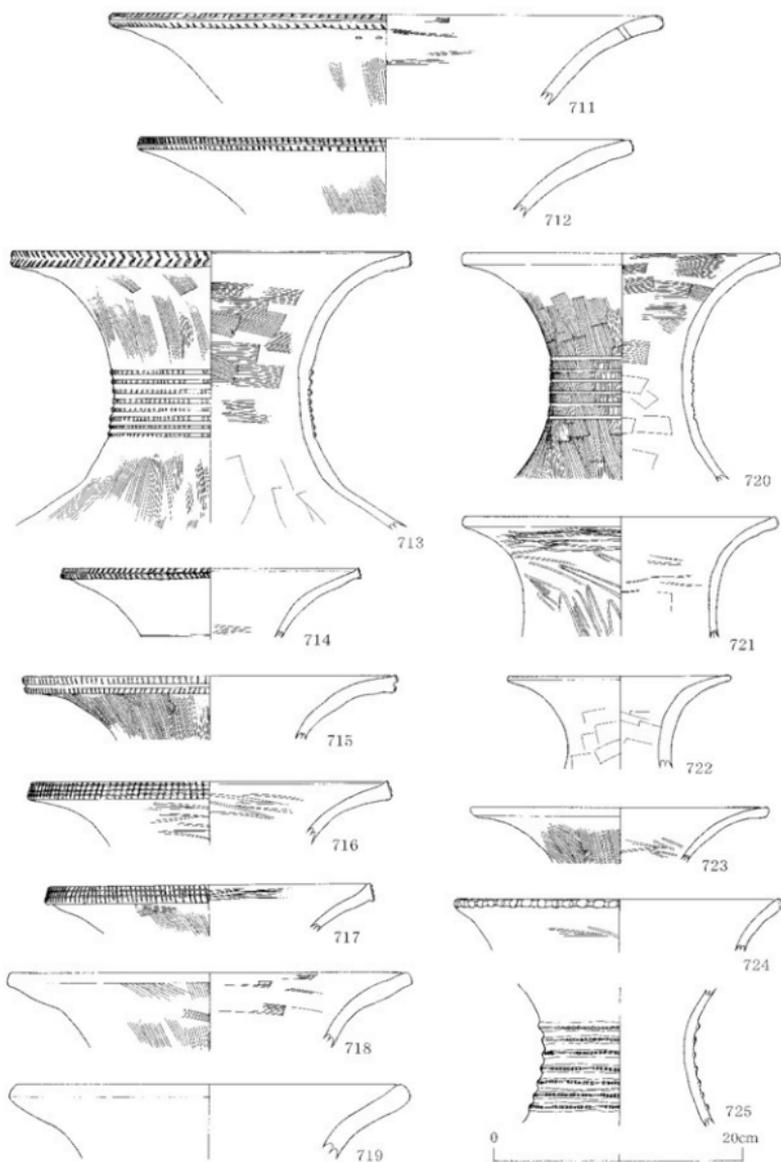
699～702は水差形土器である。底部は平底である。体部の張りは大きく、口頸部が外上方へ伸びる。頸部と体部の境に半円形を呈する把手が付く。699～701は把手のある口縁部にゆるいU字形の切り込みを入れる。702は切り込みを施していない。口頸部から体部上半に櫛描文様や凹線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整かナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。700は非河内産、他は生駒西麓産。

上器溜り土坑（第83～87図705～746）

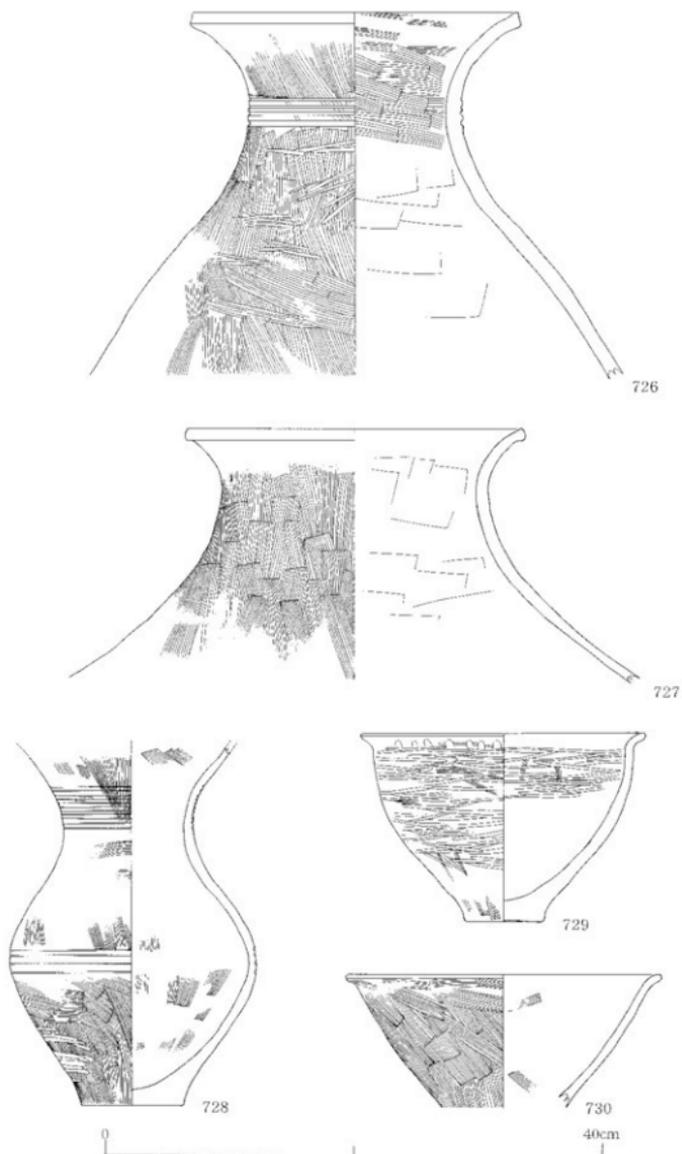
壺・鉢・甕・甕の器種がある。上器溜り土坑の上器はⅡ様式以降のものを1点も含んでいないこ



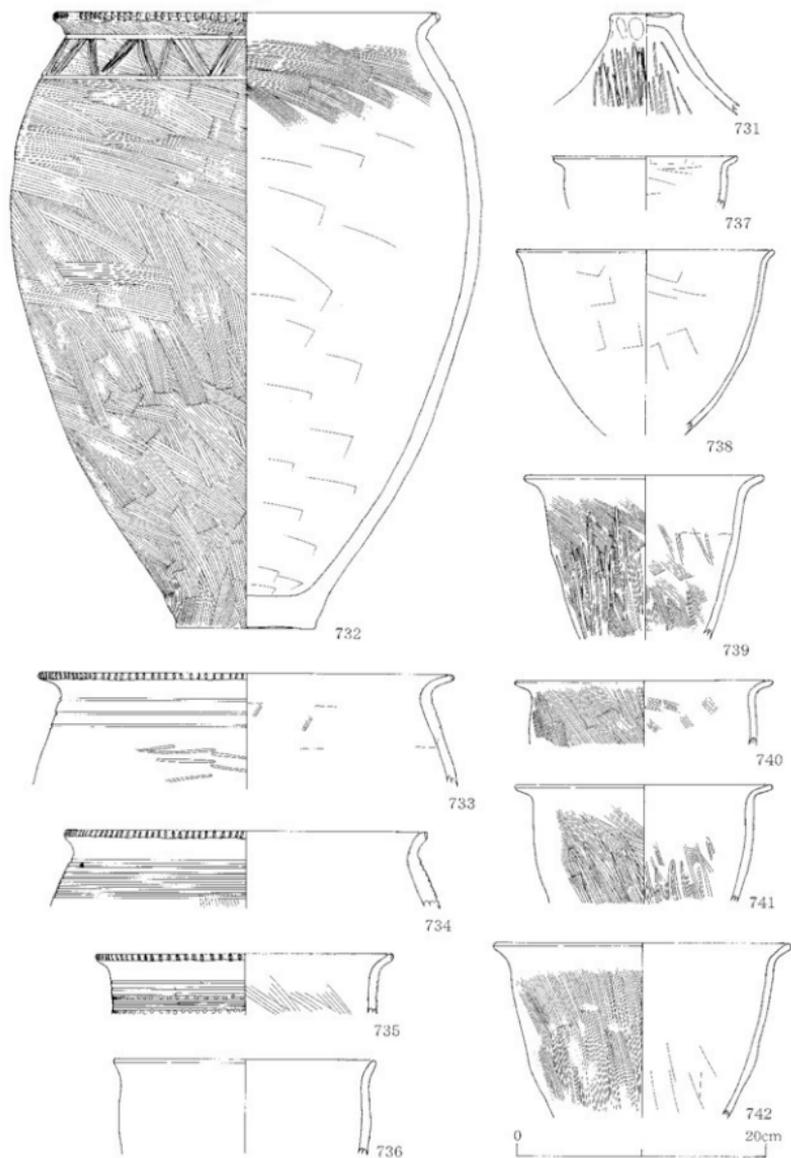
第83图 9上区土器灌り土坑山十土器実測図



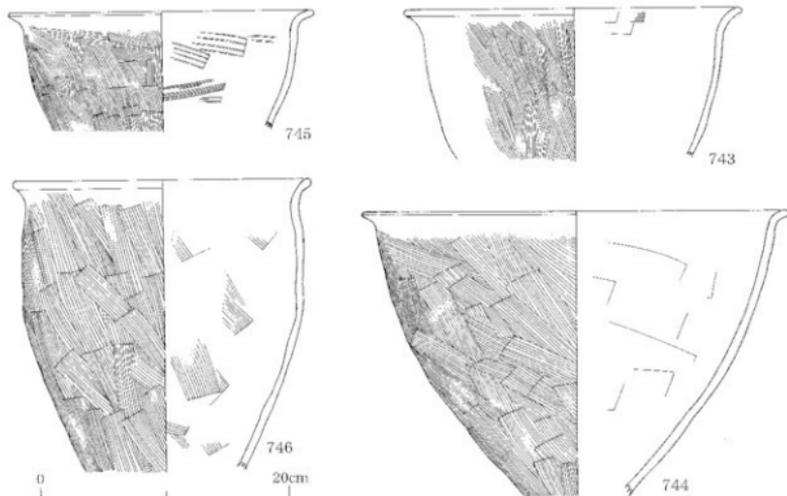
第84图 9工区上器溜り十坑出土土器実測図



第85図 9丁区土器溜り七坑出土土器実測図



第86図 9工区土器溜り土坑出土土器実測図



第87図 9工区土器溜り上坑出土土器実測図

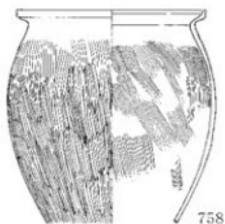
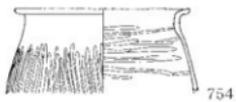
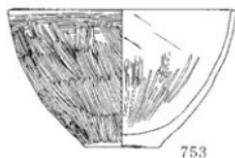
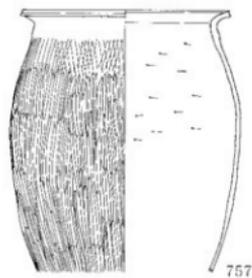
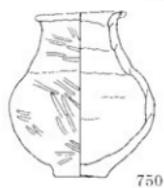
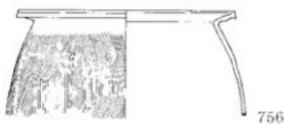
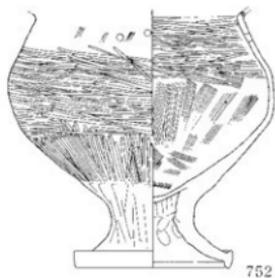
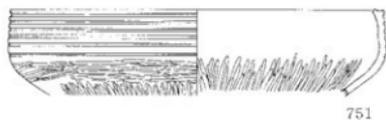
とから一括性の高いI様式の資料である。

705～728は壺である。705～717は口頸部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部は面を持つものとやや丸く終わるものがある。口縁端部にヘラ描文様を施す。705～715は綾杉文、716・717は格子文である。707は口縁部内面に数条の弧を呈する凸帯を貼り付ける。708・710・713は頸部に刻み目凸帯を施す。705～708・711は口縁部に小円孔を穿つ。710は頸部に焼成後の小円孔を穿つ。内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整するものが多い。715は高熱を受けており、やや変形する。器壁に鬆が入る。718～724は口頸部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。724以外は口縁端部が無文である。724は口縁端部に刻み目を施す。720は頸部にヘラ描沈線文を施す。6条が残る。内外面はハケメ調整やナデ調整が多い。719は高熱を受けており、やや変形する。器壁に鬆が入る。725は頸部である。7帯の刻み目凸帯を施す。頸部と凸帯の胎土が異なる。頸部が茶褐色、凸帯が桃灰色の色調を呈する。726・727は頸部が短く、口縁部がゆるく外反する。726は口縁端部が面を持つ。頸部に4条のヘラ描沈線文を施す。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面は頸部をハケメ調整、体部をナデ調整する。727は口縁端部が丸く終わる。外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。728は口縁部を欠損する。底部は平底を呈する。体部の張りは少なく、頸部が外上方へ伸びる。頸部と体部にヘラ描沈線文を施す。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。I様式。706・712・714は非河内産、他は生駒西麓産。

729・730は鉢である。底部は平底である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。729は体部外面をヘラミガキ調整、内面の上半をヘラミガキ調整、下半をナデ調整する。730は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。I様式。非河内産。

731は裏蓋の摘み部である。上面はわずかに凹む。体部内外面はヘラミガキ調整する。I様式。生駒西麓産。

732～746は壺である。732～735は体部の張りが少ないものとやや張るものがある。口縁部はゆる



第88图 9工区井戸1出土上器实测图

く外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部にヘラ描文様を施す。735はさらに竹管文を加える。体部内外面はハケメ調整やナデ調整するものが多い。736～746は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。無文である。体部内外面はハケメ調整やナデ調整するものが多い。I様式。736は非河内産、他は生駒西麓産。

井戸1 (第88図747～758)

壺・高坏・無頸壺・鉢・甕の器種がある。

747～750は壺である。747は口縁部が外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描簾状文と刻み目を施す。口縁部内面に1単位が3列3段の円形浮文を貼り付ける。内外面はハケメの後ナデ調整する。748・749は頸部が短く、口縁部が強く外反する。口縁端部は上方へ積み上げ気味に拡張する。748は底部が平底を呈し、体部がやや縦長の球形を呈する。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面は上半をハケメ調整、下半をヘラケズリ調整する。体部に穿孔を穿つ。750は口縁端部を欠損するが丸く終わると思われる。底部は平底であり、体部は扁球形を呈する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。750はI様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

751は高坏である。浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁部に6条の凹線文を施す。坏部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

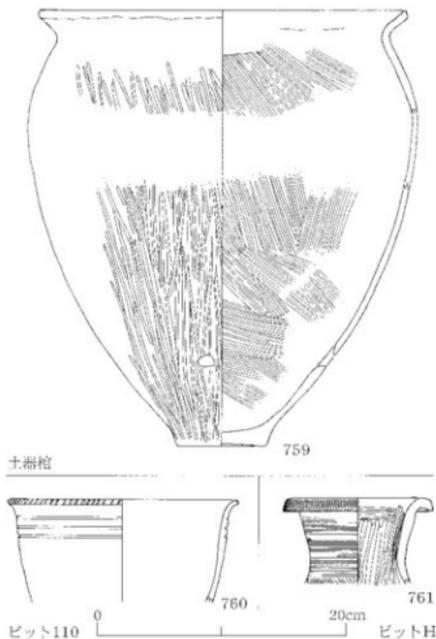
752は無頸壺である。体部は内傾する。口縁部は一部欠損するが外反する。短い脚部が付く。裾端部は面を持つ。口縁部直下に2ヶ1対の小円孔を穿つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面は上半をヘラミガキ調整、下半をハケメ調整する。脚部内外面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

753は鉢である。底部は平底である。体部が内湾気味に外上方へ伸び、口縁端部は面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面は上半をナデ調整、下半をヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

754～758は甕である。754は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はヘラミガキ調整する。755は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。756～758は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ積み上げ気味に拡張する。体部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土器棺 (第89図759)

759は甕である。口縁部と体部に分かれるが同一個体である。底部は平底である。



第89図 9上区土器棺、ピット110・H出土土器実測図

体部が大きく張り、口縁部は強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部下半に穿孔が1孔ある。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ビット110 (第89図760)

760は甕である。体部の張りが少なく、口縁部はゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に3条のヘラ描梳線文を施す。体部内外面はナデ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。

ビットH (第89図761)

761は壺である。口頸部が外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に1帯の櫛描麻状文を施す。頸部に直線文と列点文を施す。4帯が残る。頸部外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

遺物包含層出土土器

第11層 (第90図762～764)

鉢・高坏・甕の器種がある。

762は鉢である。体部は内傾する。口縁部が短く外反し、口縁端部は面を持つ。体部に櫛描麻状文を施す。3帯が残る。文様帯間は研磨する。体部内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

763は高坏である。口縁部が水平方向に伸び、口縁端部は面を持つ。口縁部と坏部の内面境には凸帯を廻らす。中期。生駒西麓産。

764は甕である。体部が大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はタタキ調整、内面はナデ調整する。Ⅴ様式。生駒西麓産。

第12層 (第90図765～767)

壺・高坏・鉢の器種がある。

765は壺である。口頸部が外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に1帯の櫛描麻状文を施す。頸部にも麻状文を施す。3帯が残る。頸部内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

766は高坏である。浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁部直下に1条、坏部に2条の凹線文を施す。坏部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

767は鉢である。体部は内傾する。口縁部が強く外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部に1帯、体部に2帯の櫛描列点文を施す。3帯が残る。内外面は風化が著しく調整法は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

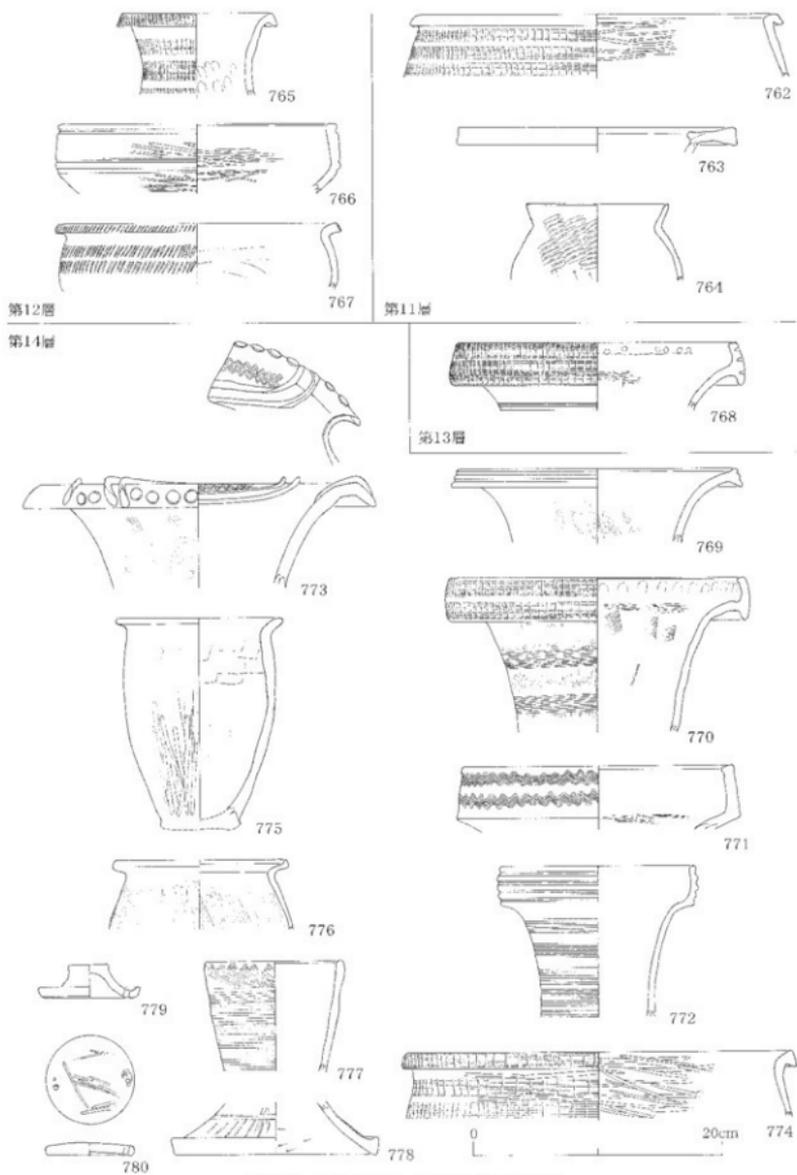
第13層 (第90図768)

768は壺である。口頸部が大きく外反する。口縁端部を上下へ大きく拡張する。口縁端部は幅広の面を持つ。口縁端部に3帯の櫛描麻状文を施した後、3帯の円形刺突文を廻らす。内面に円形刺突文を施した際の凸状の盛り上がりが残る。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

第14層 (第90図769～780)

壺・鉢・甕・細頸壺・高坏・壺蓋の器種がある。

769～773は壺である。769は口頸部が大きく外反する。口縁端部は下方へ拡張する。口縁端部に2条の凹線文を施す。内外面はハケメの後ナデ調整する。770は頸部が外上方へ伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は上下へ大きく拡張し、幅広の面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。頸部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。771・772は頸部が外上方へ伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は上方へ大きく拡張し、幅広の面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描文様や凹線文を施す。内外面はナデ調整する。773は頸部が大きく外上方へ伸び、口縁部を下方へ拡張する。口縁



第90圖 9上区第11~14層出土土器実測圖

端部は幅広の面を持つ。口縁部内面に円形浮文と2帯の長く伸びる凸帯を貼り付け、櫛描波状文を加える。頸部外面はハケメ調整、内面は風化が著しく調整法は不明である。Ⅲ～Ⅳ様式。769・773は非河内産、他は生駒西麓産。

774は鉢である。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。文様帯間には研磨する。内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

775・776は甕である。775は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。776は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ積み上げ気味に拡張する。775はⅡ様式、776はⅢ～Ⅳ様式。775は生駒西麓産、776は非河内産。

777は細頸壺である。口頸部が外上方へ伸び、口縁端部がやや面を持つ。外面に櫛描扇形文と直線文を施す。5帯が残る。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

778は高杯の脚部である。裾部はゆるく立ち上がり、裾端部は面を持つ。裾部に2帯の凹線文と縦方向のヘラ描直線文を施す。脚部外面はヘラミガキ調整、内面はヘラケズリ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

779・780は壺蓋である。779は体部の立ち上がりがやや大きく、口縁端部を上方へ拡張する。中央に円形の握みが付く。口縁部に小円孔を穿つ。内外面はヘラミガキ調整する。780は体部の立ち上がりがほとんどなく、扁平を呈する。口縁端部はやや面を持つ。口縁部に2ヶ1対の小円孔を穿つ。779はⅢ～Ⅳ様式、780は中期。生駒西麓産。

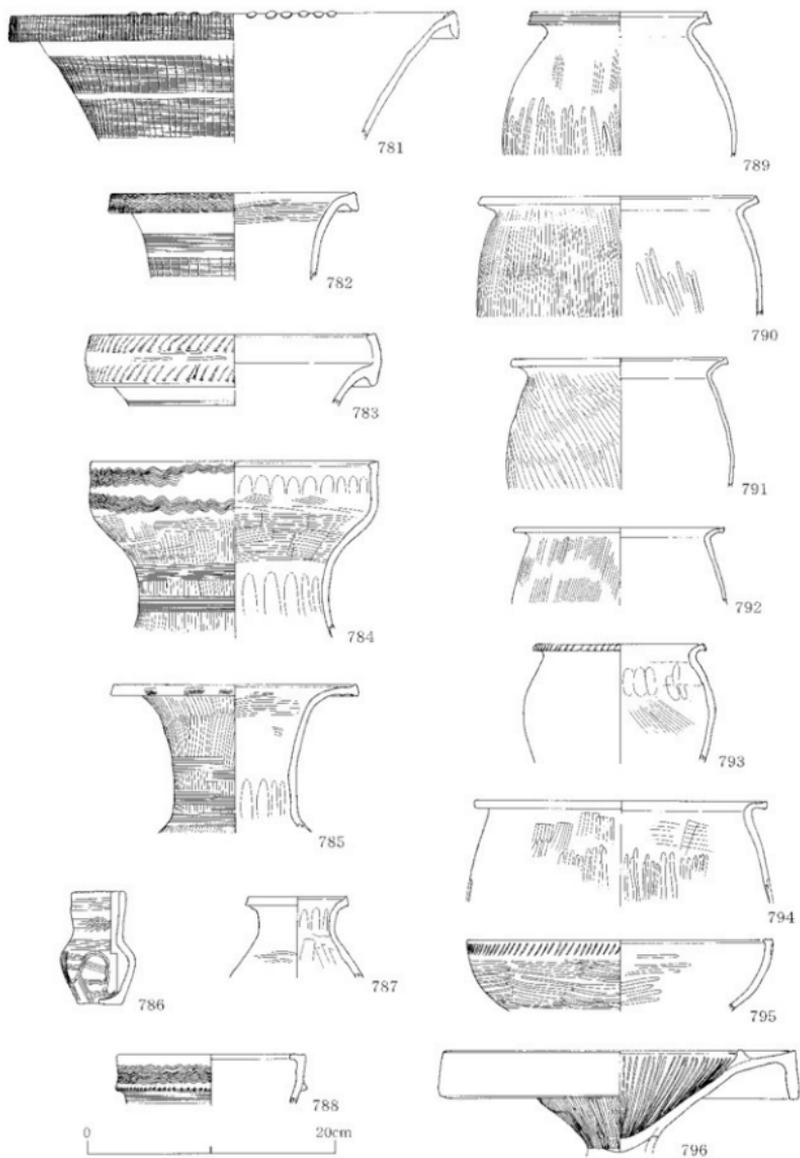
第15層（第91・92図781～802）

壺・細頸壺・甕・高杯・鉢の器種がある。

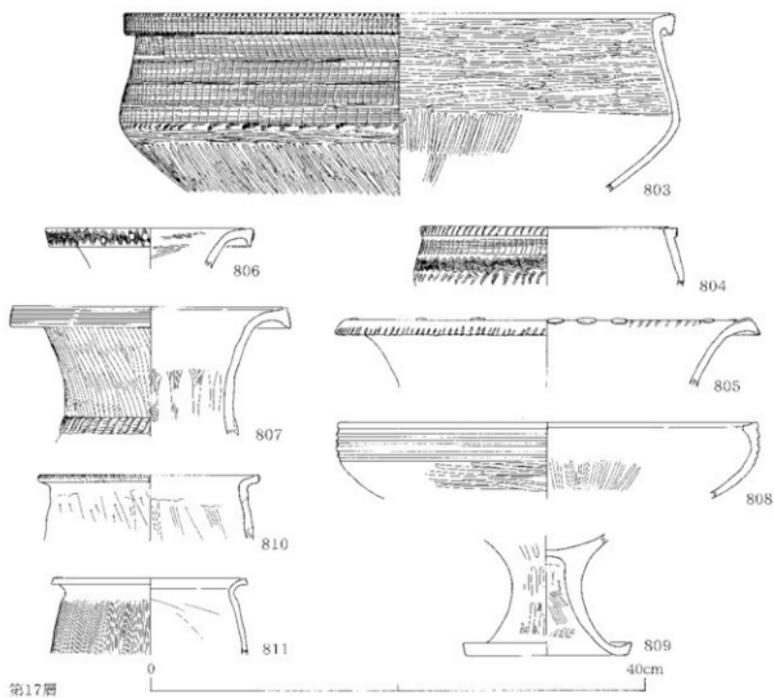
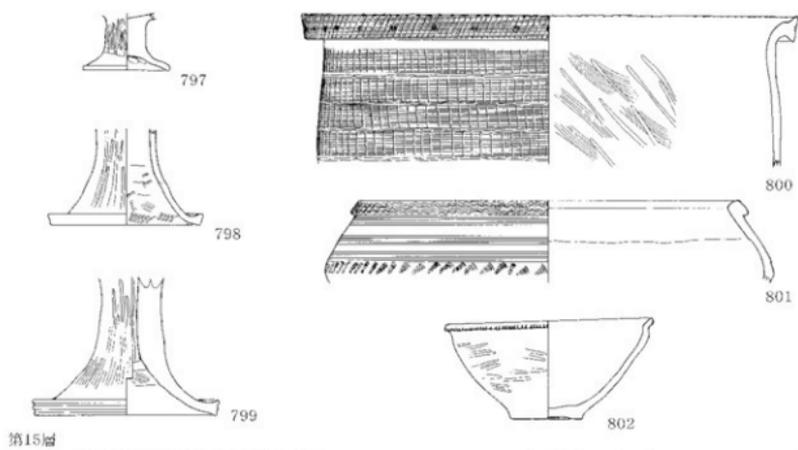
781～787は壺である。781・782は口頸部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部は下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。781は口縁部内面に円形浮文を貼り付ける。内外面はナデ調整する。783は口縁端部を上下へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。風化が著しく調整法は不明。784は口頸部が大きく外反する。口縁端部は上方へ大きく拡張し、幅広の面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。785は頸部が細長く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は上方へ積み上げ気味に拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。786はミニチュアの壺である。底部は平底を呈する。体部は上でやや張る。口頸部は上方へ伸び、口縁端部がやや丸く終わる。口縁端部に刻み目、頸部に櫛描直線文と波状文を施す。体部下半は直線と曲線を合わせた文様を施す。内外面はナデ調整する。787は体部の張りが大きく、口頸部が短く外反する。口縁端部は上方へ積み上げ気味に拡張する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。785は非河内産、他は生駒西麓産。

788は細頸壺である。口頸部は内湾気味に立ち上がる。口縁端部が内傾して面を持つ。外面に櫛描波状文と直線文を施す。2帯が残る。櫛描文様間に1帯の貼り付け凸帯を廻らす。凸帯には刻み目を施す。内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

789～794は甕である。789は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上下へ拡張する。口縁端部に3条の凹線文を施す。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面は風化が著しく調整法は不明である。790・791は体部の張りが大きく、口縁部が外反する。口縁端部は上方へ積み上げ気味に拡張する。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。791は風化が著しく内面の調整法は不



第91图 9工区第15层出土七器实测图



第92图 9上区第15·17层出上器夹测图

明である。792～794は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。793は口縁端部に刻み目を施す。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整などをする。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

795～799は高坏である。795は浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁部に櫛描列点文を施す。坏部内外面はヘラミガキ調整する。796は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部が水平方向に伸びる。口縁端部は下方へ大きく拡張する。口縁部と坏部の内面境には凸帯を廻らす。内外面はヘラミガキ調整する。797は裾部の立ち上がりがゆるく、裾端部はやや面を持つ。柱状部は短く上方へ伸び、中実である。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。798・799は裾部の立ち上がりは大きく、柱状部との境が不明瞭である。裾端部は上方へ拡張する。柱状部は中空である。799は裾端部に2条の凹線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。797はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

800～802は鉢である。800は体部が上方へ伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部と体部に櫛描波状文を施す。口縁端部には刻み目と竹管文を加える。内外面はヘラミガキ調整する。801は体部が内傾しながら立ち上がり、口縁端部が段を持つ。口縁端部と体部に櫛描文様を施す。内外面はナデ調整する。802は底部が平底である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

第17層（第92図803～811、第94図827・836・837）

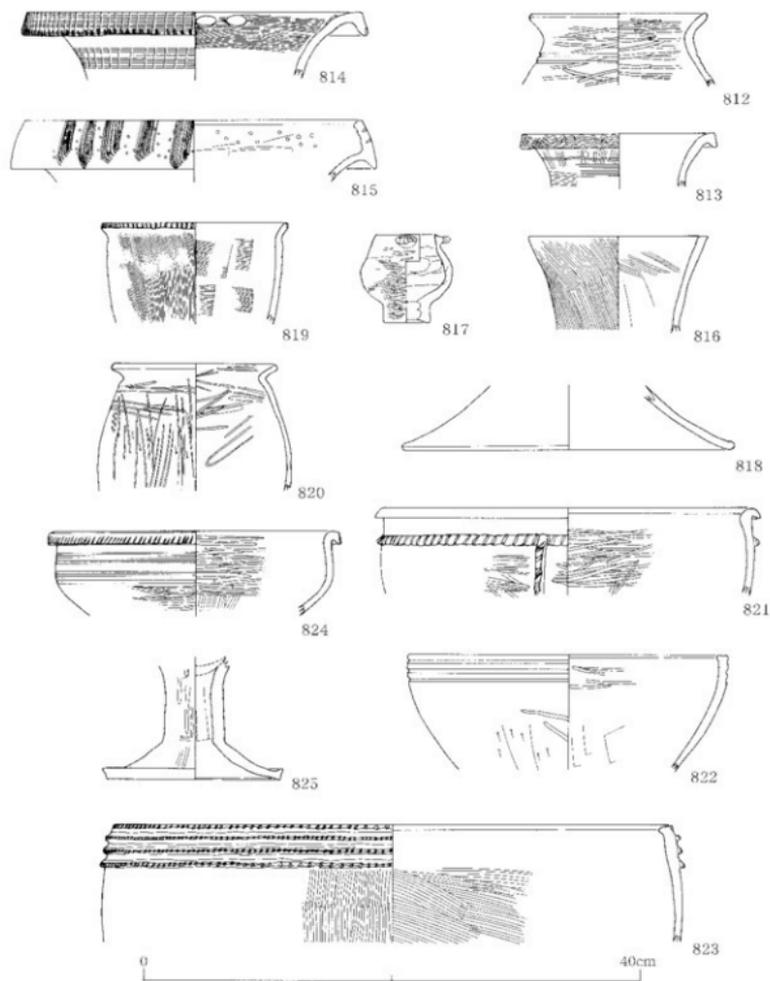
鉢・壺・高坏・甕の器種がある。

803・804・836は鉢である。803は体部が内傾しながら立ち上がり、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部と体部に櫛描文様を施す。口縁端部の両端には刻み目を加える。内外面はヘラミガキ調整する。804は体部が内傾しながら立ち上がり、口縁端部が段を持つ。口縁端部と体部に櫛描文様を施す。内外面はナデ調整する。836は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部は面を持つ。体部に4条の凹線文を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。803・804は生駒西麓産、836は非河内産。

805～807・827・829は壺である。805・806は頸部が外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。805は口縁端部に刻み目、口縁部内面に櫛描扇形文と円形浮文を施す。風化が著しく調整法は不明。806は口縁端部に櫛描波状文と円形浮文を施す。外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。807は口頸部が大きく外反し、口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に4条の凹線文を施す。頸部と体部の境に凸帯を貼り付け、刻み目を施す。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。827は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持ち、1条のヘラ描沈線文、頸部に櫛描直線文を施す。829は頸部が大きく外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。827はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。807は非河内産、他は生駒西麓産。

808・809・837は高坏である。808は浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁部に5条の凹線文を施す。坏部内外面はヘラミガキ調整する。809は裾部の立ち上がりは大きく、柱状部との境が不明瞭である。裾端部は上方へ拡張する。柱状部は中空である。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。837は脚部である。裾部の立ち上がりはゆるく、柱状部は上方へ伸びる。柱状部は中実である。裾端部は面を持つ。脚部外面はヘラミガキ調整、裾部内面はハケメ調整する。808・809はⅢ～Ⅳ様式、837はⅡ様式。808・809は非河内産、837は生駒西麓産。

810・811は甕である。810は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わ



第93図 9工区第18層出土土器実測図

る。口縁端部に刻み目を施す。体部内外面はナデ調整する。811は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。810はⅡ様式、811はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

第18層（第93図812～825、第94図828・830・834・835）

壺・無頸壺・甕蓋・甕・鉢・高杯の器種がある。

812～816・828・830は壺である。812は体部の張りがやや大きく、口縁部が短く外反する。口縁

端部は丸く終わる。体部に2条のヘラ描沈線文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。813・814は頸部が外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。813は口縁端部に刻み目、口縁部内面に円形浮文を加える。内外面はハケメ調整やナデ調整などをする。815は口縁端部を上下へ大きく拡張する。幅広い面を持つ。口縁端部に縦方向の櫛描直線文と円形刺突文を施す。直線文は下部で止めた後、回転を加えて扇形文とする。円形刺突文は波状に配置する。内面には刺突文の貫通したものもある。816は口頸部が直線的に外上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。828は口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや丸く終わる。頸部は櫛描直線文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。830は頸部が大きく外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。内面はナデ調整する。812はI様式、828はII様式、他はIII～IV様式。生駒西麓産。

817はミニチュアの無頸壺である。底部は分厚い。体部は下部で張る。体部上半は内傾する。口縁端部は丸く終わる。口縁部に壺上の把手が付く。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

818は甕である。体部がゆるく立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。風化が著しく調整法は不明。中期。生駒西麓産。

819・820・834・835は甕である。819は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。820は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。834・835は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整やナデ調整する。819はII様式、他はIII～IV様式。819・820は生駒西麓産、834・835は非河内産。

821～824は鉢である。821は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部に1帯の凸帯を施し、部分的に縦方向の凸帯を加える。凸帯には刻み目を施す。内外面はヘラミガキ調整する。822・823は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は面を持つ。822は口縁部に3条の凹線文を施す。外面はヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整する。823は口縁端部に刻み目、体部に刻み目凸帯を3帯施す。内外面はハケメ調整する。824は体部が内傾しながら立ち上がり、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に櫛描直線文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。821は詳細な時期は不明、他はIII～IV様式。823は非河内産、他は生駒西麓産。

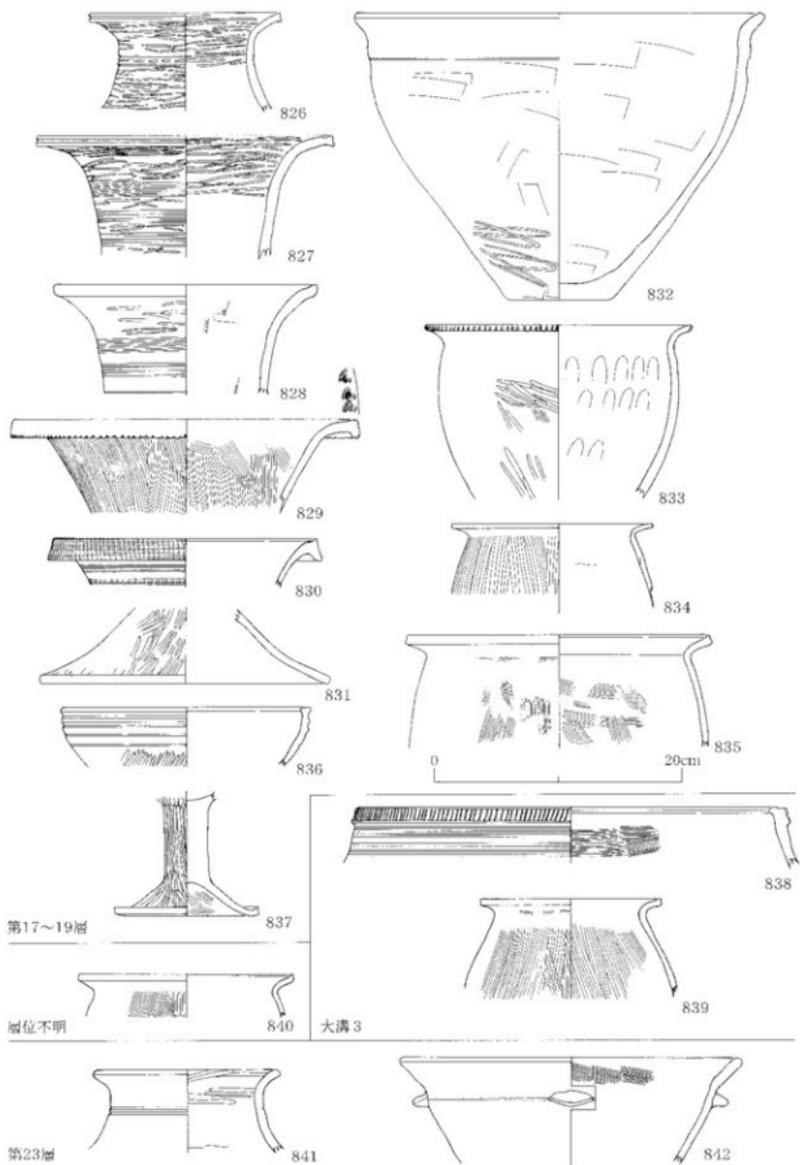
825は高坏の脚部である。裾部の立ち上がりはゆるく、柱状部は上方へ伸びる。柱状部は中空である。裾端部は面を持つ。脚部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。第19層（第94図826・831～833）

壺・甕蓋・甕・鉢・高坏の器種がある。

826は壺である。口頸部がゆるく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条、頸部に2条のヘラ描沈線文を施す。頸部の沈線間には楕円形の刺突文を加える。内外面はヘラミガキ調整する。I様式、生駒西麓産。

831は甕蓋である。体部の立ち上がりは強く、口縁端部は面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面にリング状の煤が付着する。中期。生駒西麓産。

832～835は甕である。832は底部が平底である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部の上位に段が付く。体部外面はナデの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調



第94图 9 T区第17~19·23层, 大清3、层位不明出土器夹测图

整する。833は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。832はⅠ様式、833はⅡ様式。832は生駒西麓産、他は非河内産。

第23層（第94図841・842）

壺・鉢の器種がある。

841は壺である。口頸部が短く外反し、口縁端部がやや丸く終わる。頸部に2条のヘラ描沈線文を施す。口縁部内面はヘラミガキ調整、他は風化が著しく調整法は不明。Ⅰ様式。生駒西麓産。

842は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部に1条のヘラ描沈線文を施した後、窟状の握手を貼り付ける。体部外面はナデ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。

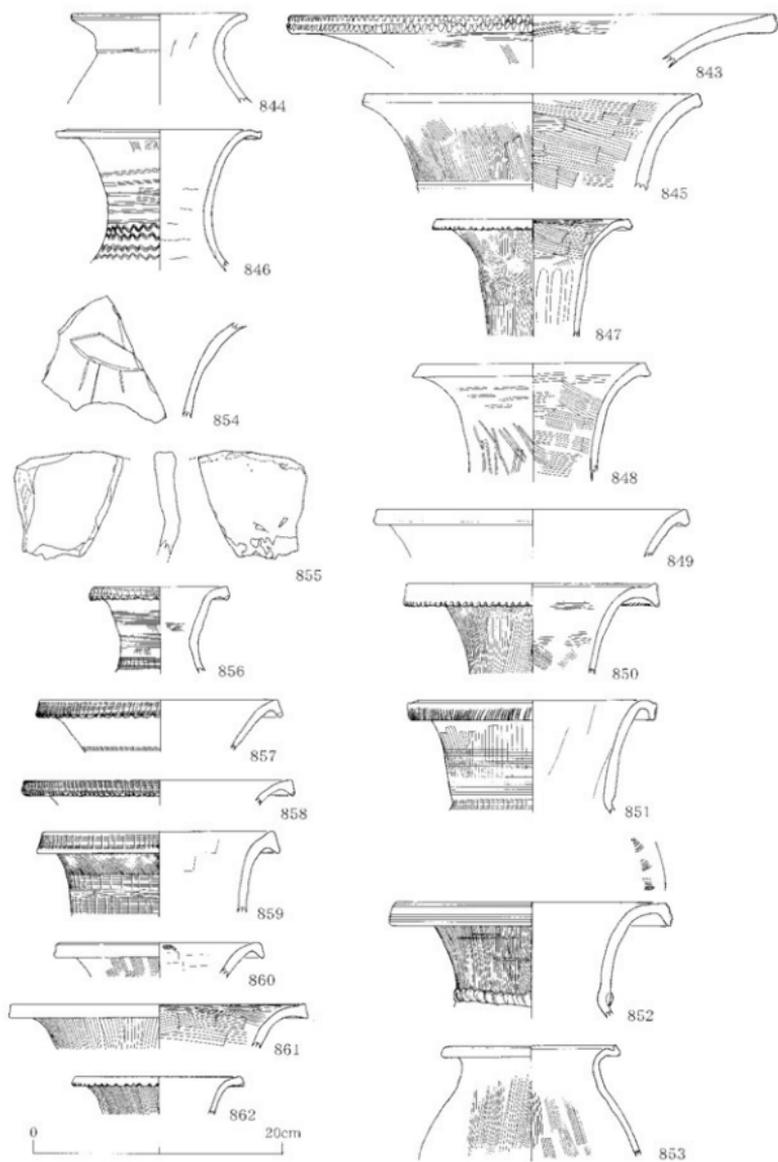
層位不明（第94図840）

840は壺である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は上方へ痛み上げ気味に拡張する。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

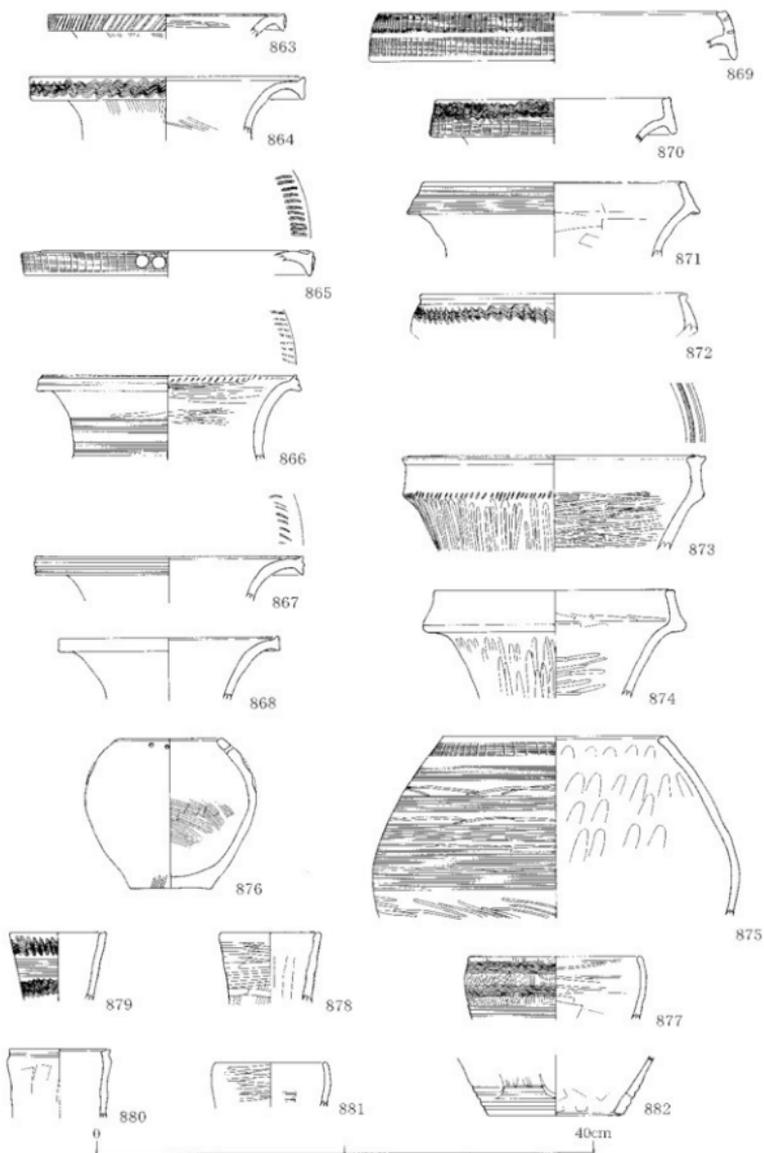
第11～23層（第95～99図843～945）

壺・無頸壺・細頸壺・脚部・鉢・壺蓋・高坏・甕の器種がある。

843～874は壺である。843は口頸部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部は面を持つ。口縁端部にヘラ描沈線文と両端に刻み目を施す。内外面はハケメの後ナデ調整する。844は体部の張りがやや大きく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に1条のヘラ描沈線文、頸部に段を施す。風化が著しく調整法は不明。845は口頸部が外上方へ伸びる。口縁端部は面を持つ。頸部にヘラ描沈線文を施す。2条が残る。内外面はハケメ調整する。846～849は頸部が長く伸び、口縁部が外反する。口縁端部は面を持つ。846は頸部に櫛描直線文と波状文を施す。櫛原体は中央が幅広くあいており、その両端に3本の条溝を施す。原体の条溝は6本である。847は口縁端部に刻み目を施す。内外面はハケメ調整するものが多い。850～852は頸部が外上方へ伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ大きく拡張し、幅広い面を持つ。850は口縁端部に刻み目を施す。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。851は口縁端部に刻み目、頸部に櫛描文様を施す。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。852は口縁端部に3条の凹線文、口縁部内面に櫛描扇形文、頸部に貼り付け凸帯を施す。凸帯に指圧痕を加える。頸部外面に十字の線刻が残る。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。853は体部の張りがやや大きく、口頸部が短く外反する。口縁端部は上方へ痛み上げ気味に拡張する。体部内外面はハケメ調整する。854は頸部の破片である。外面は櫛描直線文を施す。内面に線刻による絵が描かれている。楕円形を呈する体部から下には3本の足が残る。全体的なバランスから考えると足は4本と思われる。首から上は欠損する。塵を拵いた可能性が高い。焼成後の線刻である。855は口縁部の破片である。高熱を受けており、変形する。器壁に緑が入る。856～862は口頸部が外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様や刻み目を施すものと無文のものがある。内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整が多い。863～868は口頸部が外反し、口縁端部を上方へ痛み上げ気味に拡張する。口縁端部や口縁部内面に櫛描文様や凹線文などを施すものが多いが無文のものもある。内外面はナデ調整するものが多い。869・870は口縁端部を上下へ大きく拡張する。幅広い面を持つ。口縁端部に櫛描文様や円形刺突文を施す。871～874は口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広い面を持つ。口縁端部に櫛描文様や刻み目を施すものが多いが無文のものもある。873は口縁端部の上面に3条の凹線文を施す。内外面はヘラミガキ調整するものが多い。843～845はⅠ様式、846～849はⅡ様式、855は詳細な時期は不明、他はⅢ～Ⅳ様式。846・



第95图 9工区第11~23层出土上器火刺网



第96图 9工区第11~23层出土土器尖测图

848・850・852・862・863・864・868は非河内産、他は生駒西麓産。

875・876は無頭壺である。875は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部に至る。口縁端部は面を持つ。体部外面に櫛描篋状文と直線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。876は底部が平底である。体部は中位で張り、上半は内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。無文である。口縁部に2ヶ1対の小円孔を穿つ。風化が著しく外面の調整法は不明、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

877～881は細頸壺である。口頸部が上方へ直線的に伸びるものと内湾気味に立ち上がるものがある。口縁端部は丸く終わるものが多い。外面に櫛描文様を施すものと無文のものがある。内外面はハケメ調整やナデ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。881は生駒西麓産、他は非河内産。

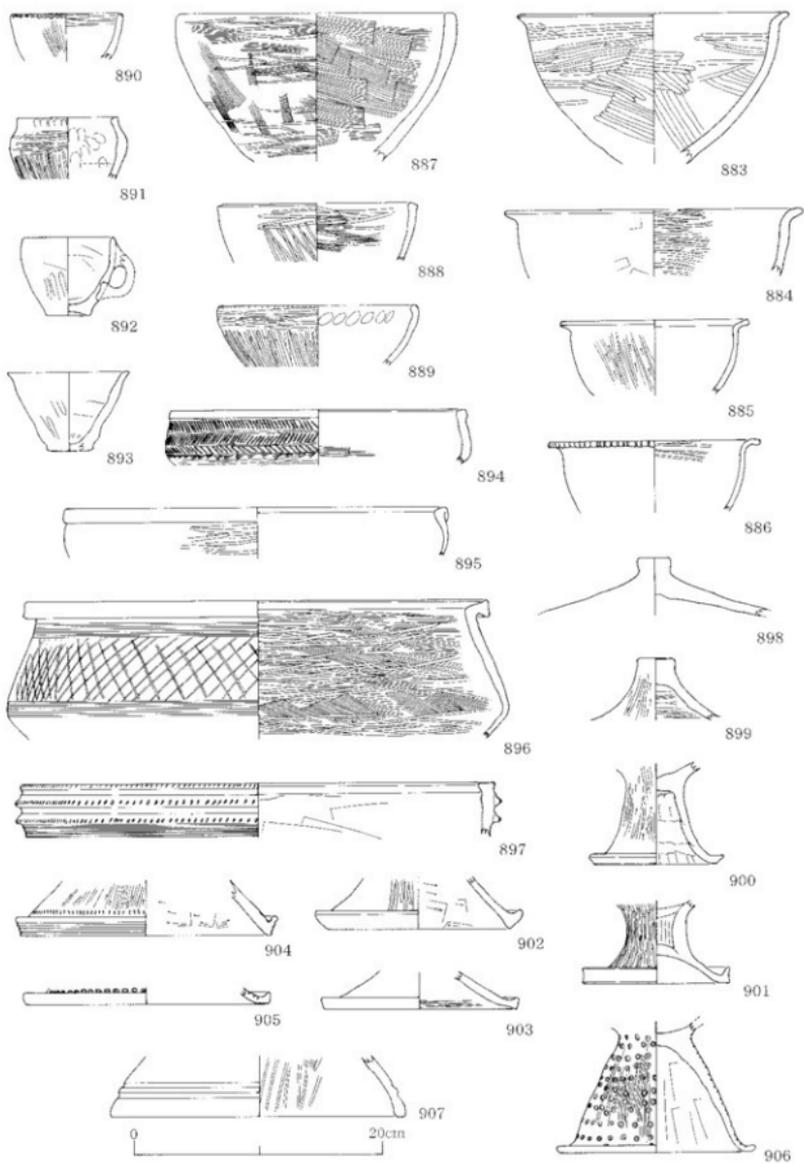
882・907は脚部である。882は無頭壺の脚部の可能性が高い。裾部が外上方へ伸び、裾端部が面を持つ。裾部に4条の凹線文を施し、円孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。907は裾部がゆるく立ち上がる。裾端部は丸く終わる。裾部に2条の凹線文を施す。外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。882は非河内産、907は生駒西麓産。

883～897は鉢である。883・884は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整やナデ調整する。885・886は体部の張りが少なく、口縁部が強くと外反する。口縁端部はやや面を持つ。886は口縁端部に刻み目を施す。内外面はヘラミガキ調整やナデ調整する。887～889は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は面を持つ。内外面はハケメ調整するものが多い。890～893はミニチュアの鉢である。体部が外上方へ伸びるものとやや内湾気味に立ち上がるものがある。口縁部はわずかに外反するものもある。890は口縁端部に刻み目を施す。892は把手が付く。内外面はナデ調整やヘラミガキ調整するものが多い。894・895は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。894は体部に櫛描文様を施す。895は無文である。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。896は体部が内傾する。口縁部が強くと外反し、口縁端部は面を持つ。体部に櫛描文様を施す。風化が著しく外面の調整法は不明、内面はヘラミガキ調整する。897は体部が上方へ伸びる。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に刻み目凸帯と櫛描直線文を施す。内面はナデ調整する。883・884・887～889はⅡ様式、890～893は中期、他はⅢ～Ⅳ様式。893・895は非河内産、他は生駒西麓産。

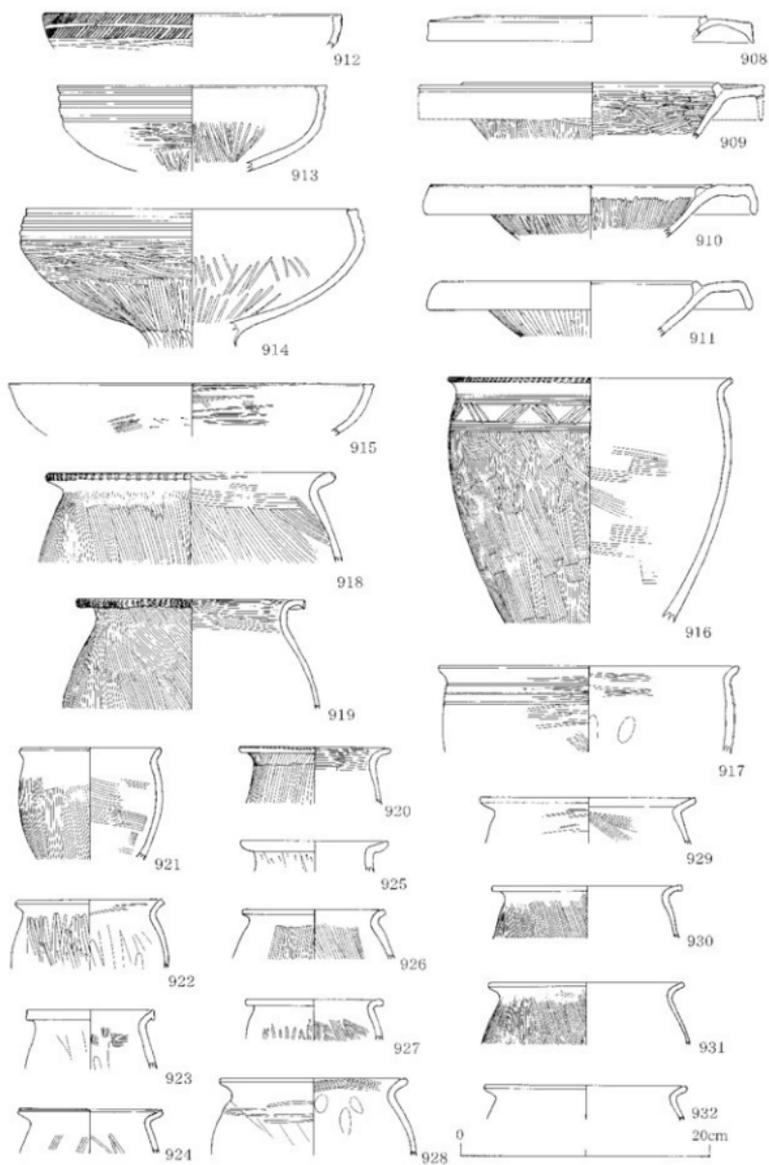
898・899は壺蓋である。体部の立ち上がりはゆるい。中央に円形の擴みが付く。898は風化が著しく調整法は不明。899は外面をヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面をヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

900～906・908～915は高坏である。900～906は脚部である。裾部の立ち上がりは大きいものが多い。裾端部は上方へ拡張する。脚部や裾端部に凹線文や竹管文などを施すものもある。内外面はヘラミガキ調整やヘラケズリ調整が多い。908～911は浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁部に櫛描文様や凹線文を施すものと無文のものがある。内外面はヘラミガキ調整するものが多い。912～915は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部が水平方向に伸びる。口縁端部は下方へ大きく拡張する。口縁部と坏部の内面境には凸帯を廻らす。内外面はヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。913・914は非河内産、他は生駒西麓産。

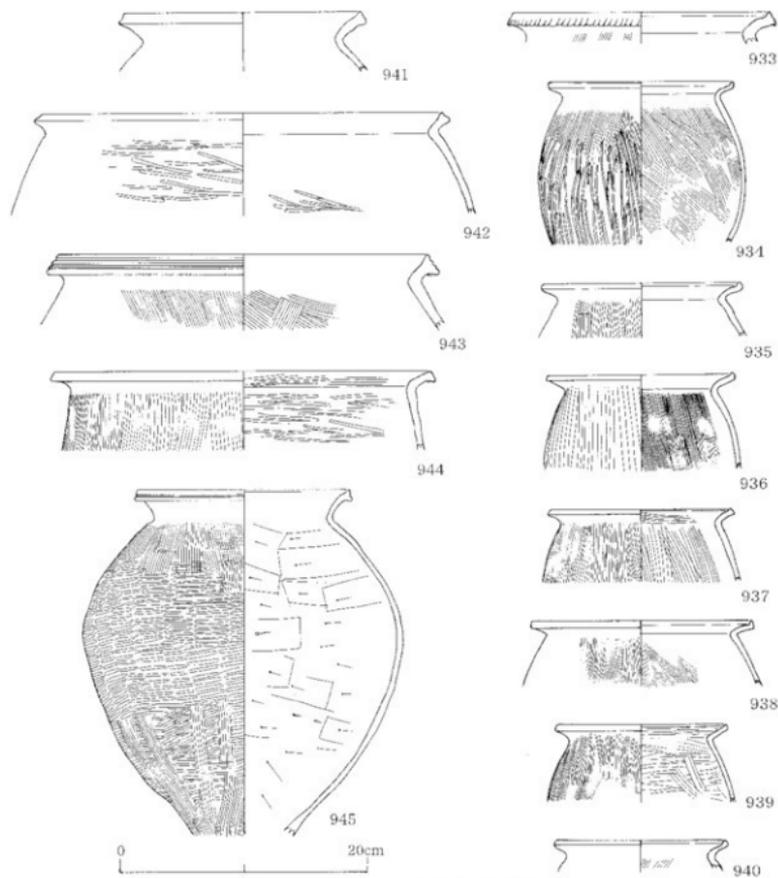
916～945は甕である。916・917は体部の張りが少なく、口縁部がゆるくと外反する。口縁端部は丸く終わる。916は口縁端部に刻み目、体部に3条で2帯のヘラ描沈線文を施す。文様帯間に山形文を配置する。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。917は体部に3条のヘラ描沈線文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。918～920は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。



第97图 9上区第11~23层出土土器实例图



第98图 9区第11~23层出土土器实测图



第99図 9T区第11～23層出土土器実測図

口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。921は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はハケメ調整する。922～932・941・942は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。体部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。933～940は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。体部内外面はハケメ調整するものが多い。943は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上へ拡張する。口縁端部に3条の凹線文を施す。体部内外面はハケメ調整する。944は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。945は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条の凹線文を施す。体部外面はタキの後ハケ

メ調整する。内面はヘラケズリ調整する。916・917はⅠ様式、918～921はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。919・920・933・935・939～941は非河内産、他は生駒西麓産。

古墳時代以降の土器

古墳時代～近世期の土器が出土した。埴輪もこの項で説明する。土器は須恵器・土師器・瓦器・陶器があり、弥生時代の遺物包含層より上の遺構と遺物包含層より出土した。

遺構出土土器

溝3（第100図946）

946は瓦器の椀である。底部であり、低い高台を貼り付ける。見込み部に平行線の暗文を施す。中世期。

自然流路1（第100図947）

947は陶器の染付け椀である。体部は内湾気味に立ち上がる。高台はやや高く、端部が丸く終わる。外面に絵柄が残る。内外面に施釉する。近世期。

自然流路2（第100図948・949）

土師器・須恵器がある。

948は土師器の皿である。体部はやや丸く、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中世期。

949は須恵器の杯である。底部であり、高台は逆台形を呈する。内外面は回転ナデ調整する。奈良時代。

自然流路3（第100図950～952）

950～952は須恵器の底部である。950は杯の底部である。高台は逆台形を呈する。内外面は回転ナデ調整する。951・952は壺の底部である。高台は逆台形を呈する。内外面は回転ナデ調整する。奈良時代。

自然流路B（第100図953）

953は円筒埴輪である。やや低いタガを貼り付ける。風化が著しく調整法は不明。古墳時代。

遺物包含層出土土器

第4層（第100図954～956）

土師器・陶器・埴輪がある。

954は土師器の皿である。口縁部が大きく外上方へ伸び、ラッパ状を呈する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中世期。

955は陶器の皿である。底部は平底を呈する。内外面はロクロナデ調整する。底部外面は無施釉、他は施釉する。近世期。

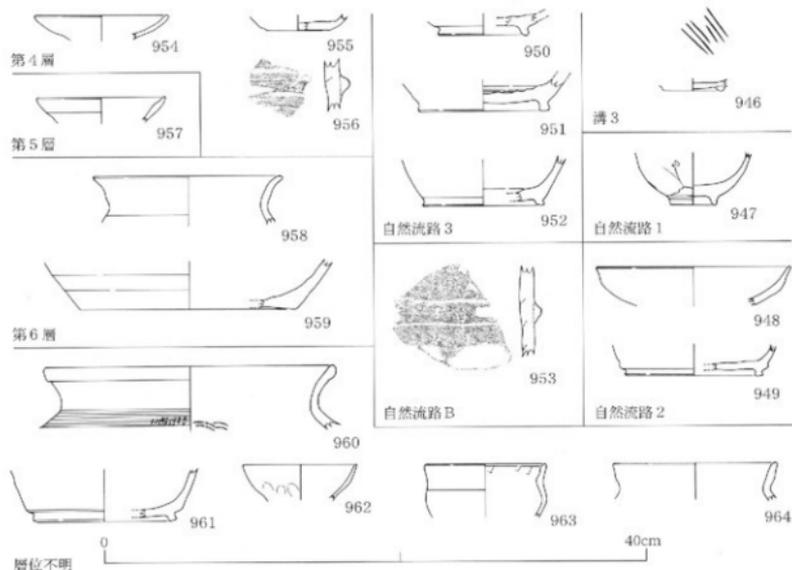
第5層（第100図957）

957は土師器の皿である。口縁部が大きく外上方へ伸び、ラッパ状を呈する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中世期。

第6層（第100図958・959）

土師器・須恵器がある。

958は土師器の甕である。口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁部と体部の境に稜



第100図 9工区溝3、自然流路1～3・B、第4～6層、層位不明出土土器実測図

が付く。内外面はナデ調整する。平安時代。

959は須恵器の底部である。内外面は回転ナデ調整する。時期は不明。

層位不明（第100図960～964）

須恵器・土師器がある。

960・961は須恵器である。960は体部の張りが大きく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は外側へ肥厚する。体部外面はタタキの後、カキメ調整する。内面にタタキ調整の当て具痕が残る。古墳時代。961は坏の底部である。高台は逆台形を呈する。内外面は回転ナデ調整する。奈良時代。

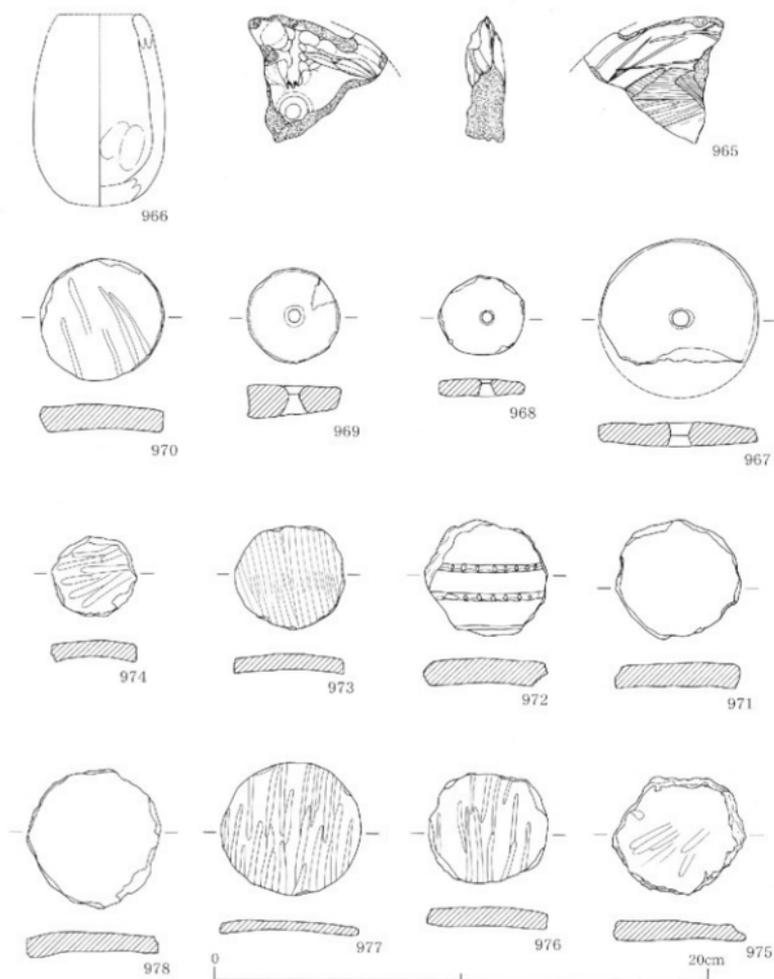
962～964は土師器である。962は坏である。体部が外上方へ伸びる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整するが外面に指頭圧痕が残る。963は埴である。体部の張りが少なく、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。964は甕である。口縁部が上方へ伸び、口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。平安時代。

2) 土製品 (第101図965～978)

弥生時代の遺構と遺物包含層より出土した。土偶・蛸壺・紡錘車・円板状土製品がある。

965は土偶である。頭部の一部が残る。板状を呈する顔に粘土紐を貼り付け、眉と鼻を表現する。鼻には小孔を2孔穿ち、鼻穴とする。眉の下に線刻で目を施す。口は押圧によって丸く凹ます。頭部上端に粘土紐の剥落痕がある。本来は弧を描いていたと思われる。裏面には数条の沈線文が見られ、下部はハケメ調整する。胎土は生駒西麓産である。第17層最下層より出土。

966は蛸壺である。口縁部と底部が欠損するが蛸壺と考えられる。底部は丸底を呈し、体部が内傾



第101図 9工区土製品実測図

して立ち上がる。器壁はやや厚い。風化が著しく調整法は不明である。胎土は非河内産である。第18層より出土。

967～969は紡錘車である。形態、加工法などは8工区のものと同様である。967は焼成前に紡錘車として作られている。968・969は土器を転用する。969は底部を研磨して作る。967は遺物包含層、968は第15層、969は土坑Bより出土。

970～978は円板状土製品である。形態、加工法、法量などは8工区のものと同様である。971は大

溝4、973・974は大溝3、978は土坑18、972は第15層、970は第14層、977は第18層、975・976は遺物包含層より出土。

3) 石器

弥生時代の遺構と遺物包含層より出土した。磨製石器、自然石を利用した石器、打製石器などがある。

磨製石器 (第102～103図979～1003)

大型蛤刃石斧・扁平片刃石斧・石剣・環状石斧・柱状片刃石斧・石庖丁がある。

979～986は大型蛤刃石斧である。両面より研磨して刃部を作る。刃部は鋭い。製作時の敲打痕を残すものもあるが研磨は丁寧である。980は欠損後、叩き石として転用しており、敲打痕が残る。985・986は本来の刃部を欠損するが、再度研磨する。979・982は大溝3、980・983は第15層、984・985は第19層、986は第18層、981は遺物包含層より出土。

987は扁平片刃石斧である。薄い板状を呈する小型のものである。刃部は片刃である。研磨は丁寧である。第15層より出土。

988・991～993は石剣である。988は先端部である。先はやや丸いが鋭く研磨する。両面中央に稜を施す。991・993は基部である。991は両側縁にゆるい抉りを入れ、茎とする。形状からするとかなり大型のものである。993は基部が平基である。両面は扁平である。992は中央に稜を施す。すべて研磨は丁寧である。992は大溝2、988は第18層、993は第15層、991は遺物包含層より出土。

989は環状石斧である。全体の1/5を残す資料である。全体を円形に研磨し、中央に孔を穿つ。断面形が板状を呈する。円周の刃部は欠損する。大溝3より出土。

990は柱状片刃石斧である。基部の一部が残る。断面形が長方形を呈する。研磨は丁寧である。遺物包含層より出土。

994～1003は石庖丁である。994～997・1001は背が半月形である。刃部は直線的であり、片刃である。刃部は使用によって湾曲するものもある。背に2孔の紐穴を穿つ。1001は再加工が施され、紐穴がさらに加えられている。1000・1002・1003は大型石庖丁である。背は半月形を呈する。刃部は両面より研磨する。背に2孔の紐穴を穿つ。995・1000は大溝3、997は井戸1、1002は溝18、1003は大溝4、998・1001は第19層、999は第18層、994・996は遺物包含層より出土。

自然石を利用した石器 (第104図1004～1008)

砥石・石錘がある。

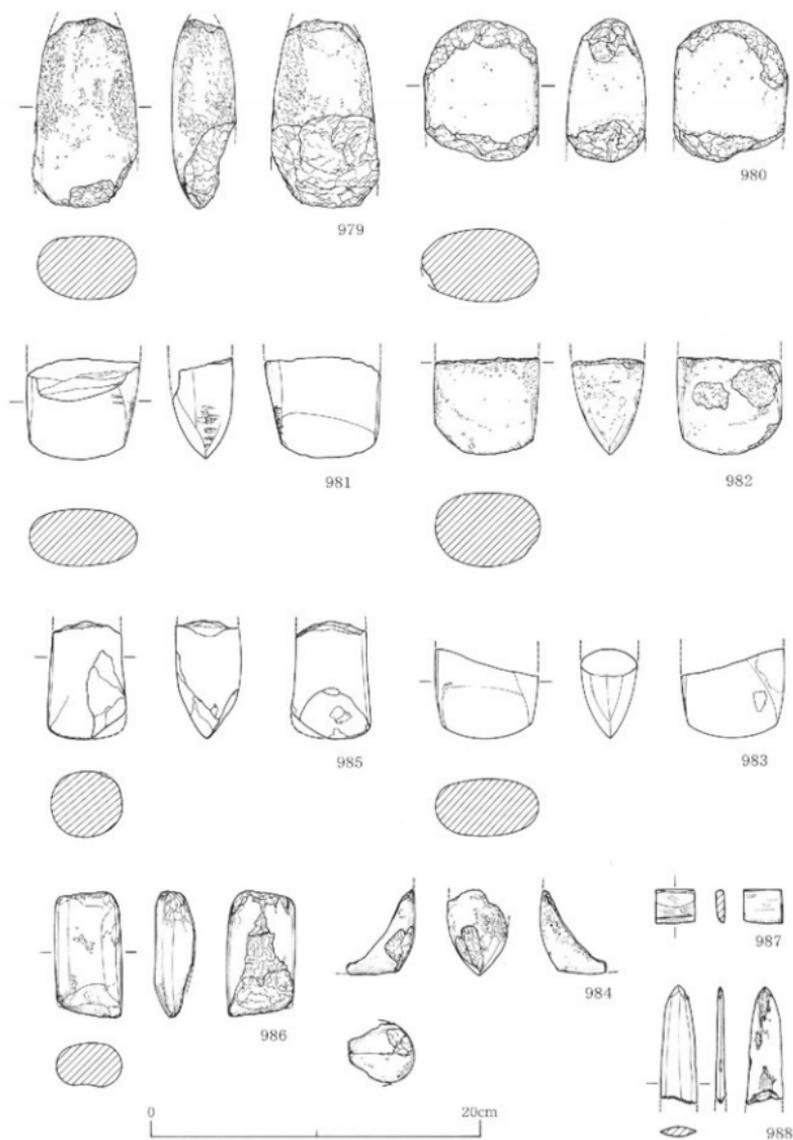
1004～1007は砥石である。形態はおおむね長方形を呈するが規格性はない。1005は三角形を呈しているが本来は長方形と考えられる。5面に使用痕が残る。遺物包含層より出土。

1008は石錘である。楕円形を呈する扁平な石の両小口を打ち欠く。第18層より出土。

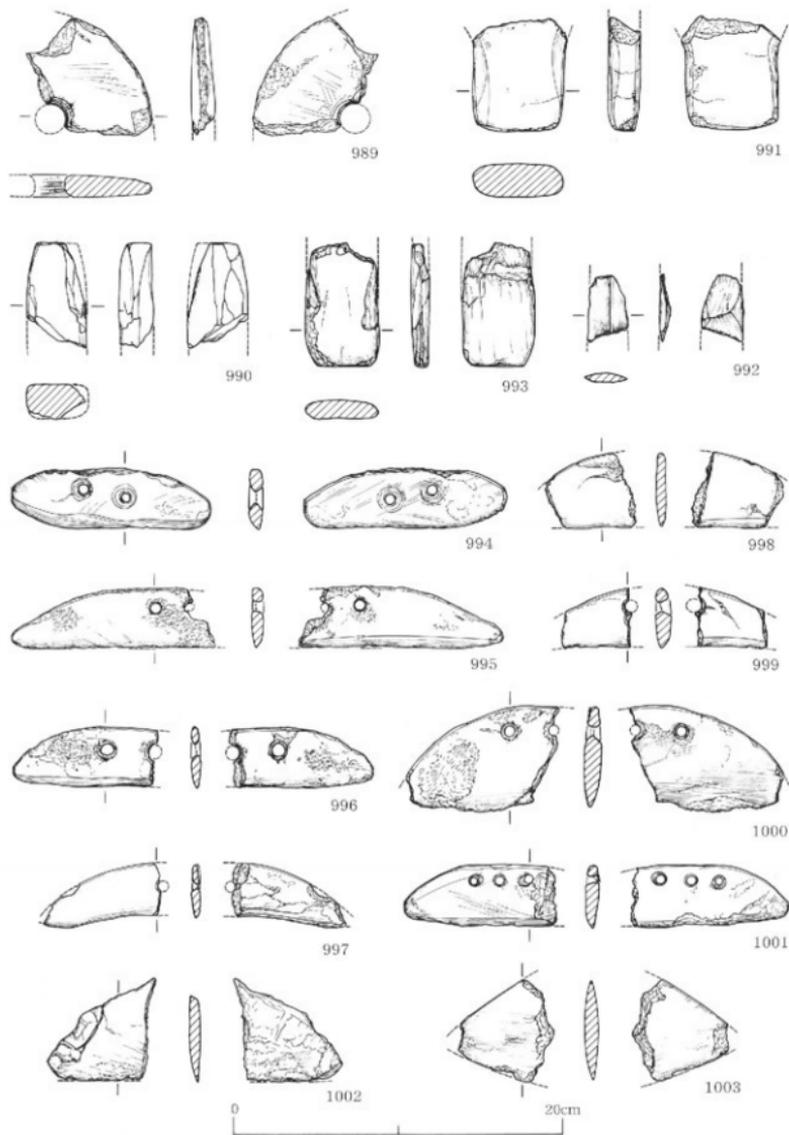
打製石器 (第104・105図1009～1035)

石槍・石鏃・石錘がある。

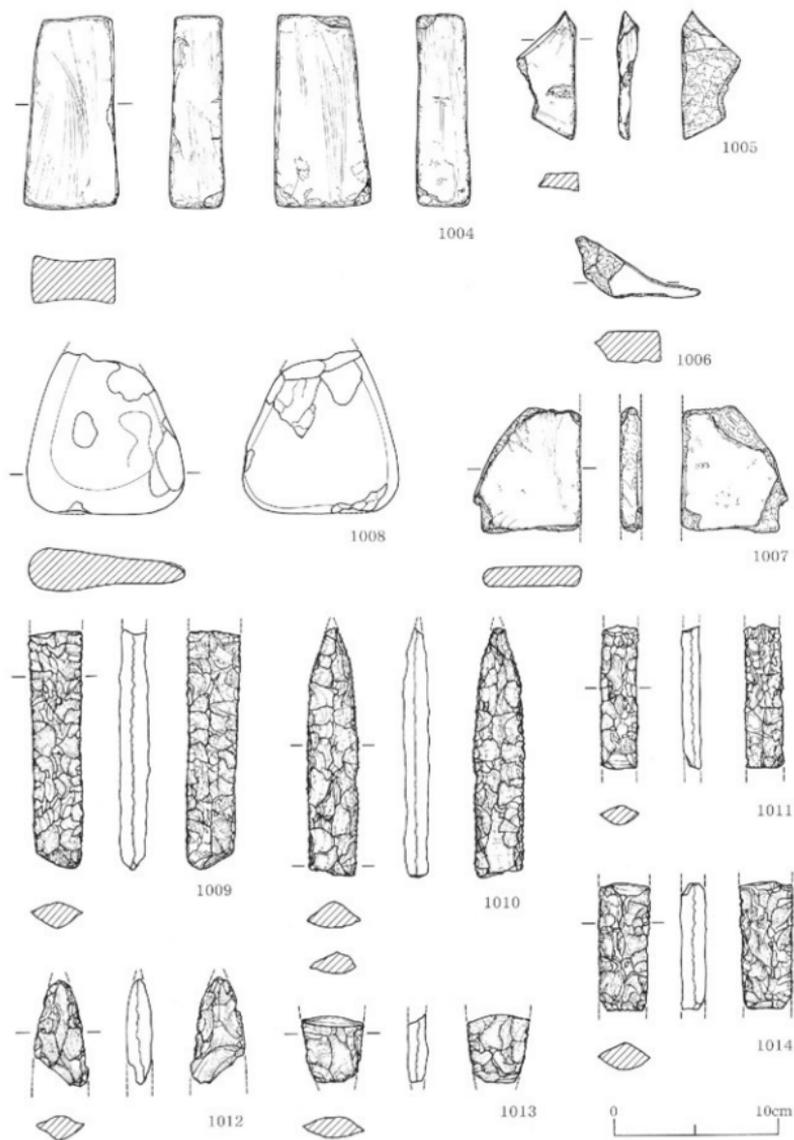
1009～1022は石槍である。基部は平基であるが斜めのものや隅丸になるものもある。また、1023は両側縁に抉りを入れ、茎とする。身幅には大小がある。縁辺は押し剥離によって調整する。部分的に原面を残すものもある。1018は風化が著しく、灰白色を呈する。1016は上坑B、1018・1020は



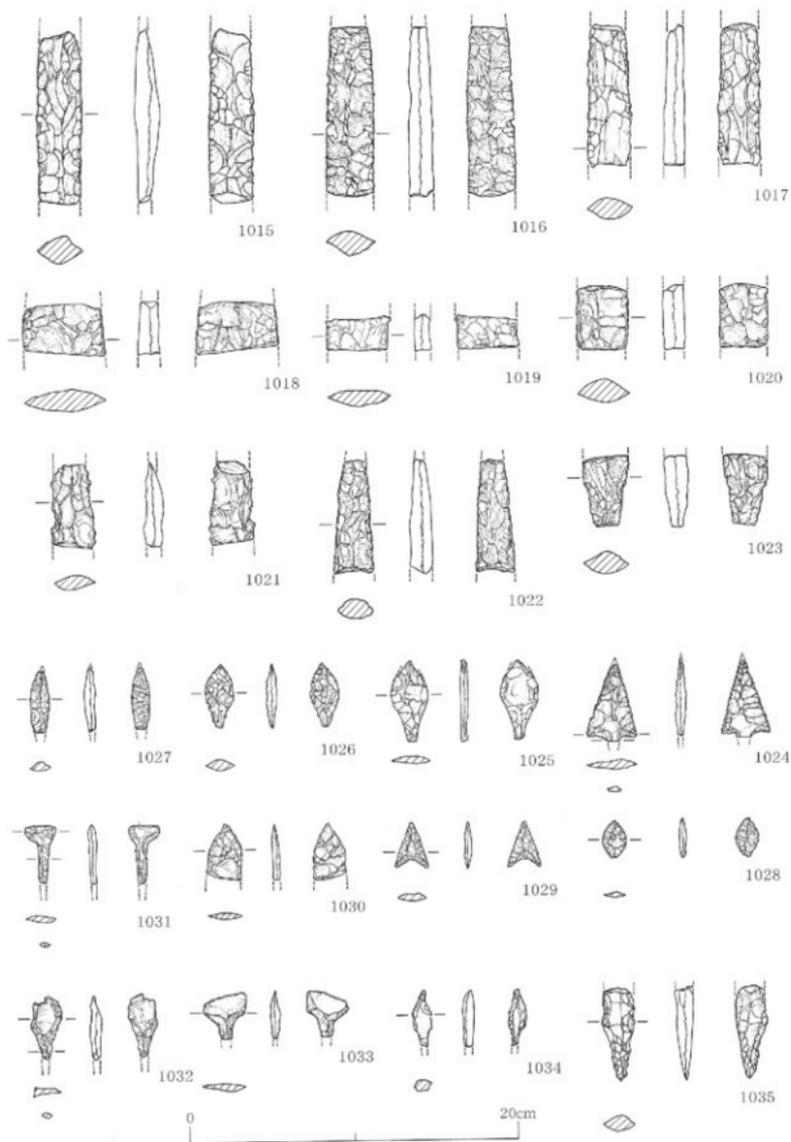
第102图 9区石器实例图



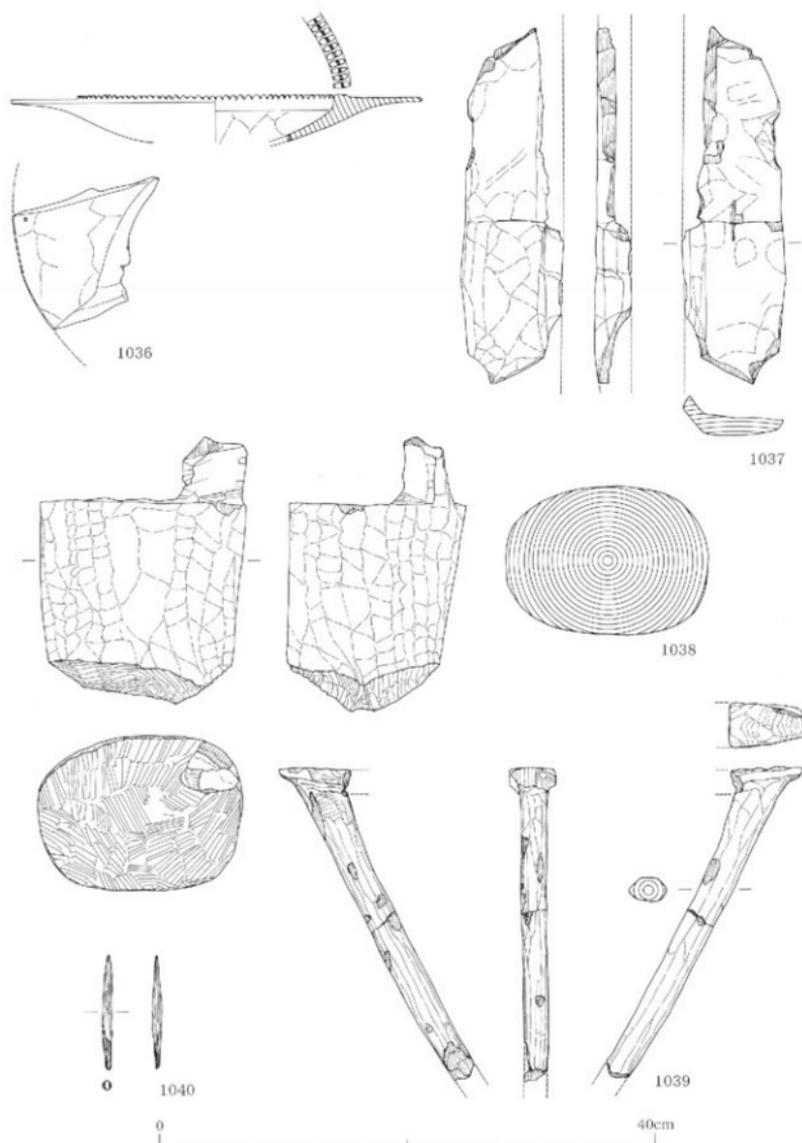
第103图 9工区石器实测图



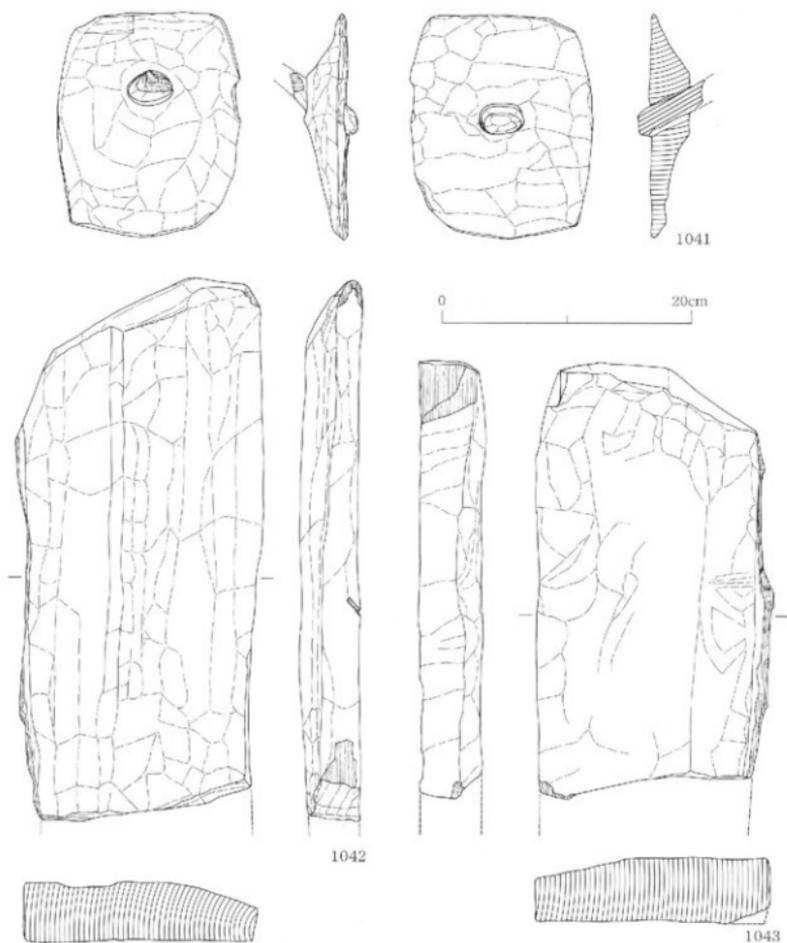
第104图 9工区石器尖测图



第105图 9工区石器夹测图



第106图 9工区木制品炭测图

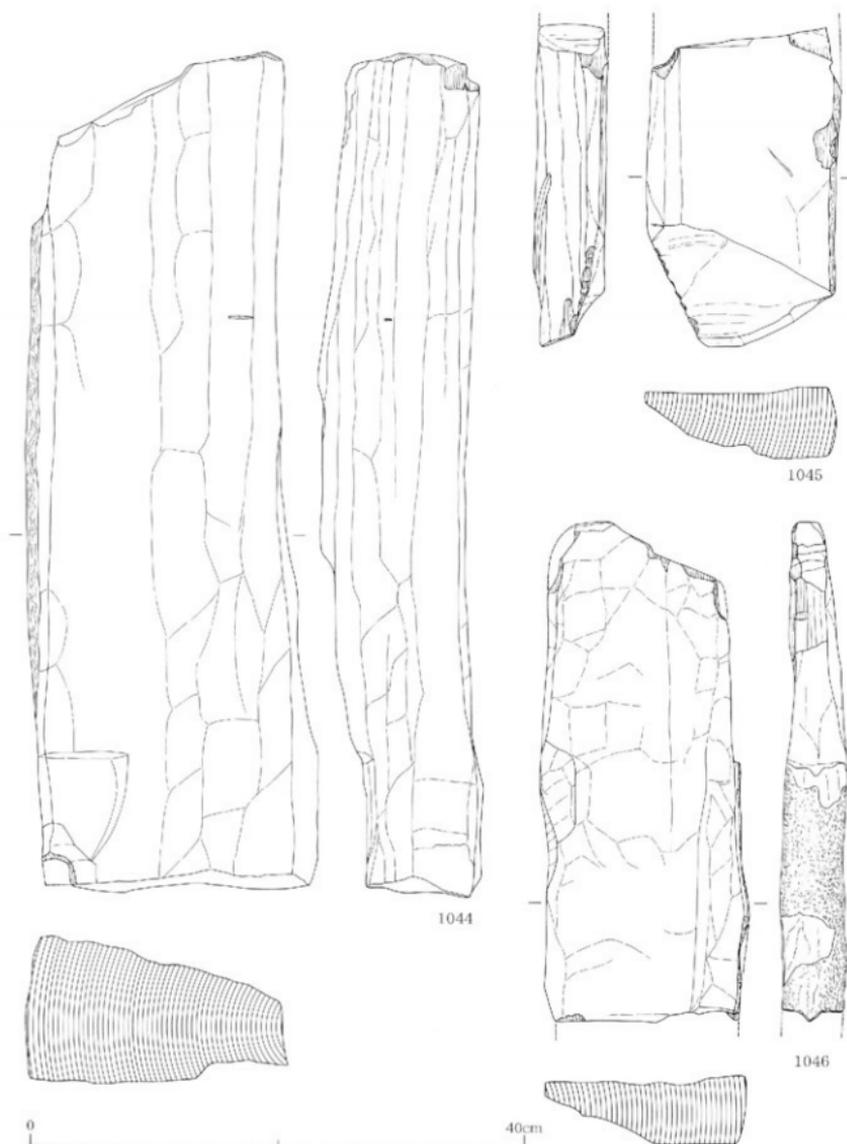


第107図 9工区木製品実測図

第19層、溝3、1010・1011・1015は第15層、1014は第19層、1022は第12層、他は遺物包含層より出土。

1023～1029は石鎌である。柳葉形を呈するもの、茎を有するもの、凹基のものがある。全体を押圧剥離で仕上げる。1029は形態からみて縄文時代の可能性が高い。1029は大溝2、1028は第19層、他は遺物包含層より出土。

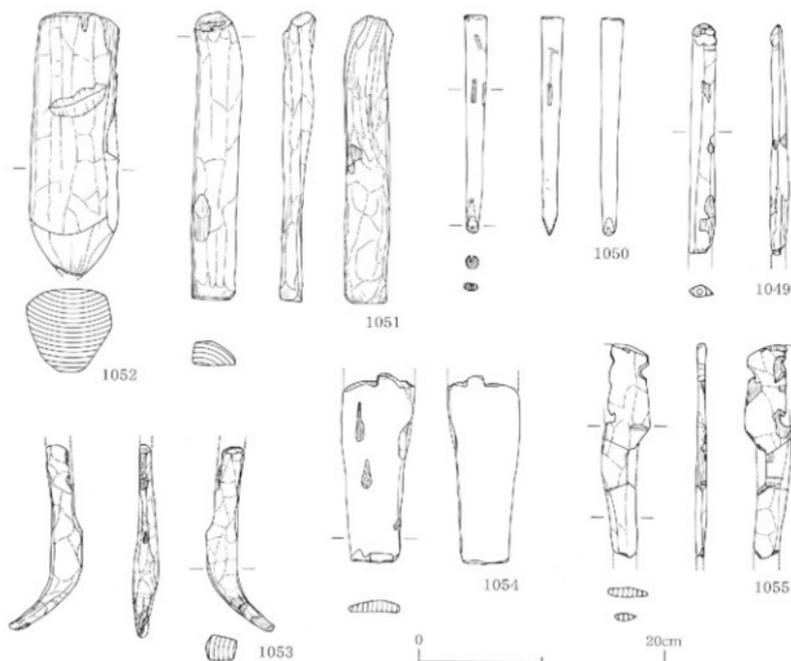
1031～1035は石錘である。基部は荒削りの状態であり、先端部を細長く押圧剥離で整える。1035は欠損した石楡の先端部に再加工を施した転用品である。1031・1032は大溝3、1033は第15層、1034は大溝3b層、1035は第15層より出土。



第108图 9工区木製品実測图



第109図 9上区木製品実測図



第110図 9工区木製品実測図

4) 木製品 (第106~110図1036~1055)

弥生時代の遺構より出土した。横断面の弧は木取りを表す。材質は第11表に記す。

1036は高坏である。坏部の破片である。坏部は浅く、口縁部が水平方向に伸びる。口縁端部は丸く終わる。口縁部と体部の境に凸帯を削り出し、刻み目を施す。口縁部に小円孔を1孔穿つ。作りは丁寧である。横木取りである。土器溜り土坑より出土。

1037は容器である。長方形を呈する浅い容器であり、底と側縁の一部が残る。側縁はやや外上方へ削り出す。横木取りである。土坑Bより出土。

1038は容器の未成品である。円形の鉢になるとと思われる。木口の一端を尖り気味に、他の一端を平坦に削る。平坦面には突起状のものが残る。丸太状を呈する。木口の加工痕は明瞭である。容器の未成品以外の可能性もある。芯持材である。大溝3より出土。

1039は手斧の柄である。装着部の大部分と握部の一部を欠損する。形状は逆L字形を呈する。作りは丁寧である。芯持材である。土坑Bより出土。

1040は刺突具である。細い棒材の木口の一端を尖らせる。他の一端は丸く削る。割り材である。土坑Bより出土。

1041は鉞である。身と柄が残る。身は長方形を呈する。1面は隆起し、他の1面は平坦に削る。中央よりやや上に柄を装着する円形の孔を穿つ。柄は隆起面の方へ伸びるが大部分を欠損する。身は板目取り、柄は割り材である。大溝3より出土。

1042～1047は農具の原材である。横断面形がみかんの房状を呈する。割り材の段階のものである。木口の両端は削られている。円周部に樹皮を残すものが多い。椀目材である。大溝3より出土。

1048は有頭棒である。木口的一端を瘤状に残し、下部を削る。横断面形が隅丸長方形を呈する。芯持材である。大溝3より出土。

1049は有頭棒である。棒材を半切し、木口的一端を瘤状に残す。横断面形が半円形を呈する。芯持材である。上坑Bより出土。

1050は有溝棒である。棒材の一端を尖らせ、他的一端を平坦に切断する。尖らした周辺部に円孔を2孔穿つ。1孔には木釘が残る。中央部の2ヶ所に溝を穿つ。芯持材である。大坑Bより出土。

1051は棒である。両木口を平坦に切断し、全体を削る。割り材である。大溝3より出土。

1052は先尖棒である。木口的一端を尖らせ、他的一端を平坦に切断する。割り材である。大溝3より出土。

1053はJ字形棒である。ゆるいJ字形のカーブを描いて全体を削り出す。割り材である。大溝3より出土。

1054は板である。長方形を呈するがやや先端の幅が狭い。椀目材である。土坑Bより出土。

1055はえくり入り板である。板材の2ヶ所にえくりを入れる。横断面形が凸レンズ状を呈する。椀目材である。上坑Bより出土。

5) 骨角牙製品 (第111区1056～1068)

弥生時代の遺構と遺物包含層より出土した。

1056・1057は弧形角製品の部品である。本来は両端を瘤状に削り出すが、一端を欠損する。全体を研磨する。同一場所より出土しており、セットと考えられる。材はシカの角である。第19層より出土。

1058は装身具である。やや彎曲する牙の一端に円孔を1孔穿つ。孔は両端より施す。材はイヌの犬歯である。大溝3より出土。

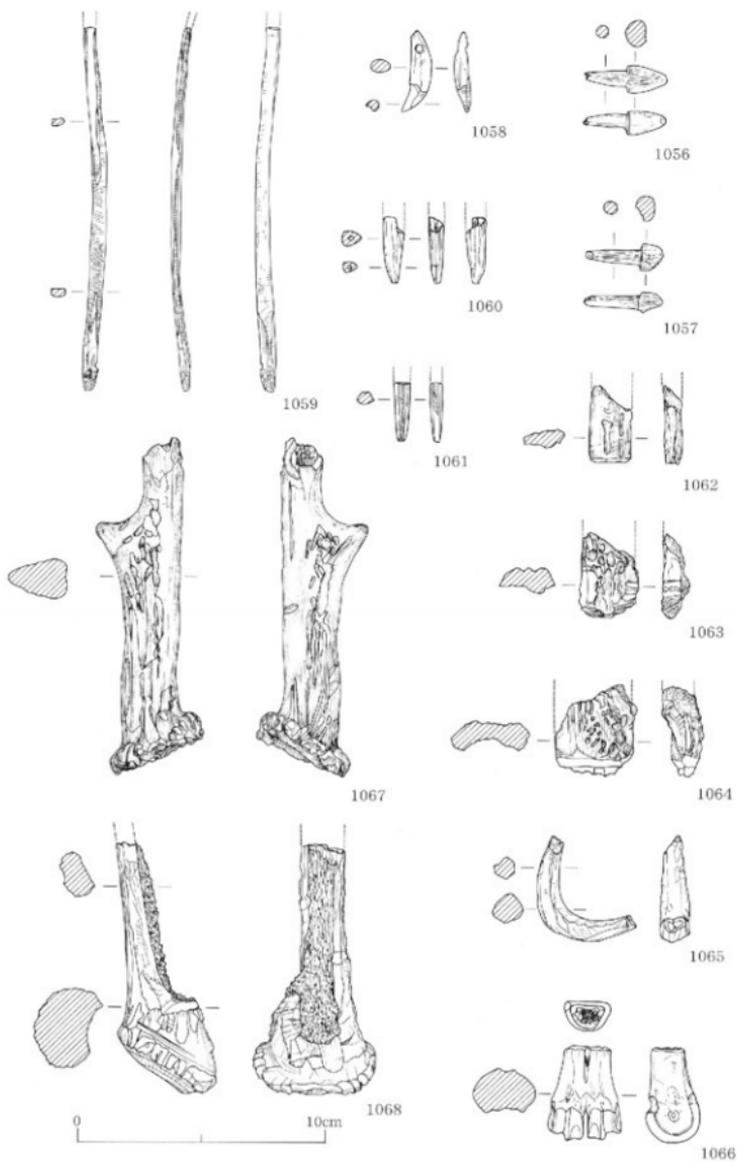
1059～1061は全形の判るものはないが刺突具である。全体を棒状に細く作る。基部はやや丸く削る。横断面形が長方形か楕円形を呈する。1060は材質から考えると刺突具ではない可能性もある。1059の材はシカかイノシシの長骨である。第15層より出土。1060の材はイヌ科の歯である。大溝2より出土。1061の材はシカの中足骨の可能性が高い。第18層より出土。

1062～1064は加工痕の残る角である。角を半切し、小口に削り痕が残る。他的一端は欠損する。材はシカの角である。1062は大溝2、1063は上坑C、1064は土坑Aより出土。

1065は加工痕の残る角である。半円形の棒状を呈する。小口は切り取る。全体に削り痕が明瞭に残る。横断面形が円形を呈する。材はシカの角である。第15層より出土。

1066は加工痕の残る骨である。小口的一端に溝を入れ、折り取る。削り痕は明瞭に残る。材はシカの中手骨である。第19層より出土。

1067・1068は加工痕の残る角である。小口や円周部などに削り痕が顕著に残る。剥落した角である。材はシカの角である。1067は第19層、1068は土坑Bより出土。



第111图 9工区骨角牙製品実測図

IV. 自然科学

1. 動物遺存体について

高志 ころろ、安部 みき子

はじめに

鬼虎川遺跡の弥生時代遺構などから出土した動物遺存体の出土数は8工区で219点、9工区で635点である。種が同定できたものは哺乳類6種、鳥類1種、爬虫類1種、両生類1種であり、魚類は同定ができなかった(第3表)。同定できた動物遺存体は、各時期の遺構ごとに最小個体数を求め、骨計測が可能なものは計測をおこなった。なお、最小個体数を推定するにあたり、環椎、軸椎を除く椎骨と指骨、肋骨は除外した。

8工区

弥生時代前～中期の遺物包含層からの出土数が多く、前期と中期の遺構からの出土は少ない。

中期のビット484からシカの上腕骨が出土し、土器が出土したビット65からは種の特定ができる骨片は出土していない(第4表)。

弥生時代前～中期の遺物包含層からイノシシ、シカ、スッポンと魚類が出土している。この期間全体のイノシシとシカの出土比はほぼ同率で、最小個体数は前者が9、後者が8であるが、それぞれの層位や遺構から出土した動物遺存体の数量が少ないため、遺構ごとの特徴は見られなかった(第5、6表)。第22層からはシカの環椎の横突起に穿孔様の孔がみられるが、人為的なものであるかどうかは不明である。第23層からは生後1～3ヶ月程度のイノシシの幼体が出土している。第20層からはヒトの膝蓋骨が出土しているがその由来は不明である。

弥生の時期不明のビット284からはイノシシの左側の頭蓋骨がほぼ正中断され、後頭骨の下方が切断された状態で出土している。

9工区

前期は土器溜り土坑からイノシシ、シカ、サカナが各1点出土し、イノシシとシカの上腕骨はいずれも骨端が未癒合であった(第7表)。

中期はイノシシ、シカ、カモの仲間、スッポン、およびヤヨイブタと思われる骨片とイヌが出土している。この時期で最も出土量が多かった遺構は土坑Bで出土数の約2/3を占め、そのほかの土坑A、C、ビット32はイノシシ、シカ、スッポンが数点出土している。土坑Bではシカとイノシシの出土比が、総数ではイノシシがシカの約10倍、最小個体数で約3倍と高くかたよりがみられる(第8、9、10表)。イノシシは幼体の出土もみられ、シカは上腕骨の関節縁に異常骨増殖がみられるものがあり、この変異が加齢によるものか病変であるのかの判定はできなかった。鳥類ではカモの仲間の上腕骨が出土しており、大きさは現生のオナガガモの標本と同程度であるため、中型のカモと判定された。この骨の近位端は断面の状態より切断されたものと考えられる。爬虫類はスッポンの腹甲板とカメまたはスッポンの烏口肩甲骨が出土している。ヤヨイブタと推定された軸椎は歯突起がイノシシのものより後方に傾く傾向にあった。出土したイヌの腰椎は椎体板が未癒合のため幼体である。土坑Cからはイノシシ、トリ、スッポンが出土し、トリの種は同定できなかった。ビット32からはシカの機骨が出土している。

前期～中期の遺構からはイノシシ、シカ、ムササビ、タヌキ、カモ、スッポン、サカナとイヌ、ヤ

ヨイブタが出土している。この時期で最も出土数が多かった遺構は大溝3で、次いで大溝7であった。井戸1からは種を特定できる動物遺存体は出土していない。動物遺存体が出土している大溝は6箇所あり、イノシシとシカの出土比は、大溝3では総数、最小個体数ともにイノシシがシカの約2倍である。大溝7では最小個体数はイノシシが3、シカが2とイノシシのほうがわずかに多いが総数はシカがイノシシの約2倍を占めている。また、大溝2では最小個体数はイノシシが1、シカが3とシカのほうが多いが、総数はイノシシ13、シカ16とほぼ同数であった。そのほかの大溝の出土比はわずかに異なるが、出土数が少ないため遺構ごとの特徴は見られなかった。シカ、イノシシ以外の哺乳類はムササビの大腿骨とタヌキの踵骨と思われるものが大溝2から出土している。鳥類ではカモの仲間が大溝1と大溝7にみられ、いずれも現生のオナガガモの標本と比較して小さいため小型のものと判定された。爬虫類はスッポンが大溝1・2・3・7から、両生類はガマガエルと思われる大型のカエルが大溝3から出土している。サカナは大溝1で椎骨が出土している。ヤヨイブタと思われる下顎骨と軸椎は大溝3と大溝7から出土し、下顎骨に釘殖している第3大臼歯の咬耗度が進んでいることと、犬歯前槽の大きさから成体のオスと推測された。また軸椎は右側の横突起が矢状方向に切断され、解体された可能性を示唆している。イヌは大溝2から椎骨が板木徳台の頸椎と尺骨が、大溝3からは頭頂骨から後頭骨にかけての頭蓋骨が出土しているが、骨計測ができなかったため大きさは不明である。溝74からは貝が出土しているが、貝の種は特定できなかった。土坑は3基から出土しているがいずれも出土数は非常に少ない。イノシシは各遺構1点出土しているがシカは土坑21から出土しているのみである。その他土坑21からはスッポンが出土し、鳥類は種や部位が特定できないが長骨片が出土している。また土坑23からはイノシシの幼体の大腿骨が出土している。第11層からはイノシシの歯が出土している。第13層からはシカの中手骨または中足骨が出土している。第14層からは種を特定できる骨は出土しなかった。第15・19・22層からはイノシシとシカが出土し、いずれもシカが多い傾向にある。第17層からは鹿角が出土している。第18層からはイノシシ、シカ以外にもトリとサカナが出土している。第22e・23層からはシカのみが出土している。

弥生時代の遺構からはイノシシとシカが出土しているがいずれも出土数が少ない。ピットHもしくは6からはシカの上顎骨が出土している。ピットrからは種を特定できる骨は出土しなかった。

まとめ

1. 8上区から出土した動物遺存体は主にシカとイノシシで、その出土比はほぼ同率であった。
2. 9工区から出土したシカとイノシシの出土比は弥生時代全体ではほぼ同率であるが、前期から中期にかけての溝でややシカが多い傾向にある。
3. 9丁区の前期から中期ではムササビとタヌキが各1点、大溝2から出土している。また、鳥類は中期の土坑Cから中型の、前期から中期にかけての大溝から小型のカモが出土している。また、中期の上坑Cから出土した鳥類の上腕骨は被熱の痕跡があり捕獲された可能性がある。爬虫類ではスッポンが上坑や溝から出土しており、土坑のものは人為的に捨てられたものと考えられる。両生類はガマガエルが大溝3から出土しているが、溝から出土しているため人為的なものか自然に混入したものかは不明である。
4. 9上区の前期中期にかけての遺構からヤヨイブタと思われる下顎骨と軸椎が、また中期の遺構からは軸椎が出土していることより、比較的早い段階での飼育が考えられる。
5. イヌは土坑Bから幼体の腰椎、大溝2から頸椎と尺骨、大溝3から頭骨が出土しているが、骨計測ができなかったため大きさや形態については推測できない。
6. その他、大溝3ではシカの右尺骨を利用した骨角器が出土している。

第3表 出土動物遺存体の学名

- 哺乳類 CLASS MAMMALIA
齧歯目 Order Rodentia
リス科 Family Sciuridae
ムササビ *Petaurista leucogenys*
食肉目 Order Carnivora
イヌ科 Family Canidae
タヌキ *Nyctereutes procyonoides*
イヌ *Canis familiaris*
偶蹄目 Order Artiodactyla
イノシシ科 Family Suidae
イノシシ *Sus scrofa*
シカ科 Family Cervidae
ニホンジカ *Cervus nippon*
- 鳥類 CLASS AVES
カモ目 Order Anseres
カモ科 Family Anatidae
属、種不明 Gen. et sp. indet.
- 爬虫類 CLASS REPTILIA
カメ目 Order Testudinata
スッポン科 Family Trionychidae
スッポン *Trionyx sinensis*
- 魚類 SUPERCLASS PISCES

第4表 8工区出土動物遺存体の出土表

発見番号	層位	年代	種名	回上層		説明	計測量	製作態	備考
				形状	要目氏				
1	8-6	第16	大型哺乳類	不明	長骨片				切痕あり
2	8-6	第16	シカ	不明	中平頭or中平頭or中平	腕部位置部のみ遺存、近距離と片が重複			製作態不明
3	8-6	第16	大型哺乳類	不明	長骨片	?			切痕あり
4	8-6	第16	不明	不明	骨片	多数			
5	8-6	第16	イノシシ	左	肩甲骨				頭部・骨片ともに切痕
6	8-6	第16	シカ	右	小突形骨+肩甲骨				製作
7	8-6	第16	イノシシ	左	骨片	腕部位置部のみ遺存			計測量不明(長40.0)
8	8-6	第16	スズラン	不明	骨片				頭部・骨片ともに切痕
9	8-12	第18	不明	不明	短骨				
10	8-12	第18	不明	不明	骨片	2			
11	8-12	第18	サカナ	不明	鱗骨				
12	8-1	第18層	イノシシ	左	肩甲骨	小転子下縁～骨刺部約1cmの肩甲骨のみ遺存			製作
13	8-10	第19層	不明	不明	骨片				製作
14	8-6	第20層	サカナ	不明	鱗骨				製作
15	8-9	第20層	イノシシ	左	肩甲骨	動物遺存のみ遺存			
16	8-7	第20層	イノシシ	右	肩甲骨	上縁部との結合部～約3cmの肩甲骨のみ遺存			
17	8-4	第20層	ヒト	左	膝蓋骨	膝蓋骨と右側の腕部			
18	8-4	第20層	大型哺乳類	不明	肩甲骨	近距離～約5cmの骨刺のみ遺存			
19	8-7	第20層	不明	不明	骨片	5			
20	8-9	第21層	大型哺乳類	不明	骨片				製作
21	8-1	第21層	イノシシ	右	骨片	骨刺部のみ遺存、肘部が破損			計測量不明(長30.0)
22	8-8	第21層	シカ	不明	肩甲骨	近距離のみ遺存、片側が破損			製作態不明
23	8-8	第21層	不明	不明	骨片	多数			
24	8-8	第21層	サカナ	不明	鱗骨	多数			
25	8-14	第21層	大型哺乳類	不明	骨片				切痕あり
26	8-9	第22層	大型哺乳類	不明	骨片				製作
27	8-15～16	第22層	大型哺乳類	不明	肩甲骨	腕部の下半分のみ遺存			
28	8-12～13	第22層	シカorイノシシ	不明	肩甲骨	腕部のみ遺存			
29	8-12～13	第22層	大型哺乳類	不明	骨片	4			製作
30	8-12～13	第22層	大型哺乳類	不明	骨片				シカ部
31	8-15	第22層	大型哺乳類	不明	骨片				切痕多数あり
32	8-15	第22層	イノシシ	左	肩甲骨	肩甲骨～骨刺部のみ遺存			
33	8-15	第22層	不明	不明	骨片	多数			
34	8-9	第22層	シカ	右	骨片				
35	8-10～12	第22層	イノシシ	右	骨片	肘部の一辺のみ遺存			製作
36	8-14	第22層	不明	不明	骨片	2			製作
37	8-7	第22層	シカ	右	肩甲骨	腕部のみ遺存			
38	8-2～15	第22層	不明	不明	骨片	多数あり			
39	8-6	第22層	シカ	右	上縁 第4～5肋骨	腕部が大きい	長さ12.0 直径1.24		
40	8-6	第22層	シカ	不明	上縁 第3～4肋骨	腕部が大きい、骨刺部破損			
41	8-6	第22層	シカ	不明	上縁 第3～4肋骨	腕部が大きい、骨刺部破損			
42	8-6	第22層	シカ	不明	骨片	多数			
43	8-1	第22層	シカ	不明	骨				
44	8-7・9～11	第22層	イノシシ	右	肩甲骨	腕部～約3cm骨部、右向き部が破損			
45	8-7・9～11	第22層	不明	不明	骨片				製作
46	8-9	第22層	大型哺乳類	不明	骨片				製作
47	8-9	第22層	イノシシ	不明	骨片	3			
48	8-9	第22層	不明	不明	骨片				
49	8-10	第22層	シカ	左	骨片				製作
50	8-10	第22層	イノシシ	左	肩甲骨	腕部のみ遺存			内側に切痕多数あり
51	8-10	第22層	シカ	右	肩甲骨	骨部のみ遺存			
52	8-10	第22層	シカ	不明	骨	2			
53	8-10	第22層	不明	不明	骨				
54	8-11	第22層	シカ	不明	中平頭or中平頭or中平	腕部位置部のみ遺存			
55	8-11	第22層	不明	不明	骨片				
56	8-14	第22層	カラスorスズラン	不明	上縁部or大腕骨	腕部が破損			
57	8-10	第22層	イノシシ	右	肩甲骨	腕部～約6cm 遺存			計測量不明(長29.32 直径3.32)
58	8-10	第22層	シカ	右	骨				切痕を認めている
59	8-15	第22層	シカ	不明	上縁部	肘部位置部のみ遺存、内側が破損			
60	8-15	第22層	大型哺乳類	不明	骨片	多数			切痕あり
61	8-11	第22層	イノシシ	不明	中腕骨				切痕、加工痕あり
62	8-13	第22層	シカ	不明	腕骨	動物遺存と肩甲骨が破損			動物遺存に付あり
63	8-13	第22層	不明	不明	骨片				
64	8-15	第22層	シカ	不明	下腕骨				切痕を認めている
65	8-15	第22層	不明	不明	骨片				
66	8-10	第22層	大型哺乳類	不明	大腕骨	大腕骨のみ遺存			
67	8-7	第22層	不明	不明	骨片	2			
68	8-14	第22層	スズラン	不明	腕骨				
69	8-13～15	第22層	イノシシ	不明	肩甲骨	近距離～腕部のみ遺存			計測量不明(長19.0 直径1.87)
70	8-13～15	第22層	不明	不明	骨片				加工済み
71	8-13～14	第22層	不明	不明	骨片	3			
72	8-9	第22層	イノシシ	不明	上縁 第4～5肋骨	腕部が大きい、骨刺部破損	長さ16.0 直径14.25		
73	8-9	第22層	イノシシ	不明	上縁 第4～5肋骨	腕部のみ遺存、腕部が大きい	長さ15.25 直径11.59		

資料番号	地区	層位	種名	出土場所		調査	計測値	製作所	備考
				区画	埋没名				
154	8-9	第22層	イノシシ	左	不明	本施設			
175	8-9	第22層	不明	左	第3入口前	多数		長さ15.8×幅13.5×1	
176	8-9-7	第22層	哺乳類	不明		骨片			
177	8-9-7	第22層	哺乳類	不明		骨片			
18	8-12	第22層	大型哺乳類	不明	骨片	付骨体の断片のみ存在			破損あり
19	8-12	第22層	大型哺乳類	不明	骨片	骨片のみ存在			
80	8-3	第22層	イノシシ	左	上層部	第2入口前～第1入口前直線部と直線下部が遺存、第2入口直線の直線部分と第4入口前、第1入口直線の直線部分が埋没			破損
81	8-3	第22層	イノシシ	不明	不明	不明			破損
82	8-16	第22層	シカ	不明	不明	不明			
83	8-14	第22層	イノシシ	不明	不明	不明			
84	8-14	第22層	イノシシ	不明	不明	不明			
85	8-14	第22層	イノシシ	不明	不明	不明			
86	8-13	第22層	イノシシ	不明	不明	不明			
87	8-13	第22層	イノシシ	不明	不明	不明			
88	8-13	第22層	イノシシ	不明	不明	不明			
89	8-13	第22層	イノシシ	不明	不明	不明			
90	8-13	第22層	不明	不明	不明	不明			
91	8-1	第23層	大型哺乳類	不明	不明	不明			
92	8-15	第23層	イノシシ	不明	不明	不明			
93	8-9	第24層	シカ	不明	不明	不明			
94	8-15	第24層	イノシシ	不明	不明	不明			
95	8-15	第24層	イノシシ	不明	不明	不明			
96	8-10	第24層	シカ	不明	不明	不明			
97	8-13	第24層	イノシシ	不明	不明	不明			
98	8-17	第24層	イノシシ	不明	不明	不明			
99	8-13	第24層	イノシシ	不明	不明	不明			
100	8-11	第25層	不明	不明	不明	不明			
101	8-9	ビット50	大型哺乳類	不明	不明	不明			
107	8-4	ビット294	イノシシ	不明	不明	不明			
108	8-4	ビット294	大型哺乳類	不明	不明	不明			
104	8-14	ビット434	シカ	不明	不明	不明			
105	8-14	ビット434	大型哺乳類	不明	不明	不明			
106	8-14	ビット434	大型哺乳類	不明	不明	不明			
109	8-14	ビット434	大型哺乳類	不明	不明	不明			
108	8-4	洋戸1	シカ	不明	不明	不明			



第112図 8工区第5地区第22層内動物遺存体出土状況写真(資料22)

第6表 8上区出土動物遺存体の計測表

種別	種	個数	長さ	幅	厚	重量	備考		
動物遺存体	哺乳類	59	61	6	87	96	108	102	83
	鳥類								
植物遺存体	炭化穀物	45							
	炭化種子								
	炭化果実								
	炭化木片								
	炭化竹片								
	炭化土器								
	炭化布片								
	炭化紙片								
	炭化皮革								
	炭化骨片								
	炭化竹筒								
	炭化木筒								
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									
炭化土筒									
炭化土器									
炭化竹筒									
炭化木筒									

第7表 9工区出土動物遺存体の出土表

発掘 層の 番号	地 区	産 品	材 質 類 別		訂 正	計 量 単 位	解 析 業 者	備 考
			土 器	磁 器				
109	9-2	大塚1	シカ	骨	角立立方骨			角立部分のみ遺存
110	9-2	大塚1	シカ	骨	角立立方骨			角立部分のみ遺存
111	9-2	大塚1	シカ	骨	角立立方骨			角立部分のみ遺存
112	9-3	大塚1	大型哺乳類	骨	肋骨			頸部の骨質部分のみ遺存
113	9-10-14	大塚1	アノシシ	骨	肋骨			骨中短骨一約10cm遺存、肋骨短骨
114	9-10-14	大塚1	アノシシ	骨	上腕骨			上腕骨長骨の骨端部分のみ遺存
115	9-10-14	大塚1	大型哺乳類	骨	肋骨			
116	9-10-14	大塚1	大型哺乳類	骨	下顎骨			
117	9-10-14	大塚1	大型哺乳類	骨	肋骨			
118	9-14	大塚1	大型哺乳類	骨	肋骨			
119	9-14	大塚1	アノシシ	骨	骨質片の骨質片			近位部片のみ遺存
120	9-14	大塚1	ウサギ	骨	耳骨			遠位部のみ遺存、肋骨短骨のみ
121	9-14	大塚1	ウサギ	骨	肋骨			
122	9-16	大塚1	ウサギ	骨	肋骨			
123	9-16	大塚1	ウサギ	骨	肋骨			
124	9-16	大塚1	ウサギ	骨	肋骨			
125	9-16	大塚1	ウサギ	骨	肋骨			
126	9-16	大塚1	大型哺乳類	骨	肋骨			
127	9-16	大塚1	ウサギ	骨	肋骨			
128	9-16	大塚1	ウサギ	骨	肋骨			
129	9-16	大塚1	ウサギ	骨	肋骨			
130	9-17	大塚1	アノシシ	骨	肋骨			
131	9-17	大塚1	大型哺乳類	骨	肋骨			
132	9-17	大塚1	大型哺乳類	骨	肋骨			
133	9-12	大塚1	アノシシ	骨	肋骨			
134	9-17	大塚1	アノシシ	骨	肋骨			
135	9-17	大塚1	アノシシ	骨	肋骨			
136	9-18	大塚1	シカ	骨	肋骨			
137	9-11	大塚2	アノシシ	骨	上腕骨			
138	9-1	大塚2	シカ	骨	肋骨			
139	9-1	大塚2	大型哺乳類	骨	下顎骨			
140	9-1	大塚2	シカ	骨	下顎骨一約7小口角〜 約1大目角			
141	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
142	9-12	大塚2	アノシシ	骨	上腕骨			
143	9-12	大塚2	大型哺乳類	骨	肋骨			
144	9-12	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
145	9-12	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
146	9-12	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
147	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
148	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
149	9-12	大塚2	大型哺乳類	骨	肋骨			
150	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
151	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
152	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
153	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
154	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
155	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
156	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
157	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
158	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
159	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
160	9-12	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
161	9-13	大塚2	シカ	骨	肋骨			
162	9-13	大塚2	シカ	骨	肋骨			
163	9-13	大塚2	シカ	骨	肋骨			
164	9-13	大塚2	大型哺乳類	骨	肋骨			
165	9-13	大塚2	大型哺乳類	骨	肋骨			
166	9-13	大塚2	シカ	骨	肋骨			
167	9-13	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
168	9-13	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
169	9-13-14	大塚2	大型哺乳類	骨	肋骨			
170	9-13-14	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
171	9-13-14	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
172	9-13-14	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
173	9-13-14	大塚2	大型哺乳類	骨	肋骨			
174	9-13-14	大塚2	大型哺乳類	骨	肋骨			
175	9-13-14	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
176	9-13-14	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
177	9-13-14	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
178	9-13-14	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
179	9-14	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
180	9-14	大塚2	大型哺乳類	骨	肋骨			
181	9-14	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
182	9-16	大塚2	不明	骨	肋骨			
183	9-14	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
184	9-14	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
185	9-14	大塚2	大型哺乳類	骨	肋骨			
186	9-15	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
187	9-15	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
188	9-15	大塚2	アノシシ	骨	肋骨			
189	9-15	大塚2	大型哺乳類	骨	肋骨			
190	9-15	大塚2	ウサギ	骨	肋骨			
191	9-15	大塚2	アノシシ	不明	肋骨			

資料 番号	期	種	種名	出立 順位	種別	計測値	評価	備考
192	9-15	大連2	不明	不明	不明			特選1
193	9-15	大連2	スッポン	不明	後脚型			特選
194	9-16	大連2	シカ	左	特選			
198	9-16	大連2	イノシシ	左	特選			
196	9-15	大連2	ムササビ	左	大連特			
197	9-17	大連2	シカ	右	上脚型			切込み
198	9-17	大連2	シカ	右	特選			
199	9-17	大連2	大形哺乳類	不明	鹿			
200	9-17	大連2	大形哺乳類	不明	鹿			
201	9-17	大連2	不明	不明	不明			
202	9-17	大連2	スッポン	不明	不明			
203	9-17	大連2	不明	不明	不明			
204	9-19	大連2	イノシシ	右	特選			
903	9-15	大連2	イノシシ	右	下脚 第3大臼歯			
209	9-20	大連2	不明	不明	不明			
207	9-1	大連3	シカ	右	下脚 第3大臼歯			
208	9-1	大連3	シカ	右	下脚 第3大臼歯			
209	9-1	大連3	大形哺乳類	不明	3種以上の歯			
210	9-1	大連3	シカ	右	下脚 第3大臼歯			
211	9-1	大連3	イノシシ	右	上脚 第3大臼歯			
212	9-1	大連3	シカ	左	特選			
213	9-1	大連3	シカ	不明	尾骨型			
214	9-1	大連3	不明	不明	不明			
215	9-1	大連3	大形哺乳類	不明	鹿			
216	9-1	大連3	イノシシ	左	大連			
217	9-1	大連3	シカ	左	大連			
218	9-1	大連3	イノシシ	右	中脚型			
219	9-1	大連3	イノシシ	左	上脚型			
220	9-1	大連3	イノシシ	右	上脚型			
221	9-1	大連3	イノシシ	不明	大連特			
222	9-1	大連3	イノシシ	不明	特選			
223	9-1	大連3	大形哺乳類	不明	鹿			
224	9-1	大連3	イノシシ	不明	中脚型			
225	9-1	大連3	スッポン	不明	不明			
226	9-1	大連3	シカ	不明	不明			
227	9-1	大連3	大形哺乳類	不明	不明			
192	9-1	大連3	イノシシ	左	下脚型+大連 第3大臼歯			
228	9-1	大連3	イノシシ	右	下脚 第3大臼歯			
229	9-2	大連3	イノシシ	右	上脚型 第3大臼歯			
230	9-2	大連3	大形哺乳類	不明	鹿			
231	9-2	大連3	不明	不明	不明			
232	9-2	大連3	不明	不明	不明			
233	9-2	大連3	シカ	右	特選			
234	9-2	大連3	シカ	右	上脚型			
235	9-1	大連3	シカ	右	特選			
236	9-2	大連3	シカ	不明	不明			
237	9-2	大連3	イノシシ	右	特選			
238	9-2	大連3	ガマケガシ	右	鹿角			
239	9-2	大連3	ヤシノブタ	右	下脚型+大連 第3大臼歯			
240	9-2	大連3	シカ	右	特選			
241	9-2	大連3	スッポン	不明	不明			
242	9-1	大連3	不明	不明	不明			
243	9-2	大連3	イノシシ	右	上脚型			
244	9-4	大連3	イノシシ	不明	特選(下脚)			
245	9-4	大連3	イノシシ	不明	特選(下脚)			
246	9-5	大連3	大形哺乳類	不明	鹿			
247	9-4	大連3	不明	不明	不明			
248	9-4	大連3	イノシシ	右	上脚 第3大臼歯			
249	9-4	大連3	イノシシ	右	上脚型			
249	9-4	大連3	イノシシ	不明	鹿			
251	9-4	大連3	シカ	不明	不明			
252	9-4	大連3	イノシシ	不明	不明			
253	9-5	大連3	イノシシ	不明	不明			
254	9-5	大連3	シカ	右	特選			
255	9-5	大連3	不明	不明	不明			
256	9-5	大連3	イノシシ	不明	不明			
257	9-5	大連3	大形哺乳類	不明	不明			
258	9-6	大連3	不明	不明	不明			
259	9-6	大連3	イノシシ	不明	不明			

編曲 番号	種 別	場 名	組 員 名		説 明	計 算 額	解 体 額	備 考
			和 名	西 名				
323	9-6	1期目	大型編み物	片	片断音			内訳不明存在
324	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
335	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			多額
336	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			複写用→約1000円
337	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			組・解体、解体前中絶
338	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			1期目全巻
339	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			内訳不明→約2000円
340	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
341	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			音楽制作の遅延による遅延のあり、1000円
342	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
343	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
344	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
345	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
346	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
347	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
348	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
349	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
350	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
351	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
352	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
353	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
354	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
355	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
356	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
357	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
358	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
359	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
360	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
361	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
362	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
363	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
364	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
365	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
366	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
367	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
368	9-6	中期目	イノシシ	不明	イノシシ			
369	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
370	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
371	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
372	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
373	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
374	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
375	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
376	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
377	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
378	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
379	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
380	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
381	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
382	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
383	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
384	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
385	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
386	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
387	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
388	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
389	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
390	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
391	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
392	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
393	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
394	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
395	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
396	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
397	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
398	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
399	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
400	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
401	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
402	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
403	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
404	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
405	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			
406	9-10	二期目	イノシシ	不明	イノシシ			

時刻 運用	地区	種別	運用 形式	種別	内容	申込	備考
407 9:14~15	第5編	シカ	空	沖立空席	内線申込み済み		待機
408 9:14~15	第7編	大型観光型		乗降計			待機
409 9:14~16	第7編	大型観光型		乗降計			
410 9:6	第5編	シカ	左	乗降計	内線申込み済。乗降計画あり		山口交差点から西線を 跨っている
411 9:15	第5編	大型観光型		1階乗降下乗計	乗降計画		
412 9:17	第5編	不明		乗降			
413 9:17	第5編	大型観光型	→	乗降	乗降のみ運行。乗降計画あり		
414 9:17	第5編	大型観光型	→	乗降	上乗降計画済み		
415 9:17	第5編	大型観光型		乗降	3		
416 9:18	第5編	インシシ	右	片乗	片乗降のみ約7km運行		乗降申込み済144 乗降10:20
417 9:18	第5編	シカ	左	乗降	運行編-約7km運行		乗降申込み済20:20 乗降3:12
418 9:19	第7編	インシシ	不明	片乗	乗降のみ運行。乗降計画あり		乗降申込み済
419 9:19	第7編	シカ		片乗			乗降あり
420 9:20	第7編	不明		乗降			
421 9:6	第7編	シカ		乗降	乗降		乗降あり
422 9:17	第7編	シカ		乗降			
423 9:1	第7編	シカ	不明	乗降	乗降計画あり		乗降申込み済20:20 乗降10:20
424 9:1	第7編	不明		乗降			
425 9:1	第7編	インシシ		乗降			
426 9:1	第7編	不明		乗降			
427 9:1	第7編	不明		乗降			
428 9:1	第7編	大型観光型	→	乗降	乗降のみ。3。乗降計画あり		
429 9:1	第7編	不明		乗降			
430 9:1~2	第7編	シカorインシシ	→	乗降	乗降のみ。2。乗降計画あり		
431 9:1~2	第7編	不明		乗降	乗降のみ。2。乗降計画あり		
432 9:4	第7編	大型観光型		乗降			
433 9:1~4	第7編	シカ	空	乗降	乗降計画あり		内線申込み済
434 9:4	第7編	大型観光型		乗降			
435 9:4~6	第7編	シカ	右	乗降	乗降計画あり		
436 9:4~6	第7編	大型観光型		乗降			
437 9:4~6	第7編	不明		乗降			
438 9:6	第7編	シカ	右	乗降	乗降計画あり		
439 9:6~9	第7編	不明		乗降			
440 9:8~9	第7編	インシシ	左	乗降	乗降計画あり		
441 9:11	第7編	不明		乗降			
442 9:11	第7編	シカ	空	乗降			
443 9:1	第7編	インシシ	→	乗降	乗降計画あり		
444 9:1	第7編	不明		乗降			
445 9:1	第7編	シカ	左	乗降	乗降計画あり		
446 9:2	第7編	インシシ	右	乗降	乗降計画あり		
447 9:2	第7編	大型観光型		乗降			
448 9:2	第7編	不明		乗降			
449 9:3	第7編	不明		乗降			
450 9:7	第7編	大型観光型		乗降			
451 9:10	第7編	シカ	右	乗降	乗降計画あり		
452 9:17	第7編	シカ	右	乗降	乗降計画あり		
453 9:12	第7編	不明		乗降			
454 9:14	第7編	インシシ	右	乗降	乗降計画あり		
455 9:14	第7編	シカ	左	乗降	乗降計画あり		
456 9:16~20	第7編	シカ	右	乗降	乗降計画あり		
457 9:16~20	第7編	大型観光型		乗降			
458 9:1	第7編	シカ	右	乗降	乗降計画あり		
459 9:1	第7編	シカ	→	乗降	乗降計画あり		
460 9:1	第7編	大型観光型		乗降			
461 9:1	第7編	シカ	→	乗降	乗降計画あり		
462 9:1	第7編	シカ	→	乗降	乗降計画あり		
463 9:1	第7編	シカ	→	乗降	乗降計画あり		
464 9:1	第7編	不明		乗降			
465 9:1	第7編	不明		乗降			
466 9:1	第7編	不明		乗降			
467 9:1	第7編	不明		乗降			
468 9:1	第7編	不明		乗降			
469 9:1	第7編	不明		乗降			
470 9:1	第7編	不明		乗降			
471 9:1	第7編	不明		乗降			
472 9:1	第7編	不明		乗降			
473 9:1	第7編	不明		乗降			
474 9:1	第7編	不明		乗降			
475 9:1	第7編	不明		乗降			
476 9:1	第7編	不明		乗降			
477 9:1	第7編	不明		乗降			
478 9:1	第7編	不明		乗降			
479 9:1	第7編	不明		乗降			
480 9:1	第7編	不明		乗降			
481 9:1	第7編	不明		乗降			
482 9:1	第7編	不明		乗降			
483 9:1	第7編	不明		乗降			
484 9:1	第7編	不明		乗降			
485 9:1	第7編	不明		乗降			
486 9:1	第7編	不明		乗降			
487 9:1	第7編	不明		乗降			
488 9:1	第7編	不明		乗降			
489 9:1	第7編	不明		乗降			
490 9:1	第7編	不明		乗降			
491 9:1	第7編	不明		乗降			
492 9:1	第7編	不明		乗降			
493 9:1	第7編	不明		乗降			
494 9:1	第7編	不明		乗降			
495 9:1	第7編	不明		乗降			
496 9:1	第7編	不明		乗降			
497 9:1	第7編	不明		乗降			
498 9:1	第7編	不明		乗降			
499 9:1	第7編	不明		乗降			
500 9:1	第7編	不明		乗降			

第8表 9丁区出土動物遺存体の出現頻度表

遺物名	A層		B層		C層		D層		E層		F層		G層	
	トリスレシテ													
牛馬骨	1													
鹿角														
猪骨														
鳥骨														
魚骨														
魚鱗														
哺乳類														
鳥類														
魚類														
爬虫類														
両生類														
昆虫類														
植物類														
土器類														
石器類														
銅器類														
鉄器類														
ガラス類														
その他														
合計	91	84	91	91	91	91	91	91	91	91	91	91	91	91

品名	1-1		2-1		3-1		4-1		5-1		6-1		7-1		8-1	
	数量	単価														
1-1																
1-2																
1-3																
1-4																
1-5																
1-6																
1-7																
1-8																
1-9																
1-10																
1-11																
1-12																
1-13																
1-14																
1-15																
1-16																
1-17																
1-18																
1-19																
1-20																
1-21																
1-22																
1-23																
1-24																
1-25																
1-26																
1-27																
1-28																
1-29																
1-30																
1-31																
1-32																
1-33																
1-34																
1-35																
1-36																
1-37																
1-38																
1-39																
1-40																
1-41																
1-42																
1-43																
1-44																
1-45																
1-46																
1-47																
1-48																
1-49																
1-50																
1-51																
1-52																
1-53																
1-54																
1-55																
1-56																
1-57																
1-58																
1-59																
1-60																
1-61																
1-62																
1-63																
1-64																
1-65																
1-66																
1-67																
1-68																
1-69																
1-70																
1-71																
1-72																
1-73																
1-74																
1-75																
1-76																
1-77																
1-78																
1-79																
1-80																
1-81																
1-82																
1-83																
1-84																
1-85																
1-86																
1-87																
1-88																
1-89																
1-90																
1-91																
1-92																
1-93																
1-94																
1-95																
1-96																
1-97																
1-98																
1-99																
1-100																

2. 人骨について

高志 ころろ、安部 みき子

はじめに

鬼虎川遺跡の弥生時代の遺物包含層の8工区から成人の頭骨、9工区から土器棺に入った幼児の骨が出土している。人骨は復元作業の後、年齢と性の判定をおこなった。年齢推定は永久歯の磨耗状態により、Martinの年齢推定表に従った。

8工区

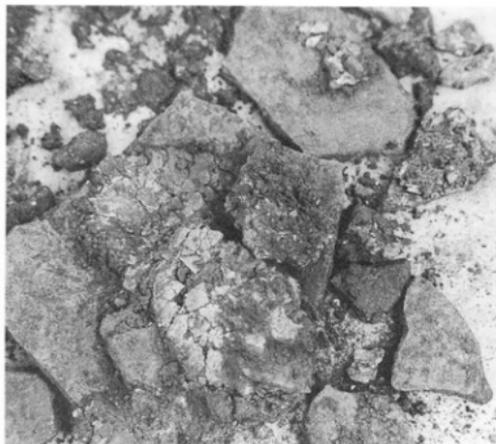
8工区の第20層から出土した成人人骨の保存状態は悪く、頭蓋冠の一部である、前頭骨、頭頂骨、側頭骨、大臼歯のみが遺存している（図版167）。年齢は遺存していた右上顎第1・2大臼歯の咬耗度から30歳以上と推測された。性別については判定の基準となる部位が遺存していなかったため推測できなかった。

9工区

9工区の土器棺から出土した人骨（第113図・図版167）は細片のため復元できなかった。頭骨は破片となっているため部位が同定できたものは側頭骨の錐体のみで、その他四肢骨の長骨の骨幹が見られた。その大きさから胎児もしくは乳幼児であったと推測される。

参考文献

1. Martin,r.& Saller,k. (1928) lehrbuch der anthropologie,band I, 429-518,fischer,jena
2. 馬場悠男(1991)人体計測法II 173-336 同成社



頭骨など



四肢骨など

第113図 9工区土器棺内人骨付着状況写真

3. 木製品樹種・種実遺体の同定

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

鬼鹿川遺跡第56次調査では、弥生時代中期の遺構が検出されており、遺構内からは木製品や種実遺体が出土している。同様の木製品や種実遺体については、これまでの調査でも出土しており、樹種同定や種実遺体同定が実施されている。

本報告では、木製品の木材利用状況を明らかにするために、出土した木製品の樹種同定を実施する。また、植物利用状況等に関する資料を得るために、種実遺体の同定を行う。

木製品の樹種

(1) 試料

試料は、大溝等の遺構から出土した木製品25点(第11表)である。

(2) 分析方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柱目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する(図版172~174)。

(3) 結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹2種類(モミ属・イヌガヤ)と広葉樹6種類(コナラ属アカガシ亜属・ツブラジイ・スタジイ近似種・ヤマグワ・サカキ・ハイノキ属近似種)に同定された。このうち、アカガシ亜属では、幹材の他に根株材も認められた。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・モミ属(*Abies*) マツ科

試料は年輪部分で割れた1年分のみ。軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1-4個。放射組織は単列、1-20細胞高。

・イヌガヤ(*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch f.) イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は、仮道管と樹脂細胞で構成され、樹脂道は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で1分野に1-2個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属(*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

<幹材>

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、1-2個幅で、放射方向に配列する。道管は単独で、複合するものは認められない。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

<根株材>

放射孔材~散孔材。管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独でやや放射状に散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

第11表 樹種同定結果

遺物No.	遺物名	図版P	出土位置	位置備考	時期	樹種
353	農具原材	8 8-13	第23層	西壁	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
354	農具原材	8 8-16	第24f層		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属(根株)
355	板	8 8-16	第24f層		弥生時代中期	ヤマグワ
352	又原	8 8-16	第24f層		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1052	尖頭棒	9 9-7	大溝3		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1051	棒	9 9-1	大溝3 f下層	西壁	弥生時代中期	イヌガヤ
1041	鎌(身)	9 9-2	大溝3 f上層	西壁	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1041	鎌(柄)	9 9-2	大溝3 f上層	西壁	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1048	有頭棒	9 9-2	大溝3	西壁	弥生時代中期	イヌガヤ
1047	農具原材	9 9-1	大溝3	西壁	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1044	農具原材	9 9-1	大溝3	西壁	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1043	農具原材	9 9-1	大溝3	西壁	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1042	農具原材	9 9-1	大溝3	西壁	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1045	農具原材	9 9-1	大溝3	西壁	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1046	農具原材	9 9-1	大溝3	西壁	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1053	J字形棒	9 9-1	大溝3	西壁	弥生時代中期	サカキ
1038	容器未製品	9 9-3	大溝3 h層	西壁	弥生時代中期	ハイノキ属近似種
1050	有孔棒	9 9-6	土坑B	西壁	弥生時代中期	イヌガヤ
1040	刺突具	9 9-6	土坑B	西壁	弥生時代中期	モミ属
1037	容器	9 9-6	土坑B	西壁	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1055	えぐり入り板	9 9-6	土坑B 27層(上)	西壁	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1054	板	9 9-6	土坑B 27層(下)	西壁	弥生時代中期	ツブラジイ
1049	有頭棒	9 9-6	土坑B 27層下面	西壁	弥生時代中期	スタジイ近似種
1039	手斧の柄	9 9-6	土坑B 掘込2層		弥生時代中期	サカキ
1036	高林	9 9-1	土器器土坑		弥生時代中期	ヤマグワ

・ツブラジイ (*Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky) ブナ科シノキ属

環孔性放射孔材で、道管は1-2個幅で放射方向に配列する。早材部に比較的大径の道管が3-4列配列した後、急激に管径を減じて火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高。また、木口面では確認できなかったが、板目面では集合～複合放射組織が認められた。

・スタジイ近似種 (*Castanopsis cf. cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シノキ属

試料は若年部の小片で、保存状態が極めて悪い。年輪の始めに中型の道管が1個幅で1-2列配列することから環孔性放射孔材と判断される。晩材部では道管径を急激に減じて火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高。

環孔性放射孔材で、同様の道管配列がみられる種類は、国産材ではシノキ属のみである。本州にはツブラジイとスタジイの2種が生育しており、集合～複合放射組織の有無で識別される。今回の試料では、複合放射組織がみられないことからスタジイの可能性が高いが、若年部分で保存状態が悪く、観察が十分ではなく、ツブラジイである可能性も残る。これらの点から近似種とした。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiré) クワ科クワ属

環孔材で孔部は2-4列、孔部外への移行は緩やか～やや急激で、晩材部へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合して斜方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高で、しばしば結晶を含む。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管がほぼ単独で散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1-20細胞高。

・ハイノキ属近似種 (cf. *Symplocos*) ハイノキ科

試料は年輪界を欠き、保存状態も悪い。散孔材で管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、ほぼ単独で散在するが、2個が複合しているものもある。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高で、時に上下に連結する。

ハイノキ属には、常緑性のハイノキ節と落葉性のサワフタギ節があり、木材組織の特徴も多少異なる。今回の試料は、道管径等からサワフタギ節の可能性があるが、保存状態が悪い等の理由により、観察が十分ではないため、近似種とした。

(4)考察

樹種同定を行った木製品は全て弥生時代中期に属し、鋳類、農具原材、手斧の柄、刺突具、高杯、容器、棒、板等がある。これらの木材には、合計9種類が認められた。アカガシ亜属で、14点で全試料の約半分数を占めるが、その他の種類は1-3点であった。

同定された各種類の材質は、モミ属は、木理が適直で割裂性が高く、加工は容易であるが保存性は低い。イヌガヤは、針葉樹としては重硬で強度・耐水性が高いが、加工はやや困難である。アカガシ亜属・ツブラジイ・スダジイ・ヤマグワ・サカキ・ハイノキ属は、重硬で強度が高く、ヤマグワでは耐朽性もある。しかし、全体的に加工はやや困難な部類に入る。本遺跡で過去に行った調査では、花粉分析でアカガシ亜属やコナラ亜属が多い結果が得られている (バリノ・サーヴェイ株式会社, 1990)。また、自然木の調査では、溝屑の根株にイヌエンジュ属、アカガシ亜属、ヤマグワ、ムクノキ、ケヤキ、クマシデ属が確認されている (島地ほか, 1987a)。また、流木等の自然木では、ヤナギ属が多く、他にアカガシ亜属、ヤマグワ、クスノキ、ツブラジイなど合計38種類が確認されている (島地ほか, 1987b)。今回木製品に確認された種類は、いずれも自然木に認められている種類であり、遺跡周辺に生育していたことが推定される。

器種別にみると、鋳類は、柄も含めて全てアカガシ亜属であり、強度の高い木材を利用していることが推定される。また、農具原材も全てアカガシ亜属であり、鋳など強度を必要とする農具の原材であることが推定される。鋳については、これまでも本遺跡から多数出土しており、その樹種同定も行われている (島地ほか, 1987b; 林ほか, 1988)。それらの結果をみると、身ではクスギやコナラ類が確認された例もあるが、ほとんどがアカガシ亜属であり、今回の結果とも調和的である。一方、鋳の柄は、アカガシ亜属が利用されている例もあるが、サカキ、シイノキ属、リュウブなど鋳の身に比較すると利用される木材の種類が多い傾向がある。同様の傾向は、島地・伊東 (1988) の統計資料でも確認されており、刃先が木であった時代ではカシ類の柄は硬すぎて刃先を破損する恐れがあり、むしろ軽軟で折れやすくて柔軟な得を用いることにより、刃先を保護したと指摘している。しかし、アカガシ亜属や似たような材質を有するクスギ節の柄が多く確認されていることも事実であり、今後鋳の形態 (刃先の装着の有無) と柄の樹種との関係なども統計的に明らかにする必要がある。

手斧の柄は、サカキであった。斧類については、第4・5次調査や第7次調査でも樹種同定が行われているが、サカキが最も多く、他にヒサカキやコナラ類の利用が確認されている (島地ほか, 1987b; 林ほか, 1988)。したがって、今回の結果は、過去の調査結果とも調和的である。

刺突具は、針葉樹のモミ属であり、割裂性や加工性を利用したと考えられる。刺突具については、これまでの調査でも多数出土しており、樹種同定が実施されている。それらの樹種をみると、モミ属が圧倒的に多く、モミ属以外では、ヒノキ、イヌガヤ、ツガ属等が確認されているが、点数は少ない。これまでの調査結果から、モミ属に偏った木材利用が推定され、今回の結果とも調和的である。モミ属以外の種類のうち、ヒノキやツガ属も割裂性が高い材質を有しており、刺突具の木材利用の背景に

割製性が関係していることが推定される。しかし、モミ属に偏った木材利用の背景等についての詳細は不明であり、今後の検討課題として残される。

高杯はヤマグワ、容器にはアカガシ亜属とハイノキ属近似種が認められた。鬼虎川遺跡では、これまでの調査で出土した高杯もほとんどがヤマグワであり、今回の結果とも調和的である。ヤマグワの選択的利用が推定されるが、その背景については堅硬で耐朽性が高く、美しい空が出ることもあり、雅味があることとの指摘がある(林ほか,1988)。実際に、ヤマグワ材は堅硬な材質から、薄く細かな加工を施すことが可能であり、このような加工性が選択された背景の一つにあったとは考えられる。一方、アカガシ亜属やハイノキ属については、本遺跡では容器としての出土例が確認されておらず、これらの種類の利用が一般的であったのかは不明である。

棒類は、J字形棒、有頭棒、有穴棒、棒があるが、それぞれの用途・機能の詳細は不明である。イヌガヤが多く、他にサカキ、スダジイ近似種が認められる。いずれもこれまでの調査で棒類に確認されている種類である。これまでの調査では、この他にもクスギ、クスノキ、ヤナギ属、ヒノキ、ヌルデ、カヤなど多くの種類が確認されている(烏地ほか,1987;林ほか,1988;嶋倉,1990)。今回確認された種類に限定すれば、比較的重硬で強度の高い樹種が利用されていることになるが、過去に確認された種類を全て含めると、軽軟な種類から重硬な種類まで様々な材質の木材が利用されている。そのため、現時点では木材利用の傾向はみられず、今後の検討課題として残される。

板はツブラジイとヤマグワ、えぐり入り板はアカガシ亜属であった。いずれも重硬な材質を有する広葉樹材である。これまでの調査では、広葉樹のクスノキやクスギなどが認められる一方で、針葉樹のヒノキ等も確認されている。ヒノキ等の針葉樹とアカガシ亜属やツブラジイとは材質が大きく異なることから、その用途・機能も異なっていたことが推定される。

種実遺体の種類

(1) 試料

種実同定は、弥生時代中期とされる井戸、溝、土坑などの各遺構より検出された種実12試料(資料No.467-478)51点について実施する。試料の詳細は、結果と共に第12表・図版175に記す。

(2) 分析方法

試料をシャーレに移して双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な果実、種子などを抽出する。種実の形態的特徴を、現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川,1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか,2000)等と比較し、種類を同定し個数を数えた。分析後の種実標本は、種類毎にビンやタッパーに入れ、70%程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施した。

(3) 結果

種実同定の結果、栽培植物のモモ、イネ、エゴマ、メロン類を含む木本3分類群14個以上、草本4分類群21個が確認された(第12表)。種実遺体の状態は、イネ、コナラ属と資料No.470のモモは炭化しているが、その他は比較的良好である。以下に、本分析によって得られた種実の形態的特徴などを、木本、草本の順に記述する。

<木本>

・コナラ属(*Quercus*) ブナ科

資料No.468から、子葉が検出された。炭化しており黒色を呈す。楕円体で頂端は尖らない。長さ11.6mm、径7.5mm程度。正中線上には2枚からなる子葉の合わせ目の線がみられる。子葉は硬く緻密で、表面には縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。

第12表 種実同定結果

標本No.	採集日	州	道	種	種名	学名	定名	状態	特徴	顕微鏡	備考
467	8-1	長野		採集中期	●モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	種子	完形	変形	1	産地不明
468	8-10	長野		採集中期	○コナラ属	<i>Quercus</i>	子実	変形	変形	1	
469	9-4	大津(西側)		採集中期	●モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	種子	変形	変形	1	
470	9-6	大津(西側)		採集中期	●モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	種子	変形	変形	1	
471	9-6	大津(西側)		採集中期	●イネ	<i>Oryza sativa</i> L.	胚乳	炭化	炭化	1	
					○イネ	<i>Oryza sativa</i> L.	胚乳	炭化	炭化	1	
					○ヒシ属	<i>Trapa</i>	種子	炭化	炭化	1	
472	1~5	9-6	大津I	採集中期	炭化材		種子	炭化	炭化	2	
					草本植物の茎		種子	炭化	炭化	2	
					不明植物		種子	炭化	炭化	12	
473	1~2	9-6	土佐(西側)土庫1	採集中期	●エゴマ	<i>Perilla frutescens</i> (L.) Britt. var. <i>japonica</i> Hara	果実	炭化	炭化	2	
					●メロン類	<i>Cucumis melo</i> L.	種子			2	マクワ・シロワリ属
474	9-6	土佐(内4)		採集中期	●メロン類	<i>Cucumis melo</i> L.	種子			8	マクワ・シロワリ属
					○ブナ科	<i>Fagaceae</i>	果実	炭化	炭化	1	
475	1~3	9-6	土佐(西側)土庫6	採集中期	●イネ	<i>Oryza sativa</i> L.	胚乳	炭化	炭化	1	産地不明
					●メロン類	<i>Cucumis melo</i> L.	種子			4	マクワ・シロワリ属
476	9-6	土佐(西側)土庫7		採集中期	●メロン類	<i>Cucumis melo</i> L.	種子			1	マクワ・シロワリ属
477	9-11	大津(下)		採集中期	●モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	種子	半炭	半炭	7+	
478	9-12-13	大津(下)西側		採集中期	●モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	種子	炭化	炭化	1	産地不明

(1) ●は栽培のための栽培種を示す。○は雑草や種実以外の部位の利用の可能性のある植物を示す。

・ブナ科(Fagaceae)

資料No.475から、果実の破片が検出された。茶褐色、完形ならば卵状楕円体。破片の大きさ7mm程度。果皮表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。基部には灰褐色でざらつく着点(座)と接線が確認される。果実破片は、上述のコナラ属の他に、クリやシイ属の可能性が考えられるため、ブナ科にとどめた。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

資料No.467,469,470,477,478から、核(内果皮)の完形、半分以下の破片が検出された。茶褐色、資料No.470のみ炭化しており黒色。広楕円体でやや扁平。先端部はやや尖る。基部は切形で中央部に湾入した跡がある。大きさは、長さ20~27mm、幅18~22mm、厚さ15~17mm程度。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線に沿って半分に割れた個体(資料No.470,477)がみられる。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い溝があり、全体として粗いしわ状に見える。表面が磨耗している個体(資料No.467,478)がみられる。

<草本>

・イネ(*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

資料No.471,472,475から、胚乳が検出された。炭化しており黒色、長楕円形でやや扁平。長さ5mm、幅2.5mm、厚さ1.5mm程度。胚乳は一端に胚が脱落した凹部があり、両面はやや平滑で2~3本の縦溝が確認される。胚乳表面に顎が付着している個体(資料No.475)もみられる。脱穀した米を蒸したり炊いたり過ぎて「おこげ」となった場合には、このように明瞭に胚乳の形をとどめることはないと考えられことから、おそらく、脱穀前の顎に包まれた生米の状態で火を受け、炭化した顎は脆く壊れやすいので脱落し、胚乳のみが残ったものと思われる。顎は薄く、表面には特徴的な顆粒状突起が規則的に縦列する。

・ヒシ属(*Trapa*) ヒシ科

資料No.472から、果実の破片が検出された。黒褐色。完形ならば倒三角形でやや扁平で、中央部には円柱状の子房突起が突出し、その中心に短い刺と、両側の刺からは基部まで延びる翼状隆条がある。破片の大きさ16mm程度。小型のヒメヒシ(*Trapa incisa* Sieb. et Zucc.)とは区別される。果皮は厚く木質。

・エゴマ(*Perilla frutescens* (L.) Britt. var. *japonica* Hara) シソ科シソ属

資料No.473から、果実が検出された。茶褐色、倒広卵形。径2mm程度。基部には丸く大きな臍点があり、舌状に突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

・メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属

資料No.473-476 から、種子が検出された。淡灰褐色、狭倒皮針形で偏平。長さ6.1~7.5mm、幅3~4mm程度で、藤下(1984)の基準によるマクワ・シロウリ型の中粒種子(長さ6.1~8.0mm)の範囲内に入る。基部に倒「ハ」の字形の凹みがある。表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

(4) 考察

弥生時代中期とされる各遺構から検出された種実の種類からは、栽培植物を含む有用植物が確認された。モモ、イネ、エゴマ、メロン類は、古くから栽培のために渡来した植物で(南木,1991)、本遺跡におけるこれまでの調査(第33次調査など)や、同時期の河内平野遺跡群でも確認されている(埋蔵文化財研究会,2001;山口,1993,1996など)。

自生していたと考えられる種類では、コナラ属を含むブナ科は、堅果が食用・長期保存が可能で収量も多いため、古くから里山で保護、採取されてきた有用植物である。また、コナラ属の子葉が、貯蔵穴と考えられている第22層から炭化した状態で検出されていることから、当時の植物質食糧として利用されていた可能性や、火熱を受けたことが推定される。井戸1から破片の状態で検出された水生植物のヒシ属は食用可能である。

これらの栽培植物を含む有用植物の可食部分である種実が、他の遺物と共に溝や井戸、土坑などから検出された状況を考慮すると、本遺跡近辺で栽培もしくは持ち込まれ利用していたものが、生活残渣として廃棄されたことなどが考えられる。

引用文献

- 藤下 典之, 1984, 出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法, 古文化財の自然科学的研究, 古文化財編集委員会編, 同朋舎, 638-654.
- 石川 茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 埋蔵文化財研究会, 2001, 埋蔵文化財データベース, 第50回埋蔵文化財研究集会 環境と人間社会 一適応、開発から共生へー 発表要旨集.
- 南木 陸彦, 1991, 栽培植物, 古墳時代の研究 4 生産と流通 I, 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編, 雄山閣, 165-174.
- 中山 至大・井之口 希秀・南谷 忠志, 2000, 日本植物種子図鑑, 東北大学出版会, 642p.
- 島地 謙・林 昭三・伊東 隆夫, 1987a, 鬼虎川遺跡より出土した根材の樹種, 鬼虎川遺跡第12次発掘調査, 財団法人東大阪市文化財協会・東大阪市教育委員会, 49-51.
- 島地 謙・林 昭三・植田 弥生, 1987b, 鬼虎川遺跡出土木製品の樹種, 鬼虎川の木質遺物 一第7次発掘調査報告書 第4冊一, 財団法人東大阪市文化財協会, 39-67.
- 嶋倉 巳三郎, 1990, 東大阪市鬼虎川遺跡から出土した加工木の樹種, 鬼虎川遺跡第1~3次発掘調査報告書, 財団法人東大阪市文化財協会, 54-56.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 1990, 鬼虎川遺跡第31次調査出土の木棺材樹種同定及び花粉分析報告, 鬼虎川遺跡第31次発掘調査報告, 財団法人東大阪市文化財協会.
- 山口 誠治, 1993, 植物遺体, 河内平野遺跡群の動態VI, 大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター, 253-312.
- 山口 誠治, 1996, 自然遺物, 河内平野遺跡群の動態III, 大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター, 129-155.

V. 調査の総括

今回の調査では弥生時代の大溝、溝、井戸、土坑、ピット群などとともに、縄文土器、多数の弥生土器、石鎌・石剣・石錐などの打製石器、石甕・石斧・石槍などの磨製石器、簾・高杯などの木製品、装身具・刺突具などの骨角牙製品、土偶・紡錘車などの土製品、シカ・イノシシなどの動物遺体、イネ・モモ・ヒシなどの種実遺体を検出し、弥生時代前期から中期の集落状況―住居域・墓など―を確認することができた。古墳時代以降では溝、足跡などを検出したが、須恵器・土師器・埴輪・瓦器・陶磁器などの出土量は極めて少なく、周辺の調査でも確認されているように、主に生産域として機能していたことが判明した。

縄文土器は晩期後半から末期のもの（滋賀里Ⅲb～長原式）で、大洞系の浅鉢片も出土した。これらの土器は本調査地内の縄文時代晩期相当の堆積層（第S層）以下からは全く出土せず、弥生時代前期後半の堆積層、弥生時代前・中期の遺構・盛り層、弥生時代中期末から後期初頭の盛り層内から出土した。しかし、その大半は8工区北部域、9工区南部域からで、8工区の中央部から南、9工区の中央部から北からはほとんど出土しなかった。前年度の第53次調査（7工区）では南部域のみから出土して北部域から全く出土していないこと、今年度調査を実施した第58次調査（来年度報告）でも北部域から多く出土したことと符合している。出土した縄文土器はほとんど摩滅しておらず、これらのことから、調査地内または近辺に縄文時代晩期の集落があって、弥生時代の洪水または大集落形成期にその大半が削平・破壊されたものと思われる。周辺の調査においては第S相当層上面から溝・ピットなどが検出されているが（第52・53・58次など）、住居に伴う明確なものはみつからない。

第R層ないしR中層上面において溝・土坑・ピットを検出した。本調査地における最下層の遺構であるが、遺物は全く出土しなかった。第R層内から弥生土器の細片が微量出土し、上層の第O層上面で前期末の遺構を検出していることから、弥生時代の前期中葉～後半に相当する時期のものと考えられる。

第Q層は弥生時代前期後半ごろの、東から西方向への洪水（氾濫）がもたらした砂の堆積層で、砂層内からは弥生時代前期の土器片とともに縄文時代晩期の深鉢・浅鉢片が出土した。堆積砂は8工区北側と9工区南側（これは7-9工区間、8-10工区間で旧鬼虎川流路域）に厚く堆積して自然堤防状の高まりを成し、前期末以降の集落状況に大きく影響を与えた。第OおよびN層上の遺構面が8工区では北と南で約50cm、9工区でも南と北で約50cmの比高差があった。また、一昨年（2017）の第53次調査区でも南と北で約1mの比高差見られた。すなわち、集落内は平坦ではなく、西への傾斜とともに、本調査地の8-9工区間付近に東西方向の高まりがあり、北と南へと傾斜していたものと考えられる。

第O層上面では弥生時代前期末から中期前半にかけての3期にわたる遺構を確認した。そのうち9工区の上層溜り土坑からはシカ・イノシシなどの動物遺体とともに多量の前期土器が出土した。これまでの調査でも大溝（第40・48次）、土坑墓、土器棺墓（第53次）など前期遺構は確認されているがそれほど多くなく、この一括の上層群は本遺跡での前期状況を知るうえで貴重なものといえる。8工区ではピット・土坑のみで大溝などの溝はなく、9工区でも他に数基のピットと溝のみみられたのみである。中期初頭から前半にかけては急激に遺構の数が増え、本遺跡で営まれた集落が巨大化した時期である。前期遺構を除く遺構は2-3期の切り合い関係が確認できた。ピット、土坑、溝、大溝などがあり、弥生土器、石器なども多く出土し、盛んな生活状況がうかがえた。

第N層上面では弥生時代中期中葉から後半にかけての遺構と遺物を検出した。中期中葉は本遺跡で

営まれた大集落が維持されていた時期にあたり、3期以上の切り合い関係のある多くのピット、土坑、溝、大溝と多量の弥生土器、石器などが出土した。8工区の中期後半の遺構は井戸、土坑1基、溝2条、ピット2などで減少する。それに対し9工区では6条の大溝が存続するとともに溝8条、土坑3基、井戸とピット1とやや多く検出した。とくに大溝2・3は一連のものと思われ、調査地をほぼ南北に縦断していた(第58次調査区の北側でも検出している)。

第M層は多量の遺物を包含した弥生時代中期末から後期初頭の整地層で、8・9工区とも3層(期)以上に細分でき、各整地期に土坑墓・土器棺墓を構築したところや(第49・53次など)、大溝・大型円形土坑を形成したところもあった(第58次など)。最上層遺構の土坑・大溝・落ち込みは最終的に粘土・シルト質粘土の互層の自然堆積(第L層)で埋没していた。このことから調査地周辺は弥生時代末から古墳時代初頭には浅く水没していたことを示唆している。この整地層は広範囲に見られ、大掛かりな整地のわりに最上面の遺構は上記の第O・N層上面遺構に比べて希薄であった。

8工区では上層部(8工区-第20層内)から30歳前後の頭骨を含む人骨片が出土した。頭蓋骨は一部で(頭頂・前・側頭骨)、側近から大白歯2個、さらに近隣からは膝蓋骨(資料11)・骨片(資料13)が散乱した状態で見られた。すぐ北の第53次調査地の南より(7工区)には中期後半~末期の土坑墓・土器棺墓、前期末の土坑墓・土器棺墓が、最南端でも中期中葉の土坑墓を検出しており、第M層が大掛かりな整地であったことから近辺の土坑墓を破壊したのち、人骨が放棄されたものと思われる。このことはこの時期の鬼鹿川の人々に改葬する一偶然でも、出土した人骨を丁寧に埋め直す一意識があまりなかったということになる。これに対し、9工区には上層また中層から掘り込まれた土坑内に乳幼児(胎児)を埋葬した土器棺墓があった。上記の7工区でも前期末ないし中期末の乳幼児を埋葬した土器棺が2基見られることなどから、早世した新生児への葬送意識は強いものがあつたと思われる。

また、この整地層の最下層からは土偶が出土した。この土偶については152・153ページで記しており(第101図 図版152)、形状など重複する内容となるが、若干補足して述べておく。

<形状> □・鼻から左顔面部にかけて残存。外縁は左頭頂部の一部のみであるが、断面は三角形を呈し、頭部から両側にかけてはやや楕円の円弧状をなしていたと思われる。顔面には十字状に隆起した眉および鼻と、丸くボール状に窪んだ口を有する。目は眉下部(左右ともやや両側寄り)に細く沈線が表現し、刺突穴で2鼻孔を表わしている。裏面上部には貼り付け境界線部の弧状や、斜状の沈線文が見られる。

<計測値> 残存の高さ 5.2cm、最大幅 5.5cm、最大厚 1.9cm

<色調> 表は主ににぶい黄褐色(10YR5/4)、裏は主に灰色(5Y4/1)

<胎土> 長石、クサリ礫、角閃石、金雲母、石英など

<成形と調整> 粘土板を貼り合わせて、下を厚くした板状の顔台をつくり、頭部外周は弧状に成形し、粘土紐をその外周に含ませて貼り、つまみあげるようにして両面からなでつけ縁部を尖らせている。顔面は、粘土紐を使用して横方向の眉を先に貼り、そのほぼ中央部从上から直行する形で縦方向の鼻を取り付けて成形し、刺突用具などで目・鼻孔を描き、口は指頭を押しえ込んで丸く窪めている(口の周囲は極めてわずかに隆起)。裏面はヘラにより弧状や、斜状の沈線模様を施している。表面はユビオサエとナデ、裏面は斜め方向のハケとナデで整形・調整している。ユビオサエ状況・ハケ目方向などから、製作者は右利きの人であつたと思われる。

本遺跡で出土した土偶は3例で、第40次調査と今年度の第58次調査における弥生時代中期土坑内からのものがある。用上した整地層は弥生土器など多量の弥生時代の遺物とともに、それほど多くはな

いが突帯文土器など縄文時代晩期の遺物も含まれていた。そのため縄文期の土偶が紛れ込んだことも考慮しなければならない。第40次の土偶は、突帯文土器を含む弥生時代前期後半から末の大溝内から出土し、胴部がやや扁平の円筒形をなす台式土偶で、形態からも縄文時代晩期末に相当するものと思われる^{注1}。これに対し、第58次の土偶は弥生時代中期中葉の土坑内から出土し、共存した土器には縄文土器は含まれておらず、類例（久宝寺遺跡^{注2}）や形態からも弥生時代中期のものと考えられる^{注3}。本調査で出土した土偶は、上記のように突帯文土器片をも含む幣地層内からの出土とはいえ、顔のつくりが第58次調査のものと同様、さらに分銅形土製品をも思わせる形態であることから、弥生時代相当期のものと考えてよいと思われる^{注4}。詳細については次回第58・60次の報告書で論ずる予定であるが、当時の精神生活の一端を知る新たな資料といえよう。

古墳時代以降は集落関連の遺構はなく、数時期にわたる溝（鋪溝含む）や足跡群などを検出し、調査地周辺は生産域として活用されていたことがわかった。ただ、9丁区11地区付近でみられた中央部高まり遺構は、自然流路の堆積砂上に形成された数時期におよぶ盛土で（上面で足跡・土坑などの遺構があった）、この高まりを境にして調査範囲の南北（正確には東西であるが）で各時期の遺構状況が異なっていた（第13・12・11・9・9'層上面の各遺構）。盛土と南北の遺構状況から、この高まりは奈良～平安時代にわたる条里制に基づく七条の二十坪と二十九坪の南北坪境にあたると思われる^{注5}。そして、高まりを境としての遺構の違いは両坪での耕作状況の相違を示しているといえる。しかし、鎌倉時代の洪水がもたらした砂堆積（第8・8'層）以降この高まりはなく、両坪に相当する小字の東間瀬と西間瀬の境が西にずれていることから（第33図参照）、この境に変化がもたらされたものと思われる。

今回の調査では、これまでの調査で検出されている弥生時代前・中期の集落関連の遺構・遺物を多数検出したほか、砂の堆積・遺構状況から当時の集落面状態を確認し、条里制遺構の状況をも知ることができた。今後、これまでの調査と継続して実施される立体交差事業に伴う調査の結果などを踏まえ（隣接遺跡状況をも合わせ）、拠点集落としての弥生時代をはじめ、本遺跡の歴史の変遷状況を概観してみたいと考えている。

注

- 1 「鬼虎川遺跡第40次発掘調査報告」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告—1998年度—』財団法人東大阪市文化財協会 1999年
- 2 菊井佳弥「久宝寺遺跡出土の土偶について」『大阪文化財研究』第24号 財団法人大阪府文化財センター 2003年
- 3 「鬼虎川遺跡第58次発掘調査現地説明会資料」東大阪市教育委員会 2004・4・17
井筒美智与・市田英介「鬼虎川遺跡第58次発掘調査」東大阪市立埋蔵文化財センター発掘調査報告会レジュメ 2004・8・1
- 4 市田英介・井筒美智与「鬼虎川遺跡の調査—56・58次調査を中心として—」『大阪府埋蔵文化財研究会（第49回）資料』財団法人大阪府文化財センター 2004・9・18
- 5 一昨年の第53次調査では十九坪と二十坪間の坪境の東西道を検出している（『鬼虎川遺跡第53次発掘調査報告』東大阪市教育委員会 2004年）。

圖 版



1. 調査地周辺航空写真 (1950年ごろ)



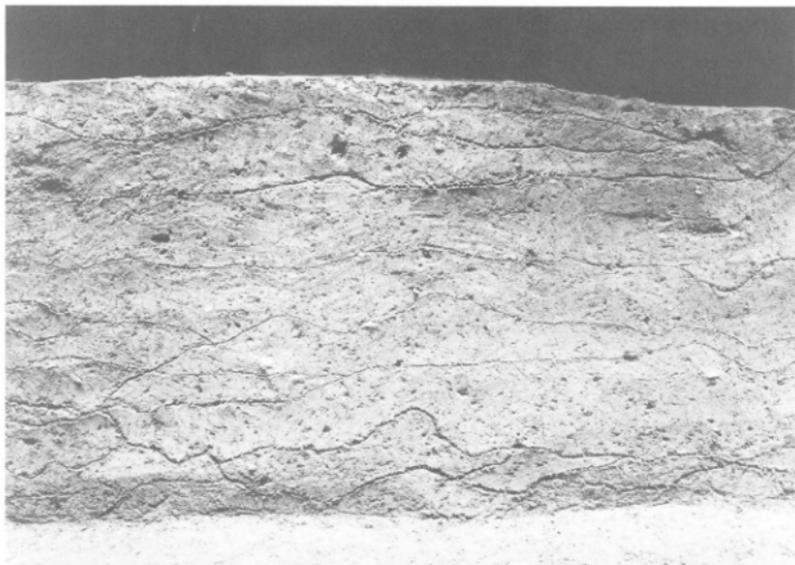
2. 調査地周辺航空写真 (1980年ごろ)



1. 調査地周辺遠望（東方より）



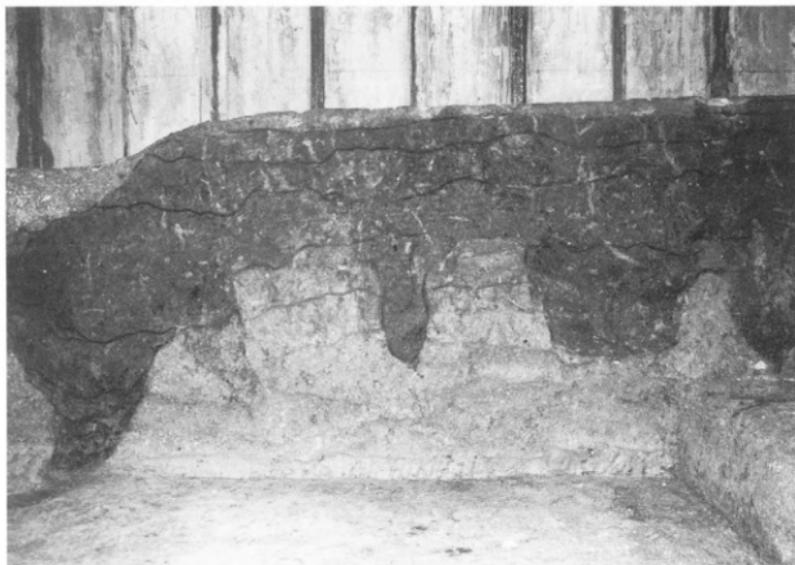
2. 調査地近景（北より）



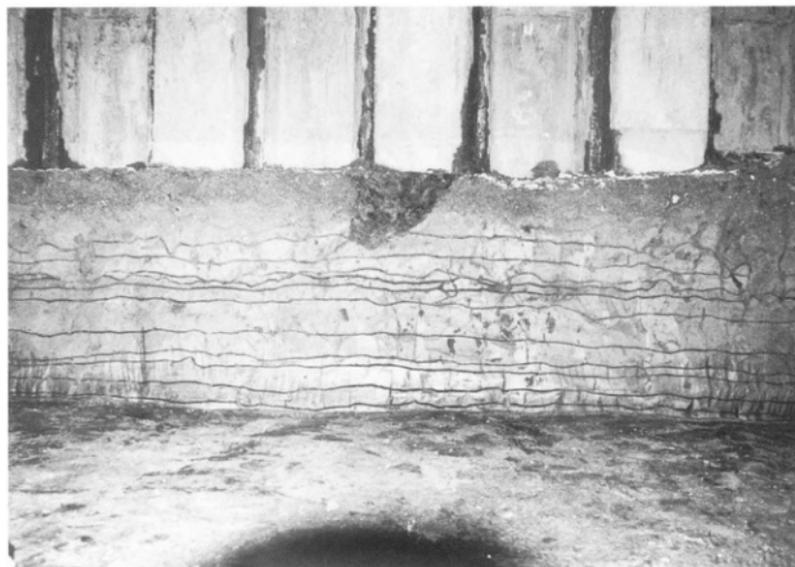
1. 8工区5地区付近西壁断面(1)



2. 8工区5地区付近西壁断面(2)



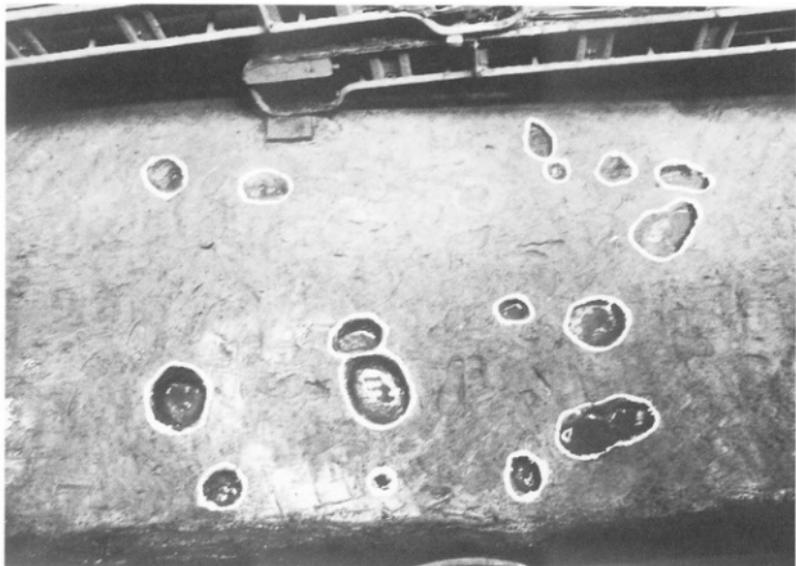
1. 8工区5地区付近西壁断面(3)



2. 8工区5地区付近西壁断面(4)



1. 8工区第27b層上面遺構(1) 11~15地区 北より

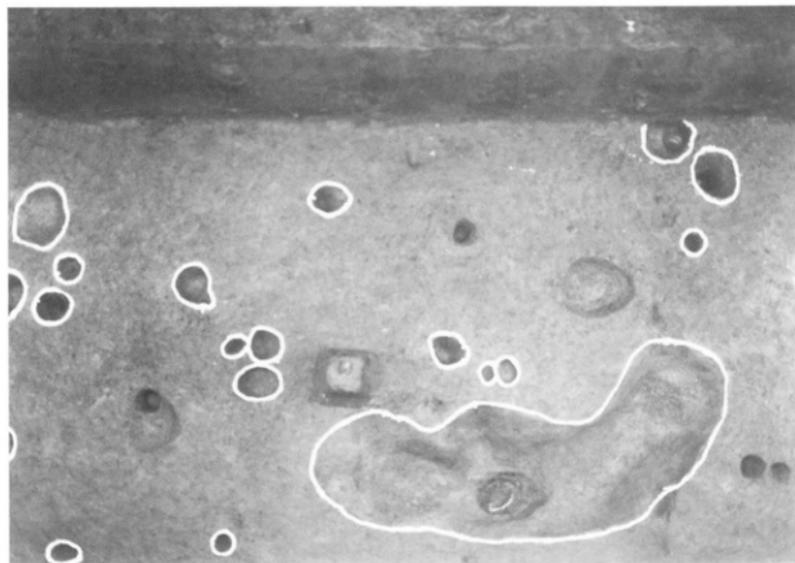


2. 8工区第27b層上面遺構(2) 12地区 西より

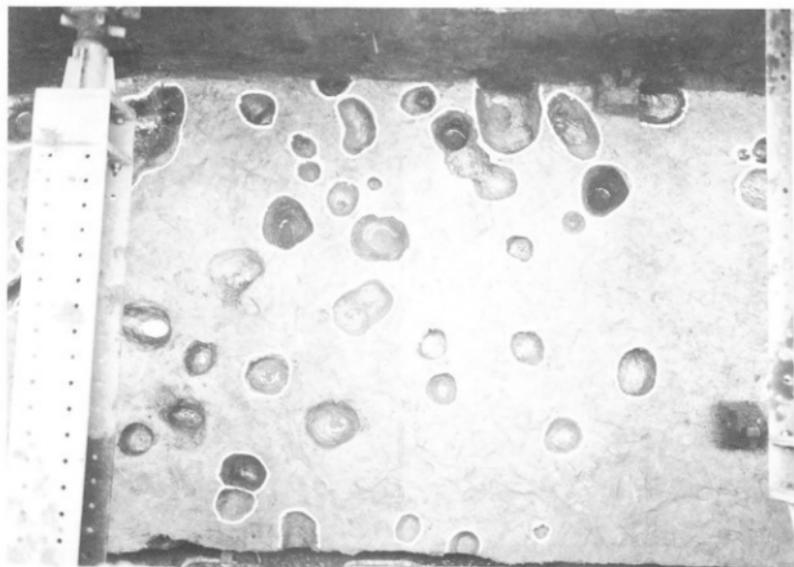
図版
6
遺構



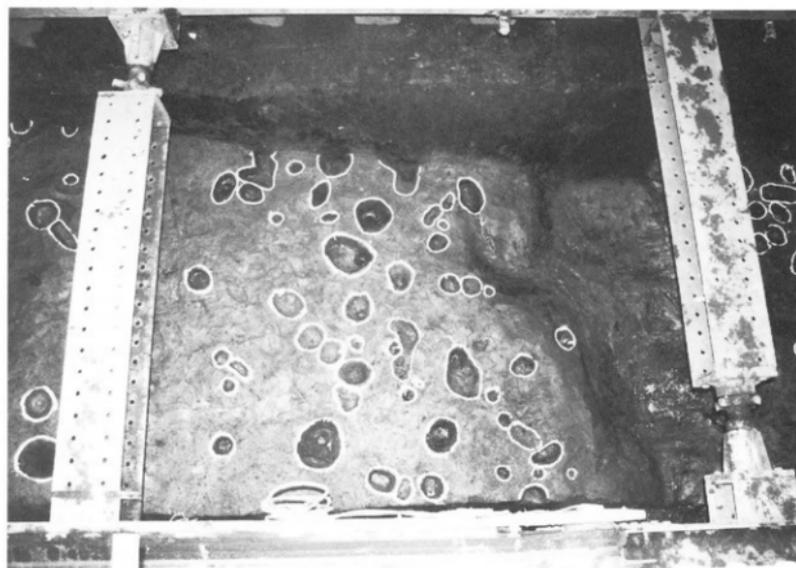
1. 8工区第24層上面遺構(1)
1~3地区 北より



2. 8工区第24層上面遺構(2) 8地区 東より



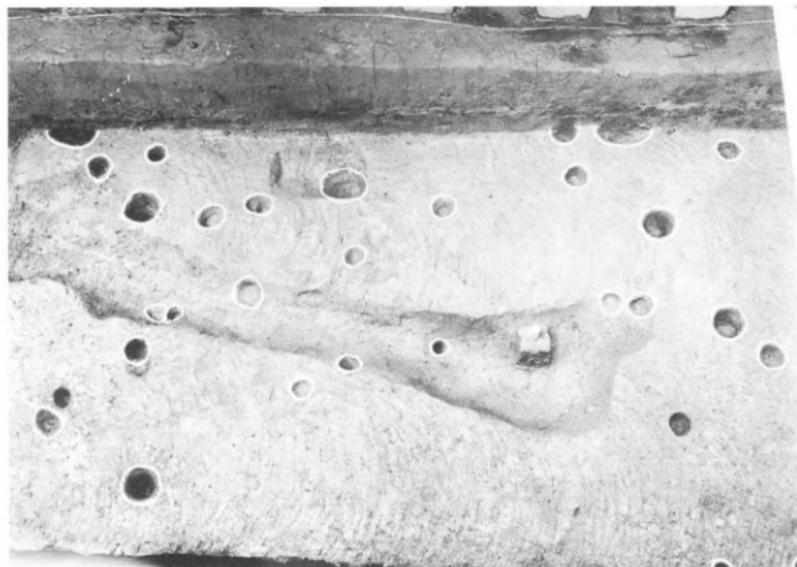
1. 8工区第24層上面遺構(3) 12地区 東より



2. 8工区第24層上面遺構(4) 16地区 東より



1. 8工区第24上層上面遺構(1)
1~3地区 北より



2. 8工区第24上層上面遺構(2) 3地区 東より



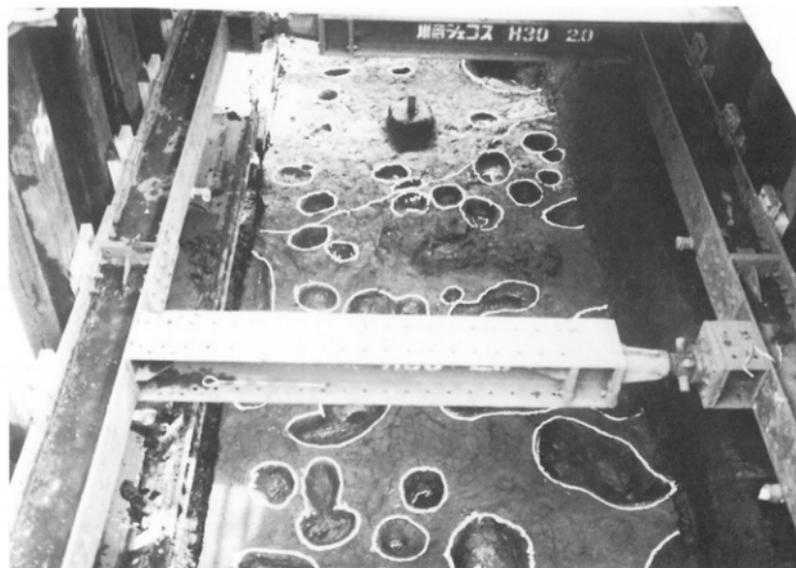
1. 8工区第23層上面遺構(1) 1~4地区 南より



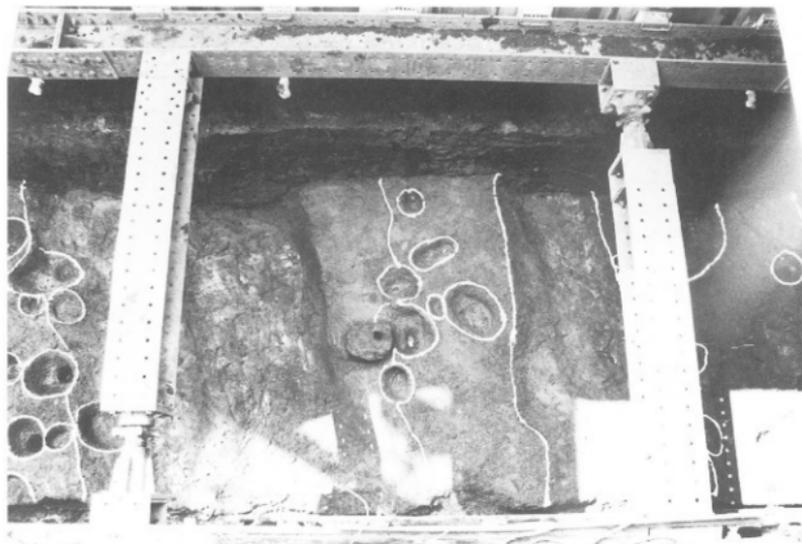
2. 8工区第23層上面遺構(2) 8地区 東より



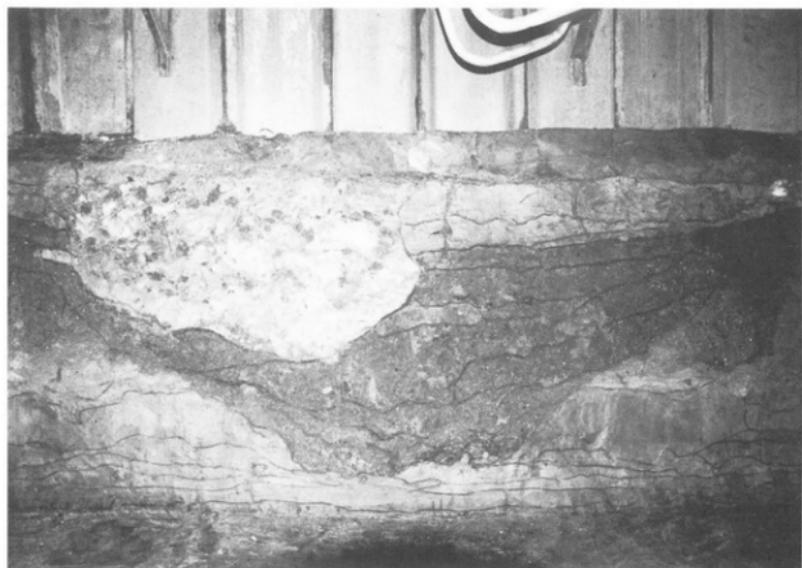
1. 8工区第23層上面遺構(3) 10地区付近 南より



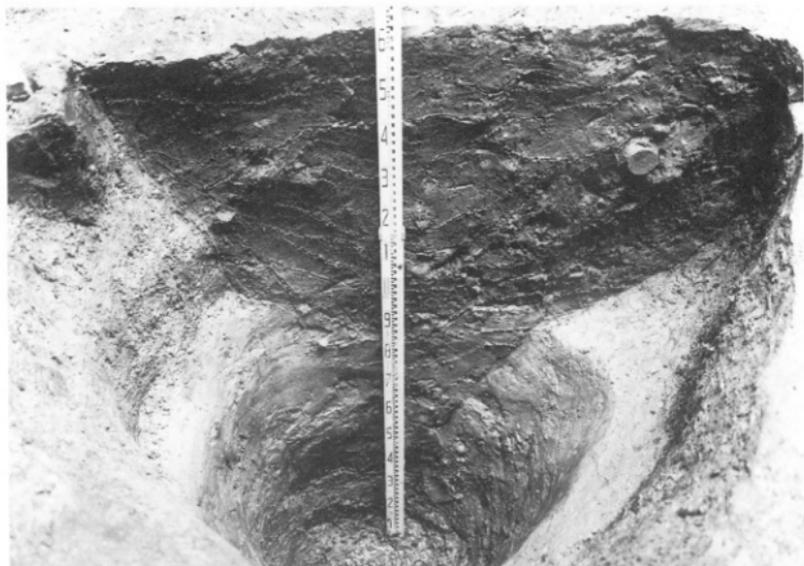
2. 8工区第23層上面遺構(4) 13地区付近 北より



1. 8工区第23層上面遺構(5) 16地区 東より



2. 8工区第23層 溝22断面(西壁) 16地区 東より



1. 8工区第23層 井戸断面 4地区 東より



2. 8工区第23層 井戸内土器出土状況 4地区 西より



1. 8工区第23層 高まり内木製品出土状況 16地区



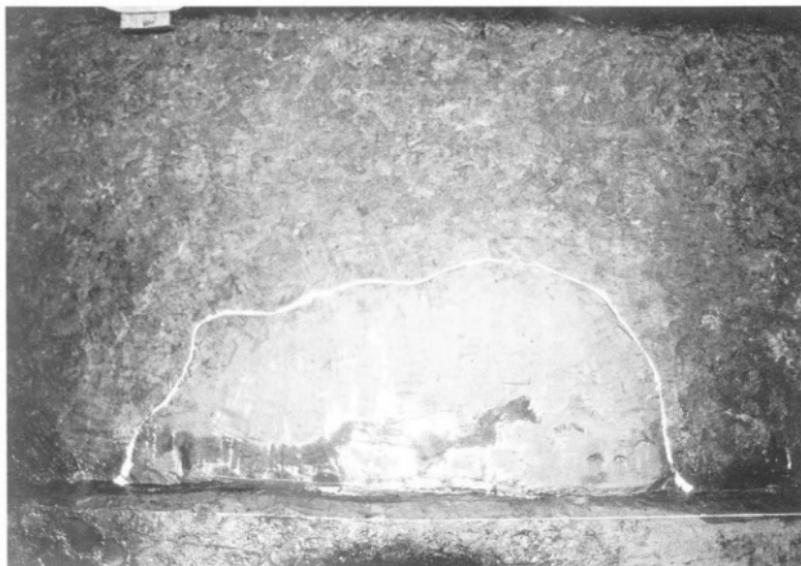
2. 8上区第23層内動物遺体(頭骨)出土状況 4地区



1. 8工区第23層上面動物遺体（下顎骨）出土状況 14地区



2. 8工区第23層上面シカ（下顎骨）出土状況 16地区



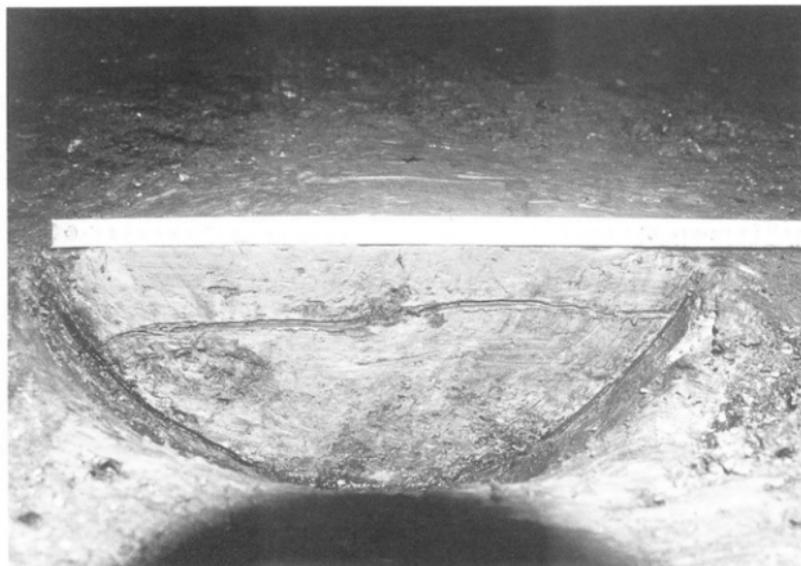
1. 8工区第20層 落ち込み5 検出状況 9地区 西より



2. 8工区第20層 落ち込み5 9地区 西より



1. 8工区第20層 土坑7 13地区 西より



2. 8工区第20層 土坑7断面 13地区 西より



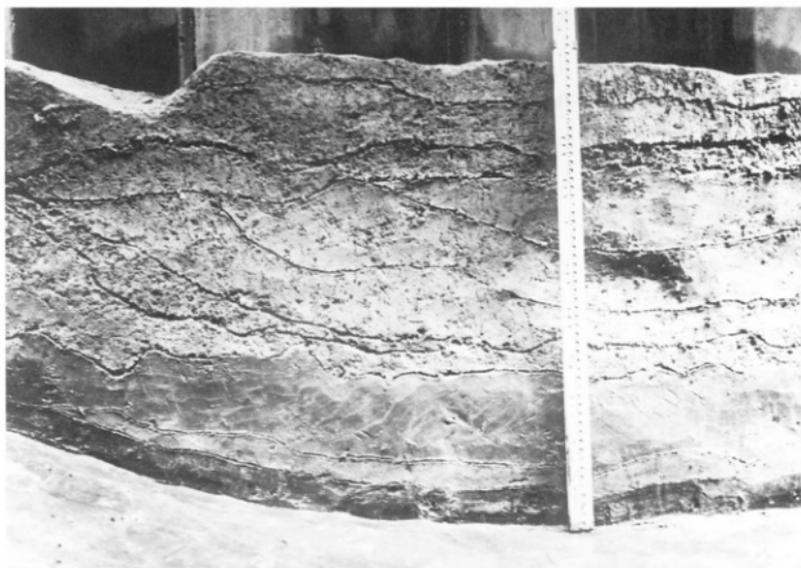
1. 8工区第20層内土器・人骨（頭骨）出土状況 8地区 東より



2. 8工区第20層内土器出土状況 10地区



1. 8工区第19層上面遺構 6地区 南より



2. 8工区第19層 落ち込み4断面(西壁) 6地区 東より



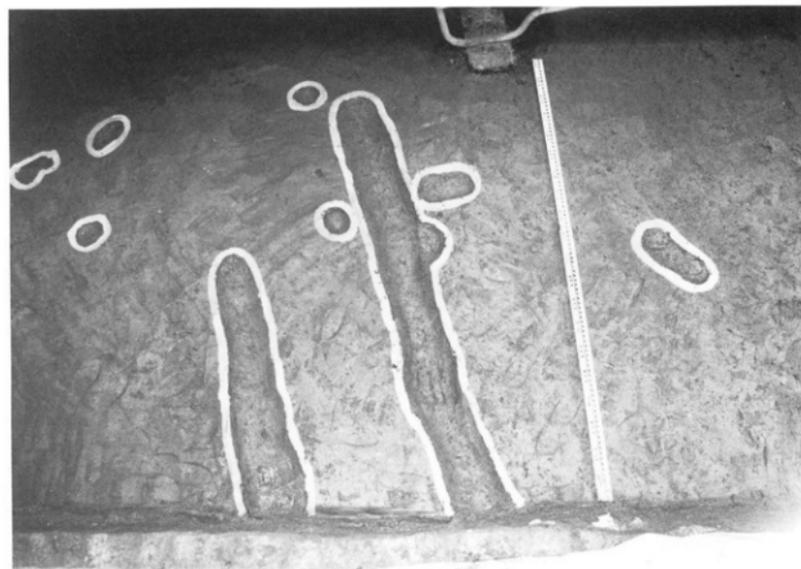
1. 8工区第17層上面遺構 6地区 南より



2. 8工区第17層上面足跡 10地区 南より



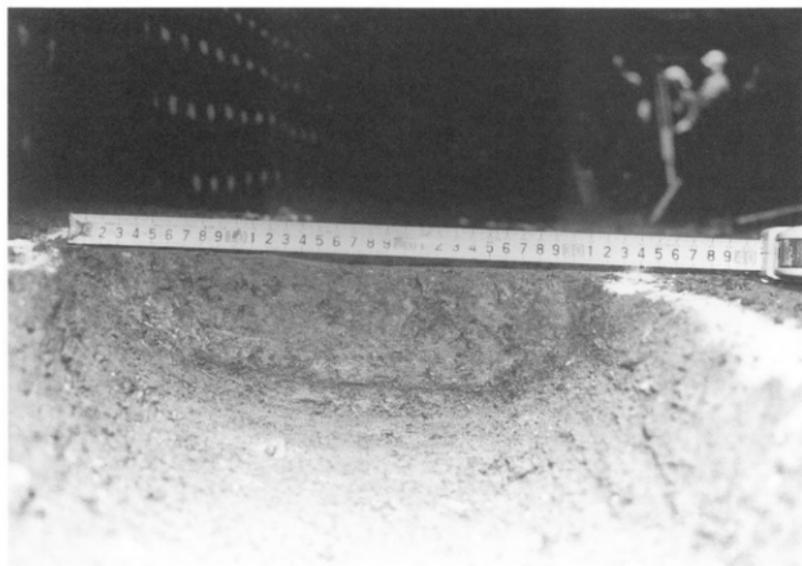
1. 8工区第13中層上面遺構 10~13地区 南より



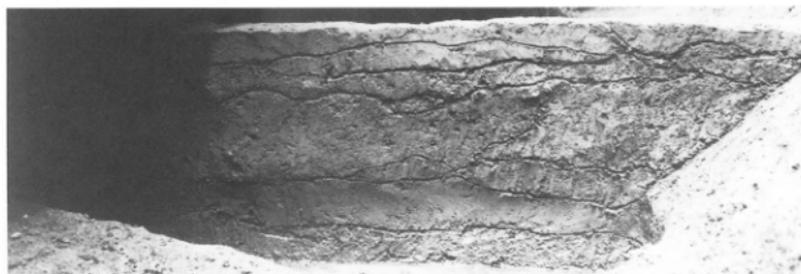
2. 8工区第13中層 溝14・15、足跡 12地区 西より



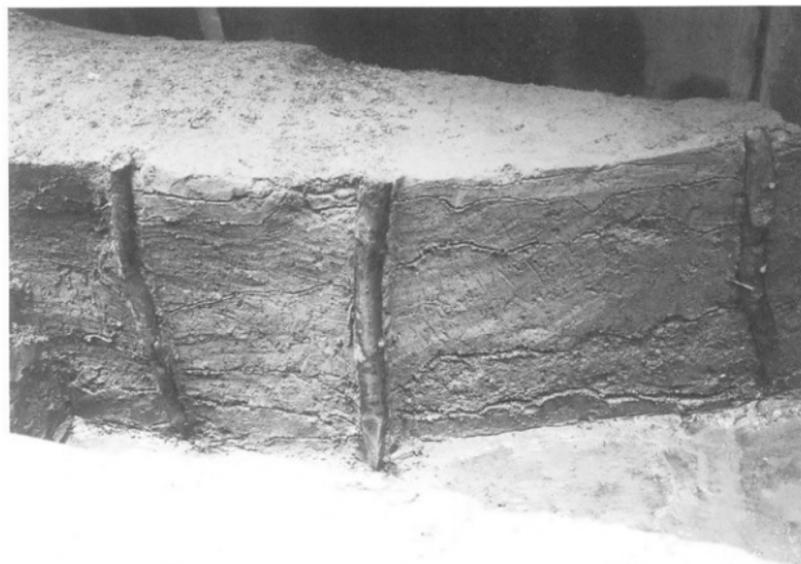
1. 8工区第11層上面遺構 10~12地区 北より



2. 8工区第11層 溝11断面 11地区 南より



1. 8工区第4層 溝6南肩 南より・溝6断面 3地区 北より



2. 8工区第4層 杭列出土状況 3地区 西より



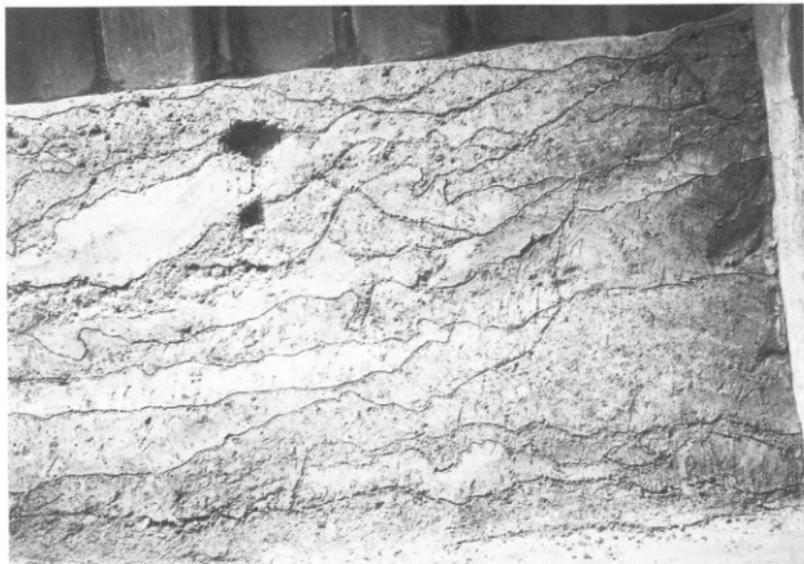
1. 8工区第3層 井路北肩検出状況 13地区 北より



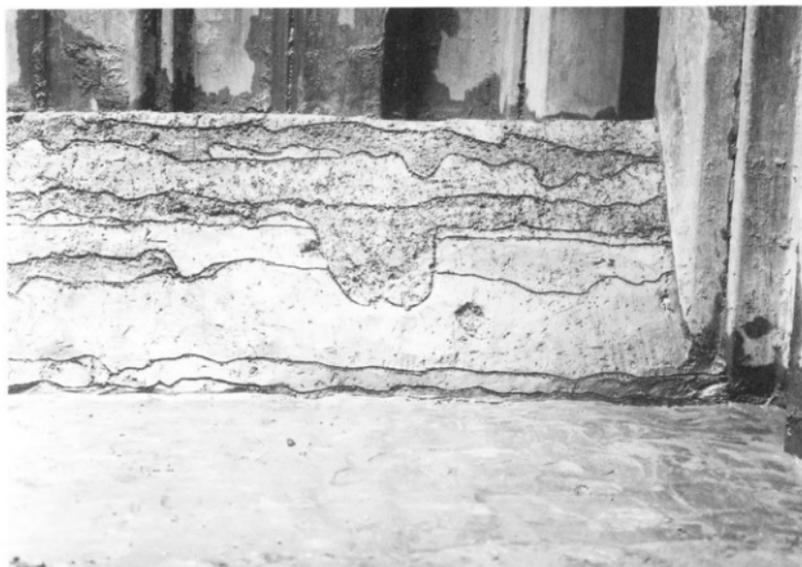
2. 8工区第3層 井路断面(西壁) 13地区 東より



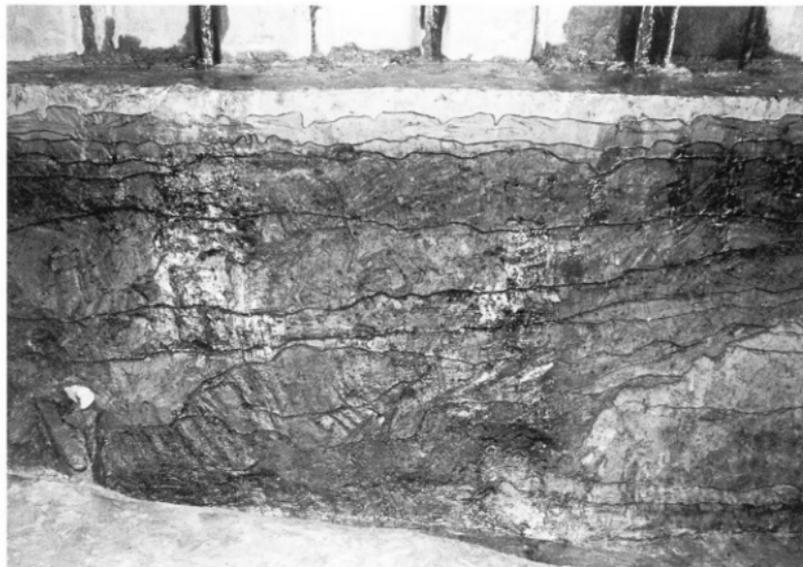
3. 8工区第3層 木槨出土状況(井路北肩) 13地区 南より



1. 9工区1地区付近西壁断面(1)



2. 9工区1地区付近西壁断面(2)



1. 9工区1地区付近西壁断面(3)



2. 9工区1地区付近西壁断面(4)



1. 9工区第23層上面遺構(1) 6地区付近 西より



2. 9工区第23層上面遺構(2) 8地区付近 西より



1. 9工区第19層上面遺構(1)
1～6地区 北より



2. 9工区第19層上面遺構(2)
6～10地区 南より



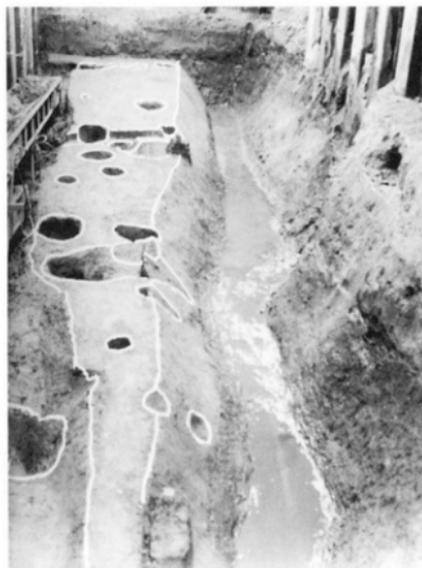
1. 9工区第19層 土器溜り土坑・大溝3 1地区 東より



2. 9工区第19層 土器溜り土坑 1地区 東より



1. 9工区第19層上面遺構(3)
11~15地区 南より



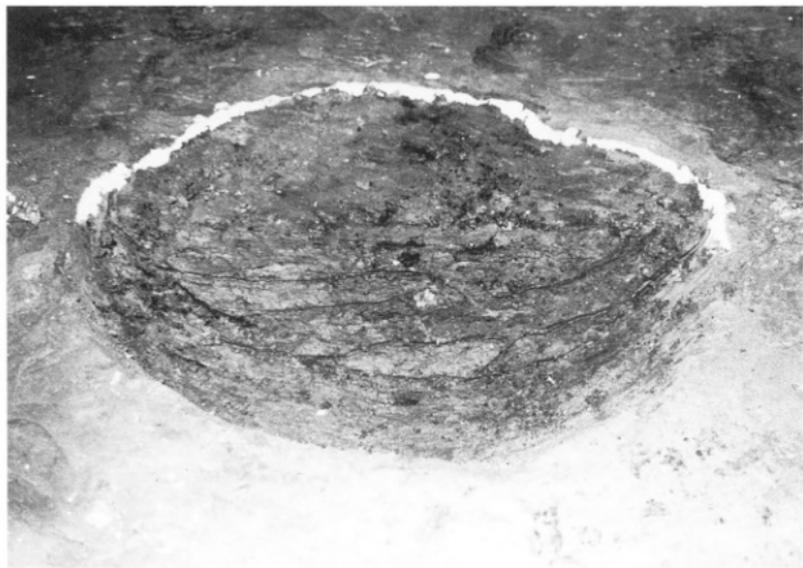
2. 9工区第19層上面遺構(4)
16~20地区 南より



1. 9工区第19層 大溝2断面(1)南壁 北より



2. 9工区第19層 大溝2断面(2)東西アゼ 19地区 南より



1. 9工区第19層 土坑19断面 5地区 北より



2. 9工区第19層 大溝3内木製品出土状況 2地区西壁内



1. 9工区第19層 大溝3内加工木出土状況 2~3地区西壁内



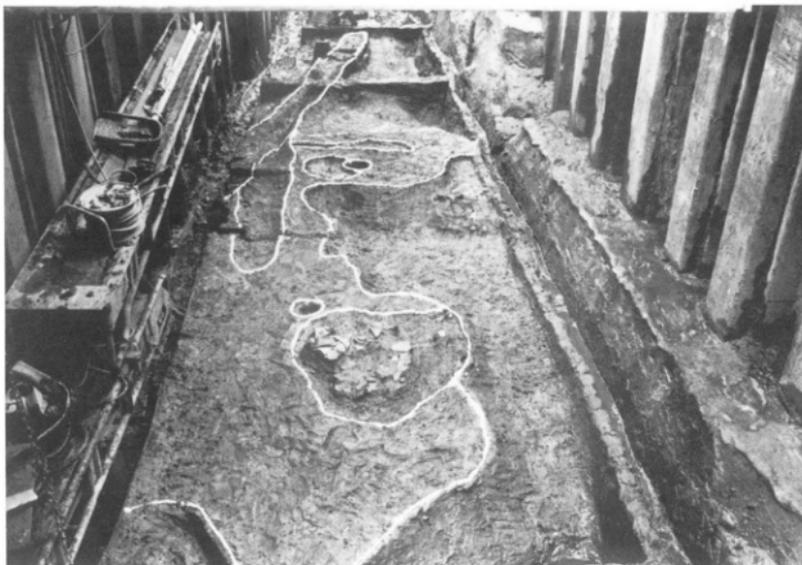
2. 9工区第19層 大溝3内加工木出土状況 3地区西壁内



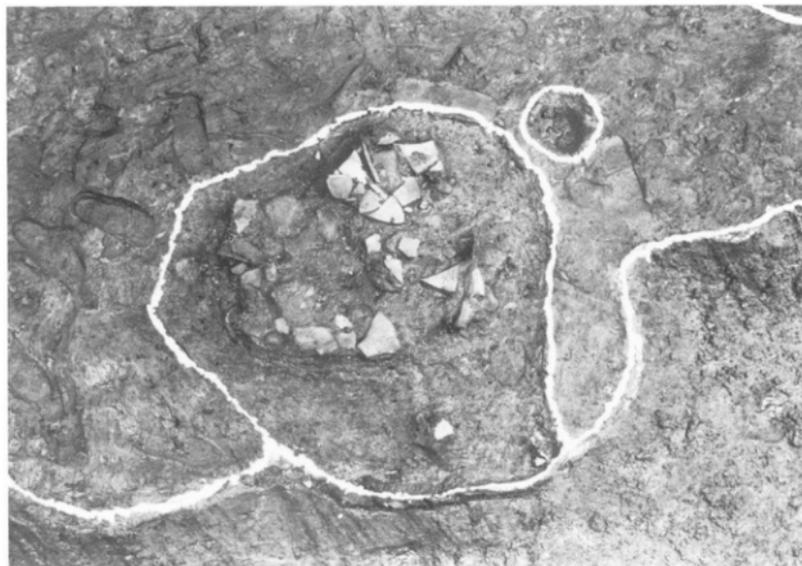
1. 9工区第18層上面遺構(1) 1地区 南より



2. 9工区第18層上面遺構(2) 13~15地区 北より



1. 9工区第18層上面遺構(3) 7~11地区 北より



2. 9工区第18層 土器溜り1 8地区 西より



1. 9工区第18層 大土坑付近断面(1) 7地区 東より



2. 9工区第18層 大土坑付近断面(2) 6地区 東より



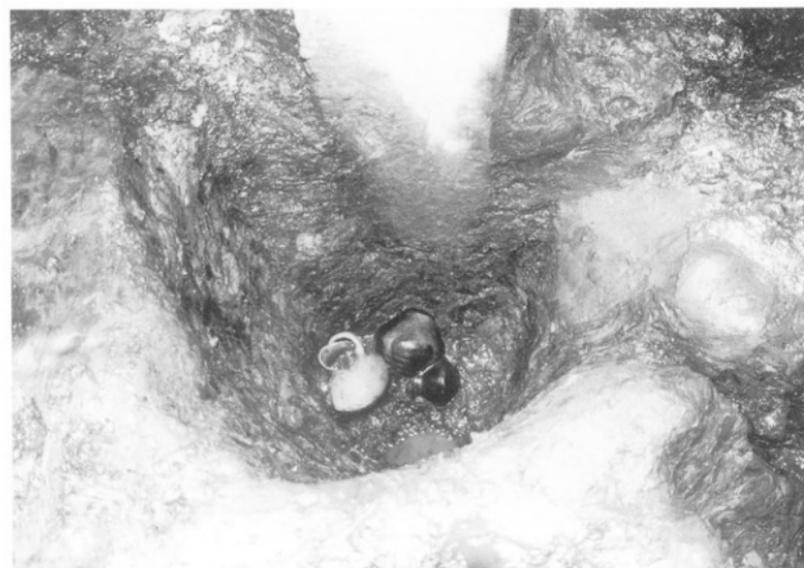
1. 9工区第18層 大土坑付近断面(3) 6地区 東より



2. 9工区第18層 大土坑付近断面(4) 5地区 東より



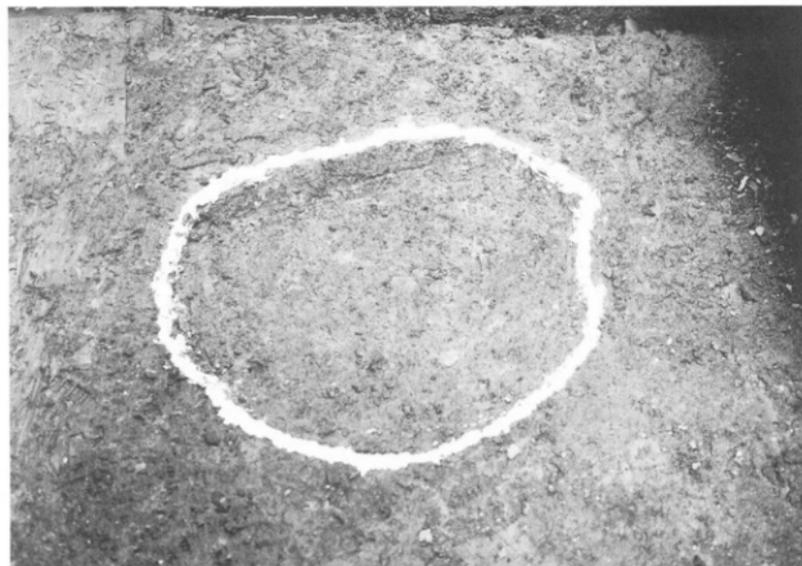
1. 9工区第18層 土坑C内上層土器出土狀況 6地区



2. 9工区第18層 土坑C内下層土器出土狀況 6地区



1. 9工区第17層 土器棺墓土坑断面 12地区 東より



2. 9工区第17層 土器棺墓土坑 12地区 東より



1. 9工区第15層内ミニチュア土器出土状況 20地区



2. 9工区第16層 落ち込み2・3 1地区 西より



1. 9工区第16層 落ち込み2断面 1地区 南より



2. 9工区第16層 落ち込み3断面 1地区 南より



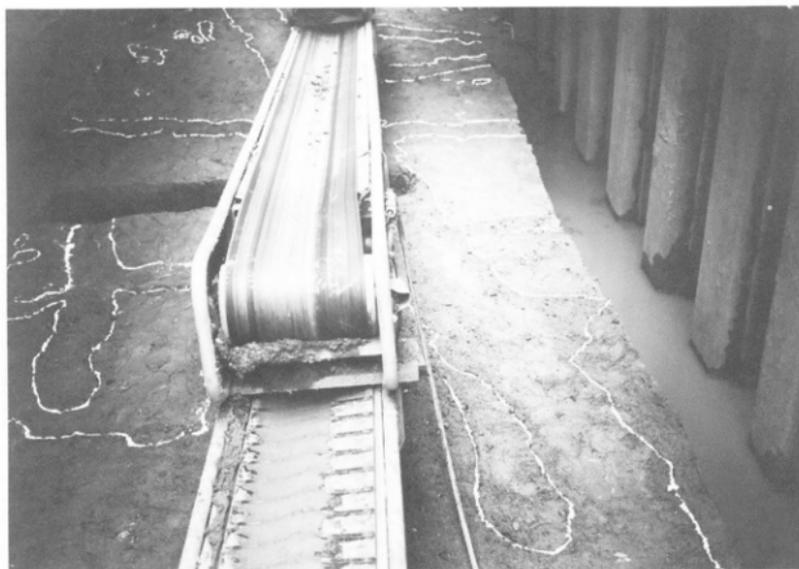
1. 9工区第13層 溝64・足跡 3地区 南より



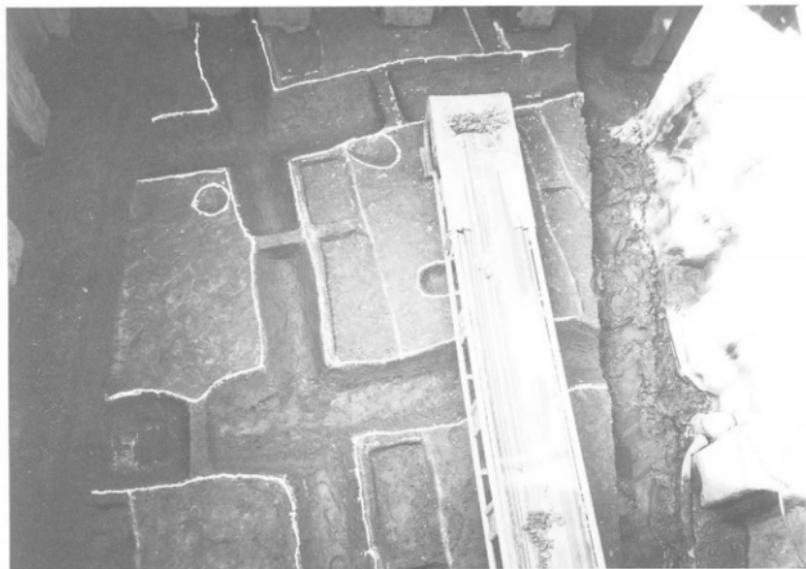
2. 9工区第12層 溝66~71 12~14地区 北より



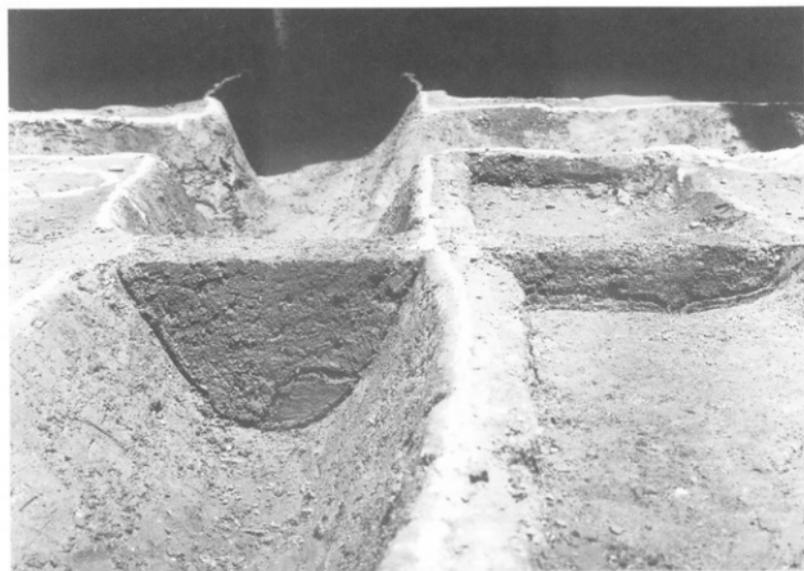
1. 9工区第11層上面遺構検出状況 1地区 南より



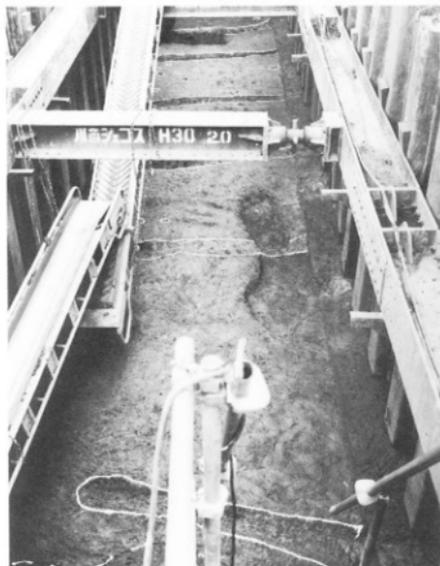
2. 9工区第11層上面遺構検出状況 5～10地区 南より



1. 9工区第11層上面遺構 1地区 南より



2. 9工区第11層 溝44・51断面 北より



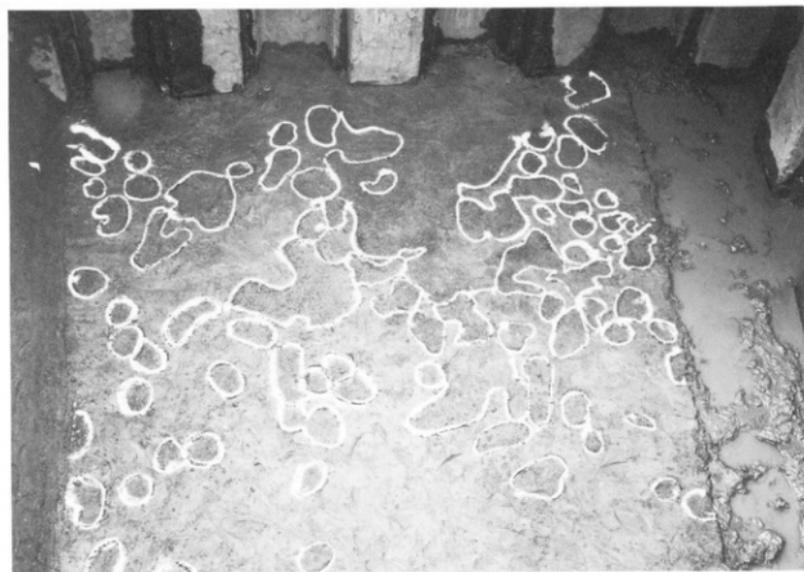
1. 9工区第11層 溝55~60
11~14地区 北より



2. 9工区第11層 溝56・57 12地区 西より



1. 9工区第11層 溝22~27 15~20地区 北より



2. 9工区第9層上面足跡 1地区 南より



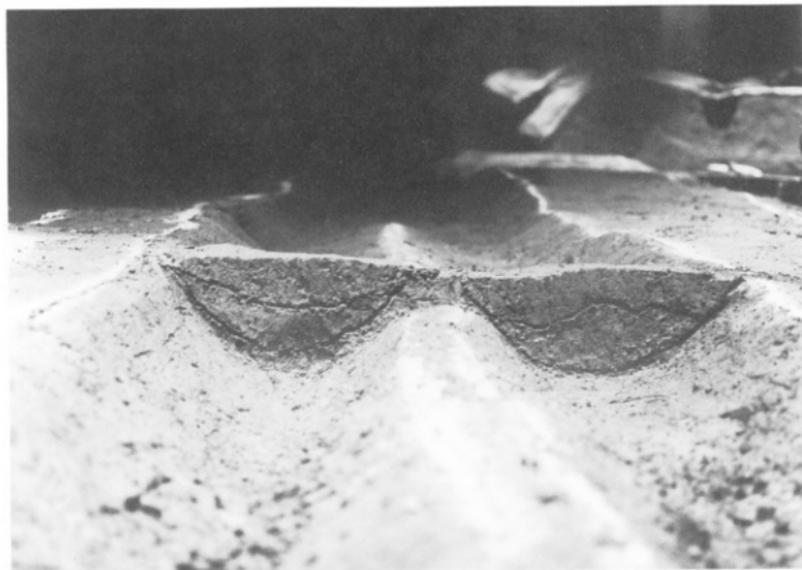
1. 9工区第9層 溝15~20 17~19地区 西より



2. 9工区第5層 溝4 4地区 北より



1. 9工区第5層上面遺構 16~20地区 北より



2. 9工区第5層 溝3断面 18地区 北より



1. 9工区第5層 溝2・土坑4断面 20地区 北より



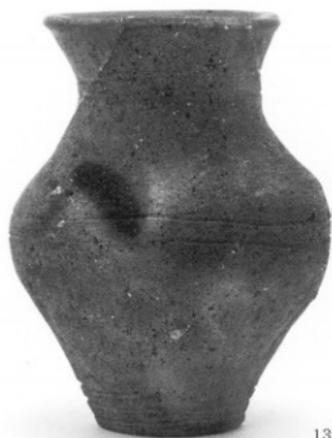
2. 9工区第5層 土坑4 東より



1. 9工区第4層 溝1・土坑1 8~10地区 西より



2. 9工区第2層 自然流路1断面(西壁) 19~20地区 北より



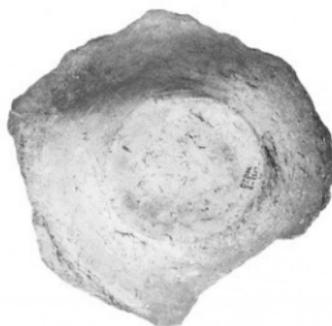
13



14



23



49'



50



49



52



62



59



66



46



81



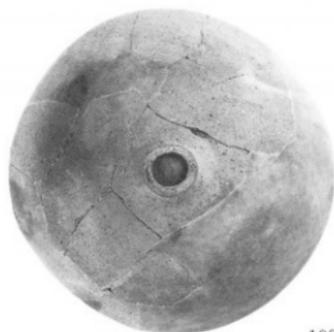
79



108



110



108'



109



101



111



121



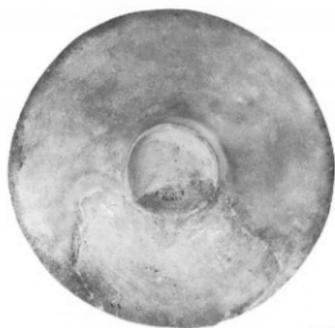
115



128



120



136'



113



136



215



215'



137



240



174



179



218



288



294'



293



294



295'



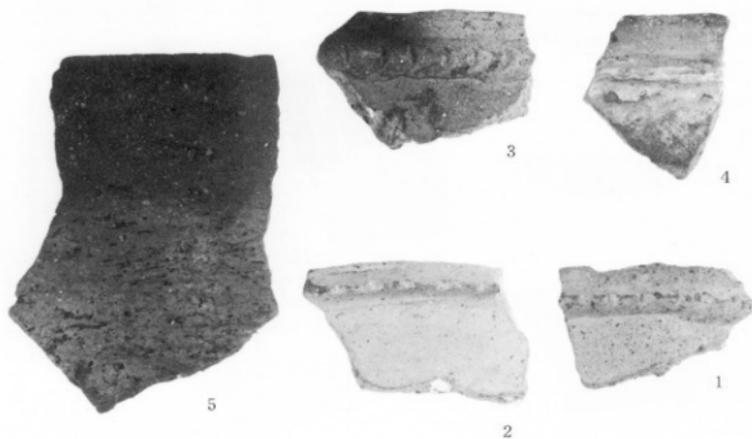
296'



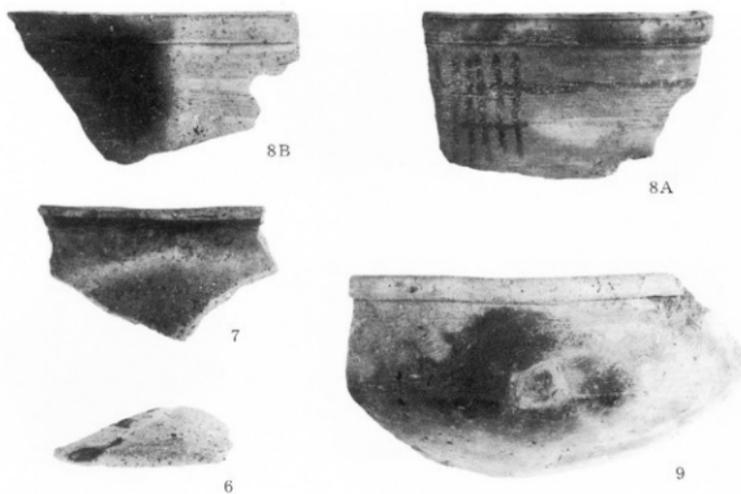
295



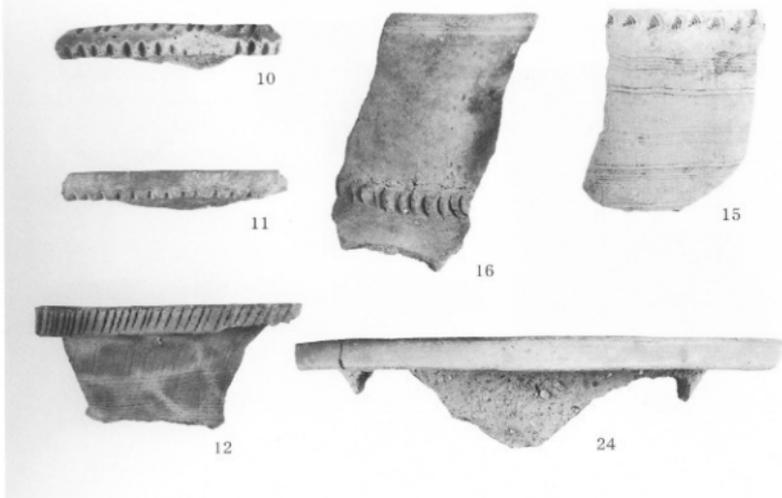
296



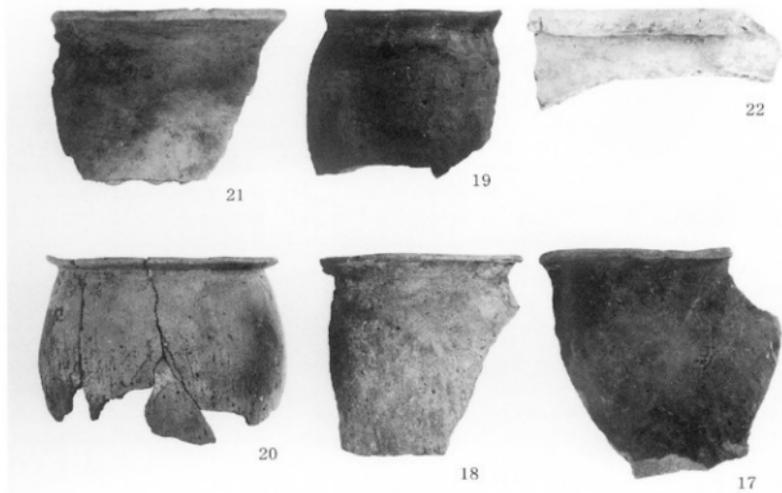
1. 8工区 縄文土器 浅鉢・深鉢



2. 8工区 溝16内落ち込み、溝16出土弥生土器 鉢・壺蓋・甕蓋



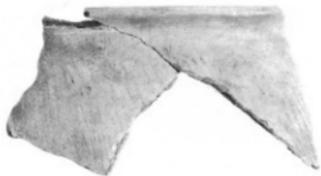
1. 8工区 溝16出土弥生土器 鉢・細頸甕・高坏



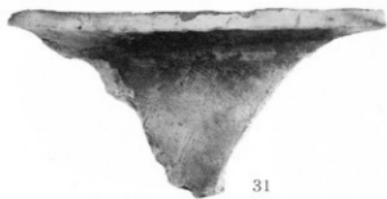
2. 8工区 溝16出土弥生土器 甕



30



32



31



33



34

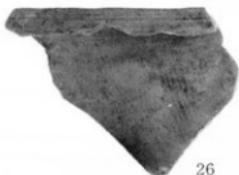
1. 8工区 溝17出土弥生土器 甕



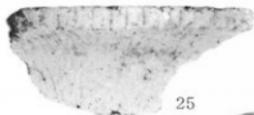
27



28



26



25

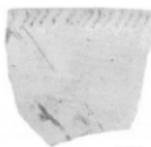


29

2. 8工区 溝17出土弥生土器 壺・高坏



36



35



43



37

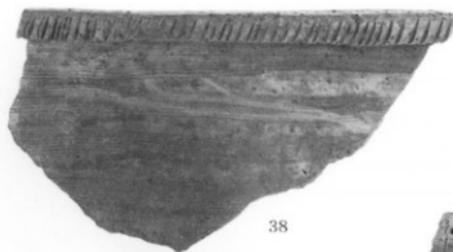


45



44

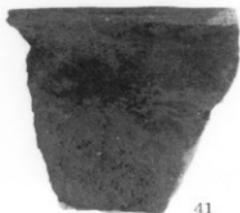
1. 8工区 溝19·23、層位不明出土弥生土器 甕·高坏



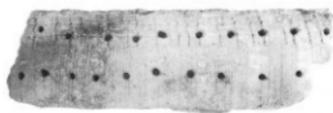
38



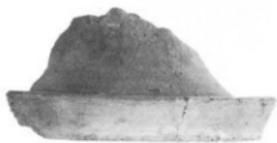
39



41

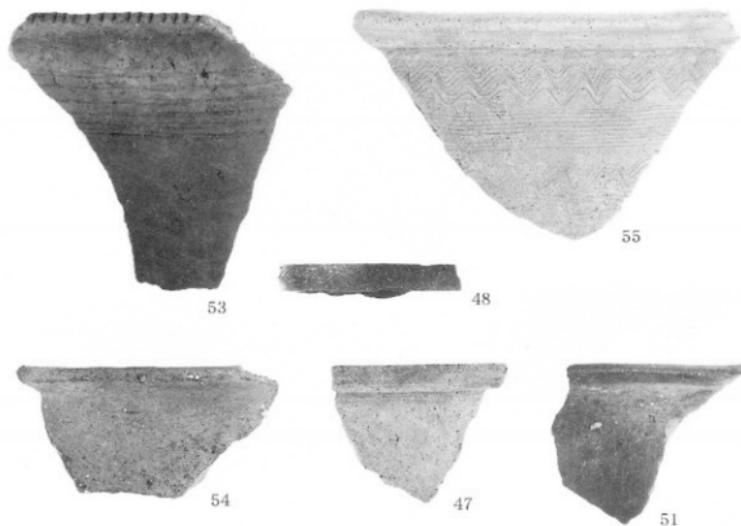


40

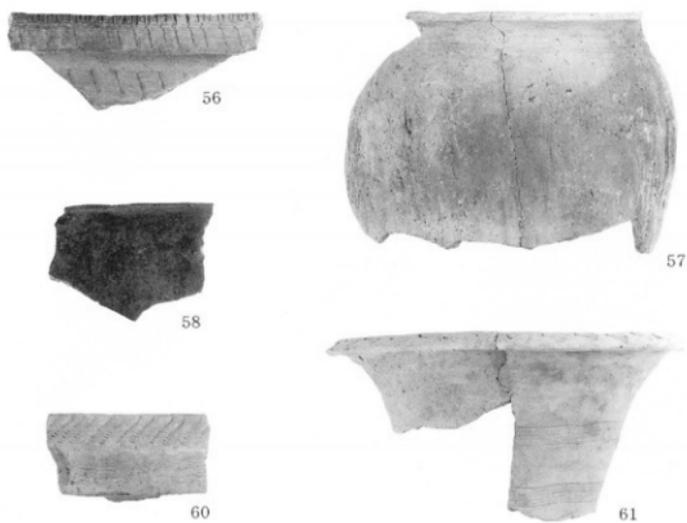


42

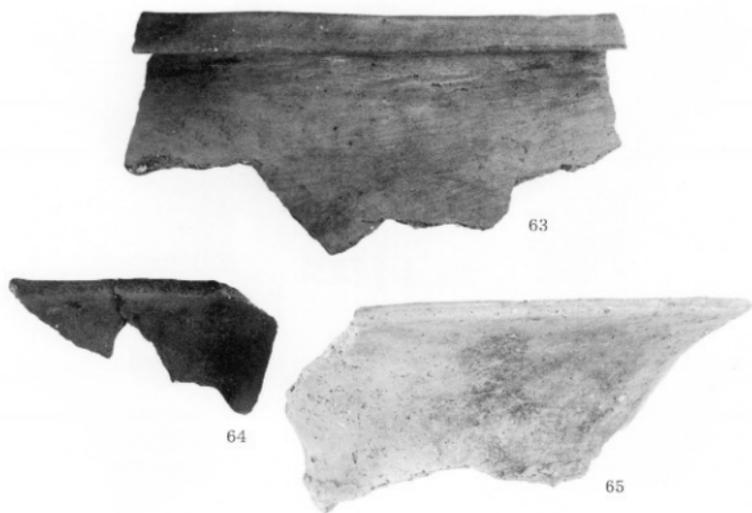
2. 8工区 溝22出土弥生土器 壺·甕·鉢·高坏



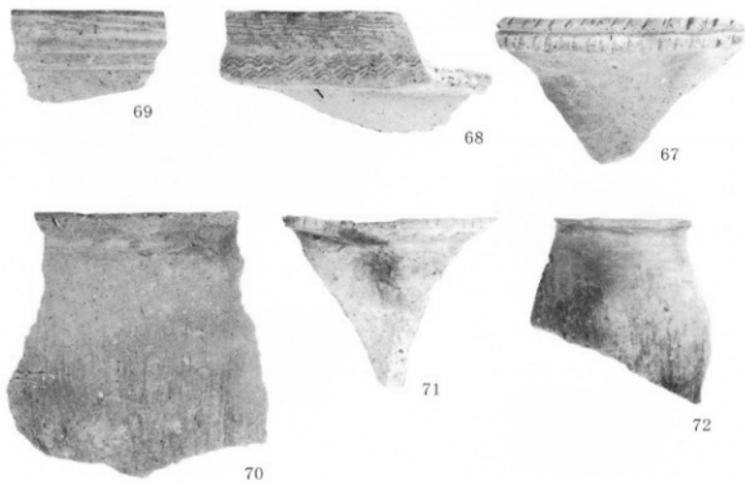
1. 8工区 土坑8・9・24、ピット341出土弥生土器 壺・甕・鉢



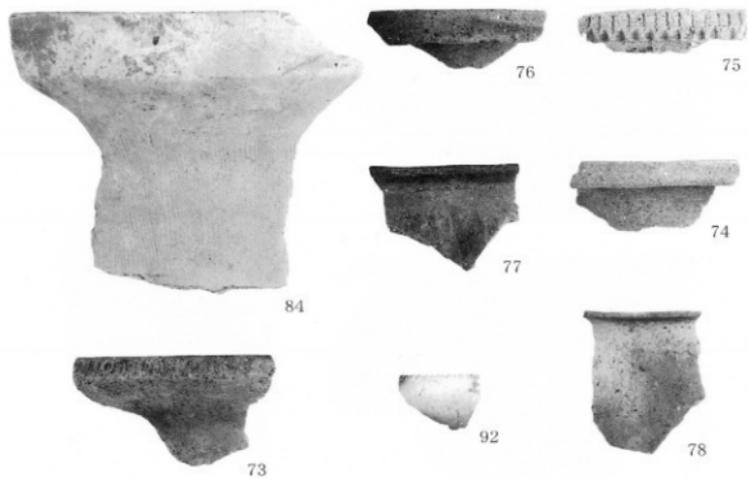
2. 8工区 井戸出土弥生土器 壺・甕・鉢



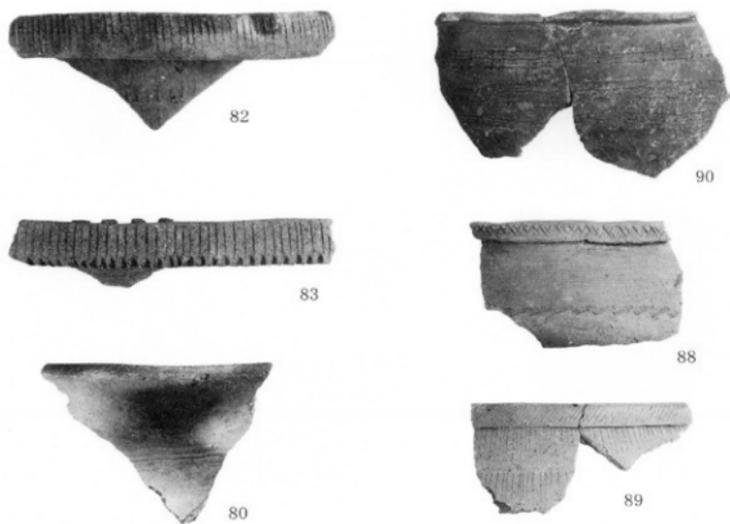
1. 8工区 ビット65・165、土坑30出土弥生土器 壺・甕・鉢



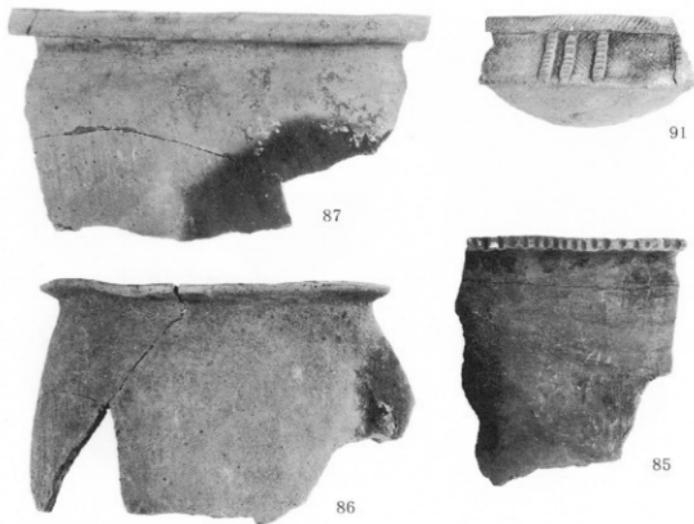
2. 8工区 第18層出土弥生土器 壺・甕・高坏



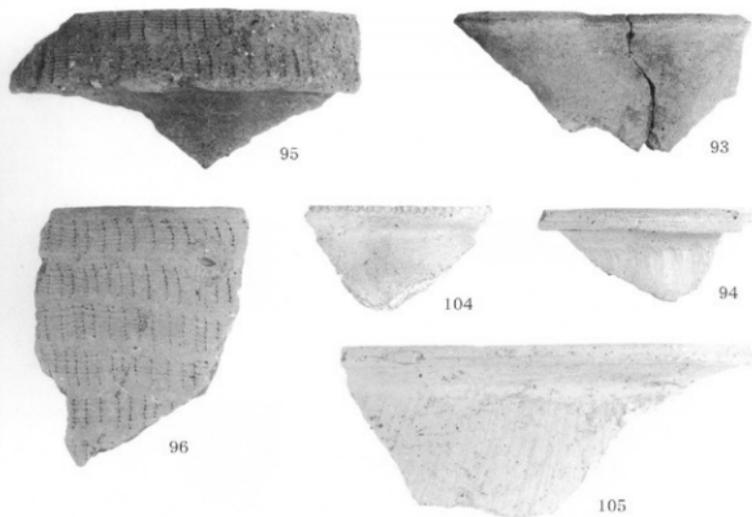
1. 8工区 第19・20層出土弥生土器 壺・甕・鉢



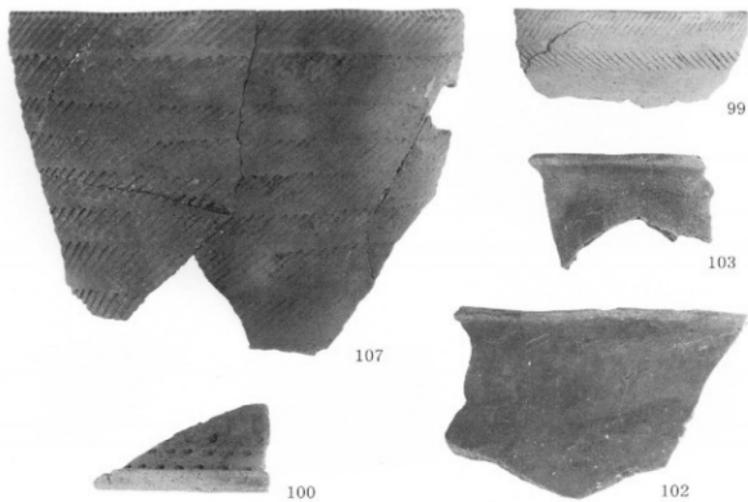
2. 8工区 第20層出土弥生土器 甗・無頸壺・鉢



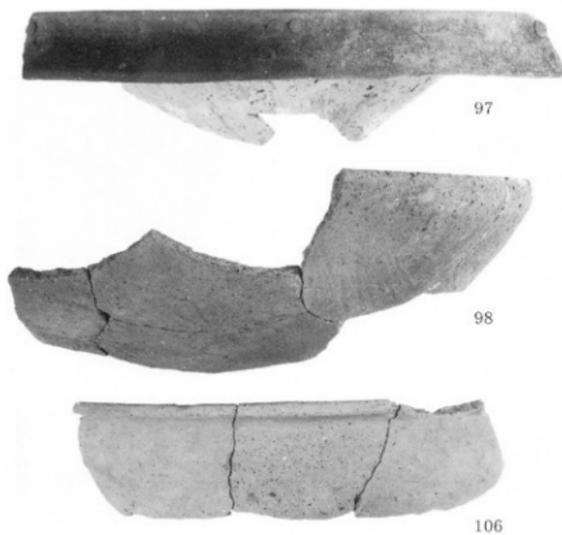
1. 8工区 第20層出土弥生土器 甕・鉢



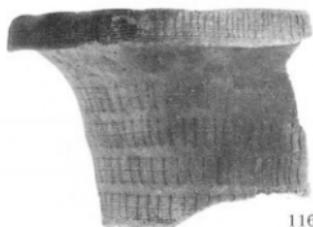
2. 8工区 第21層出土弥生土器 壺・細頸壺・甕



1. 8工区 第21层出土弥生土器 钵·高环·鉢



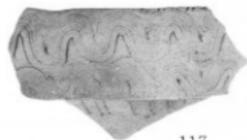
2. 8工区 第21层出土弥生土器 高环·鉢



116



114



117

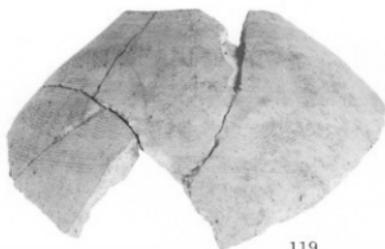


118



112

1. 8工区 第22層出土弥生土器 壺



119



123



122



125

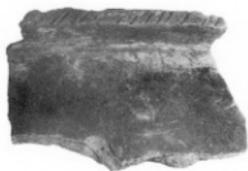
2. 8工区 第22層出土弥生土器 無頸壺・甕



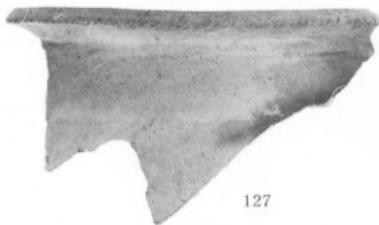
131



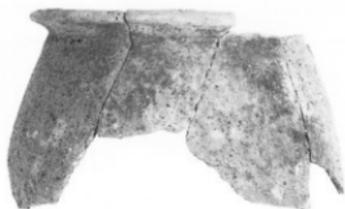
130



126

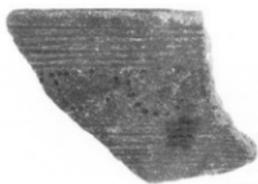


127



124

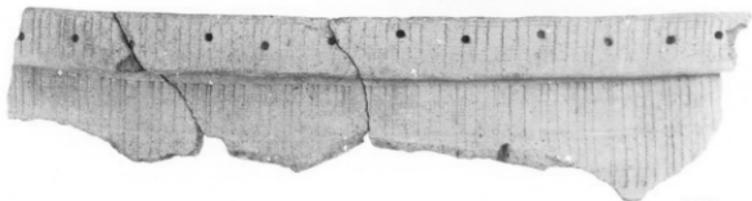
1. 8工区 第22層出土弥生土器 甕・鉢



132



132'



129

2. 8工区 第22層出土弥生土器 鉢



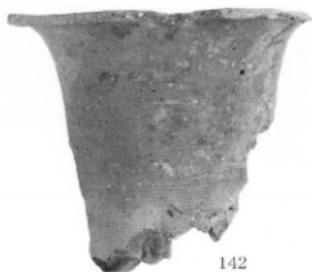
135



139

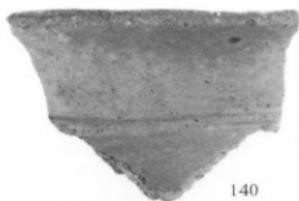


134



142

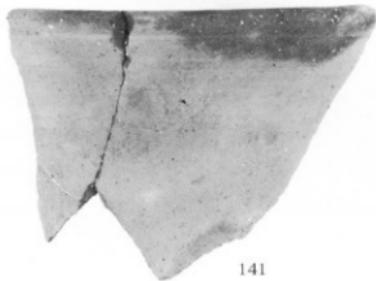
1. 8工区 第24層出土弥生土器 壺



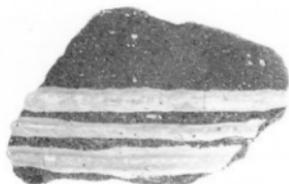
140



143

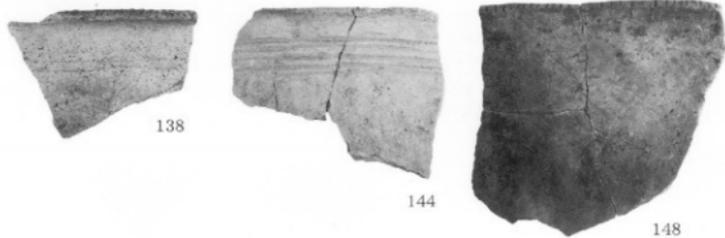
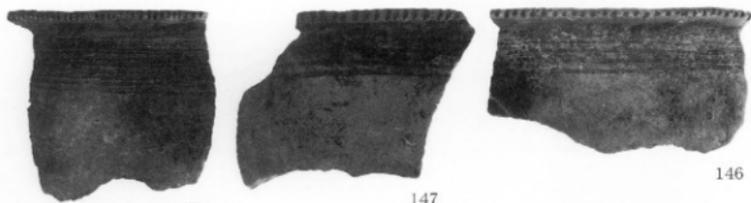


141

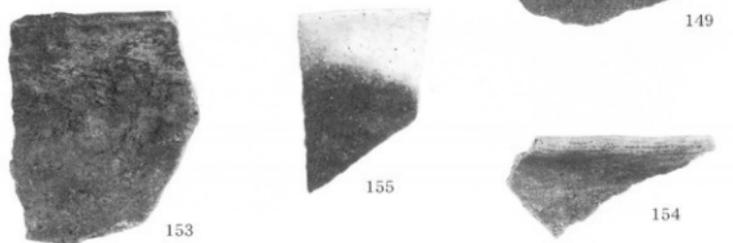
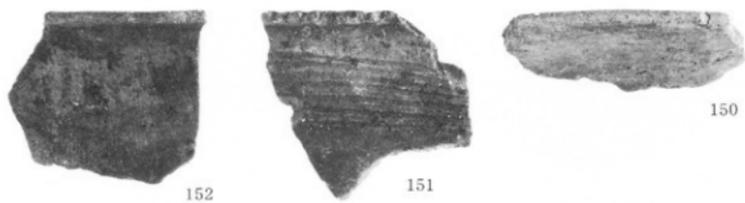


133

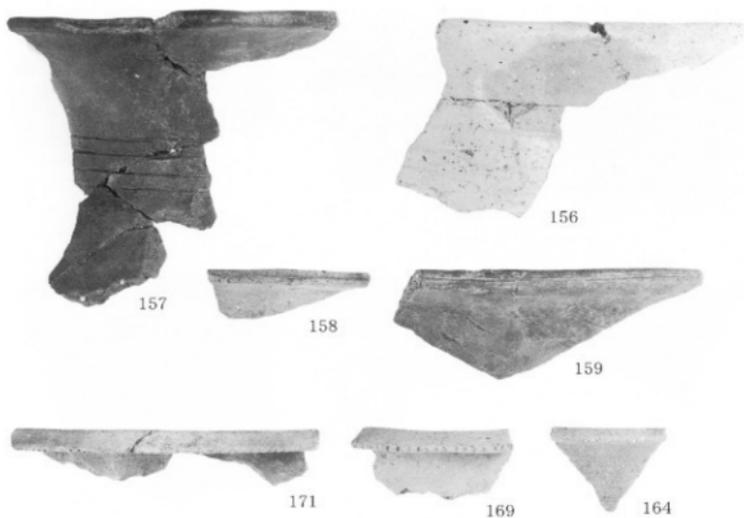
2. 8工区 第24層、溝16内落ち込み出土弥生土器 壺・細頸壺・壺蓋



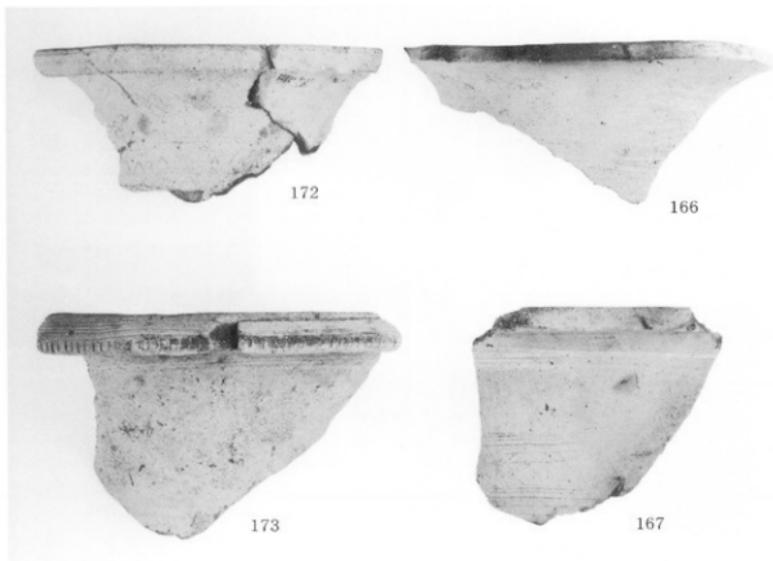
1. 8工区 第24層出土弥生土器 甕



2. 8工区 第24f層出土弥生土器 甕・甕・鉢



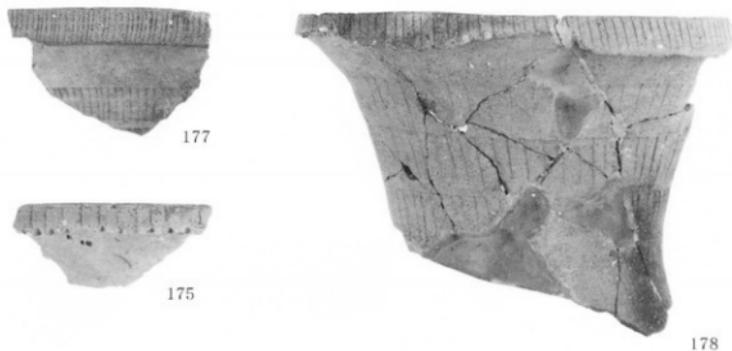
1. 8工区 第17~27層出土弥生土器 壺



2. 8工区 第17~27層出土弥生土器 壺



1. 8工区 第17~27层出土弥生土器 壶



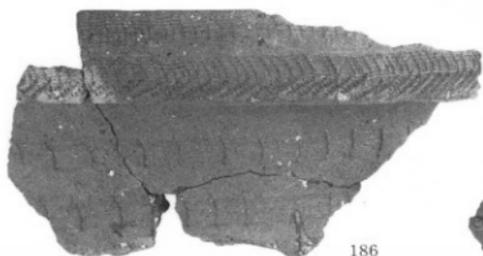
2. 8工区 第17~27层出土弥生土器 壶



189



185



186



187



184

1. 8工区 第17~27層出土弥生土器 壺



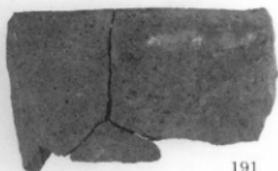
183



188



182



191



190



194



195

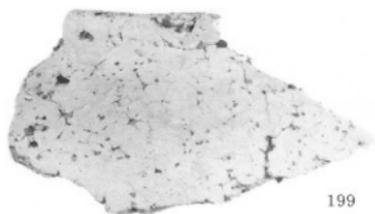


192

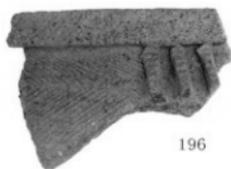


193

2. 8工区 第17~27層出土弥生土器 壺・細頸壺



199



196



198

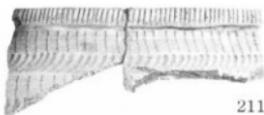


197

1. 8上区 第17~27層出土弥生土器 無頸甕



214



211



213

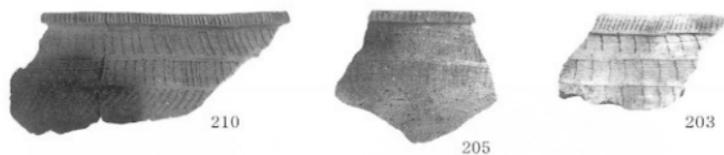


209

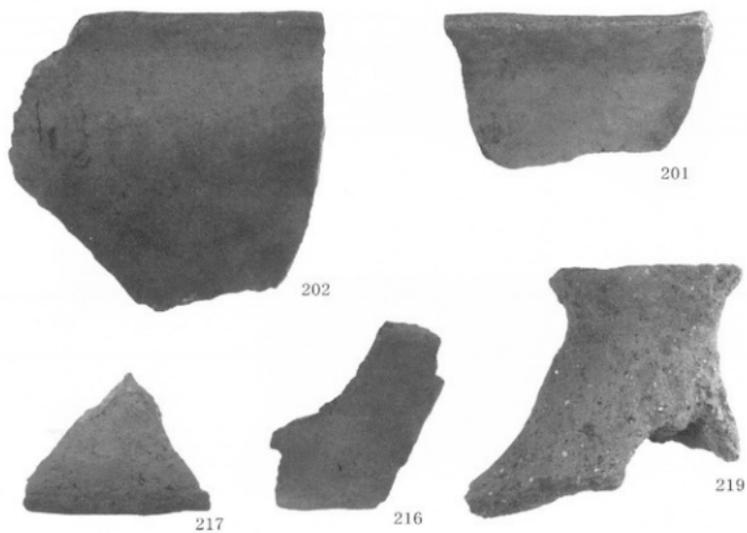


200

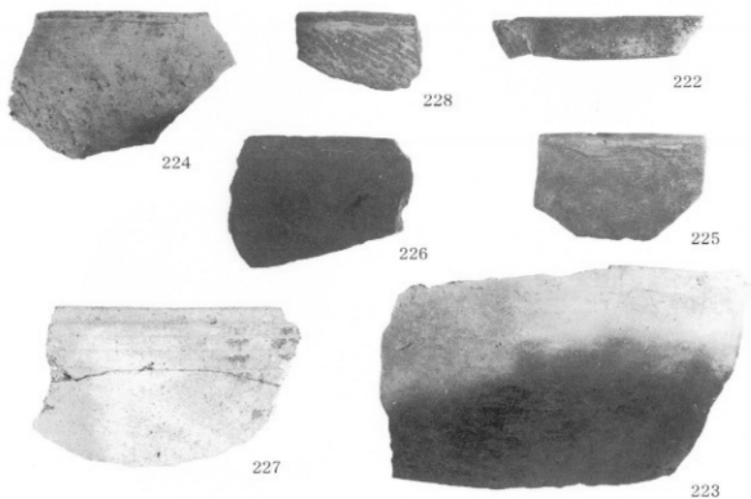
2. 8工区 第17~27層出土弥生土器 鉢



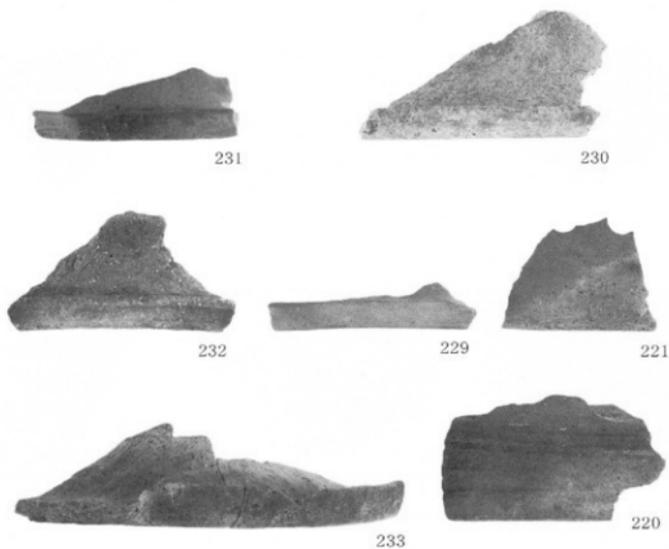
1. 8工区 第17~27層出土弥生土器 鉢



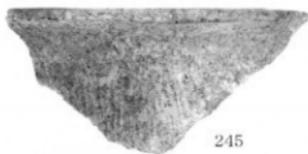
2. 8工区 第17~27層出土弥生土器 鉢・甕蓋



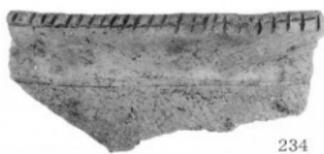
1. 8工区 第17~27層出土弥生土器 高坏



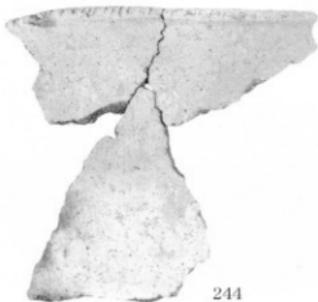
2. 8工区 第17~27層出土弥生土器 高坏・台付無頸壺



245



234



244

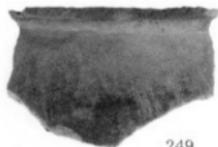


250



246

1. 8工区 第17~27层出土弥生土器 甕



249



248



242



235



247



239

2. 8工区 第17~27层出土弥生土器 甕